抗菌薬の再評価結果及び効能・効果読替えに関するご案内

平成 16 年 10 月

日本製薬団体連合会

医療用医薬品再評価結果のご案内　No.56

平成16年度（その3）

ご　挨　拶

謹　啓

　時下、先生にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

　さて、ご承知の事とは存じますが、医療用医薬品について有効性、安全性及び品質の面から再評価が行われております。

　今回、**抗生物質製剤及び抗菌物質製剤**の再評価結果に関する通知が厚生労働省医薬食品局長から発せられました。また、効能・効果読替えに関する通知が厚生労働省医薬食品局審査管理課長から発せられました。

1．平成16年9月30日付薬食発第0930002号「**医療用医薬品再評価結果平成16年度（その3）について**」の通知
2．平成16年9月30日付薬食審査発第0930006号「**抗菌薬再評価結果に基づき適応菌種等の読替えが必要となる有効成分等の範囲及び取扱いについて**」の通知

　日本製薬団体連合会では、再評価委員会の申し合わせにより、各社が協力して今回通知された医薬品の効能・効果、用法・用量をまとめ、ご案内〈No.56〉としてお届けすることに致しました。

　関係各社では、再評価結果及び効能・効果読替え通知に基づき添付文書を可及的速やかに改訂の上お届けするよう努力しておりますが、とりあえずこのご案内〈No.56〉をご利用いただきたく宜しくお願い申し上げます。

謹白

平成16年10月

日 本 製 薬 団 体 連 合 会

〒 103-0023
東京都中央区日本橋本町2—1—5
TEL　03（3270）0581（代表）

◇…目　　次…◇

ご利用の手引

1．各成分のあとの（　）内の数字は、薬効分類番号です。また、成分によっては全ての品目の結果が通知されていないものがあり、その場合には結果が通知された販売名を記載しております。

2．ご案内本文には、再評価の申請を行い、今回の通知の時点で製造（輸入）・販売を行っている販売名及び会社名を掲載しております。

3．再評価結果及び効能・効果読替えに伴う改訂の詳細については、各製品の添付文書をご参照下さい。

●お問い合わせは―日本製薬団体連合会

〒103-0023　東京都中央区日本橋本町2―1―5
TEL 03（3270）0581（代表）

医療用医薬品
再評価結果のご案内〈No.56〉

平成16年度（その３）

編集：日本製薬団体連合会　再評価委員会

抗生物質製剤

抗菌物質製剤

平 成 16 年 10 月

日 本 製 薬 団 体 連 合 会

◇…目　　次…◇

昭和62年7月11日薬務局長通知薬発第592号の別記1の2に該当する医薬品注）
下記成分の効能・効果、用法・用量をより適切な表現に改めた。

注）製造（輸入）承認事項を一部変更すればよいもの

1. 塩酸クリンダマイシン　(6112)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ブドウ球菌、溶血性連鎖球菌、肺炎球菌の本剤感受性菌による下記感染症 1.急性ないし亜急性細菌性心内膜炎 2.浅在性化膿性疾患群 　毛嚢炎、膿皮症、膿痂疹、疔、よう、座瘡、蜂窩織炎、咽喉頭炎、扁桃炎、外耳炎、眼瞼炎、涙嚢炎、麦粒腫、膿瘍、瘭疽、瘤腫症、鼻癤 3.急・慢性気管支炎、気管支拡張症、気管支肺炎および肺炎 4.猩紅熱 5.中耳炎、副鼻腔炎 6.顎骨骨膜炎、歯槽骨膜炎、顎骨骨髄炎、頬部蜂窩織炎	＜適応菌種＞ クリンダマイシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、涙嚢炎、麦粒腫、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、顎骨周辺の蜂巣炎、顎炎、猩紅熱
用法・用量	通常、成人は塩酸クリンダマイシンとして１回150mg（力価）を６時間ごとに経口投与、重症感染症には１回300mg（力価）を８時間ごとに経口投与する。 急性ないし亜急性細菌性心内膜炎には１回300mg（力価）を６時間ごとに経口投与する。 小児には体重１kgにつき、１日量15mg（力価）を３～４回に分けて経口投与、重症感染症には体重１kgにつき１日量20mg（力価）を３～４回に分けて経口投与する。 但し、年令、体重、症状等に応じて適宜増減する。	通常、成人は塩酸クリンダマイシンとして１回150mg（力価）を６時間ごとに経口投与、重症感染症には１回300mg（力価）を８時間ごとに経口投与する。 小児には体重１kgにつき、１日量15mg（力価）を３～４回に分けて経口投与、重症感染症には体重１kgにつき１日量20mg（力価）を３～４回に分けて経口投与する。ただし、年齢、体重、症状等に応じて適宜増減する。

販売名	会社名
ダラシンカプセル	住友製薬㈱ －ファイザー㈱

2. 塩酸リンコマイシン　(6112)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	有効菌種 (1)本剤感性ブドウ球菌 (2)連鎖球菌、肺炎球菌 適応症 よう、癤、蜂窠織炎、瘭疽、丹毒、気管支炎、膿痂疹、肺炎、肺化膿症、乳腺炎、中耳炎、リンパ節炎、副鼻腔炎、扁桃炎、咽頭炎、骨髄炎、関節炎、髄膜炎、細菌性心内膜炎、敗血症、猩紅熱、腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎、匐行性角膜潰瘍、細菌性赤痢	＜適応菌種＞ リンコマイシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、赤痢菌 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、乳腺炎、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、感染性腸炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む）、中耳炎、副鼻腔炎、猩紅熱
用法・用量	塩酸リンコマイシンとして通常成人は、１日1.5～２ｇ（力価）を３～４回に分割経口投与する。小児には１日体重１kgあたり20～30mg（力価）を３～４回に分割経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
リンコシンカプセル	住友製薬㈱ －ファイザー㈱

2. 塩酸リンコマイシン　(6112)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属(腸球菌を除く)、肺炎球菌、ペプトコッカス属、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属のうちリンコマイシン感性菌による下記感染症 敗血症、細菌性心内膜炎、癤、よう、膿痂疹、丹毒、蜂窠織炎、リンパ節炎、瘭疽、乳腺炎、骨髄炎、関節炎、咽頭炎、気管支炎、扁桃炎、肺炎、肺化膿症、腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎、猩紅熱、子宮付属器炎、子宮内感染、骨盤死腔炎、子宮旁結合織炎、バルトリン腺炎、髄膜炎、匐行性角膜潰瘍、中耳炎、副鼻腔炎	＜適応菌種＞ リンコマイシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属 ＜適応症＞ 敗血症、感染性心内膜炎、表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、乳腺炎、骨髄炎、関節炎、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む)、中耳炎、副鼻腔炎、猩紅熱
用法・用量	静脈内注射 　塩酸リンコマイシンとして、通常成人は、１回600㎎（力価）を１日２～３回点滴静注する。なお、年齢、症状により適宜増減する。 筋肉内注射 　塩酸リンコマイシンとして、通常成人は、１回300㎎(力価)を１日２～３回､又は１回600㎎(力価)を１日２回筋肉内注射する。小児には、１回体重１ Kg あたり10～15㎎（力価）を１日２～３回筋肉内注射する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	［静脈内注射］ 塩酸リンコマイシンとして、通常成人は、１回600㎎（力価）を１日２～３回点滴静注する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。 ［筋肉内注射］ 塩酸リンコマイシンとして、通常成人は、１回300㎎（力価）を１日２～３回、又は１回600㎎（力価)を１日２回筋肉内注射する。小児には、１回体重１ Kg あたり10～15㎎（力価）を１日２～３回筋肉内注射する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。

販売名	会社名	販売名	会社名
ペランコシン注射液	大洋薬品工業㈱	リンタマイシン注	富士製薬工業㈱
リズピオン注射液	東和薬品㈱	ルニアマイシン注600mg	マルコ製薬㈱
リンコシン注射液	住友製薬㈱ －ファイザー㈱	ルニアマイシン注１ g	マルコ製薬㈱
リンコメイス注射液	ニプロファーマ㈱	ルニアマイシン注1.5g	マルコ製薬㈱

3. テイコプラニン　(6119)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再評価結果
効能・効果	メチシリン・セフェム耐性の黄色ブドウ球菌のうち本剤感性菌による下記感染症 敗血症、癤・癤腫症・癰、皮下膿瘍・膿皮症、手術創等の表在性二次感染、慢性気管支炎、肺炎、膿胸	＜適応菌種＞ 本剤に感性のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA） ＜適応症＞ 敗血症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肺炎、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染
用法・用量	通常、成人にはテイコプラニンとして初日400mg（力価）又は800mg（力価）を２回に分け、以後１日１回200mg（力価）又は400mg（力価）を30分以上かけて点滴静注する。 敗血症には、初日800mg（力価）を２回に分け、以後１日１回400mg（力価）を30分以上かけて点滴静注する。 通常、乳児、幼児又は小児にはテイコプラニンとして10mg（力価）／kgを12時間間隔で３回、以後６～10mg（力価）／kg（敗血症などの重症感染症では10mg（力価）／kg）を24時間ごとに30分以上かけて点滴静注する。また、新生児（低出生体重児を含む）にはテイコプラニンとして初回のみ16mg（力価）／kgを、以後８mg（力価）／kgを24時間毎に30分以上かけて点滴静注する。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
注射用タゴシッド	アベンティス ファーマ㈱ －藤沢薬品工業㈱

4. フェネチシリンカリウム　(6111)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	有効菌種 連鎖球菌(腸球菌を除く)、肺炎球菌、淋菌、ベンジルペニシリン感性ブドウ球菌、梅毒トレポネーマ 適応症 扁桃炎、咽頭炎、喉頭炎、丹毒、猩紅熱、肺炎、気管支炎、喘息及び気管支拡張症の感染時、淋疾、急性顎炎、智歯周囲炎、梅毒、副鼻腔炎、中耳炎、膿痂疹、よう、癤、癤腫症、蜂窩織炎、乳腺炎、リンパ管炎、リンパ節炎、膿胸、細菌性心内膜炎、肺化膿症、急性根端性化膿性歯根膜炎、急性辺縁性化膿性歯根膜炎、眼瞼膿瘍	＜適応菌種＞ フェネチシリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、梅毒トレポネーマ ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、乳腺炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、淋菌感染症、梅毒、眼瞼膿瘍、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎、猩紅熱
用法・用量	フェネチシリンとして、通常成人１回40万単位を１日４～６回経口投与する。細菌性心内膜炎については、一般に通常用量より大量を使用する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	フェネチシリンとして、通常成人１回40万単位を１日４～６回経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。

販売名	会社名
シンセペン錠	明治製菓㈱

5. ベンジルペニシリンカリウム　(6111)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	有効菌種： 連鎖球菌、肺炎球菌、淋菌、髄膜炎菌、ジフテリア菌、放線菌、ベンジルペニシリン感性ブドウ球菌、レプトスピラ 適応症： 敗血症、細菌性心内膜炎、せつ、よう、膿痂疹、蜂か織炎、丹毒、乳腺炎、リンパ節炎、扁桃炎、咽頭炎、喉頭炎、気管支炎、肺炎、肺化膿症、膿胸、淋疾、髄膜炎、ジフテリア（抗毒素併用）、猩紅熱、中耳炎、副鼻腔炎、放線菌症、ガス壊疽（抗毒素併用）、炭疽、破傷風（抗毒素併用）、回帰熱、ワイル病、鼠咬症	<適応菌種> ベンジルペニシリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、髄膜炎菌、ジフテリア菌、炭疽菌、放線菌、破傷風菌、ガス壊疽菌群、回帰熱ボレリア、ワイル病レプトスピラ、鼠咬症スピリルム <適応症> 敗血症、感染性心内膜炎、表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、乳腺炎、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、淋菌感染症、化膿性髄膜炎、中耳炎、副鼻腔炎、猩紅熱、炭疽、ジフテリア(抗毒素併用)、鼠咬症、破傷風(抗毒素併用)、ガス壊疽(抗毒素併用)、放線菌症、回帰熱、ワイル病
用法・用量	ベンジルペニシリンとして、通常成人１回30～60万単位を１日２～４回筋肉内注射する。 髄膜炎、敗血症、細菌性心内膜炎については、一般に通常用量より大量を使用する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	ベンジルペニシリンとして、通常成人１回30～60万単位を１日２～４回筋肉内注射する。 敗血症、感染性心内膜炎、化膿性髄膜炎については、一般に通常用量より大量を使用する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。

販売名	会社名	販売名	会社名
注射用ペニシリンＧカリウム20万単位	明治製菓㈱	注射用ペニシリンＧカリウム100万単位	明治製菓㈱

6. ベンジルペニシリンベンザチン (6111)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能 ・ 効果	連鎖球菌(腸球菌を除く)、肺炎球菌、梅毒トレポネーマのうち本剤感性菌による下記感染症 扁桃炎、咽頭炎、喉頭炎、気管支炎、喘息及び気管支拡張症の感染時、肺炎、猩紅熱、リンパ節炎、リンパ管炎、中耳炎、副鼻腔炎、細菌性心内膜炎、リウマチ熱の発症予防、梅毒	＜適応菌種＞ ベンジルペニシリンに感性のレンサ球菌属、肺炎球菌、梅毒トレポネーマ ＜適応症＞ リンパ管・リンパ節炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、梅毒、中耳炎、副鼻腔炎、猩紅熱、リウマチ熱の発症予防
用法 ・ 用量	通常、成人にはベンジルペニシリンベンザチンとして1回40万単位を1日2〜4回経口投与する。 梅毒に対しては、通常、成人1回40万単位を1日3〜4回経口投与する。 細菌性心内膜炎については、一般に通常用量より大量を使用する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	通常、成人にはベンジルペニシリンベンザチンとして１回40万単位を１日２〜４回経口投与する。 梅毒に対しては、通常、成人１回40万単位を１日３〜４回経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。

販売名	会社名
バイシリンＧ顆粒	萬有製薬㈱

7. アズトレオナム　(6122)

(注射)

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	淋菌、髄膜炎菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、緑膿菌、インフルエンザ菌のうち本剤感性菌による下記感染症 敗血症 慢性気管支炎、気管支拡張症(感染時) 慢性呼吸器疾患の二次感染 肺炎、肺化膿症 腎盂腎炎 膀胱炎 前立腺炎 淋菌性尿道炎 胆のう炎、胆管炎 腹膜炎、骨盤腹膜炎、ダグラス窩膿瘍 子宮付属器炎 子宮内感染 骨盤死腔炎 子宮旁結合織炎 バルトリン腺炎 淋菌性子宮頸管炎 髄膜炎 角膜潰瘍 慢性中耳炎 副鼻腔炎	＜適応菌種＞ 本剤に感性の淋菌、髄膜炎菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、緑膿菌 ＜適応症＞ 敗血症、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症)、尿道炎、子宮頸管炎、腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆嚢炎、胆管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む)、中耳炎、副鼻腔炎
用法・用量	通常成人には、1日1～2g（力価）を2回に分けて静脈内注射、点滴静注又は筋肉内注射する。ただし、通常淋菌性尿道炎及び淋菌性子宮頸管炎には、1日1回1～2g（力価）を筋肉内注射又は静脈内注射する。 　通常小児には、1日40～80mg（力価）／kgを2～4回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。 　なお、年齢、症状に応じて適宜増減するが、難治性又は重症感染症には、成人では1日量4g（力価）まで増量し2～4回に分けて投与し、小児では1日量150mg（力価）／kgまで増量し3～4回に分けて投与する。 　通常未熟児、新生児には1回20mg（力価）／kgを生後3日までは1日2回、4日以降は、1日2～3回静脈内注射又は点滴静注する。	通常、成人には、1日1～2g（力価）を2回に分けて静脈内注射、点滴静注又は筋肉内注射する。ただし、通常、淋菌感染症及び子宮頸管炎には、1日1回1～2g（力価）を筋肉内注射又は静脈内注射する。 　通常、小児には、1日40～80mg（力価）／kgを2～4回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。 なお、年齢、症状に応じて適宜増減するが、難治性又は重症感染症には、成人では1日量4g（力価）まで増量し2～4回に分けて投与し、小児では1日量150mg（力価）／kgまで増量し3～4回に分けて投与する。 通常、未熟児、新生児には、1回20mg（力価）／kgを生後3日までは1日2回、4日以降は1日2～3回静脈内注射又は点滴静注する。

販売名	会社名	販売名	会社名
アザクタム注射用0.5g	エーザイ㈱	アザクタム注射用1g	エーザイ㈱

8. 一硫酸カナマイシン　(6123)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	有効菌種 大腸菌、赤痢菌、腸炎ビブリオ 適応症 細菌性赤痢、腸炎	＜適応菌種＞ カナマイシンに感性の大腸菌、赤痢菌、腸炎ビブリオ ＜適応症＞ 感染性腸炎
用法・用量	カナマイシンとして、通常成人１日２～４ g（力価）を４回に分割経口投与する。小児には体重１kg当り50～100mg（力価）を４回に分割経口投与する。なお、年令、症状により適宜増減する。	カナマイシンとして、通常成人１日２～４ g（力価）を４回に分割経口投与する。小児には体重１kg当り50～100mg（力価）を４回に分割経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。

販売名	会社名	販売名	会社名
カナマイシンカプセル明治	明治製菓㈱	カナマイシンドライシロップ明治	明治製菓㈱
カナマイシンシロップ明治	明治製菓㈱		

8. 一硫酸カナマイシン　(2634)

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	有効菌種 本剤に感性の下記菌種 ブドウ球菌、大腸菌、緑膿菌、プロテウス属 適応症 膿痂疹、癤、よう、毛のう炎	＜適応菌種＞ カナマイシンに感性のブドウ球菌属、大腸菌、プロテウス・ブルガリス、緑膿菌 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症
用法・用量	通常、症状により適量を１日１～数回、直接患部に塗布または無菌ガーゼにのばして貼布する。 なお、癤、ように対しては他の薬剤で効果が期待できない場合に使用すること。	通常、症状により適量を１日１～数回、直接患部に塗布または無菌ガーゼにのばして貼布する。 なお、深在性皮膚感染症に対しては他の薬剤で効果が期待できない場合に使用すること。

販売名	会社名
カナマイシン軟膏明治	明治製菓㈱

9. 塩酸ピブメシリナム　（6121）

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	他の抗生剤に耐性でメシリナムに感性の大腸菌、肺炎桿菌、エンテロバクター、シトロバクター、プロテウス・ミラビリス、プロテウス・ブルガリス、プロテウス・モルガニー、プロテウス・レットゲリーによる下記感染症 ○尿路感染症：膀胱炎、腎盂腎炎 ○胆道感染症：胆嚢炎、胆管炎	＜適応菌種＞ メシリナムに感性の大腸菌、シトロバクター属、肺炎桿菌、エンテロバクター属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア・レットゲリ ＜適応症＞ 膀胱炎、腎盂腎炎
用法・用量	○尿路感染症： 通常成人には塩酸ピブメシリナムとして１日150～200mg（力価）を３～４回に分けて経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減するが、難治性尿路感染症には、１日400mg（力価）まで増量できる。 ○胆道感染症： 通常成人には塩酸ピブメシリナムとして１日200～400mg（力価）を３～４回に分けて経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	通常成人には塩酸ピブメシリナムとして１日150～200mg（力価）を３～４回に分けて経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減するが、難治性尿路感染症には１日400mg（力価）まで増量できる。

販売名	会社名
メリシン錠50mg	武田薬品工業㈱

10. カルモナムナトリウム　(6122)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再評価結果
効能・効果	大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、緑膿菌、インフルエンザ菌のうち本剤感性菌による下記感染症 ○敗血症 ○慢性気管支炎、気管支拡張症（感染時）、慢性呼吸器疾患の二次感染 ○胆管炎、胆のう炎 ○腹膜炎 ○腎盂腎炎、膀胱炎	<適応菌種> カルモナムに感性の大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、緑膿菌 <適応症> 敗血症、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎
用法・用量	通常、成人にはカルモナムナトリウムとして１日１～２ｇ（力価）を２回に分けて静脈内に注射する。 なお、重症、難治性感染症には症状に応じて１日４ｇ（力価）まで増量できる。 静脈内注射に際しては、日本薬局方「注射用蒸留水」、日本薬局方「生理食塩液」又は日本薬局方「ブドウ糖注射液」に溶解して用いる。 また、本剤の１回用量0.5～２ｇ（力価）を糖液、電解質液又はアミノ酸製剤などの補液に加えて、30分～２時間で点滴静脈内注射を行うこともできる。	承認内容に同じ

販売名	会社名
アマスリン静注用１ｇ	武田薬品工業㈱

11. トブラマイシン　(6123)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	トブラマイシン感性の緑膿菌、変形菌による下記感染症およびクレブシェラ、大腸菌、エンテロバクターのうち、カナマイシンを含む多剤耐性菌で、トブラマイシン感性菌による下記感染症 敗血症 皮下膿瘍、癤、蜂窠織炎、術後創傷感染症 気管支炎、気管支拡張症の感染時、肺炎 腹膜炎 腎盂腎炎、膀胱炎	<適応菌種> 本剤に感性の大腸菌、クレブシエラ属、エンテロバクター属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、緑膿菌 <適応症> 敗血症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎
用法・用量	成人：通常、トブラマイシンとして、腎盂腎炎および膀胱炎には、１日120mg（力価）を２回に、その他の感染症には、１日180mg（力価）を２～３回に、それぞれ分割して、筋肉内注射または点滴静注する。 点滴静注においては30分～２時間かけて注入する。１回90mg投与の場合には、１時間以上かけて注入することが望ましい。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。 小児：トブラマイシンとして、１日３mg（力価）／kgを２～３回に分割して、筋肉内注射または点滴静注する。 点滴静注においては30分～２時間かけて注入する。 なお、年令、体重、症状により適宜増減する。	成人：通常、トブラマイシンとして、膀胱炎および腎盂腎炎には、１日120mg（力価）を２回に、その他の感染症には、１日180mg（力価）を２～３回に、それぞれ分割して、筋肉内注射または点滴静注する。 点滴静注においては30分～２時間かけて注入する。１回90mg投与の場合には、１時間以上かけて注入することが望ましい。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。 小児：トブラマイシンとして、１日３mg（力価）／kgを２～３回に分割して、筋肉内注射または点滴静注する。 点滴静注においては30分～２時間かけて注入する。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

販売名	会社名	販売名	会社名
トブラシン注小児用10mg	東和薬品㈱	トブラシン注90mg	東和薬品㈱
トブラシン注60mg	東和薬品㈱		

11. トブラマイシン　（1317）

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	トブラマイシン感性の緑膿菌、ブドウ球菌、連鎖球菌、肺炎球菌、ヘモフィールス属（インフルエンザ菌、コッホ・ウィークス菌）、モラクセラ属（モラー・アクセンフェルド菌）による下記感染症 眼瞼炎、涙嚢炎、麦粒腫、結膜炎、角膜炎、角膜潰瘍	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ・ラクナータ（モラー・アクセンフェルト菌）、インフルエンザ菌、ヘモフィルス・エジプチウス（コッホ・ウィークス菌）、緑膿菌 ＜適応症＞ 眼瞼炎、涙嚢炎、麦粒腫、結膜炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む）
用法・用量	通常、１回１～２滴、１日４～５回点眼する。 なお、症状により適宜回数を増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
トブラシン点眼液	日東メディック㈱ －㈱ニデック

12. 硫酸アミカシン　（6123）

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ゲンタマイシン耐性の緑膿菌、変形菌、セラチア、大腸菌、クレブシエラ、エンテロバクター、シトロバクターのうちアミカシン感性菌による下記感染症 敗血症、気管支拡張症の感染時、肺炎、肺化膿症、腹膜炎、腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎、創傷・熱傷及び術後の二次感染	＜適応菌種＞ アミカシンに感性の大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、緑膿菌 ＜適応症＞ 敗血症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肺炎、肺膿瘍、、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎
用法・用量	＜注射用＞ 1.　筋肉内投与の場合 通常、成人1回硫酸アミカシンとして100～200mg（力価）を1日1～2回筋肉内投与する。小児は、硫酸アミカシンとして1日4～8 mg（力価）／kgとし、1日1～2回筋肉内投与する。 なお、年齢及び症状により適宜増減する。 筋肉内投与の場合には1瓶に日局生理食塩液又は日局注射用水1～2 mLを加えて溶解する。 2.　点滴静脈内投与の場合 通常、成人1回硫酸アミカシンとして100～200mg（力価）を、1日2回点滴静脈内投与する。小児は硫酸アミカシンとして1日4～8 mg（力価）／kgとし、1日2回点滴静脈内投与する。また、新生児（未熟児を含む）は、1回硫酸アミカシンとして6 mg（力価）／kgを、1日2回点滴静脈内投与する。 なお、年齢・体重及び症状により適宜増減する。 点滴静脈内投与の場合には、通常100～500mLの補液中に100～200mg（力価）の割合で溶解し、30分～1時間かけて投与すること。 ＜注射液＞ 1.　筋肉内投与の場合 通常、成人1回硫酸アミカシンとして100～200mg（力価）を1日1～2回筋肉内投与する。小児は、硫酸アミカシンとして1日4～8 mg（力価）／kgとし、1日1～2回筋肉内投与する。 なお、年齢及び症状により適宜増減する。 2.　点滴静脈内投与の場合 通常、成人1回硫酸アミカシンとして100～200mg（力価）を、1日2回点滴静脈内投与する。小児は硫酸アミカシンとして1日4～8 mg（力価）／kgとし、1日2回点滴静脈内投与する。また、新生児（未熟児を含む）は、1回硫酸アミカシンとして6 mg（力価）／kgを、1日2回点滴静脈内投与する。 なお、年齢・体重及び症状により適宜増減する。 点滴静脈内投与の場合には、通常100～500mLの補液中に100～200mg（力価）の割合で溶解し、	＜注射用＞ ［筋肉内投与の場合］ 通常、成人1回硫酸アミカシンとして100～200mg（力価）を1日1～2回筋肉内投与する。小児は、硫酸アミカシンとして1日4～8 mg（力価）／kgとし、1日1～2回筋肉内投与する。 なお、年齢及び症状により適宜増減する。 筋肉内投与の場合には1瓶に日局生理食塩液又は日局注射用水1～2 mLを加えて溶解する。 ［点滴静脈内投与の場合］ 通常、成人1回硫酸アミカシンとして100～200mg（力価）を、1日2回点滴静脈内投与する。小児は硫酸アミカシンとして1日4～8 mg（力価）／kgとし、1日2回点滴静脈内投与する。また、新生児（未熟児を含む）は、1回硫酸アミカシンとして6 mg（力価）／kgを、1日2回点滴静脈内投与する。 なお、年齢、体重及び症状により適宜増減する。 点滴静脈内投与の場合には、通常100～500mLの補液中に100～200mg（力価）の割合で溶解し、30分～1時間かけて投与すること。 ＜注射液＞ ［筋肉内投与の場合］ 通常、成人1回硫酸アミカシンとして100～200mg（力価）を1日1～2回筋肉内投与する。小児は、硫酸アミカシンとして1日4～8 mg（力価）／kgとし、1日1～2回筋肉内投与する。 なお、年齢及び症状により適宜増減する。 ［点滴静脈内投与の場合］ 通常、成人1回硫酸アミカシンとして100～200mg（力価）を、1日2回点滴静脈内投与する。小児は硫酸アミカシンとして1日4～8 mg（力価）／kgとし、1日2回点滴静脈内投与する。また、新生児（未熟児を含む）は、1回硫酸アミカシンとして6 mg（力価）／kgを、1日2回点滴静脈内投与する。

	30分～１時間かけて投与すること。	なお、年齢、体重及び症状により適宜増減する。 点滴静脈内投与の場合には、通常100～500mLの補液中に100～200mg(力価)の割合で溶解し、30分～１時間かけて投与すること。

販売名	会社名	販売名	会社名
ビクリン注射用	ブリストル製薬(有) －ブリストル・マイヤーズ(株)	プルテツシン注射液	大洋薬品工業(株)
注射用硫酸アミカシン「萬有」100mg	萬有製薬(株)	ブレカシン注射液	沢井製薬(株)
注射用硫酸アミカシン「萬有」200mg	萬有製薬(株)	ベルマトンＡ注	マルコ製薬(株)
アミカマイシン注射液	明治製菓(株)	硫酸アミカシン注射液「萬有」100mg	萬有製薬(株)
カシミー注	ニプロファーマ(株)	硫酸アミカシン注射液「萬有」200mg	萬有製薬(株)
ビクリン注射液	ブリストル製薬(有) －ブリストル・マイヤーズ(株)	ロミカシン注射液	富士製薬工業(株)

13. 硫酸イセパマイシン　(6123)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、緑膿菌のうち、ゲンタマイシン耐性で硫酸イセパマイシン感性菌による下記感染症 ・敗血症 ・外傷・熱傷・手術創などの表在性二次感染 ・慢性気管支炎、気管支拡張症(感染時) ・肺炎 ・腎盂腎炎 ・膀胱炎 ・腹膜炎	<適応菌種> イセパマイシンに感性の大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、緑膿菌 <適応症> 敗血症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎
用法・用量	通常、成人では硫酸イセパマイシンとして１日400mg（力価）を１～２回に分け筋肉内注射又は点滴静注する。 点滴静注においては以下のとおりとする。 １日１回投与の場合：１時間かけて注入する。 １日２回投与の場合：30分～１時間かけて注入する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
イセシン注	沢井製薬(株)	エルパシン注射液200	大洋薬品工業(株)
イセパシン注射液	シェリング・プラウ(株)	エルパシン注射液400	大洋薬品工業(株)
イセパシン注射液400	シェリング・プラウ(株)	シオセシン注射液200	シオノケミカル(株)
エクサシン注射液	旭化成ファーマ(株)	シオセシン注射液400	シオノケミカル(株)
エクサシン注射液400	旭化成ファーマ(株)		

14. 硫酸カナマイシン　（6169）

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再評価結果
効能・効果	有効菌種 (1)ブドウ球菌、淋菌、大腸菌、結核菌 (2)本剤感性肺炎球菌、本剤感性プロテウス属、本剤感性緑膿菌、インフルエンザ菌、クレブシエラ 適応症 よう、蜂窩織炎、膿痂疹、乳腺炎、リンパ節炎、骨髄炎、扁桃炎、気管支炎、肺炎、百日咳、腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎、子宮付属器炎、淋疾、中耳炎、創傷・熱傷および手術後の二次感染、肺結核およびその他の結核症。	<適応菌種> カナマイシンに感性のブドウ球菌属、肺炎球菌、淋菌、結核菌、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、インフルエンザ菌、緑膿菌、百日咳菌 <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、淋菌感染症、子宮付属器炎、中耳炎、百日咳、肺結核及びその他の結核症
用法・用量	結核に対して使用する場合 カナマイシンとして、通常成人１日２ｇ（力価）を朝夕１ｇずつ２回筋肉内注射し、週２日使用するか、または１日１ｇ（力価）ずつ週３日使用する。 また必要に応じて局所に投与する。 ただし、高令者（60才以上）には１回0.5～0.75g（力価）とし、小児あるいは体重の著しく少ないものにあっては適宜減量する。 なお、原則として他の抗結核薬と併用する。 その他の場合 カナマイシンとして、通常成人１日１～２ｇ（力価）を、小児には１日体重1kgあたり30～50mg（力価）を１～２回に分けて、筋肉内注射する。 また必要に応じて局所に投与する。 なお、年令、症状により適宜増減する。	[肺結核及びその他の結核症に対して使用する場合] カナマイシンとして、通常成人１日２ｇ（力価）を朝夕１ｇずつ２回筋肉内注射し、週２日使用するか、または１日１ｇ（力価）ずつ週３日使用する。 また必要に応じて局所に投与する。 ただし、高齢者（60歳以上）には１回0.5～0.75g（力価）とし、小児あるいは体重の著しく少ないものにあっては適宜減量する。 なお、原則として他の抗結核薬と併用する。 [その他の場合] カナマイシンとして、通常成人１日１～２ｇ(力価）を、小児には１日体重１kgあたり30～50mg（力価）を１～２回に分けて、筋肉内注射する。 また必要に応じて局所に投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。

販売名	会社名
硫酸カナマイシン注射液明治	明治製菓㈱

14. 硫酸カナマイシン　(2634)

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	有効菌種 本剤に感性の下記菌種 ブドウ球菌、大腸菌、緑膿菌、プロテウス属 適応症 外傷・熱傷・その他の疾患によるびらん・潰瘍及び術後の二次感染並びにこれらの感染予防	＜適応菌種＞ カナマイシンに感性のブドウ球菌属、大腸菌、プロテウス・ブルガリス、緑膿菌 ＜適応症＞ 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん・潰瘍の二次感染
用法・用量	患部に適当量を噴霧して使用する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
カナマイシンスプレー明治	明治製薬㈱

15. 硫酸フラジオマイシン　(2634)

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	本剤に感性の下記菌種 ブドウ球菌、連鎖球菌 適応症 膿痂疹、毛のう炎、尋常性毛瘡、癤、よう、その他の慢性膿皮症、外傷・熱傷・その他の疾患によるびらん・潰瘍及び術後の二次感染並びにこれらの感染予防、腋臭症	＜適応菌種＞ フラジオマイシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属（肺炎球菌を除く） ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん・潰瘍の二次感染、腋臭症
用法・用量	通常、症状により適量を１日１～数回、直接患部に塗布または無菌ガーゼにのばして貼付する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
フラジオ軟膏「山川」	日本化薬㈱

15. 硫酸フラジオマイシン　(2634)

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	有効菌種：本剤に感性の下記菌種 ブドウ球菌、連鎖球菌 適応症：外傷・熱傷・その他の疾患によるびらん・潰瘍及び術後の二次感染並びにこれらの感染予防	<適応菌種> フラジオマイシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属（肺炎球菌を除く） <適応症> 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん・潰瘍の二次感染
用法・用量	本品の１～数枚を直接患部に当て、その上を無菌ガーゼで覆う。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
ソフラチュール	アベンティス ファーマ㈱	ソフラチュール帯	アベンティス ファーマ㈱

15. 硫酸フラジオマイシン　(2760)

（歯科用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	抜歯創を含む口腔創傷の感染予防	<適応菌種> フラジオマイシン感性菌 <適応症> 抜歯創・口腔手術創の二次感染
用法・用量	硫酸フラジオマイシンとして、通常60mg（力価）を用時約500ml の水又は微温湯に溶解し、１日数回に分けて洗口する。 なお、症状により適宜増量する。	硫酸フラジオマイシンとして、通常60mg（力価）を用時約500mL の水又は微温湯に溶解し、１日数回に分けて洗口する。 なお、症状により適宜増量する。

販売名	会社名
デンターグルＦ	昭和薬品化工㈱

16. 硫酸ポリミキシンＢ　（6126）

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再評価結果
効能・効果	白血病治療時の腸管内殺菌	<適応症> 白血病治療時の腸管内殺菌
用法・用量	硫酸ポリミキシンＢとして通常成人１日量300万単位を３回に分けて経口投与する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
硫酸ポリミキシンＢ錠ファイザー	マルコ製薬㈱－ファイザー㈱	硫酸ポリミキシンＢ溶性錠	ファイザー㈱

16. 硫酸ポリミキシンＢ　(2634)

（内用・外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承認内容	再評価結果
効能・効果	（局所投与） （1）本剤に感性の緑膿菌 （2）他のすべての薬剤に耐性の大腸菌、肺炎桿菌、エンテロバクター 上記（1）及び（2）の菌種による下記疾患 副鼻腔炎、中耳炎、骨髄炎、化膿性関節炎、創傷・熱傷及び手術後の二次感染、角膜潰瘍、結膜炎、膀胱炎 （経口投与） 白血病治療時の腸管内殺菌	（局所投与） ＜適応菌種＞ ポリミキシンＢに感性の大腸菌、肺炎桿菌、エンテロバクター属、緑膿菌 ＜適応症＞ 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、骨髄炎、関節炎、膀胱炎、結膜炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む）、中耳炎、副鼻腔炎 （経口投与） ＜適応症＞ 白血病治療時の腸管内殺菌
用法・用量	（局所投与） 副鼻腔炎、中耳炎、骨髄炎、化膿性関節炎に使用する場合には、硫酸ポリミキシンＢとして、通常、成人50万単位を、注射用蒸留水または生理食塩液10～50ml に溶解し、その適量を患部に注入、噴霧、もしくは散布する。 １回の最高投与量は50万単位を超えてはならない。 創傷・熱傷及び手術後の二次感染に使用する場合には、硫酸ポリミキシンＢとして、通常、成人50万単位を注射用蒸留水または、生理食塩液５～50ml に溶解し、その適量を患部に散布する。 １回の最高投与量は50万単位を超えてはならない。 角膜潰瘍、結膜炎に使用する場合には、硫酸ポリミキシンＢとして、通常、成人50万単位を注射用蒸留水または生理食塩液20～50ml に溶解し、その適量を点眼する。 膀胱炎に使用する場合には、硫酸ポリミキシンＢとして、通常、成人50万単位を滅菌精製水または生理食塩液10～500ml に溶解し、その適量を１日１～２回に分けて、膀胱内に注入または洗浄する。 １回の最高投与量は50万単位を超えてはならない。 （経口投与） 硫酸ポリミキシンＢとして、通常、成人１日300万単位を３回に分けて経口投与する。	（局所投与） 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染に使用する場合には、硫酸ポリミキシンＢとして、通常、成人50万単位を注射用蒸留水または、生理食塩液５～50mL に溶解し、その適量を患部に散布する。 １回の最高投与量は50万単位を超えてはならない。 骨髄炎、関節炎、中耳炎、副鼻腔炎に使用する場合には、硫酸ポリミキシンＢとして、通常、成人50万単位を、注射用蒸留水または生理食塩液10～50mL に溶解し、その適量を患部に注入、噴霧、もしくは散布する。 １回の最高投与量は50万単位を超えてはならない。 膀胱炎に使用する場合には、硫酸ポリミキシンＢとして、通常、成人50万単位を滅菌精製水または生理食塩液10～500mL に溶解し、その適量を１日１～２回に分けて、膀胱内に注入または洗浄する。 １回の最高投与量は50万単位を超えてはならない。 結膜炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む）に使用する場合には、硫酸ポリミキシンＢとして、通常、成人50万単位を注射用蒸留水または生理食塩液20～50mL に溶解し、その適量を点眼する。 （経口投与） 硫酸ポリミキシンＢとして、通常、成人１日300万単位を３回に分けて経口投与する。

販売名	会社名	販売名	会社名
ポロミキシンＢ末	富士製薬工業㈱	硫酸ポリミキシンＢ末	㈱イセイ －科研製薬㈱
メタミキシン末	㈱科薬	硫酸ポリミキシンＢ末ファイザー	マルコ製薬㈱ －ファイザー㈱

17. アスポキシシリン　(6131)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、腸球菌、肺炎球菌、大腸菌、インフルエンザ菌、バクテロイデス属のうち本剤感性菌による下記感染症 ・敗血症、感染性心内膜炎 ・外傷・手術創などの表在性二次感染 ・咽喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎 ・慢性気管支炎、気管支拡張症の感染時、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎、肺化膿症 ・胆のう炎、胆管炎 ・腹膜炎 ・中耳炎、副鼻腔炎 ・顎炎	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、大腸菌、インフルエンザ菌、バクテロイデス属、プレボテラ属（プレボテラ・ビビアを除く） ＜適応症＞ 敗血症、感染性心内膜炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、中耳炎、副鼻腔炎、顎炎
用法・用量	アスポキシシリンとして通常成人には１日２～４ｇ（力価）を、小児には１日40～80mg（力価）／kgを２～４回に分けて静脈内注射または、点滴静注する。 難治性・重症感染症には症状に応じて、成人は１日８ｇ（力価）、小児では１日160mg（力価）／kgまで増量して点滴静注する。静脈内注射の際には、通常本剤１ｇ（力価）当たり日本薬局方注射用蒸留水、日本薬局方生理食塩液または日本薬局方ブドウ糖注射液20mlに溶解し、緩徐に注射する。 点滴静注の際には、通常日本薬局方生理食塩液、日本薬局方ブドウ糖注射液または補液に溶解し、通常成人には１～２時間、小児では30分～１時間で投与する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
ドイル注射用	田辺製薬㈱

18. アモキシシリン　(6131)

（内用（細粒））

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	アモキシシリン感性の大腸菌、変形菌（特にプロテウス・ミラビリス）、インフルエンザ菌、淋菌、溶血連鎖球菌、腸球菌、肺炎球菌、ブドウ球菌及び梅毒トレポネーマによる下記感染症 ○敗血症、細菌性心内膜炎 ○気管支炎、肺炎、咽頭炎、扁桃炎、猩紅熱、中耳炎、耳せつ、鼻せつ ○乳腺炎、リンパ節炎、骨髄炎、骨膜炎 ○胆管炎、胆のう炎、急性膵炎 ○腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎、前立腺炎、副睾丸炎、淋疾、梅毒 ○子宮付属器炎、子宮内感染、子宮旁結合織炎、骨盤腹膜炎 ○眼瞼炎、涙のう炎、麦粒腫 ○毛のう炎、膿皮症、膿痂疹、せつ、よう、ざ瘡、膿瘍、蜂窩織炎、感染粉瘤、ひょう疽、褥瘡 ○創傷及び手術後の二次感染 ○歯齦膿瘍、急性顎炎、顎骨周囲炎、智歯周囲炎、歯槽骨炎 胃潰瘍又は十二指腸潰瘍におけるヘリコバクター・ピロリ感染	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、大腸菌、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌、ヘリコバクター・ピロリ、梅毒トレポネーマ ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん・潰瘍の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、精巣上体炎（副睾丸炎）、淋菌感染症、梅毒、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、涙嚢炎、麦粒腫、中耳炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎、猩紅熱、胃潰瘍・十二指腸潰瘍におけるヘリコバクター・ピロリ感染症
用法・用量	アモキシシリンとして、通常成人1回250mg（力価）を１日３～４回経口投与する。小児は１日20～40mg（力価）／kg を３～４回に分割経口投与する。なお年令、症状により適宜増減する。 胃潰瘍又は十二指腸潰瘍におけるヘリコバクター・ピロリ感染の場合 通常、成人にはアモキシシリンとして１回750mg（力価）、クラリスロマイシンとして１回200mg（力価）及びランソプラゾールとして１回30mg の３剤を同時に１日２回、７日間経口投与する。 なお、クラリスロマイシンは、必要に応じて適宜増量することができる。ただし、１回400mg（力価）１日２回を上限とする。	［ヘリコバクター・ピロリ感染を除く感染症］ アモキシシリンとして、通常成人１回250mg（力価）を１日３～４回経口投与する。小児は１日20～40mg（力価）／kg を３～４回に分割経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。 ［胃潰瘍・十二指腸潰瘍におけるヘリコバクター・ピロリ感染症］ 通常、成人にはアモキシシリンとして１回750mg（力価）、クラリスロマイシンとして１回200mg（力価）及びランソプラゾールとして１回30mg の３剤を同時に１日２回、７日間経口投与する。 なお、クラリスロマイシンは、必要に応じて適宜増量することができる。ただし、１回400mg（力価）１日２回を上限とする。

販売名	会社名	販売名	会社名
アモキシシリン細粒「タツミ」	辰巳化学㈱	サワシリン細粒	昭和薬品化工㈱ －藤沢薬品工業㈱
アモペニキシン細粒	ニプロファーマ㈱	パセトシン細粒	協和醱酵工業㈱
アモリン細粒10％	武田薬品工業㈱	ワイドシリン細粒200	明治製菓㈱

18. アモキシシリン　(6131)

(内用 (50mg 錠))

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	アモキシシリン感性の大腸菌、変形菌(特にプロテウス・ミラ ビリス)、インフルエンザ菌、淋菌、溶血連鎖球菌、腸球菌、 肺炎球菌およびブドウ球菌による下記感染症 敗血症、細菌性心内膜炎、毛のう炎、膿皮症、膿痂疹、せつ、よう、ざ瘡、膿瘍、蜂か織炎、感染粉瘤、ひょう疽、褥瘡、創傷および手術後の二次感染、咽頭炎、扁桃炎、耳せつ、鼻せつ、眼瞼炎、涙のう炎、麦粒腫、乳腺炎、リンパ節炎、骨髄炎、骨膜炎、気管支炎、肺炎、胆管炎、胆のう炎、急性膵炎、腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎、前立腺炎、副睾丸炎、子宮付属器炎、子宮内感染、子宮旁結合織炎、骨盤腹膜炎、淋疾、猩紅熱、中耳炎、歯齦膿瘍、急性顎炎、顎骨周囲炎、智歯周囲炎、歯槽骨炎	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、大腸菌、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌 <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん・潰瘍の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎(急性症、慢性症)、精巣上体炎(副睾丸炎)、淋菌感染症、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、涙嚢炎、麦粒腫、中耳炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎、猩紅熱
用法・用量	アモキシシリンとして、通常成人1回250mg(力価)を1日3～4回経口投与する。小児は1日20～40mg(力価)/kg を3～4回に分割経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
パセトシン錠50	協和醱酵工業㈱

18. アモキシシリン　(6131)

(内用 (250mg 錠))

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	アモキシシリン感性の大腸菌、変形菌(特にプロテウス・ミラビリス)、インフルエンザ菌、淋菌、溶血連鎖球菌、腸球菌、肺炎球菌、ブドウ球菌及び梅毒トレポネーマによる下記感染症 ○敗血症、細菌性心内膜炎 ○気管支炎、肺炎、咽頭炎、扁桃炎、猩紅熱、中耳炎、耳せつ、鼻せつ ○乳腺炎、リンパ節炎、骨髄炎、骨膜炎 ○胆管炎、胆のう炎、急性膵炎 ○腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎、前立腺炎、副睾丸炎、淋疾、梅毒 ○子宮付属器炎、子宮内感染、子宮旁結合織炎、骨盤腹膜炎 ○眼瞼炎、涙のう炎、麦粒腫 ○毛のう炎、膿皮症、膿痂疹、せつ、よう、ざ瘡、膿瘍、蜂窩織炎、感染粉瘤、ひょう疽、褥瘡 ○創傷及び手術後の二次感染 ○歯齦膿瘍、急性顎炎、顎骨周囲炎、智歯周囲炎、歯槽骨炎 胃潰瘍又は十二指腸潰瘍におけるヘリコバクター・ピロリ感染	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、大腸菌、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌、ヘリコバクター・ピロリ、梅毒トレポネーマ <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん・潰瘍の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎(急性症、慢性症)、精巣上体炎(副睾丸炎)、淋菌感染症、梅毒、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、涙嚢炎、麦粒腫、中耳炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎、猩紅熱、胃潰瘍・十二指腸潰瘍におけるヘリコバクター・ピロリ感染症
用法・用量	ヘリコバクター・ピロリ感染を除く感染症 アモキシシリンとして、通常成人1回250mg(力価)を1日3～4回経口投与する。小児は1日20～40mg(力価)/kgを3～4回に分割経口投与する。なお、年令、症状により適宜増減する。 胃潰瘍又は十二指腸潰瘍におけるヘリコバクター・ピロリ感染 アモキシシリン、クラリスロマイシン及びランソプラゾール併用の場合 通常、成人にはアモキシシリンとして1回750mg(力価)、クラリスロマイシンとして1回200mg(力価)及びランソプラゾールとして1回30mgの3剤を同時に1日2回、7日間経口投与する。 なお、クラリスロマイシンは、必要に応じて適宜増量することができる。ただし、1回400mg(力価)1日2回を上限とする。 アモキシシリン、クラリスロマイシン及びオメプラゾール併用の場合 通常、成人にはアモキシシリンとして1回750mg(力価)、クラリスロマイシンとして1回400mg(力価)及びオメプラゾールとして1回20mgの3剤を同時に1日2回、7日間経口投与する。	[ヘリコバクター・ピロリ感染を除く感染症] アモキシシリンとして、通常成人1回250mg(力価)を1日3～4回経口投与する。小児は1日20～40mg(力価)/kgを3～4回に分割経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。 [胃潰瘍・十二指腸潰瘍におけるヘリコバクター・ピロリ感染症] ○アモキシシリン、クラリスロマイシン及びランソプラゾール併用の場合 通常、成人にはアモキシシリンとして1回750mg(力価)、クラリスロマイシンとして1回200mg(力価)及びランソプラゾールとして1回30mgの3剤を同時に1日2回、7日間経口投与する。 なお、クラリスロマイシンは、必要に応じて適宜増量することができる。ただし、1回400mg(力価)1日2回を上限とする。 ○アモキシシリン、クラリスロマイシン及びオメプラゾール併用の場合 通常、成人にはアモキシシリンとして1回750mg(力価)、クラリスロマイシンとして1回400mg(力価)及びオメプラゾールとして1回20mgの3剤を同時に1日2回、7日間経口投与する。

販売名	会社名	販売名	会社名
サワシリン錠250	昭和薬品化工㈱ －藤沢薬品工業㈱	パセトシン錠250	協和醱酵工業㈱

18. アモキシシリン　(6131)

（カプセル）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	アモキシシリン感性の大腸菌、変形菌（特にプロテウス・ミラビリス）、インフルエンザ菌、淋菌、溶血連鎖球菌、腸球菌、肺炎球菌、ブドウ球菌および梅毒トレポネーマによる下記感染症 敗血症、細菌性心内膜炎、毛のう炎、膿皮症、膿痂疹、せつ、よう、ざ瘡、膿瘍、蜂か織炎、感染粉瘤、ひょう疽、褥瘡、創傷および手術後の二次感染、咽頭炎、扁桃炎、耳せつ、鼻せつ、眼瞼炎、涙のう炎、麦粒腫、乳腺炎、リンパ節炎、骨髄炎、骨膜炎、気管支炎、肺炎、胆管炎、胆のう炎、急性膵炎、腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎、前立腺炎、副睾丸炎、子宮付属器炎、子宮内感染、子宮旁結合織炎、骨盤腹膜炎、淋疾、梅毒、猩紅熱、中耳炎、歯齦膿瘍、急性顎炎、顎骨周囲炎、智歯周囲炎、歯槽骨炎 胃潰瘍又は十二指腸潰瘍におけるヘリコバクター・ピロリ感染	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、大腸菌、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌、ヘリコバクター・ピロリ、梅毒トレポネーマ ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん･潰瘍の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、精巣上体炎（副睾丸炎）、淋菌感染症、梅毒、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、涙嚢炎、麦粒腫、中耳炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎、猩紅熱、胃潰瘍・十二指腸潰瘍におけるヘリコバクター・ピロリ感染症
用法・用量	ヘリコバクター・ピロリ感染を除く感染症 アモキシシリンとして、通常成人１回250mg（力価）を１日３～４回経口投与する。小児は１日20～40mg（力価）/kgを３～４回に分割経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。 胃潰瘍又は十二指腸潰瘍におけるヘリコバクター・ピロリ感染 ○アモキシシリン、クラリスロマイシン及びランソプラゾール併用の場合 通常、成人にはアモキシシリンとして１回750mg（力価）、クラリスロマイシンとして１回200mg（力価）及びランソプラゾールとして１回30mgの３剤を同時に１日２回、７日間経口投与する。 なお、クラリスロマイシンは、必要に応じて適宜増量することができる。ただし、１回400mg（力価）１日２回を上限とする。 ○アモキシシリン、クラリスロマイシン及びオメプラゾール併用の場合 通常、成人にはアモキシシリンとして１回750mg(力価)、クラリスロマイシンとして１回400mg(力価)及びオメプラゾールとして１回20mgの３剤を同時に１日２回、７日間経口投与する。	［ヘリコバクター・ピロリ感染を除く感染症］ アモキシシリンとして、通常成人１回250mg（力価）を１日３～４回経口投与する。小児は１日20～40mg（力価）／kgを３～４回に分割経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。 ［胃潰瘍・十二指腸潰瘍におけるヘリコバクター・ピロリ感染症］ ○アモキシシリン、クラリスロマイシン及びランソプラゾール併用の場合 通常、成人にはアモキシシリンとして１回750mg（力価）、クラリスロマイシンとして１回200mg（力価）及びランソプラゾールとして１回30mgの３剤を同時に１日２回、７日間経口投与する。 なお、クラリスロマイシンは、必要に応じて適宜増量することができる。ただし、１回400mg（力価）１日２回を上限とする。 ○アモキシシリン、クラリスロマイシン及びオメプラゾール併用の場合 通常、成人にはアモキシシリンとして１回750mg(力価)、クラリスロマイシンとして１回400mg（力価）及びオメプラゾールとして１回20mgの３剤を同時に１日２回、７日間経口投与する。

販売名	会社名	販売名	会社名
アモキシシリンカプセル「トーワ」	東和薬品㈱	パセトシンカプセル	協和醗酵工業㈱
サワシリンカプセル	昭和薬品化工㈱ －藤沢薬品工業㈱		

●以下の製品については「オメプラゾール」併用なし

販売名	会社名	販売名	会社名
アモキシシリンカプセル「タツミ」	辰巳化学㈱	アモリンカプセル125	武田薬品工業㈱
アモセパシンカプセル	日本医薬品工業㈱	アモリンカプセル250	武田薬品工業㈱
アモピシリンカプセル250	大洋薬品工業㈱	エフペニックスカプセル	旭化成ファーマ㈱
アモペニキシンカプセル	ニプロファーマ㈱	セオキシリンカプセル250	長生堂製薬㈱

19. アンピシリン（無水物を含む）　(6131)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承 認 内 容	再 評 価 結 果
効能・効果	有効菌種 (1)赤痢菌、大腸菌、変形菌（特にプロテウスミラビリス）、インフルエンザ菌、腸球菌。 (2)溶血連鎖球菌、肺炎球菌、淋菌、ベンジルペニシリン感性ブドウ球菌。 適応症 ○敗血症、細菌性心内膜炎、骨髄炎、腹膜炎、急性膵炎、肝膿瘍、乳腺炎、子宮内感染。 ○肺炎、膿胸、肺化膿症、気管支炎、扁桃炎、咽頭炎、喉頭炎、猩紅熱。 ○蜂窠織炎、よう、癤、リンパ節炎、膿皮症、膿痂疹。 ○腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎。 ○淋疾。 ○中耳炎、副鼻腔炎。 ○智歯周囲炎、歯槽骨炎、歯槽膿瘍、急性顎炎、急性根端性化膿性歯根膜炎、急性辺縁性化膿性歯根膜炎、抜歯後感染。 ○匐行性角膜潰瘍、眼瞼膿瘍、麦粒腫。 ○放線菌症、炭疽。 ○創傷、熱傷および手術後の二次感染。 ○重症熱傷の二次感染の予防。 ○細菌性赤痢。	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、炭疽菌、放線菌、大腸菌、赤痢菌、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌 <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、淋菌感染症、腹膜炎、肝膿瘍、感染性腸炎、子宮内感染、眼瞼膿瘍、麦粒腫、角膜炎（角膜潰瘍を含む）、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎、抜歯創・口腔手術創の二次感染、猩紅熱、炭疽、放線菌症
用法・用量	無水物の場合 用時溶解し、通常成人には１回本剤2.5～５ g〔無水アンピシリンとして250～500mg（力価）〕を１日４～６回経口投与する。 小児には体重１ kg当り本剤0.25～0.5g［無水アンピシリンとして25～50mg（力価）］を１日量とし、４回に分けて経口投与する。 敗血症、細菌性心内膜炎については、一般に通常用量より大量を投与する。 なお、症状により適宜増減する。 無水物でない場合 用時溶解し、通常成人には１回本剤2.5～５ g〔アンピシリンとして250～500mg（力価）〕を１日４～６回経口投与する。 小児には体重１ kg当り本剤0.25～0.5g［アンピシリンとして25～50mg（力価）］を１日量とし、４回に分けて経口投与する。 敗血症、細菌性心内膜炎については、一般に通常用量より大量を投与する。 なお、年令、症状により適宜増減する。 ただし、そのまま服用することもできる。	［無水物の場合］ 用時溶解し、通常成人には１回本剤2.5～５ g〔無水アンピシリンとして250～500mg（力価）〕を１日４～６回経口投与する。 小児には体重１ kg当り本剤0.25～0.5g〔無水アンピシリンとして25～50mg（力価）〕を１日量とし、４回に分けて経口投与する。 なお、症状により適宜増減する。 ［無水物でない場合］ 用時溶解し、通常成人には１回本剤2.5～５ g〔アンピシリンとして250～500mg（力価）〕を１日４～６回経口投与する。 小児には体重１ kg当り本剤0.25～0.5g〔アンピシリンとして25～50mg（力価）〕を１日量とし、４回に分けて経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。

販売名	会社名	販売名	会社名
ソルシリン顆粒10％	武田薬品工業㈱	ビクシリンドライシロップ	明治製菓㈱

19. アンピシリン（無水物を含む）　(6131)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	有効菌種 (1)赤痢菌、大腸菌、変形菌（特にプロテウスミラビリス）、インフルエンザ菌、腸球菌、梅毒トレポネーマ。 (2)溶血連鎖球菌、肺炎球菌、淋菌、ベンジルペニシリン感性ブドウ球菌。 適応症 ◇敗血症、細菌性心内膜炎、骨髄炎、腹膜炎、急性膵炎、肝膿瘍、乳腺炎、子宮内感染。 ◇肺炎、膿胸、肺化膿症、気管支炎、扁桃炎、咽頭炎、喉頭炎、猩紅熱。 ◇蜂窠織炎、よう、せつ、リンパ節炎、膿皮症、膿痂疹。 ◇胆管炎、胆のう炎。 ◇腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎。 ◇中耳炎、副鼻腔炎。 ◇智歯周囲炎、歯槽骨炎、歯槽膿瘍、急性顎炎、急性根端性化膿性歯根膜炎、急性辺縁性化膿性歯根膜炎、抜歯後感染。 ◇匐行性角膜潰瘍、眼瞼膿瘍、麦粒腫。 ◇放線菌症、炭疽。 ◇創傷、熱傷及び手術後の二次感染。 ◇重症熱傷の二次感染の予防。 ◇細菌性赤痢。 ◇淋疾、梅毒。	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、炭疽菌、放線菌、大腸菌、赤痢菌、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌、梅毒トレポネーマ <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、咽頭·喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、淋菌感染症、梅毒、腹膜炎、肝膿瘍、感染性腸炎、子宮内感染、眼瞼膿瘍、麦粒腫、角膜炎（角膜潰瘍を含む）、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎、抜歯創・口腔手術創の二次感染、猩紅熱、炭疽、放線菌症
用法・用量	通常、成人１回アンピシリンとして250～500mg（力価）を、１日４～６回経口投与する。 敗血症、細菌性心内膜炎については、一般に通常用量より大量を投与する。 なお、症状、年令に応じて適宜増減する。	通常、成人には１回アンピシリンとして250～500mg（力価）を、１日４～６回経口投与する。なお、年齢、症状に応じて適宜増減する。

販売名	会社名	販売名	会社名
アミペニックスカプセル	旭化成ファーマ㈱	ソルシリンカプセル500	武田薬品工業㈱
ソルシリンカプセル250	武田薬品工業㈱	ビクシリンカプセル	明治製菓㈱

20. アンピシリンナトリウム　(6131)

(注射)

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	＜有効菌種＞ 1) 赤痢菌、大腸菌、変形菌(特にプロテウス・ミラビリス)、インフルエンザ菌、腸球菌 2) 溶血連鎖球菌、肺炎球菌、淋菌、髄膜炎菌、ベンジルペニシリン感性ブドウ球菌 ＜適応症＞ 敗血症、細菌性心内膜炎、癤、よう、膿痂疹、膿皮症、蜂窠織炎、乳腺炎、リンパ節炎、骨髄炎、扁桃炎、咽頭炎、喉頭炎、気管支炎、肺炎、肺化膿症、膿胸、腹膜炎、急性膵炎、肝膿瘍、細菌性赤痢、腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎、子宮内感染、淋疾、髄膜炎、猩紅熱、眼瞼膿瘍、麦粒腫、匐行性角膜潰瘍、中耳炎、副鼻腔炎、急性辺縁性化膿性歯根膜炎、急性根端性化膿性歯根膜炎、智歯周囲炎、歯槽膿瘍、歯槽骨炎、急性顎炎、抜歯後感染、創傷・熱傷及び手術後の二次感染、重症熱傷の二次感染の予防、放線菌症、炭疽	＜適応菌種＞ アンピシリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、髄膜炎菌、炭疽菌、放線菌、大腸菌、赤痢菌、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ 敗血症、感染性心内膜炎、表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、淋菌感染症、腹膜炎、肝膿瘍、感染性腸炎、子宮内感染、化膿性髄膜炎、眼瞼膿瘍、角膜炎(角膜潰瘍を含む)、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎、抜歯創・口腔手術創の二次感染、猩紅熱、炭疽、放線菌症
用法・用量	筋肉内注射の場合 　アンピシリンとして、通常成人1回250～1000mg(力価)を1日2～4回筋肉内注射する。 　髄膜炎、敗血症、細菌性心内膜炎については、一般に通常用量より大量を使用する。 静脈内注射の場合 　アンピシリンとして、通常成人1日量1～2g(力価)を1～2回に分けて日局生理食塩液又は日局ブドウ糖注射液に溶解し静脈内注射し、点滴静注による場合は、アンピシリンとして、通常成人1日量1～4g(力価)を1～2回に分けて輸液100～500mlに溶解し1～2時間かけて静脈内に点滴注射する。 　髄膜炎、敗血症、細菌性心内膜炎については、一般に通常用量より大量を使用する。 　なお、年令、症状により適宜増減する。	[筋肉内注射の場合] 　アンピシリンとして、通常成人1回250～1000mg(力価)を1日2～4回筋肉内注射する。 　敗血症、感染性心内膜炎、化膿性髄膜炎については、一般に通常用量より大量を使用する。 [静脈内注射の場合] 　アンピシリンとして、通常成人1日量1～2g(力価)を1～2回に分けて日局生理食塩液又は日局ブドウ糖注射液に溶解し静脈内注射し、点滴静注による場合は、アンピシリンとして、通常成人1日量1～4g(力価)を1～2回に分けて輸液100～500mLに溶解し1～2時間かけて静脈内に点滴注射する。 　敗血症、感染性心内膜炎、化膿性髄膜炎については、一般に通常用量より大量を使用する。 なお、いずれの場合も年齢、症状により適宜増減する。

販売名	会社名
注射用ビクシリン	明治製菓㈱

22. 塩酸セフェピム　(6132)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	1.ブドウ球菌属、レンサ球菌属、ペプトストレプトコッカス属、ブランハメラ・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ属、シュードモナス属、インフルエンザ菌、アシネトバクター属、バクテロイデス属のうち本剤感性菌による中等症以上の下記感染症 敗血症 蜂巣炎、肛門周囲膿瘍 外傷創感染、熱傷創感染、手術創感染 扁桃周囲膿瘍、慢性気管支炎、気管支拡張症(感染時)、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎、肺化膿症 腎盂腎炎、複雑性膀胱炎、前立腺炎 胆のう炎、胆管炎 腹膜炎、骨盤腹膜炎、ダグラス窩膿瘍 子宮内感染、骨盤死腔炎、子宮旁結合織炎 中耳炎、副鼻腔炎 2.発熱性好中球減少症	1.一般感染症 ＜適応菌種＞ セフェピムに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、シュードモナス属、緑膿菌、バークホルデリア・セパシア、ステノトロホモナス（ザントモナス）・マルトフィリア、アシネトバクター属、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属（プレボテラ・ビビアを除く） ＜適応症＞ 敗血症、深在性皮膚感染症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肛門周囲膿瘍、扁桃炎（扁桃周囲膿瘍を含む）、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、複雑性膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆嚢炎、胆管炎、子宮内感染、子宮旁結合織炎、中耳炎、副鼻腔炎 2.発熱性好中球減少症
用法・用量	本剤の使用に際しては、投与開始後３日をめやすとしてさらに継続投与が必要か判定し、投与中止又はより適切な他剤に切り替えるべきか検討を行うこと。さらに、本剤の投与期間は、原則として14日以内とすること。 1.【効能又は効果】１の場合 通常成人には、症状により１日１～２ｇ（力価）を２回に分割し、静脈内注射又は点滴静注する。なお、難治性又は重症感染症には、症状に応じて１日量を４ｇ（力価）まで増量し分割投与する。 2.【効能又は効果】２（発熱性好中球減少症）の場合 通常成人には、１日４ｇ（力価）を２回に分割し、静脈内注射又は点滴静注する。 静脈内注射の場合は、日局注射用水、日局生理食塩液又は日局ブドウ糖注射液に溶解し、緩徐に注射する。 また、点滴静注の場合は、糖液、電解質液又はアミノ酸製剤などの補液に加えて30分～１時間かけて点滴静注する。	本剤の使用に際しては、投与開始後３日をめやすとしてさらに継続投与が必要か判定し、投与中止又はより適切な他剤に切り替えるべきか検討を行うこと。さらに、本剤の投与期間は、原則として14日以内とすること。 １．一般感染症 通常成人には、症状により１日１～２ｇ（力価）を２回に分割し、静脈内注射又は点滴静注する。 なお、難治性又は重症感染症には、症状に応じて１日量を４ｇ（力価）まで増量し分割投与する。 ２．発熱性好中球減少症 通常成人には、１日４ｇ（力価）を２回に分割し、静脈内注射又は点滴静注する。 静脈内注射の場合は、日局注射用水、日局生理食塩液又は日局ブドウ糖注射液に溶解し、緩徐に注射する。 また、点滴静注の場合は、糖液、電解質液又はアミノ酸製剤などの補液に加えて30分～１時間かけて点滴静注する。

販売名	会社名	販売名	会社名
注射用マキシピーム0.5g	ブリストル製薬㈲－ブリストル・マイヤーズ㈱	注射用マキシピーム１ｇ	ブリストル製薬㈲－ブリストル・マイヤーズ㈱

23. 塩酸セフォゾプラン　(6132)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能 ・ 効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、腸球菌、ペプトストレプトコッカス属、ブランハメラ･カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ属、プロビデンシア属、シュードモナス属、インフルエンザ菌、アシネトバクター属、バクテロイデス属、プレボテラ属のうち本剤感性菌による中等症以上の下記感染症 ○敗血症 ○外傷創感染、手術創感染 ○咽後膿瘍、扁桃周囲膿瘍、慢性気管支炎、気管支拡張症（感染時）、慢性呼吸器疾患の二次感染、びまん性汎細気管支炎、肺炎、肺化膿症、膿胸 ○腎盂腎炎、複雑性膀胱炎（難治性を含む）、前立腺炎 ○胆のう炎、胆管炎、肝膿瘍 ○腹膜炎 ○骨盤腹膜炎、ダグラス窩膿瘍 ○子宮付属器炎、子宮内感染、子宮旁結合織炎（骨盤死腔炎を含む） ○髄膜炎 ○角膜潰瘍、眼窩感染、全眼球炎 ○中耳炎、副鼻腔炎、化膿性唾液腺炎（耳下腺炎、顎下腺炎）	＜適応菌種＞ セフォゾプランに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、モラクセラ（ブランハメラ）･カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、シュードモナス属、緑膿菌、バークホルデリア・セパシア、ステノトロホモナス（ザントモナス）･マルトフィリア、アシネトバクター属、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属 ＜適応症＞ 敗血症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、咽頭・喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲膿瘍を含む）、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、複雑性膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎、眼窩感染、角膜炎（角膜潰瘍を含む）、眼内炎（全眼球炎を含む）、中耳炎、副鼻腔炎、化膿性唾液腺炎
	本剤の使用に際しては、投与開始後3日をめやすとしてさらに継続投与が必要か判定し、投与中止又はより適切な他剤に切り替えるべきか検討を行うこと。さらに、本剤の投与期間は、原則として14日以内とすること。 成人：通常、成人には塩酸セフォゾプランとして1日1～2g（力価）を2回に分けて静脈内注射又は点滴静脈内注射する。 なお、年齢、症状に応じて適宜増減するが、難治性又は重症感染症には1日4g（力価）まで増量し、2～4回に分けて投与する。 小児：通常、小児には１日40～80mg（力価）／kgを3～4回に分けて静脈内注射又は点滴静脈内注射する。 なお、難治性又は重症感染症には1日160mg（力価）／kgまで増量し、3～４回に分けて投与する。髄膜炎には1日200mg（力価）／kgまで増量できる。ただし、成人における1日最大用量4g（力価）を超えないこととする。 新生児（低出生体重児を含む）：通常、新生児（低出生体重児を含む）には1回20mg（力価）／kgを0日齢（生後24時間未満）は1日1～2回、1（生後24時間以降）～7日齢は1日2～3回、8日齢以降は1日3～4回静脈内注射又は点滴静脈内注射する。	【静注用】 本剤の使用に際しては、投与開始後３日をめやすとしてさらに継続投与が必要か判定し、投与中止又はより適切な他剤に切り替えるべきか検討を行うこと。さらに、本剤の投与期間は、原則として14日以内とすること。 成人：通常、成人には塩酸セフォゾプランとして１日１～２ｇ（力価）を２回に分けて静脈内注射又は点滴静脈内注射する。 なお、年齢、症状に応じて適宜増減するが、難治性又は重症感染症には１日４ｇ（力価）まで増量し、２～４回に分けて投与する。 小児：通常、小児には１日40～80mg（力価）／kgを３～４回に分けて静脈内注射又は点滴静脈内注射する。 なお難治性又は重症感染症には１日160mg（力価）／kgまで増量し、３～４回に分けて投与する。化膿性髄膜炎には１日200mg（力価）／kgまで増量できる。ただし、成人における１日最大用量４ｇ（力価）を超えないこととする。 新生児（低出生体重児を含む）：通常、新生児（低出生体重児を含む）には１回20mg（力価）／kgを０日齢（生後24時間未満）は１日１～２回、１（生後24時間以降）～７日齢は１日２～３回、

用法・用量	なお、重症又は難治性感染症には1回40mg（力価）／kg まで増量できる。	８日齢以降は１日３～４回静脈内注射又は点滴静脈内注射する。 なお、重症又は難治性感染症には１回40mg（力価）／kg まで増量できる。 ［静脈内注射の場合］ 日局「注射用水」、日局「生理食塩液」又は日局「ブドウ糖注射液」に溶解して、緩徐に静脈内に注射する。 ［点滴静脈内注射の場合］ 糖液、電解質液又はアミノ酸製剤などの輸液に加えて30分～２時間かけて静脈内に点滴注射する。 【1g キット S】 本剤の使用に際しては、投与開始後３日をめやすとしてさらに継続投与が必要か判定し、投与中止又はより適切な他剤に切り替えるべきか検討を行うこと。さらに、本剤の投与期間は、原則として14日以内とすること。 成人：通常、成人には塩酸セフォゾプランとして１日１～２ g（力価）を２回に分けて静脈内注射又は点滴静脈内注射する。 なお、年齢、症状に応じて適宜増減するが、難治性又は重症感染症には１日４ g（力価）まで増量し、２～４回に分けて投与する。 小児：通常、小児には１日40～80mg（力価）／kg を３～４回に分けて静脈内注射又は点滴静脈内注射する。 なお､難治性又は重症感染症には１日160mg(力価）／ kg まで増量し、３～４回に分けて投与する。化膿性髄膜炎には１日200mg（力価）／ kg まで増量できる。ただし、成人における１日最大用量４ g（力価）を超えないこととする。 新生児（低出生体重児を含む）：通常、新生児（低出生体重児を含む）には１回20mg（力価）／ kg を０日齢（生後24時間未満）は１日１～２回、１（生後24時間以降）～７日齢は１日２～３回、８日齢以降は１日３～４回静脈内注射又は点滴静脈内注射する。 なお、重症又は難治性感染症には１回40mg（力価）／ kg まで増量できる。 キット S は添付の生理食塩液にコネクターを介して溶解し、30分～２時間かけて静脈内に点滴注射する。 【１ g バッグ S．G】 本剤の使用に際しては、投与開始後３日をめやすとしてさらに継続投与が必要か判定し、投与中止又はより適切な他剤に切り替えるべきか検討を行うこと。さらに、本剤の投与期間は、原則として14日以内とすること。 成人：通常、成人には塩酸セフォゾプランとして１日１～２ g（力価）を２回に分けて静脈内注射又は点滴静脈内注射する。 なお、年齢、症状に応じて適宜増減するが、難治性又は重症感染症には１日４ g（力価）まで

		増量し、２～４回に分けて投与する。 小児：通常、小児には１日40～80mg（力価）／kgを３～４回に分けて静脈内注射又は点滴静脈内注射する。 なお､難治性又は重症感染症には１日160mg(力価）／kgまで増量し、３～４回に分けて投与する。化膿性髄膜炎には１日200mg（力価）／kgまで増量できる。ただし、成人における１日最大用量４ｇ（力価）を超えないこととする。 新生児(低出生体重児を含む)：通常､新生児(低出生体重児を含む）には１回20mg（力価）／kgを０日齢(生後24時間未満)は１日１～２回、１（生後24時間以降）～７日齢は１日２～３回、８日齢以降は１日３～４回静脈内注射又は点滴静脈内注射する。 なお､重症又は難治性感染症には１回40mg（力価）／kgまで増量できる。 投与に際しては、バッグＳは生理食塩液側を、バッグＧは５％ブドウ糖注射液側をそれぞれ手で圧し隔壁を開通させ、塩酸セフォゾプランを溶解した後、30分～２時間かけて静脈内に点滴注射する。

販売名	会社名	販売名	会社名
ファーストシン静注用0.5g	武田薬品工業㈱	ファーストシン静注用１ｇ	武田薬品工業㈱
ファーストシン静注用１ｇキットＳ	武田薬品工業㈱	ファーストシン静注用１ｇバッグＧ	武田薬品工業㈱
ファーストシン静注用１ｇバッグＳ	武田薬品工業㈱		

ご使用にあたっては、各製品の添付文書をご参照ください。

24. 塩酸セフォチアム　(6132)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	セフォチアムに感性のブドウ球菌属、連鎖球菌属(腸球菌を除く)、肺炎球菌、インフルエンザ菌、大腸菌、クレブシエラ属、エンテロバクター属、シトロバクター属、プロテウス・ミラビリス、プロテウス・ブルガリス、プロテウス・レットゲリー、プロテウス・モルガニーによる下記感染症 ○敗血症 ○術後創・火傷後感染、皮下膿瘍、よう、癤、癤腫症 ○骨髄炎、化膿性関節炎 ○扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍)、気管支炎、気管支拡張症の感染時、肺炎 ○肺化膿症、膿胸 ○胆管炎、胆のう炎 ○腹膜炎 ○腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎、前立腺炎 ○髄膜炎 ○子宮内感染、骨盤死腔炎、子宮旁結合織炎、子宮付属器炎、バルトリン腺炎 ○中耳炎、副鼻腔炎	＜適応菌種＞ セフォチアムに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア・レットゲリ、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ 敗血症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、骨髄炎、関節炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症)、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎、中耳炎、副鼻腔炎
用法・用量	［筋注］ 通常、成人には塩酸セフォチアムとして１日0.5～２ｇ（力価）を２～４回に分けて、筋肉内に注射する。 なお、年令、症状に応じて適宜増減する。 また、筋肉内注射に際しては、１バイアル当たり添付のパンスポリン筋注用溶解液３ mlで溶解する。 ［静注］ 通常、成人には塩酸セフォチアムとして１日0.5～２ｇ（力価）を２～４回に分け、また小児には塩酸セフォチアムとして１日40～80mg（力価)／kgを３～４回に分けて静脈内に注射する。 なお、年齢、症状に応じ適宜増減するが、成人の敗血症には１日４ｇ（力価）まで、小児の敗血症、髄膜炎等の重症・難治性感染症には１日160mg（力価）／kgまで増量することができる。 静脈内注射に際しては、日局「注射用水」、日局「生理食塩液」又は日局「ブドウ糖注射液」に溶解して用いる。 また、成人の場合は本剤の１回用量0.25～２ｇ（力価）を糖液、電解質液又はアミノ酸製剤などの補液に加えて、30分～２時間で点滴静脈内注射を行うこともできる。 なお、小児の場合は上記投与量を考慮し、補液に加えて、30分～１時間で点滴静脈内注射を行うこともできる。 また、キット品は連結容器（コネクター）を介して添付の生理食塩液又は５％ブドウ糖注射液に溶解し、点滴静脈内注射を行う。また、バッ	［筋注］ 通常、成人には塩酸セフォチアムとして１日0.5～２ｇ(力価)を２～４回に分けて、筋肉内に注射する。 なお、年齢、症状に応じて適宜増減する。 また、筋肉内注射に際しては、１バイアル当たり添付のパンスポリン筋注用溶解液３ mLで溶解する。 ［静注］ 通常、成人には塩酸セフォチアムとして１日0.5～２ｇ（力価）を２～４回に分け、また小児には塩酸セフォチアムとして１日40～80mg(力価）／kgを３～４回に分けて静脈内に注射する。 なお、年齢、症状に応じ適宜増減するが、成人の敗血症には１日４ｇ（力価）まで、小児の敗血症、化膿性髄膜炎等の重症・難治性感染症には１日160mg（力価）／kgまで増量することができる。 静脈内注射に際しては、日局「注射用蒸留水」、日局「生理食塩液」又は日局「ブドウ糖注射液」に溶解して用いる。 また、成人の場合は本剤の１回用量0.25～２ｇ（力価）を糖液、電解質液又はアミノ酸製剤などの補液に加えて、30分～２時間で点滴静脈内注射を行うこともできる。 なお、小児の場合は上記投与量を考慮し、補液に加えて、30分～１時間で点滴静脈内注射を行うこともできる。

	グＳ及びバッグＧはそれぞれ添付の生理食塩液側又は５％ブドウ糖注射液側を手で圧し、隔壁を開通させ、それぞれ塩酸セフォチアムを溶解した後、30分～２時間で点滴静脈内注射を行う。	また、キット品は連結容器（コネクター）を介して添付の生理食塩液又は５％ブドウ糖注射液に溶解し、点滴静脈内注射を行う。また、バッグＳ及びバッグＧはそれぞれ添付の生理食塩液側又は５％ブドウ糖注射液側を手で圧し、隔壁を開通させ、それぞれ塩酸セフォチアムを溶解した後、30分～２時間で点滴静脈内注射を行う。

販売名	会社名	販売名	会社名
ケミスポリン静注用	㈱ケミックス	パンスポリン筋注用0.25g	武田薬品工業㈱
セピドナリン静注用１ｇ	マルコ製薬㈱	パンスポリン静注用0.25g	武田薬品工業㈱
セファピコール静注用	大洋薬品工業㈱＝日本ケミファ㈱	パンスポリン静注用0.5g	武田薬品工業㈱
セフォチアロン静注用	シオノケミカル㈱	パンスポリン静注用１ｇ	武田薬品工業㈱
パセトクール静注用	ニプロファーマ㈱	パンスポリン静注用１ｇバッグＧ	武田薬品工業㈱
パセトクール静注用１ｇバッグＳ	ニプロファーマ㈱＝マルコ製薬㈱	パンスポリン静注用１ｇバッグＳ	武田薬品工業㈱
ハロスポア静注用0.25g	富山化学工業㈱－大正富山医薬品㈱	パンセフォ静注用１ｇ	日本医薬品工業㈱
ハロスポア静注用0.5g	富山化学工業㈱－大正富山医薬品㈱	ホンパスチン静注用	シー・エイチ・オー新薬㈱－原沢製薬工業㈱＝日本薬品工業㈱
ハロスポア静注用１ｇ	富山化学工業㈱－大正富山医薬品㈱		

セピドナリン静注用１ｇは、キット品の用法・用量はない。

25. 塩酸セフォチアムヘキセチル　(6132)

(内用)

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属(腸球菌を除く)、肺炎球菌、淋菌、ブランハメラ・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌のうちセフォチアム感性菌による下記感染症 ○咽喉頭炎、急性気管支炎、扁桃炎、慢性気管支炎、気管支拡張症(感染時)、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎 ○腎盂腎炎、膀胱炎、淋菌性尿道炎 ○毛嚢(包)炎、膿疱性座瘡、癤、癤腫症、よう、丹毒、蜂巣炎、リンパ管(節)炎、瘭疽、化膿性爪囲(廓)炎、皮下膿瘍、汗腺炎、感染性粉瘤、肛門周囲膿瘍 ○乳腺炎、外傷・手術創などの表在性二次感染 ○眼瞼炎、麦粒腫、涙嚢炎、瞼板腺炎、角膜潰瘍 ○中耳炎、副鼻腔炎	<適応菌種> セフォチアムに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌 <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、肛門周囲膿瘍、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、尿道炎、涙嚢炎、麦粒腫、瞼板腺炎、角膜炎(角膜潰瘍を含む)、中耳炎、副鼻腔炎
用法・用量	○咽喉頭炎、急性気管支炎、扁桃炎、肺炎、腎盂腎炎、膀胱炎、淋菌性尿道炎、毛嚢(包)炎、膿疱性座瘡、癤、癤腫症、よう、丹毒、蜂巣炎、リンパ管(節)炎、瘭疽、化膿性爪囲(廓)炎、皮下膿瘍、汗腺炎、感染性粉瘤、肛門周囲膿瘍、乳腺炎、外傷・手術創などの表在性二次感染、眼瞼炎、麦粒腫、涙嚢炎、瞼板腺炎、角膜潰瘍、中耳炎、副鼻腔炎の場合 　通常、成人には塩酸セフォチアム　ヘキセチルとして1日300～600mg(力価)を3回に分割して経口投与する。 ○慢性気管支炎、気管支拡張症(感染時)、慢性呼吸器　疾患の二次感染の場合 　通常、成人には塩酸セフォチアム　ヘキセチルとして1日600～1200mg(力価)を3回に分割して経口投与する。 なお、年齢及び症状に応じて適宜増減するが、重症又は効果不十分と思われる症例には1日1200mg(力価)を3回に分割して経口投与する。	[表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、肛門周囲膿傷、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎、涙嚢炎、麦粒腫、瞼板腺炎、角膜炎(角膜腫瘍を含む)、中耳炎、副鼻腔炎の場合] 通常、成人には塩酸セフォチアム　ヘキセチルとして1日300～600mg(力価)を3回に分割して経口投与する。 [慢性呼吸器病変の二次感染の場合] 通常、成人には塩酸セフォチアム　ヘキセチルとして1日600～1200mg(力価)を3回に分割して経口投与する。 なお、年齢及び症状に応じて適宜増減するが、重症又は効果不十分と思われる症状には1日1200mg(力価)を3回に分割して経口投与する。

販売名	会社名	販売名	会社名
パンスポリンT錠100	武田薬品工業㈱	パンスポリンT錠200	武田薬品工業㈱

26. 塩酸セフカペン ピボキシル　(6132)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、ペプトストレプトコッカス属、モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス、プロピオニバクテリウム属、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、バクテロイデス属のうち本剤感性菌による下記感染症。 毛嚢炎(毛包炎)、癤、癤腫症、よう、伝染性膿痂疹、丹毒、蜂巣炎、リンパ管(節)炎、瘭疽、化膿性爪囲(廓)炎、皮下膿瘍、汗腺炎、感染性粉瘤 咽喉頭炎(咽喉頭の膿瘍)、急性気管支炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍)、肺炎 腎盂腎炎、膀胱炎 猩紅熱 中耳炎、副鼻腔炎	＜適応菌種＞ セフカペンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属（プレボテラ・ビビアを除く)、アクネ菌 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、咽頭・喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、膀胱炎、腎盂腎炎、中耳炎、副鼻腔炎、猩紅熱
用法・用量	通常、小児には塩酸セフカペン　ピボキシルとして１回３mg（力価）／kgを１日３回食後経口投与する。 なお、年齢、体重及び症状に応じて適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
フロモックス小児用細粒100mg	塩野義製薬㈱

26. 塩酸セフカペン ピボキシル　(6132)

(内用)

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、ペプトストレプトコッカス属、淋菌、モラクセラ(ブランハメラ)･カタラーリス､プロピオニバクテリウム属、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、バクテロイデス属のうち本剤感性菌による下記感染症。 毛嚢炎(毛包炎)、癤、癤腫症、よう、伝染性膿痂疹、丹毒、蜂巣炎、リンパ管(節)炎、瘭疽、化膿性爪囲(廓)炎、皮下膿瘍、汗腺炎、感染性粉瘤 乳腺炎、肛門周囲膿瘍、外傷・熱傷・手術創などの(表在性)二次感染 咽喉頭炎(咽喉頭の膿瘍)、急性気管支炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍)、慢性気管支炎、気管支拡張症(感染時)、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎 腎盂腎炎、膀胱炎、淋菌性尿道炎 胆のう炎、胆管炎 子宮付属器炎、子宮内感染、子宮頸管炎、バルトリン腺炎 眼瞼炎、麦粒腫、涙嚢炎、結膜炎、瞼板腺炎 外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎 歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎	<適応菌種> セフカペンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、モラクセラ(ブランハメラ)･カタラーリス､大腸菌､シトロバクター属､クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属(プレボテラ・ビビアを除く)、アクネ菌 <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、肛門周囲膿瘍、咽頭・喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、尿道炎、子宮頸管炎、胆嚢炎、胆管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、涙嚢炎、麦粒腫、瞼板腺炎、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎
用法・用量	通常、成人には塩酸セフカペン　ピボキシルとして１回100mg（力価）を１日３回食後経口投与する。 　なお､年齢及び症状に応じて適宜増減するが、難治性又は効果不十分と思われる症例には１回150mg（力価）を１日３回食後経口投与する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
フロモックス錠75mg	塩野義製薬㈱	フロモックス錠100mg	塩野義製薬㈱

27. 塩酸セフメノキシム　(6132)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	セフメノキシムに感性の連鎖球菌属（腸球菌を除く）、肺炎球菌、ペプトコッカス属、ペプトストレプトコッカス属、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、インフルエンザ菌、バクテロイデス属による下記感染症 ○敗血症 ○熱傷・手術創の二次感染 ○肺炎、気管支炎、気管支拡張症の感染時、慢性呼吸器疾患の二次感染 ○肺化膿症、膿胸 ○胆管炎、胆嚢炎、肝膿瘍 ○腹膜炎 ○腎盂腎炎、膀胱炎 ○バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、骨盤死腔炎、子宮旁結合織炎	＜適応菌種＞ セフメノキシムに感性のレンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属 ＜適応症＞ 敗血症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎
用法・用量	成人には塩酸セフメノキシムとして１日１～２g（力価）を２回に分けて筋肉内に注射する。 筋肉内注射に際しては、添付のベストコール筋注用溶解液に溶解して用いる。	承認内容に同じ

販売名	会社名
ベストコール筋注用0.5g	武田薬品工業㈱

27. 塩酸セフメノキシム　(6132)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能 ・ 効果	セフメノキシムに感性の連鎖球菌属（腸球菌を除く）、肺炎球菌、ペプトコッカス属、ペプトストレプトコッカス属、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、インフルエンザ菌、バクテロイデス属による下記感染症 ○敗血症 ○熱傷・手術創の二次感染 ○肺炎、気管支炎、気管支拡張症の感染時、慢性呼吸器疾患の二次感染 ○肺化膿症、膿胸 ○胆管炎、胆嚢炎、肝膿瘍 ○腹膜炎 ○腎盂腎炎、膀胱炎 ○バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、骨盤死腔炎、子宮旁結合織炎 ○髄膜炎	＜適応菌種＞ セフメノキシムに感性のレンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属 ＜適応症＞ 敗血症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎
用法 ・ 用量	成人：通常、塩酸セフメノキシムとして１日１〜２ｇ（力価）を２回に分けて静脈内に注射する。 なお、難治性又は重症感染症には症状に応じて１日４ｇ（力価）まで増量し、２〜４回に分割投与する。 小児：通常、塩酸セフメノキシムとして１日40〜80 mg（力価）／kgを３〜４回に分けて静脈肉に注射する。 なお、年齢、症状に応じ、適宜増減するが、難治性又は重症感染症には１日160mg（力価）／kgまで増量し３〜４回に分割投与するが、髄膜炎には１日200mg（力価）／kgまで増量できる。 静脈内注射に際しては、日本薬局方「注射用蒸留水」、日本薬局方「生理食塩液」又は日本薬局方「ブドウ糖注射液」に溶解して用いる。 また、成人では本剤の１回用量0.5〜２ｇ(力価)を糖液、電解質液又はアミノ酸製剤などの補液に加えて、30分〜２時間で点滴静脈内注射を行うこともできる。 小児では上記投与量を考慮した１回用量を補液に加えて、30分〜１時間で点滴静脈内注射を行うこともできる。	成人：通常、塩酸セフメノキシムとして１日１〜２ｇ（力価）を２回に分けて静脈内に注射する。 なお、難治性又は重症感染症には症状に応じて１日４ｇ（力価）まで増量し、２〜４回に分割投与する。 小児：通常、塩酸セフメノキシムとして１日40〜80mg（力価）／kgを３〜４回に分けて静脈内に注射する。 なお、年齢、症状に応じ、適宜増減するが、難治性又は重症感染症には１日160mg（力価）／kgまで増量し３〜４回に分割投与するが、化膿性髄膜炎には１日200mg（力価）／kgまで増量できる。 静脈内注射に際しては、日本薬局方「注射用蒸留水」、日本薬局方「生理食塩液」又は日本薬局方「ブドウ糖注射液」に溶解して用いる。 また、成人では本剤の１回用量0.5〜２ｇ(力価)を糖液、電解質液又はアミノ酸製剤などの補液に加えて、30分〜２時間で点滴静脈内注射を行うこともできる。 小児では上記投与量を考慮した１回用量を補液に加えて、30分〜１時間で点滴静脈内注射を行うこともできる。

販売名	会社名	販売名	会社名
ベストコール静注用0.5g	武田薬品工業㈱	ベストコール静注用１ｇ	武田薬品工業㈱

27. 塩酸セフメノキシム　（1317）

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	セフメノキシムに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属(腸球菌を除く)、肺炎球菌、緑膿菌、インフルエンザ菌、ヘモフィルス・エジプチウス(コッホ・ウィークス菌)、モラクセラ・ラクナータ(モラー・アクセンフェルド菌)、プロテウス属、セラチア・マルセスセンス、プロピオニバクテリウム・アクネスによる下記感染症 眼瞼炎、麦粒腫、涙嚢炎、結膜炎、瞼板腺炎、角膜炎、角膜潰瘍、術後感染症	<適応菌種> セフメノキシムに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ・ラクナータ(モラー・アクセンフェルト菌)、セラチア・マルセスセンス、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、ヘモフィルス・エジプチウス（コッホ・ウィークス菌)、緑膿菌、アクネ菌 <適応症> 眼瞼炎、涙嚢炎、麦粒腫、結膜炎、瞼板腺炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む)、眼科周術期の無菌化療法
用法・用量	本剤を添付の溶解液で１ mL 当たり塩酸セフメノキシムとして５㎎（力価）の濃度に溶解し、通常１回１～２滴を１日４回点眼する。 なお症状により適宜回数を増減する。 ただし、症状に改善がみられない場合は漫然と長期間の連続投与を行わないこと。	承認内容に同じ

販売名	会社名
ベストロン点眼用	千寿製薬㈱ －武田薬品工業㈱

27. 塩酸セフメノキシム　（1325）

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再評価結果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、ペプトコッカス属、ペプトストレプトコッカス属、プロテウス属、緑膿菌、インフルエンザ菌、ブランハメラ・カタラーリスのうち本剤感性菌による下記感染症 外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎（ただし、ネブライザーを用いた噴霧吸入においては中鼻道閉塞が高度の症例を除く）	<適応菌種> セフメノキシムに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、緑膿菌、ペプトストレプトコッカス属 <適応症> 外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎（ただし、ネブライザーを用いた噴霧吸入においては中鼻道閉塞が高度の症例を除く）
用法・用量	本剤を添付の溶解液で１ mL 当たり塩酸セフメノキシムとして10mg（力価）の濃度に溶解し、次のとおり用いる。 外耳炎及び中耳炎に対しては、通常１回６～10滴点耳し、約10分間の耳浴を１日２回行う。 副鼻腔炎に対しては、通常１回２～４ mL を隔日に１週間に３回ネブライザーを用いて噴霧吸入するか、または１回１ mL を１週間に１回上顎洞内に注入する。 なお、症状により適宜回数を増減する。 ただし、症状に改善がみられない場合は漫然と長期間の連続投与を行わないこと。	承認内容に同じ

販売名	会社名
ベストロン耳鼻科用	千寿製薬㈱ －グレラン製薬㈱ －武田薬品工業㈱ －杏林製薬㈱

28. 塩酸バカンピシリン　(6131)

(内用)

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	黄色ブドウ球菌、表皮ブドウ球菌、化膿レンサ球菌、腸球菌、肺炎球菌、淋菌、大腸菌、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌のうちアンピシリン感性菌による下記感染症 肺炎、気管支炎、咽喉頭炎、扁桃炎、副鼻腔炎、中耳炎、腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎、淋疾、胆囊炎、胆管炎、腹膜炎、リンパ節炎、猩紅熱、乳腺炎、子宮付属器炎、子宮内感染、麦粒腫、眼瞼膿瘍、角膜潰瘍、癤・癤腫症・よう、毛嚢炎、膿痂疹、膿皮症、蜂窠織炎、感染性粉瘤、瘭疽、皮下膿瘍、歯槽膿瘍、抜歯後感染、智歯周囲炎、創傷・熱傷の二次感染	＜適応菌種＞ アンピシリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、大腸菌、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、淋菌感染症、腹膜炎、子宮内感染、子宮付属器炎、眼瞼膿瘍、麦粒腫、角膜炎(角膜潰瘍を含む)、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、抜歯創・口腔手術創の二次感染、猩紅熱
用法・用量	通常、成人の場合、1日量500～1000mg(力価)とし､これを3～4回に分割して経口投与する。 小児の場合は、1日量を15～40mg(力価)／kgとし､これを3～4回に分割して経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
ペングッド顆粒250mg	日本医薬品工業㈱	ペングッド錠250mg	日本医薬品工業㈱

29. シクラシリン　(6131)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	シクラシリンに感受性のブドウ球菌、連鎖球菌、肺炎球菌、大腸菌、クレブシエラおよびインフルエンザ菌による下記感染症 浅在性化膿性疾患群 膿瘍、膿痂疹、扁桃炎、咽喉頭炎、外耳炎、耳癤、鼻癤 急・慢性気管支炎、気管支拡張症、気管支肺炎、肺炎 猩紅熱 腎盂腎炎、腎盂炎 中耳炎、副鼻腔炎	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、肺炎桿菌、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、腎盂腎炎、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、猩紅熱
用法・用量	［10％細粒］ 通常小児には１日量として体重１ kg 当り本剤0.25～0.50g〔シクラシリンとして25～50mg（力価）〕を3～4回にわけて経口投与する。 なお、症状、年令により適宜増減する。 本剤は用時、水に懸濁して用いることもできる。 ［20％細粒］ 通常、小児には１日量として体重１ kg 当り本剤 0.125～0.25g〔シクラシリンとして25～50mg（力価）〕を等量に分割して6～8時間ごとに経口投与する。 なお、年令、症状により適宜増減する。	［10％細粒］ 通常、小児には１日量として体重１kg当り本剤0.25～0.50g〔シクラシリンとして25～50mg（力価）〕を３～４回に分けて経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。 本剤は用時、水に懸濁して用いることもできる。 ［20％細粒］ 通常、小児には１日量として体重１kg当り本剤 0.125～0.25g〔シクラシリンとして25～50mg（力価）〕を等量に分割して６～８時間ごとに経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。

販売名	会社名	販売名	会社名
バストシリン細粒10％	武田薬品工業㈱	バストシリン細粒20％	武田薬品工業㈱

29. シクラシリン　(6131)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	シクラシリンに感受性のブドウ球菌、連鎖球菌、肺炎球菌、大腸菌、シトロバクター、クレブシエラ、プロテウスおよびパイフエル菌による下記感染症 浅在性化膿性疾患群 フルンケル、カルブンケル、フレグモーネ、膿瘍、瘰疽、感染性粉瘤、化膿創、創感染、扁桃炎、咽喉頭炎、外耳炎、麦粒腫、涙のう炎、毛のう炎 急慢性気管支炎、気管支拡張症、気管支肺炎、肺炎 腎盂腎炎、腎盂炎 膀胱炎、尿道炎 中耳炎、副鼻腔炎	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、シトロバクター属、肺炎桿菌、プロテウス属、インフルエンザ菌 <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、涙嚢炎、麦粒腫、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎
用法・用量	通常、成人１回シクラシリンとして250～500mg（力価）宛、１日３～４回経口投与する。 なお、症状、年令に応じて適宜増減する。	通常、成人１回シクラシリンとして250～500mg（力価）宛、１日３～４回経口投与する。 なお、年齢、症状に応じて適宜増減する。

販売名	会社名
バストシリンカプセル250	武田薬品工業㈱

30. スルベニシリンナトリウム　(1317)

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	スルベニシリンに感受性の緑膿菌、インフルエンザ菌、コッホ・ウィークス菌、ブドウ球菌、連鎖球菌および肺炎球菌による下記外眼部感染症 眼瞼炎、涙嚢炎、麦粒腫、瞼板腺炎、角膜潰瘍、結膜炎、角膜炎、術後感染症並びにその感染防止	<適応菌種> スルベニシリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、インフルエンザ菌､ヘモフィルス･エジプチウス(コッホ･ウィークス菌)､緑膿菌 <適応症> 眼瞼炎、涙嚢炎、麦粒腫、結膜炎、瞼板腺炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む)、眼科周術期の無菌化療法
用法・用量	本剤を添付の溶解液で１mL当りスルベニシリンナトリウムとして10mg（力価）の濃度に溶解し、通常１回１～２滴（0.05～0.1mL）を１日３～６回点眼する。重症感染症には症状に応じて１時間毎に１回点眼する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
サルペリン点眼用	千寿製薬㈱ －武田薬品工業㈱

31. セファゾリンナトリウム（水和物を含む）　（6132）

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	ブドウ球菌、レンサ球菌、肺炎球菌、大腸菌、肺炎桿菌、変形菌の本剤感受性菌株による下記感染症 敗血症、亜急性細菌性心内膜炎 浅在性化膿性疾患群：毛嚢炎、癤疽、癤、癤腫症、粉瘤、カルブンケル、丹毒、膿瘍、潰瘍、フレグモーネ、術後創感染症、創傷感染症、火傷、熱傷、褥瘡、上気道感染症（咽・喉頭炎、扁桃炎）、耳癤、鼻癤、麦粒腫、全眼球炎 深在性化膿性疾患群：乳腺炎、リンパ管（節）炎、骨髄炎、関節炎 呼吸器感染症：急・慢性気管支炎、気管支拡張症、気管支肺炎、肺炎、慢性呼吸器疾患時の二次感染 肺化膿症（肺膿瘍）、膿胸、胸膜炎 胆道感染症：胆管炎、胆嚢炎 腹膜炎 尿路感染症：腎盂腎炎、腎盂炎、膀胱炎、尿道炎 婦人科感染症：バルトリン腺炎（膿瘍）、子宮頸管炎、子宮内膜炎、子宮旁結合織炎、子宮内感染、骨盤腹膜炎、産褥熱 耳鼻科感染症：中耳炎、副鼻腔炎、耳下腺炎	＜適応菌種＞ セファゾリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、肺炎桿菌、プロテウス・ミラビリス、プロビデンシア属 ＜適応症＞ 敗血症、感染性心内膜炎、表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん・潰瘍の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、関節炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、眼内炎（全眼球炎を含む）、中耳炎、副鼻腔炎、化膿性唾液腺炎
用法・用量	セファゾリンとして、通常、１日量成人には１ｇ（力価）、小児には体重kg当り20～40mg（力価）を２回に分けて筋肉内へ注射する。 　症状及び感染菌の感受性から効果不十分と判断される場合には、１日量成人1.5～３ｇ（力価）を、小児には体重kg当り50mg（力価）を３回に分割投与する。 　症状が特に重篤な場合には、１日量成人５ｇ（力価）、小児には体重kg当り100mg（力価）までを分割投与できる。 注射液の調整法 　本品を日本薬局方リドカイン注射液（0.5W/V％）約２mLに溶解する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
セファメジンα筋注用	静岡フジサワ㈱ －藤沢薬品工業㈱	ラセナゾリン筋注用	マルコ製薬㈱

31. セファゾリンナトリウム（水和物を含む）　(6132)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	ブドウ球菌、レンサ球菌、肺炎球菌、大腸菌、肺炎桿菌、変形菌の本剤感受性菌株による下記感染症 敗血症、亜急性細菌性心内膜炎 浅在性化膿性疾患群：毛嚢炎、癤疽、癤、癤腫症、粉瘤、カルブンケル、丹毒、膿瘍、潰瘍、フレグモーネ、術後創感染症、創傷感染症、火傷、熱傷、褥瘡、上気道感染症（咽・喉頭炎、扁桃炎）、耳癤、鼻癤、麦粒腫、全眼球炎 深在性化膿性疾患群：乳腺炎、リンパ管（節）炎、骨髄炎、関節炎 呼吸器感染症：急・慢性気管支炎、気管支拡張症、気管支肺炎、肺炎、慢性呼吸器疾患時の二次感染 肺化膿症（肺膿瘍）、膿胸、胸膜炎 胆道感染症：胆管炎、胆嚢炎 腹膜炎 尿路感染症：腎盂腎炎、腎盂炎、膀胱炎、尿道炎 婦人科感染症：バルトリン腺炎（膿瘍）、子宮頸管炎、子宮内膜炎、子宮旁結合織炎、子宮内感染、骨盤腹膜炎、産褥熱 耳鼻科感染症：中耳炎、副鼻腔炎、耳下腺炎	＜適応菌種＞ セファゾリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、肺炎桿菌、プロテウス・ミラビリス、プロビデンシア属 ＜適応症＞ 敗血症、感染性心内膜炎、表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん・潰瘍の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、関節炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、眼内炎（全眼球炎を含む）、中耳炎、副鼻腔炎、化膿性唾液腺炎
用法・用量	セファゾリンとして、通常、１日量成人には１ｇ（力価）、小児には体重kg当り20～40mg（力価）を２回に分けて緩徐に静脈内へ注射するが、筋肉内へ注射することもできる。 症状及び感染菌の感受性から効果不十分と判断される場合には、１日量成人1.5～３ｇ（力価）を、小児には体重kg当り50mg（力価）を３回に分割投与する。 症状が特に重篤な場合には、１日量成人５ｇ（力価）、小児には体重kg当り100mg（力価）までを分割投与することができる。 また、輸液に加え、静脈内に点滴注入することもできる。 注射液の調製法 静脈内注射 本品を注射用水、生理食塩液又はブドウ糖注射液に溶解する。 筋肉内注射 本品を塩酸リドカイン注射液（0.5W/V％）約２～３ mL に溶解する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
注射用エフニコール	東和薬品㈱	注射用タイセゾリン	大洋薬品工業㈱
セファメジンα注射用	静岡フジサワ㈱ －藤沢薬品工業㈱	トキオ注射用	㈱イセイ
注用セフマゾン	ニプロファーマ㈱	ラセナゾリン注射用	マルコ製薬㈱

31. セファゾリンナトリウム（水和物を含む）　（6132）

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ブドウ球菌、レンサ球菌、肺炎球菌、大腸菌、肺炎桿菌、変形菌の本剤感受性菌株による下記感染症 敗血症、亜急性細菌性心内膜炎 浅在性化膿性疾患群：毛嚢炎、瘭疽、癤、癤腫症、粉瘤、カルブンケル、丹毒、膿瘍、潰瘍、フレグモーネ、術後創感染症、創傷感染症、火傷、熱傷、褥瘡、上気道感染症(咽・喉頭炎、扁桃炎)、耳癤、鼻癤、麦粒腫、全眼球炎 深在性化膿性疾患群：乳腺炎、リンパ管(節)炎、骨髄炎、関節炎 呼吸器感染症：急・慢性気管支炎、気管支拡張症、気管支肺炎、肺炎、慢性呼吸器疾患時の二次感染 肺化膿症(肺膿瘍)、膿胸、胸膜炎 胆道感染症：胆管炎、胆嚢炎 腹膜炎 尿路感染症：腎盂腎炎、腎盂炎、膀胱炎、尿道炎 婦人科感染症：バルトリン腺炎(膿瘍)、子宮頸管炎、子宮内膜炎、子宮旁結合織炎、子宮内感染、骨盤腹膜炎、産褥熱 耳鼻科感染症：中耳炎、副鼻腔炎、耳下腺炎	＜適応菌種＞ セファゾリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、肺炎桿菌、プロテウス・ミラビリス、プロビデンシア属 ＜適応症＞ 敗血症、感染性心内膜炎、表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん・潰瘍の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、関節炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、眼内炎（全眼球炎を含む）、中耳炎、副鼻腔炎、化膿性唾液腺炎
用法・用量	セファゾリンとして、通常、１日量成人には１ｇ（力価）、小児には体重kg当り20～40mg（力価）を２回に分けて点滴静注する。 症状及び感染菌の感受性から効果不十分と判断される場合には、１日量成人1.5～３ｇ(力価)を、小児には体重kg当り50mg（力価）を３回に分割投与する。 症状が特に重篤な場合には、１日量成人５ｇ（力価）、小児には体重kg当り100mg（力価）までを分割投与することができる。 注射液の調整法 本品を、コネクターを介して添付の生理食塩液100mL 又はブドウ糖注射液（５ W/V%）100mL に溶解する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
セファメジンαキット	静岡フジサワ㈱ －藤沢薬品工業㈱

●下記品目は注射液の調製法が異なる。

投与に際しては、用時、添付の溶解液にて溶解し、静脈内に点滴注射する。

販売名	会社名
オーツカ CEZ 注－ MC	㈱大塚製薬工場 －大塚製薬㈱

32. セファドロキシル　(6132)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ブドウ球菌属、溶血連鎖球菌、肺炎球菌、大腸菌、プロテウス・ミラビリスのうちセファドロキシル感性菌による下記感染症 咽喉頭炎、扁桃炎、気管支炎、膀胱炎、腎盂腎炎、毛のう（包）炎（膿疱性痤瘡を含む）、癤、癤腫症、よう、皮下膿瘍、蜂巣炎、集簇性痤瘡、汗腺炎、感染性粉瘤	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、プロテウス・ミラビリス ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎
用法・用量	通常成人には、セファドロキシルとして１回250mg（力価）を１日３回経口投与する。 重症または効果不十分と思われる症例には、セファドロキシルとして１回500mg（力価）を１日３回経口投与する。 なお、年齢及び症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
サマセフカプセル250	ブリストル製薬㈲－ブリストル・マイヤーズ㈱	ドルセファンカプセル250	東和薬品㈱

32. セファドロキシル　(6132)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ブドウ球菌属、溶血レンサ球菌、肺炎球菌、大腸菌、プロテウス・ミラビリスのうちセファドロキシル感性菌による下記感染症 毛嚢（包）炎（膿疱性痤瘡を含む）、癤、癤腫症、よう、伝染性膿痂疹、蜂巣炎、皮下膿瘍、汗腺炎、集簇性痤瘡、感染性粉瘤、咽喉頭炎、気管支炎、扁桃炎、腎盂腎炎、膀胱炎、猩紅熱	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、プロテウス・ミラビリス ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、猩紅熱
用法・用量	通常幼小児に、体重kg当りセファドロキシルとして１日20～40mg（力価）を３回に分割し用時懸濁して経口投与する。 なお、症状に応じて適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
サマセフシロップ用散200	ブリストル製薬㈲－ブリストル・マイヤーズ㈱	ドルセファンドライシロップ100	東和薬品㈱
サリスロンドライシロップ「200」	辰巳化学㈱	ドルセファンドライシロップ200	東和薬品㈱

33. セファレキシン　(6132)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再評価結果
効能・効果	黄色ブドウ球菌、表皮ブドウ球菌、溶血性連鎖球菌、緑色連鎖球菌、肺炎球菌、大腸菌、クレブシエラ属のうちセファレキシン感性菌による下記感染症 毛のう炎、膿皮症、膿痂疹、癤、よう、痤瘡感染、皮下膿瘍、蜂窠織炎、瘭疽、創傷感染、化膿性皮膚炎 麦粒腫、急性涙のう炎、眼瞼炎 外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎 咽頭炎、喉頭炎、扁桃炎 気管支炎、肺炎、喘息・気管支拡張症の感染時リンパ節炎 猩紅熱 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎 顎骨周囲炎、顎骨骨膜炎、顎骨骨髄炎、急性顎炎、歯槽膿瘍、歯根膜炎、抜歯後感染	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、大腸菌、クレブシエラ属、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、涙嚢炎、麦粒腫、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、顎炎、抜歯創・口腔手術創の二次感染、猩紅熱
用法・用量	通常、幼小児に対しては、体重 kg 当りセファレキシンとして1日25～50mg（力価）を分割して6時間毎に経口投与する。 重症の場合や分離菌の感受性が比較的低い症例に対しては、体重 kg 当りセファレキシンとして1日50～100mg（力価）を分割して6時間毎に経口投与する。 なお、年令、体重、症状により適宜増減する。	通常、幼小児に対しては、体重kgあたりセファレキシンとして１日25～50mg（力価）を分割して６時間毎に経口投与する。 重症の場合や分離菌の感受性が比較的低い症例に対しては、体重 kg 当りセファレキシンとして１日50～100mg（力価）を分割して６時間毎に経口投与する。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

販売名	会社名	販売名	会社名
オーレキシンドライシロップ500	太田製薬㈱ －テイコクメディックス㈱	セファレキシンドライシロップ250「マルコ」	マルコ製薬㈱
ケフレックスシロップ用細粒100	塩野義製薬㈱	センセファリンシロップ用細粒10％	武田薬品工業㈱
ケフレックスシロップ用細粒200	塩野義製薬㈱	センセファリンシロップ用細粒20％	武田薬品工業㈱
シンクルドライシロップ200	旭化成ファーマ㈱	ラリキシンドライシロップ	富山化学工業㈱ －大正富山医薬品㈱
セファレキシンドライシロップ「タツミ」500	辰巳化学㈱	ラリキシンドライシロップ200	富山化学工業㈱ －大正富山医薬品㈱
セファレキシンドライシロップ「日医工」	日本医薬品工業㈱		

33. セファレキシン　(6132)

(内用)

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承 認 内 容	再 評 価 結 果
効能・効果	【セファレキシン（カプセル）の場合】 黄色ブドウ球菌、表皮ブドウ球菌、溶血性連鎖球菌、緑色連鎖球菌、肺炎球菌、淋菌、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス・ミラビリスのうちセファレキシン感性菌による下記感染症 毛のう炎、膿皮症、爪囲炎、膿痂疹、せつ、よう、ざ瘡感染、皮下膿瘍、蜂巣炎、ひょう疽、感染性粉りゅう、創傷感染、化膿性皮膚炎 麦粒腫、急性涙嚢炎、眼瞼炎、結膜炎、角膜炎 外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎 咽頭炎、喉頭炎、扁桃炎 気管支炎、肺炎、喘息・気管支拡張症の感染時 乳腺炎、リンパ節炎、骨髄炎、骨膜炎、滑液のう炎、関節炎 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎、淋疾、前立腺炎 バルトリン腺炎、子宮頸管炎、子宮内感染 胆嚢炎、胆嚢胆管炎 顎骨周囲炎、顎骨骨膜炎、顎骨骨髄炎、急性顎炎、歯槽骨炎、歯槽膿瘍、歯根膜炎、智歯周囲炎、歯肉炎、抜歯後感染 【セファレキシン（錠、カプセル）】の場合】 黄色ブドウ球菌、白色（表皮）ブドウ球菌、溶血レンサ球菌、緑色レンサ球菌、腸球菌、肺炎球菌、淋菌、大腸菌、クレブシエラ、クロアカ、エンテロバクター、プロテウス、レッドゲレラ、モルガネラ、プロビデンシア、パイフェル菌のうちセファレキシン感受性菌による下記感染症 1．細菌性心内膜炎 2．浅在性化膿性疾患群 毛のう炎、毛瘡、膿皮症、爪囲炎、膿痂疹、せつ、よう、 ざ瘡、皮下膿瘍、蜂窩織炎、ひょう疽、感染性粉瘤、創傷感染、汗腺炎、化膿性皮膚炎、麦粒腫、涙のう炎、眼瞼炎、外耳炎、咽喉頭炎、扁桃炎 3．深在性化膿性疾患群 乳腺炎、リンパ節炎、骨髄炎、骨膜炎、滑液のう炎、関節炎、筋炎 4．下部呼吸器感染症 気管支炎、気管支拡張症の感染時、気管支肺炎、肺炎 5．性器感染症 前立腺炎、副睾丸炎、バルトリン腺炎、子宮頸管炎、子宮内感染、骨盤腹膜炎 6．尿路感染症 腎盂腎炎、腎盂炎、膀胱炎、尿道炎、淋疾 7．耳鼻科領域感染症 中耳炎、副鼻腔炎、耳下腺炎 8．眼科領域感染症 結膜炎、角膜炎、角膜潰瘍、虹彩炎、鞏膜炎 9．胆道感染症	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、大腸菌、クレブシエラ属、エンテロバクター属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、筋炎、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、精巣上体炎（副睾丸炎）、淋菌感染症、子宮頸管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、涙嚢炎、麦粒腫、角膜炎（角膜潰瘍を含む）、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、化膿性唾液腺炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、上顎洞炎、顎炎、抜歯創・口腔手術創の二次感染

	胆のう炎、胆管炎、胆のう周囲炎 10. 歯科領域感染症 顎骨周囲炎、顎骨骨膜炎、顎骨骨髄炎、顎炎、歯槽骨炎、歯槽膿漏、歯根周囲炎、智歯周囲炎、歯肉炎	
用法・用量	【セファレキシン（カプセル）の場合】 通常、成人及び体重20kg 以上の小児に対しては、セファレキシンとして250mg（力価）を６時間毎に経口投与する。重症の場合や分離菌の感受性が比較的低い症例に対しては、500mg（力価）を６時間毎に経口投与する。 なお、年令、体重、症状により適宜増減する。 【セファレキシン（錠、カプセル)】の場合】 通常、成人および体重20kg 以上の小児に対しては、セファレキシンとして１回250mg（力価）を６時間ごとに経口投与する。重症の場合や分離菌の感受性が比較的低い症例に対してはセファレキシンとして１回500mg（力価）を６時間ごとに経口投与する。ただし、年令、体重、症状等に応じて適宜増減する。	通常、成人および体重20kg 以上の小児に対しては、セファレキシンとして１回250mg（力価）を６時間ごとに経口投与する。 重症の場合や分離菌の感受性が比較的低い症例に対してはセファレキシンとして１回500mg（力価）を６時間毎に経口投与する。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

販売名	会社名	販売名	会社名
シンクルカプセル	旭化成ファーマ㈱	センセファリンカプセル125	武田薬品工業㈱
シンクル錠250	旭化成ファーマ㈱	センセファリンカプセル250	武田薬品工業㈱
セファレキシン･C「トーワ」	東和薬品㈱	ラリキシンカプセル	富山化学工業㈱ －大正富山医薬品㈱
セファレキシンカプセル「日医工」	日本医薬品工業㈱	ラリキシン錠	富山化学工業㈱ －大正富山医薬品㈱
セファレキシン錠250「マルコ」	マルコ製薬㈱	ケフレックスカプセル	塩野義製薬㈱

33. セファレキシン　(6132)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	黄色ブドウ球菌、表皮ブドウ球菌、化膿連鎖球菌、肺炎球菌、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス・ミラビリスのうちセファレキシン感性菌による下記感染症 毛のう炎、膿皮症、膿痂疹、癤、よう、痤瘡感染、皮下膿瘍、蜂窠織炎、瘭疽、感染性粉りゅう、丹毒、創傷感染 麦粒腫、急性涙のう炎、眼瞼炎 外耳炎 咽頭炎、扁桃炎、扁桃周囲炎 乳腺炎、リンパ節炎 気管支炎、肺炎、喘息・気管支拡張症の感染時 腎盂腎炎、膀胱炎 前立腺炎 バルトリン腺炎 中耳炎、副鼻腔炎 顎骨周囲炎、顎骨骨膜炎、顎骨骨髄炎、急性顎炎、歯槽膿瘍、歯根膜炎、智歯周囲炎、抜歯後感染	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス・ミラビリス ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、咽頭･喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎を含む)、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症)、バルトリン腺炎、涙嚢炎、麦粒腫、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎、抜歯創・口腔手術創の二次感染
用法・用量	通常、成人及び体重20kg 以上の小児に対しては、セファレキシンとして1日1g（力価）を2回に分割して、朝、夕食後に経口投与する。 重症の場合や分離菌の感受性が比較的低い症例に対しては、セファレキシンとして1日2g（力価）を2回に分割して、朝、夕食後に経口投与する。 なお、年令、体重、症状により適宜増減する。	通常、成人及び体重20kg 以上の小児に対しては、セファレキシンとして１日１ｇ（力価）を２回に分割して、朝、夕食後に経口投与する。 重症の場合や分離菌の感受性が比較的低い症例に対しては、セファレキシンとして１日２ｇ(力価）を２回に分割して、朝、夕食後に経口投与する。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

販売名	会社名	販売名	会社名
Ｌ－キサール顆粒500	エスエス製薬㈱	セファレキシン－Ｒ顆粒「ヨウシン」	㈱陽進堂
Ｌ－ケフレックス顆粒	塩野義製薬㈱	セファレックスＲ顆粒	長生堂製薬㈱
Ｌ－パシビドール顆粒「500」	辰巳化学㈱	セフロング顆粒	東和薬品㈱
Ｌ－ラスポリジン顆粒500	鶴原製薬㈱		

33. セファレキシン　(6132)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再評価結果
効能・効果	黄色ブドウ球菌、表皮ブドウ球菌、化膿連鎖球菌、肺炎球菌、大腸菌、クレブシエラ属のうちセファレキシン感性菌による下記感染症 毛のう炎、膿皮症、膿痂疹、癤、よう、痤瘡感染、皮下膿瘍、蜂窠織炎、瘭疽、創傷感染 麦粒腫、急性涙のう炎、眼瞼炎 外耳炎 咽頭炎、扁桃炎 リンパ節炎 気管支炎、肺炎、喘息・気管支拡張症の感染時 猩紅熱 腎盂腎炎、膀胱炎 顎骨周囲炎、顎骨骨膜炎、顎骨骨髄炎、急性顎炎、歯槽膿瘍、歯根膜炎、抜歯後感染	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、クレブシエラ属 <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、涙嚢炎、麦粒腫、外耳炎、歯周組織炎、顎炎、抜歯創・口腔手術創の二次感染、猩紅熱
用法・用量	通常、幼小児に対しては、体重kg当りセファレキシンとして1日25～50mg（力価）を2回に分割して、朝、夕食後に経口投与する。 重症の場合や分離菌の感受性が比較的低い症例に対しては、体重kg当りセファレキシンとして1日50～100mg（力価）を2回に分割して、朝、夕食後に経口投与する。 なお、年令、体重、症状により適宜増減する。	通常、幼小児に対しては、体重kg当りセファレキシンとして１日25～50mg（力価）を２回に分割して、朝、夕食後に経口投与する。 重症の場合や分離菌の感受性が比較的低い症例に対しては、体重kgあたりセファレキシンとして１日50～100mg（力価）を２回に分割して、朝、夕食後に経口投与する。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

販売名	会社名
L－ケフレックス小児用顆粒	塩野義製薬㈱

34. セファロチンナトリウム　(6132)

(注射)

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再評価結果
効能・効果	＜有効菌種＞ (1)ブドウ球菌、連鎖球菌(腸球菌を除く)、肺炎球菌、セファロチン感性大腸菌 (2)淋菌 ＜適応症＞ 扁桃炎、扁桃周囲膿瘍、咽頭炎、喉頭炎、気管支炎、肺炎、肺化膿症、膿胸、腎盂腎炎、膀胱炎、癤腫症、癤、よう、蜂窠織炎、膿痂疹、リンパ節炎、敗血症、骨髄炎、腹膜炎、猩紅熱、中耳炎、麦粒腫、淋疾、尿道炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、副睾丸炎、急性腟炎、創傷・熱傷及び手術後の二次感染	＜適応菌種＞ セファロチンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、大腸菌 ＜適応症＞ 敗血症、表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎を含む)、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、膀胱炎、腎盂腎炎、精巣上体炎(副睾丸炎)、淋菌感染症、腹膜炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、中耳炎、猩紅熱
用法・用量	セファロチンとして、通常成人には症状により１日１～６ｇ(力価)を４～６回に分割し、静脈内または筋肉内注射する。なお、筋肉内注射の際は、疼痛ならびに硬結を避けるため、大腿筋または臀筋の深部に注射する。間歇投与が必要な場合は、0.5～１ｇ(力価)を10mLの生理食塩液に溶かし、３～４分間で徐々に静脈内に注射するか、補液中の患者では管の途中から注入する。１日投与量全部を１日の全補液に溶解して点滴静注してもよい。 通常幼小児には、１日20～80mg(力価)／kgを分割投与する。なお、症状に応じて適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
注射用コアキシン	東菱薬品工業㈱

35. セフィキシム　(6132)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	レンサ球菌属（腸球菌を除く）、肺炎球菌、淋菌、ブランハメラ・カタラーリス、大腸菌、クレブシエラ属、セラチア属、プロテウス属、インフルエンザ菌のうち、セフィキシム感性菌による下記感染症。 ○気管支炎、気管支拡張症（感染時）、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎 ○腎盂腎炎、膀胱炎、淋菌性尿道炎 ○胆のう炎、胆管炎 ○猩紅熱 ○中耳炎、副鼻腔炎	＜適応菌種＞ 本剤に感性のレンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、大腸菌、クレブシエラ属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ 急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、尿道炎、胆嚢炎、胆管炎、中耳炎、副鼻腔炎、猩紅熱
用法・用量	通常、成人及び体重30kg以上の小児に対しては、セフィキシムとして１回50～100mg（力価）を１日２回経口投与する。 なお、年齢、体重、症状に応じて適宜増減するが、重症又は効果不十分と思われる症例には、セフィキシムとして１回200mg（力価）を１日２回経口投与する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
セキシムカプセル100mg	東和薬品㈱	セフスパンカプセル50mg	富山フジサワ㈱－藤沢薬品工業㈱
セフィーナカプセル100	大洋薬品工業㈱	セフスパンカプセル100mg	富山フジサワ㈱－藤沢薬品工業㈱

35. セフィキシム　(6132)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承認内容	再評価結果
効能・効果	レンサ球菌属(腸球菌を除く)、肺炎球菌、淋菌、ブランハメラ・カタラーリス、大腸菌、クレブシエラ属、セラチア属、プロテウス属、インフルエンザ菌のうち、セフィキシム感性菌による下記感染症。 ○気管支炎、気管支拡張症(感染時)、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎 ○腎盂腎炎、膀胱炎、淋菌性尿道炎 ○胆のう炎、胆管炎 ○猩紅熱 ○中耳炎、副鼻腔炎	＜適応菌種＞ 本剤に感性のレンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、大腸菌、クレブシエラ属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ 急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、尿道炎、胆嚢炎、胆管炎、中耳炎、副鼻腔炎、猩紅熱
用法・用量	通常、小児に対しては、セフィキシムとして１回1.5～３㎎（力価）／㎏を１日２回経口投与する。 なお、症状に応じて適宜増減するが、重症又は効果不十分と思われる症例には、セフィキシムとして１回６㎎（力価）／㎏を１日２回経口投与する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
セキシム細粒50mg	東和薬品㈱	セフィラート細粒50mg	鶴原製薬㈱
セキスパノン細粒50mg	長生堂製薬㈱＝メルク・ホエイ㈱＝大正薬品工業㈱	セフスパン細粒50mg	富山フジサワ㈱－藤沢薬品工業㈱
セフィーナ細粒50	大洋薬品工業㈱	セフパ細粒50mg	日本医薬品工業㈱
セフィーナ細粒100	大洋薬品工業㈱		

36. セフォジジムナトリウム　（6132）

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	レンサ球菌属(腸球菌を除く)、肺炎球菌、ペプトストレプトコッカス属、淋菌、ブランハメラ属、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、プロビデンシア属、モルガネラ属、インフルエンザ菌、バクテロイデス属のうち本剤感性菌による下記感染症 敗血症、咽喉頭炎、急性気管支炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍)、慢性気管支炎、気管支拡張症(感染時)、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎、肺化膿症、腎盂腎炎、膀胱炎、淋菌性尿道炎、胆のう炎、胆管炎、肝膿瘍、腹膜炎(含、骨盤腹膜炎、ダグラス窩膿瘍)、子宮付属器炎、子宮内感染、骨盤死腔炎、子宮旁結合織炎、バルトリン腺炎(膿瘍)、髄膜炎、中耳炎、副鼻腔炎	＜適応菌種＞ セフォジジムに感性のレンサ球菌属､肺炎球菌、淋菌、モラクセラ（ブランハメラ）･カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属（プレボテラ・ビビアを除く） ＜適応症＞ 敗血症、咽頭･喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、尿道炎、腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆囊炎、胆管炎、肝膿瘍、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎、中耳炎、副鼻腔炎
用法・用量	通常、成人にはセフォジジムナトリウムとして１日１～２ｇ（力価）を２回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。 通常、小児には１日60～80mg（力価）／kgを３～４回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。 　なお、年齢、症状に応じて適宜増減するが、難治性又は重症感染症には成人では１日４ｇ（力価)、小児では１日120mg（力価）／kgまで増量し、分割投与する。 静脈内注射に際しては注射用水、生理食塩液又はブドウ糖注射液に溶解し、緩徐に注射する。また点滴静注に際しては補液に溶解して注射する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
ケニセフ静注用	大鵬薬品工業㈱	ノイセフ静注用	アベンティス ファーマ㈱ －杏林製薬㈱

37. セフォタキシムナトリウム　(6132)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	連鎖球菌属(ただし腸球菌を除く)、肺炎球菌、ペプトコッカス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシェラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、インフルエンザ菌、バクテロイデスのうち本剤感性菌による下記感染症 敗血症、亜急性細菌性心内膜炎 創傷・熱傷及び手術後の二次感染 肺炎、気管支炎、気管支拡張症の感染時 慢性呼吸器疾患の二次感染 肺化膿症、膿胸 胆管炎、胆嚢炎 腹膜炎 腎盂腎炎 膀胱炎、尿道炎 子宮付属器炎 バルトリン腺炎(膿瘍)、子宮内感染、子宮旁結合織炎、骨盤死腔炎 髄膜炎	<適応菌種> セフォタキシムに感性のレンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属 <適応症> 敗血症、感染性心内膜炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎
用法・用量	通常成人には、セフォタキシムとして１日１～２ｇ（力価）を２回に分けて静脈内又は筋肉内に注射する。 通常小児には、セフォタキシムとして１日50～100mg（力価）／kgを３～４回に分けて静脈内に注射する。 　なお、難治性又は重症感染症には症状に応じて、１日量を成人では４ｇ（力価）まで増量し、２～４回に分割投与する。また小児では150mg（力価）／kgまで増量し、３～４回に分割投与する。 静脈内注射に際しては、注射用蒸留水、生理食塩液又はブドウ糖注射液に溶解し、緩徐に注射する。また、補液に加えて、点滴静注することもできる。 筋肉内注射に際しては、0.5％リドカイン注射液に溶解して注射する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
クラフォラン注射用500mg	アベンティス ファーマ㈱	セフォタックス注射用１ｇ	中外製薬㈱
クラフォラン注射用１ｇ	アベンティス ファーマ㈱	セフォタックス注射用２ｇ	中外製薬㈱
セフォタックス注射用0.5g	中外製薬㈱		

38. セフォテタン　(6132)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再評価結果
効能・効果	大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、インフルエンザ菌、バクテロイデス属のうち本剤感受性菌による下記感染症 敗血症、熱傷・手術創などの表在性二次感染、気管支炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍)、気管支拡張症(感染時)、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎、肺化膿症、膿胸、腎盂腎炎、膀胱炎、胆のう炎、胆管炎、腹膜炎、子宮内感染、骨盤死腔炎、子宮旁結合織炎、バルトリン腺炎	<適応菌種> 本剤に感性の大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、バクテロイデス属 <適応症> 敗血症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む）、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮旁結合織炎
用法・用量	通常成人には、１日１～２ｇ（力価）を２回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。 通常小児には、１日40～60mg（力価）／kgを２～３回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。 なお、難治性または重症感染症には、症状に応じて１日量を成人では４ｇ（力価）、小児では100mg（力価）／kgまで増量し、２～３回に分けて投与する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
ヤマテタン静注用１ｇ	山之内製薬㈱

39. セフォペラゾンナトリウム　(6132)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	緑膿菌、プロテウス・ミラビリス、プロテウス・モルガニー、プロテウス・ブルガリス、プロテウス・レットゲリー、クレブシェラ属、セラチア属、大腸菌、エンテロバクター属、シトロバクター属、インフルエンザ菌、連鎖球菌属(ただし腸球菌を除く)、肺炎球菌、バクテロイデス属のうち本剤感性菌による下記感染症 ・敗血症 ・創傷・熱傷及び術後二次感染 ・蜂窠織炎 ・乳腺炎、リンパ管炎 ・気管支炎、気管支拡張症の感染時、肺炎、慢性呼吸器疾患の二次感染 ・肺化膿症、膿胸 ・胆管炎、胆嚢炎 ・肝膿瘍 ・腹膜炎 ・腎盂腎炎 ・膀胱炎、尿道炎 ・前立腺炎 ・子宮付属器炎 ・バルトリン腺炎、子宮内感染 ・子宮旁結合織炎 ・髄膜炎	＜適応菌種＞ セフォペラゾンに感性のレンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア・レットゲリ、インフルエンザ菌、緑膿菌、バクテロイデス属、プレボテラ属 ＜適応症＞ 敗血症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎
用法・用量	セフォペラゾンナトリウムとして、通常成人には１日１～２ｇ（力価）を２回に分けて静脈内注射または筋肉内注射する。小児にはセフォペラゾンナトリウムとして、１日25～100㎎（力価）／㎏を２～４回に分けて静脈内注射する。 難治性または重症感染症には症状に応じて１日量成人では６ｇ（力価）、小児では150㎎（力価）／㎏まで増量し、２～４回に分割投与する。 静脈内注射に際しては、日局注射用蒸留水、日局生理食塩液または日局ブドウ糖注射液に溶解し、緩徐に投与する。 なお、点滴による静脈内に際しては補液に溶解して用いる。 筋肉内注射に際しては本剤0.5～１ｇ（力価）を日局リドカイン注射液（0.5W/V%）３㎖に溶解して用いる。	［注射用］ セフォペラゾンナトリウムとして、通常成人には１日１～２ｇ（力価）を２回に分けて静脈内注射または筋肉内注射する。小児にはセフォペラゾンナトリウムとして、１日25～100mg（力価）／kgを２～４回に分けて静脈内注射する。 難治性または重症感染症には症状に応じて、１日量成人では６ｇ（力価）、小児では150mg（力価）／kgまで増量し、２～４回に分割投与する。 静脈内注射に際しては、日本薬局方注射用蒸留水、日本薬局方生理食塩液または日本薬局方ブドウ糖注射液に溶解し、緩徐に投与する。 なお、点滴による静脈内注射に際しては補液に溶解して用いる。 筋肉内注射に際しては、本剤0.5～１ｇ（力価）を日本薬局方リドカイン注射液（0.5W/V%）３mLに溶解して用いる。 ［筋注用］ セフォペラゾンナトリウムとして、通常成人には１日１～２ｇ（力価）を２回に分けて筋肉内注射する。 なお、年齢、症状に応じて適宜増減する。 溶解に際しては、添付の日本薬局方リドカイン注射液（0.5W/V%）３mLに溶解する。

販売名	会社名	販売名	会社名
セフォビッド注射用１ｇ	ファイザー㈱	セフォペラジン筋注用１ｇ	富山化学工業㈱－大正富山医薬品㈱
セフォペラジン注射用0.5g	富山化学工業㈱－大正富山医薬品㈱	注射用セジペラ	東和薬品㈱
セフォペラジン注射用１ｇ	富山化学工業㈱－大正富山医薬品㈱	セラーゼン注射用	沢井製薬㈱
セフォペラジン筋注用0.5g	富山化学工業㈱－大正富山医薬品㈱		

40. セフジトレン　ピボキシル　（6132）

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、ペプトストレプトコッカス属、ブランハメラ・カタラーリス、プロピオニバクテリウム・アクネス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属（プロテウス・ミラビリス、プロテウス・ブルガリス）、モルガネラ属、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、百日咳菌、バクテロイデス属のうち、本剤感性菌による下記感染症 ○毛嚢炎、癤、癤腫症、よう、伝染性膿痂疹、丹毒、蜂巣炎、リンパ管（節）炎、化膿性爪囲（廓）炎、瘭疽、皮下膿瘍、汗腺炎、感染性粉瘤、慢性膿皮症 ○肛門周囲膿瘍、外傷・手術創などの表在性二次感染 ○咽喉頭炎（咽喉膿瘍）、急性気管支炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍）、気管支拡張症（感染時）、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎、肺化膿症 ○尿路感染症（腎盂腎炎、膀胱炎） ○猩紅熱 ○百日咳 ○中耳炎、副鼻腔炎 ○歯周組織炎、顎炎	<適応菌種> セフジトレンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、百日咳菌、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属、アクネ菌 <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肛門周囲膿瘍、咽頭・喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む）、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、顎炎、猩紅熱、百日咳
用法・用量	通常、小児にセフジトレン　ピボキシルとして１回３㎎（力価）／㎏を１日３回食後に経口投与する。 なお、年齢及び症状に応じて適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
メイアクト小児用細粒	明治製菓㈱	メイアクトMS小児用細粒	明治製菓㈱

40. セフジトレン　ピボキシル　（6132）

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承認内容	再評価結果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、ペプトストレプトコッカス属、ブランハメラ・カタラーリス、プロピオニバクテリウム・アクネス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属(プロテウス・ミラビリス、プロテウス・ブルガリス)、モルガネラ属、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、バクテロイデス属のうち、本剤感性菌による下記感染症 ○毛嚢炎、癤、癤腫症、よう、伝染性膿痂疹、丹毒、蜂巣炎、リンパ管(節)炎、化膿性爪囲(廓)炎、瘭疽、皮下膿瘍、汗腺炎、感染性粉瘤、慢性膿皮症 ○乳腺炎、肛門周囲膿瘍、外傷・手術創などの表在性二次感染 ○咽喉頭炎(咽喉膿瘍)、急性気管支炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍)、慢性気管支炎、気管支拡張症(感染時)、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎、肺化膿症 ○腎盂腎炎、膀胱炎 ○胆のう炎、胆管炎 ○子宮付属器炎、子宮内感染、バルトリン腺炎 ○中耳炎、副鼻腔炎 ○眼瞼炎、麦粒腫、眼瞼膿瘍、涙嚢炎、瞼板腺炎 ○歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎	<適応菌種> セフジトレンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属、アクネ菌 <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、肛門周囲膿瘍、咽頭･喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む）、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、胆嚢炎、胆管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、眼瞼膿瘍、涙嚢炎、麦粒腫、瞼板腺炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎
用法・用量	通常、成人にはセフジトレン　ピボキシルとして１回100mg（力価）を１日３回食後に経口投与する。 なお､年齢及び症状に応じて適宜増減するが、重症又は効果不十分と思われる場合は、１回200mg（力価）を１日３回食後に経口投与する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
メイアクト錠100	明治製菓㈱

41. セフジニル　(6132)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、ブランハメラ・カタラーリス、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌のうちセフジニル感性菌による下記感染症 ・毛嚢(包)炎、癤、癤腫症、よう、伝染性膿痂疹、丹毒、蜂巣炎、リンパ管(節)炎、瘭疽、化膿性爪囲(廓)炎、皮下膿瘍、汗腺炎、感染性粉瘤、慢性膿皮症 ・咽喉頭炎、急性気管支炎、扁桃炎、肺炎 ・腎盂腎炎、膀胱炎 ・猩紅熱 ・中耳炎、副鼻腔炎	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、膀胱炎、腎盂腎炎、中耳炎、副鼻腔炎、猩紅熱
用法・用量	通常、小児に対してセフジニルとして１日量９～18mg（力価）／kgを３回に分割して経口投与する。 なお、年齢及び症状に応じて適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
セフゾン細粒小児用	富山フジサワ㈱ －藤沢薬品工業㈱

41. セフジニル　(6132)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、ペプトストレプトコッカス属、プロピオニバクテリウム、淋菌、ブランハメラ・カタラーリス、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス・ミラビリス、プロビデンシア属、インフルエンザ菌のうちセフジニル感性菌による下記感染症 ・毛嚢(包)炎、癤、癤腫症、よう、伝染性膿痂疹、丹毒、蜂巣炎、リンパ管(節)炎、瘭疽、化膿性爪囲(廓)炎、皮下膿瘍、汗腺炎、感染性粉瘤、慢性膿皮症 ・乳腺炎、肛門周囲膿瘍、外傷及び手術創の表在性二次感染 ・咽喉頭炎、急性気管支炎、扁桃炎、肺炎 ・腎盂腎炎、膀胱炎、淋菌性尿道炎 ・子宮付属器炎、子宮内感染、バルトリン腺炎 ・眼瞼炎、麦粒腫、瞼板腺炎 ・外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎 ・歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス・ミラビリス、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属、アクネ菌 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、肛門周囲膿瘍、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、膀胱炎、腎盂腎炎、尿道炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、麦粒腫、瞼板腺炎、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎
用法・用量	通常､セフジニルとして成人１回100mg(力価)を１日３回経口投与する。 なお、年齢及び症状に応じて適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
セフゾンカプセル50mg	富山フジサワ㈱ －藤沢薬品工業㈱	セフゾンカプセル100mg	富山フジサワ㈱ －藤沢薬品工業㈱

42. セフスロジンナトリウム　(6132)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	セフスロジンに感性の緑膿菌による下記感染症 ○敗血症 ○肺炎、気管支炎、気管支拡張症の感染時 ○腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺床炎 ○創傷・熱傷の二次感染 ○腹膜炎 ○中耳炎 ○角膜潰瘍	<適応菌種> セフスロジンに感性の緑膿菌 <適応症> 敗血症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、腹膜炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む）、中耳炎
用法・用量	通常、成人にはセフスロジンナトリウムとして１日500～1,000mg（力価）を、重症感染症には2,000mg（力価）を２～４回に分け、また、小児にはセフスロジンナトリウムとして１日60～100mg（力価）／kgを３～４回に分けて静脈内に注射する。 なお、年齢、症状に応じ適宜増減するが、成人の敗血症には１日4,000mg（力価）まで、小児の重症難治性感染症には１日200mg（力価）／kgまで増量することができる。静脈内注射に際しては、日局「生理食塩液」又は日局「ブドウ糖注射液」に溶解して用いる。 また、成人の場合は１回用量250～2,000mg（力価）を糖液、電解質液又はアミノ酸製剤などの補液に加えて30分～２時間で点滴静脈内注射を行うこともできる。 なお、小児の場合は上記投与量を考慮した１回用量を補液に加えて30分～１時間で点滴静脈内注射を行うこともできる。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
タケスリン静注用0.5g	武田薬品工業㈱	タケスリン静注用１ g	武田薬品工業㈱

43. セフタジジム　(6132)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属(腸球菌を除く)、肺炎球菌、ペプトコッカス属、ペプトストレプトコッカス属、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、シュードモナス属、インフルエンザ菌、アシネトバクター属、バクテロイデス属のうち本剤感性菌による下記感染症 敗血症、感染症心内膜炎、外傷・熱傷・手術創等の表在性二次感染、咽喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍)、気管支炎、気管支拡張症の感染時、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎、肺化膿症、膿胸、腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎、胆のう炎、胆管炎、肝膿瘍、腹膜炎、子宮付属器炎、子宮内感染、骨盤死腔炎、子宮旁結合織炎、バルトリン腺炎、髄膜炎、中耳炎、副鼻腔炎	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、シュードモナス属、緑膿菌、バークホルデリア・セパシア、ステノトロホモナス（ザントモナス）・マルトフィリア、アシネトバクター属、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属（プレボテラ・ビビアを除く） ＜適応症＞ 敗血症、感染性心内膜炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、咽頭･喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む）、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎、中耳炎、副鼻腔炎
用法・用量	通常、成人には１日１～２ｇ（力価）を２回に分割し静脈内に注射する。なお、難治性又は重症感染症には症状に応じて１日量を４ｇ(力価)まで増量し、２～４回に分割投与する。 通常、小児には１日40～100mg（力価）／kgを２～４回に分割し静脈内に注射する。なお、難治性又は重症感染症には症状に応じて１日量を150mg（力価）／kgまで増量し、２～４回に分割投与する。 通常、未熟児・新生児の生後０から３日齢には１回20mg（力価）／kgを１日２～３回、また、生後４日齢以降には１回20mg（力価）／kgを１日３～４回静脈内に注射する。なお、難治性又は重症感染症には､症状に応じて１日量を150mg（力価）／kgまで増量し、２～４回に分割投与する。 静脈内注射に際しては、日局注射用水、日局生理食塩液、又は日局ブドウ糖注射液に溶解し、緩徐に投与する。 なお、本剤は糖液、電解質液またはアミノ酸製剤などの補液に加えて30分～２時間かけて点滴静注することもできる。	承認内容に同じ

販売名	会社名
モダシン静注用	グラクソ・スミスクライン㈱＝田辺製薬㈱

44. セフチゾキシムナトリウム　(6132)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	セフチゾキシムに感性の連鎖球菌属(腸球菌を除く)、肺炎球菌、インフルエンザ菌、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス属、セラチア属、エンテロバクター属、シトロバクター属、ペプトコッカス属、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属による下記感染症 ○敗血症、感染性心内膜炎 ○創傷・熱傷の二次感染 ○気管支炎、気管支拡張症の感染時、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎、肺化膿症、膿胸 ○胆管炎、胆のう炎 ○腹膜炎 ○腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎 ○子宮付属器炎、子宮内感染、骨盤死腔炎 ○髄膜炎	<適応菌種> セフチゾキシムに感性のレンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ・メラニノジェニカ <適応症> 敗血症、感染性心内膜炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎
用法・用量	［静注用］ セフチゾキシムとして、通常成人には１日0.5～２ｇ（力価）、小児には１日40～80mg（力価）／kgを２～４回に分けて静脈内に注射する。なお、年齢、症状に応じて適宜増減するが、重症・難治性感染症には成人では１日４ｇ（力価）まで、小児では１日120mg（力価）／kgまで増量することができる。 静脈内注射の際には注射用水、生理食塩液又はブドウ糖注射液に溶解し、緩徐に注射する。 糖液、電解質液、アミノ酸製剤等の補液に加えて、30分～２時間かけて静脈内に点滴注入することもできる。 また、キット品はコネクターを介して添付の生理食塩液100ml又は５％ブドウ糖注射液100mlに溶解し、静脈内に点滴注入する。 ［筋注用］ セフチゾキシムとして、通常成人には１日0.5～２ｇ（力価）を２～４回に分けて筋肉内に注射する。なお、年齢、症状に応じて適宜増減する。 筋肉内注射の際には、２mLの日本薬局方注射用水、又は添付の日本薬局方リドカイン注射液（0.5W/V％）に溶解する。	［静注用］ セフチゾキシムとして、通常成人には１日0.5～２ｇ（力価）、小児には１日40～80mg（力価）／kgを２～４回に分けて静脈内に注射する。 なお、年齢、症状に応じて適宜増減するが、重症・難治性感染症には成人では１日４ｇ（力価）まで、小児では１日120mg（力価）／kgまで増量することができる。 静脈内注射の際には注射用水、生理食塩液又はブドウ糖注射液に溶解し、緩徐に注射する。 糖液、電解質液、アミノ酸製剤等の補液に加えて、30分～２時間かけて静脈内に点滴注入することもできる。 また、キット品はコネクターを介して添付の生理食塩液100mL又は５％ブドウ糖注射液100mLに溶解し、静脈内に点滴注入する。 ［筋注用］ 承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
エポセリン静注用	富山フジサワ㈱ －藤沢薬品工業㈱	エポセリン筋注用	富山フジサワ㈱ －藤沢薬品工業㈱

44. セフチゾキシムナトリウム　(6132)

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承認内容	再評価結果
効能・効果	セフチゾキシムに感性の連鎖球菌属(腸球菌を除く)、肺炎球菌、インフルエンザ菌、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス属、セラチア属、エンテロバクター属、シトロバクター属、ペプトコッカス属、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属による下記感染症 ・気管支炎、肺炎 ・尿路感染症(腎盂腎炎、膀胱炎)	＜適応菌種＞ セフチゾキシムに感性のレンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ・メラニノジェニカ ＜適応症＞ 急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎
用法・用量	通常、小児に体重kg当りセフチゾキシムとして１日20～70mg（力価）を、３～４回に分けて肛門内に挿入する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
エポセリン坐剤125	富山フジサワ㈱ －藤沢薬品工業㈱	エポセリン坐剤250	富山フジサワ㈱ －藤沢薬品工業㈱

46. セフテラムピボキシル　(6132)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承認内容	再評価結果
効能・効果	レンサ球菌属(ただし腸球菌を除く)、肺炎球菌、大腸菌、クレブシェラ属、プロテウス属(プロテウス・ミラビリス、プロテウス・ブルガリス、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア・レットゲリ、プロビデンシア・インコンスタンス)、インフルエンザ菌のうち、本剤感性菌による下記感染症 ・咽喉頭炎(咽頭炎、喉頭炎)、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍)、急性気管支炎、肺炎 ・尿路感染症(腎盂腎炎、膀胱炎) ・猩紅熱 ・中耳炎、副鼻腔炎	＜適応菌種＞ セフテラムに感性のレンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ 咽頭･喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、膀胱炎、腎盂腎炎、中耳炎、副鼻腔炎、猩紅熱
用法・用量	通常、小児に対しては、セフテラム　ピボキシルとして１日量９～18mg（力価）／kgを３回に分割して経口投与する。なお、年齢及び症状に応じて適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
トミロン細粒小児用100	富山化学工業㈱ －大正富山医薬品㈱

46. セフテラムピボキシル　(6132)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	レンサ球菌属（ただし腸球菌を除く）、肺炎球菌、ペプトストレプトコッカス属、淋菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシェラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属（プロテウス・ミラビリス、プロテウス・ブルガリス、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア・レットゲリ、プロビデンシア・インコンスタンス）、インフルエンザ菌のうち、本剤感性菌による下記感染症 ・咽喉頭炎（咽頭炎、喉頭炎）、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍）、急性気管支炎、肺炎、慢性気管支炎、びまん性汎細気管支炎、気管支拡張症（感染時）、慢性呼吸器疾患の二次感染 ・腎盂腎炎、膀胱炎 ・淋菌性尿道炎 ・子宮付属器炎、子宮内膜炎、子宮内感染、バルトリン腺炎、バルトリン腺膿瘍 ・中耳炎、副鼻腔炎 ・歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎	＜適応菌種＞ セフテラムに感性のレンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属 ＜適応症＞ 咽頭・喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む）、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、尿道炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎
用法・用量	咽喉頭炎（咽頭炎、喉頭炎）、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍）、急性気管支炎、腎盂腎炎、膀胱炎、子宮付属器炎、子宮内膜炎、子宮内感染、バルトリン腺炎、バルトリン腺膿瘍の場合 　通常、セフテラム　ピボキシルとして成人1日150～300㎎（力価）を1日3回食後経口投与する。 慢性気管支炎、びまん性汎細気管支炎、気管支拡張症（感染時）、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎、中耳炎、副鼻腔炎、淋菌性尿道炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎の場合 　通常、セフテラム　ピボキシルとして成人1日300～600㎎（力価）を1日3回食後経口投与する。 なお、年齢及び症状に応じて適宜増減する。	［咽頭・喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む）、急性気管支炎、膀胱炎、腎盂腎炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎の場合］ 　通常、セフテラム　ピボキシルとして成人1日150～300mg（力価）を1日3回食後経口投与する。 ［肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、尿道炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎の場合］ 　通常、セフテラム　ピボキシルとして成人1日300～600mg（力価）を1日3回食後経口投与する。 なお、年齢及び症状に応じて適宜増減する。

販売名	会社名	販売名	会社名
トミロン錠50	富山化学工業㈱ －大正富山医薬品㈱	トミロン錠100	富山化学工業㈱ －大正富山医薬品㈱ －昭和薬品化工㈱

47. セフトリアキソンナトリウム　(6132)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属（腸球菌を除く）、肺炎球菌、ペプトコッカス属、ペプトストレプトコッカス属、淋菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、インフルエンザ菌、バクテロイデス属のうち本剤感性菌による下記感染症。 敗血症、咽喉頭炎、急性気管支炎、扁桃炎、慢性気管支炎、気管支拡張症の感染時、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎、肺化膿症、膿胸、咽頭炎、腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎、胆のう炎、胆管炎、腹膜炎、骨盤腹膜炎、ダグラス窩膿瘍、子宮付属器炎、子宮内感染、バルトリン腺炎、骨盤死腔炎、子宮旁結合織炎、子宮頸管炎、骨盤内炎症性疾患、精巣上体炎、直腸炎、髄膜炎、角膜潰瘍、中耳炎、副鼻腔炎、顎炎、顎骨周辺の蜂巣炎	<適応菌種> セフトリアキソンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属（プレボテラ・ビビアを除く） <適応症> 敗血症、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、精巣上体炎（副睾丸炎）、尿道炎、子宮頸管炎、骨盤内炎症性疾患、直腸炎、腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆嚢炎、胆管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む）、中耳炎、副鼻腔炎、顎骨周辺の蜂巣炎、顎炎
用法・用量	通常、成人には１日１～２ｇ（力価）を１回又は２回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。なお、難治性又は重症感染症には症状に応じて１日量を４ｇ（力価）まで増量し、２回に分けて投与する。 なお、淋菌感染症については、下記の通り投与する。 ①咽頭炎、尿道炎、子宮頸管炎、直腸炎： 通常、成人には１ｇ（力価）を単回静脈内注射又は単回点滴静注する。 ②骨盤内炎症性疾患、精巣上体炎： 通常、成人には１日１回１ｇ（力価）を静脈内注射又は点滴静注する。 通常、小児には１日20～60mg（力価）／kgを２回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。なお、難治性又は重症感染症には症状に応じて１日量を120mg（力価）／kgまで増量し、２回に分けて投与する。 通常、未熟児・新生児の生後０～３日齢には１回20mg（力価）／kgを１日１回、また、生後４日齢以降には１回20mg（力価）／kgを１日２回静脈内注射又は点滴静注する。なお、難治性又は重症感染症には症状に応じて１回量を40mg（力価）／kgまで増量し、１日２回投与する。ただし、生後２週間以内の未熟児・新生児には１日50mg（力価）／kgまでとする。 静脈内注射に際しては、日局注射用水、日局生理食塩液又は日局ブドウ糖注射液に溶解し、緩徐に投与する。 また、点滴静注に際しては補液に溶解して用いる。	通常、成人には１日１～２ｇ（力価）を１回又は２回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。 なお、難治性又は重症感染症には症状に応じて１日量を４ｇ（力価）まで増量し、２回に分けて投与する。 なお、淋菌感染症については、下記の通り投与する。 ①咽頭･喉頭炎、尿道炎、子宮頸管炎、直腸炎： 通常、成人には１ｇ（力価）を単回静脈内注射又は単回点滴静注する。 ②精巣上体炎（副睾丸炎）、骨盤内炎症性疾患： 通常、成人には１日１回１ｇ（力価）を静脈内注射又は点滴静注する。 通常、小児には１日20～60mg（力価）／kgを２回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。 なお、難治性又は重症感染症には症状に応じて１日量を120mg（力価）／kgまで増量し、２回に分けて投与する。 通常、未熟児・新生児の生後０～３日齢には１回20mg（力価）／kgを１日１回、また、生後４日齢以降には１回20mg（力価）／kgを１日２回静脈内注射又は点滴静注する。 なお、難治性又は重症感染症には症状に応じて１回量を40mg（力価）／kgまで増量し、１日２回投与する。ただし、生後２週間以内の未熟児・新生児には１日50mg（力価）／kgまでとする。 静脈内注射に際しては、日局注射用水、日局生理食塩液又は日局ブドウ糖注射液に溶解し、緩徐に投与する。 また、点滴静注に際しては補液に溶解して用い

	またバッグ品の投与に際しては、用時、添付の溶解液にて溶解し、静脈内に点滴注射する。	る。 バッグ品の投与に際しては、用時、添付の溶解液にて溶解し、静脈内に点滴注射する。

販売名	会社名	販売名	会社名
セフィローム静注用0.5g	マルコ製薬㈱ －ニプロファーマ㈱	ロゼクラート静注用１ｇ	大洋薬品工業㈱
セフィローム静注用１ｇ	マルコ製薬㈱ －ニプロファーマ㈱	ロセメルク静注用１ｇ	メルク・ホエイ㈱
セフキソン静注用１ｇ	シオノケミカル㈱	ロセフィン静注用0.5g	中外製薬㈱
セロニード静注用１ｇ	沢井製薬㈱	ロセフィン静注用１ｇ	中外製薬㈱
リアソフィン静注用0.5g	㈱ケミックス	ロセフィン点滴静注用１ｇバッグ	中外製薬㈱
リアソフィン静注用１ｇ	㈱ケミックス		

48. セフピラミドナトリウム　(6132)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属（腸球菌を除く）、ペプトコッカス属、ペプトストレプトコッカス属、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、プロテウス属、モルガネラ属、シュードモナス属、インフルエンザ菌、アシネトバクター属、バクテロイデス属のうち本剤感性菌による下記感染症 敗血症、熱傷・手術創などの二次感染、咽喉頭炎(咽喉膿瘍)、急性気管支炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍)、慢性気管支炎、気管支拡張症(感染時)、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎、肺化膿症、膿胸、腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎、副睾丸炎、胆のう炎、胆管炎、腹膜炎(含、骨盤腹膜炎、ダグラス窩膿瘍)、子宮付属器炎、子宮内感染、骨盤死腔炎、子宮旁結合織炎、バルトリン腺炎、髄膜炎、顎炎、顎骨周辺の蜂巣炎	<適応菌種> セフピラミドに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、シュードモナス属、緑膿菌、バークホルデリア・セパシア、ステノトロホモナス(ザントモナス)・マルトフィリア、アシネトバクター属、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属(プレボテラ・ビビアを除く) <適応症> 敗血症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、咽頭・喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症)、精巣上体炎（副睾丸炎)、腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆嚢炎、胆管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎、顎骨周辺の蜂巣炎、顎炎
用法・用量	通常、成人にはセフピラミドナトリウムとして１日１～２ｇ（力価）を２回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。なお、難治性又は重症感染症には症状に応じて１日量を４ｇ（力価）まで増量し、２～３回に分割投与する。 通常、小児にはセフピラミドナトリウムとして１日30～80mg（力価）／kgを２～３回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。 なお、難治性又は重症感染症には症状に応じて１日量を150mg（力価）／kgまで増量し、２～３回に分割投与する。 静脈内注射に際しては、日局注射用水、日局生理食塩液又は日局ブドウ糖注射液に溶解し、緩徐に投与する。 また、点滴静注に際しては糖液、電解質液、アミノ酸製剤等の補液に加えて30～60分かけて静脈内に点滴静注することもできる。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
サンセファール静注用１ｇ	山之内製薬㈱	セパトレン静注用１ｇ	住友製薬㈱

49. セフブペラゾンナトリウム　(6132)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再評価結果
効能・効果	肺炎球菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス・ブルガリス、プロテウス・ミラビリス、プロテウス・モルガニー、プロテウス・レットゲリ、インフルエンザ菌、バクテロイデス属のうち、本剤感性菌による下記感染症 敗血症、感染性心内膜炎、慢性気管支炎、気管支拡張症の感染時、肺炎、肺化膿症、膿胸、腎盂腎炎、膀胱炎、胆のう炎、胆管炎、腹膜炎、子宮付属器炎、子宮内感染、骨盤死腔炎、子宮旁結合織炎、バルトリン腺炎	＜適応菌種＞ セフブペラゾンに感性の肺炎球菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア・レットゲリ、インフルエンザ菌、バクテロイデス属、プレボテラ属 ＜適応症＞ 敗血症、感染性心内膜炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、胆囊炎、胆管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎
用法・用量	セフブペラゾンナトリウムとして、通常成人には１日１～２ｇ（力価）を、２回に分割して静脈内注射又は点滴静注する。 小児には通常１日40～80㎎（力価）／㎏を２～４回に分割して静脈内注射又は点滴静注する。 なお、年齢、症状に応じて適宜増減するが、難治性又は重症感染症には成人では１日４ｇ（力価)、小児では１日120㎎（力価）／㎏まで増量することができる。 静脈内注射の際には、日局注射用蒸留水、日局生理食塩液、日局ブドウ糖注射液に溶解し緩徐に注射する。 また補液に加えて点滴静注することもできる。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
ケイペラゾン静注用	科研製薬㈱	トミポラン静注用	富山化学工業㈱ －大正富山医薬品㈱

50. セフポドキシムプロキセチル　(6132)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承認内容	再評価結果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、ブランハメラ・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシェラ属、エンテロバクター属、プロテウス属（プロテウス・ミラビリス、プロテウス・ブルガリス、プロビデンシア・レットゲリ、プロビデンシア・インコンスタンス）、インフルエンザ菌のうち、本剤感性菌による下記感染症 ・癤、癤腫症、よう、伝染性膿痂疹、蜂巣炎、リンパ管（節）炎、皮下膿瘍 ・咽喉頭炎(咽喉膿瘍)、急性気管支炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍)、肺炎 ・腎盂腎炎、膀胱炎 ・中耳炎、副鼻腔炎 ・猩紅熱	＜適応菌種＞ セフポドキシムに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ（ブランハメラ)・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、プロテウス属、プロビデンシア属、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、咽頭･喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、膀胱炎、腎盂腎炎、中耳炎、副鼻腔炎、猩紅熱
用法・用量	通常、幼小児に対しては、セフポドキシムプロキセチルとして１回３mg（力価）／kgを１日２～３回、用時懸濁して経口投与する。 なお、年齢、体重、症状等に応じて適宜増減するが、重症または効果不十分と思われる症例には、１回4.5mg（力価）／kgを１日３回経口投与する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
バナンドライシロップ	三共㈱＝グラクソ・スミスクライン㈱

50. セフポドキシムプロキセチル　(6132)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、ペプトストレプトコッカス属、淋菌、ブランハメラ・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシェラ属、エンテロバクター属、プロテウス属（プロテウス・ミラビリス、プロテウス・ブルガリス、プロビデンシア・レットゲリ、プロビデンシア・インコンスタンス）、インフルエンザ菌のうち、本剤感性菌による下記感染症 ・毛嚢（包）炎（膿疱性痤瘡を含む）、癤、癤腫症、よう、丹毒、蜂巣炎、リンパ管（節）炎、瘭疽、化膿性爪囲（廓）炎、皮下膿瘍、汗腺炎、集簇性痤瘡、感染性粉瘤、肛門周囲膿瘍 ・乳腺炎 ・咽喉頭炎（咽喉膿瘍）、急性気管支炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍）、慢性気管支炎、気管支拡張症（感染時）、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎 ・腎盂腎炎、膀胱炎、淋菌性尿道炎 ・バルトリン腺炎、バルトリン腺膿瘍 ・中耳炎、副鼻腔炎 ・歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎	＜適応菌種＞ セフポドキシムに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、プロテウス属、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、乳腺炎、肛門周囲膿瘍、咽頭・喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む）、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、尿道炎、バルトリン腺炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎
用法・用量	通常、成人にはセフポドキシム　プロキセチルとして１回100mg（力価）を１日２回食後経口投与する。 なお、年齢及び症状に応じて適宜増減するが、重症又は効果不十分と思われる症例には、１回200mg（力価）を１日２回食後経口投与する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
バナン錠	三共㈱＝グラクソ・スミスクライン㈱

51. セフミノクスナトリウム　(6132)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	レンサ球菌属(腸球菌を除く)、大腸菌、肺炎桿菌、プロテウス属、インフルエンザ菌、バクテロイデス属のうち本剤感性菌による下記感染症 敗血症、扁桃炎、扁桃周囲膿瘍、気管支炎、細気管支炎、気管支拡張症(感染時)、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎、肺化膿症、腎盂腎炎、膀胱炎、胆嚢炎、胆管炎、腹膜炎、骨盤腹膜炎、子宮付属器炎、子宮内感染、骨盤死腔炎、子宮旁結合織炎	<適応菌種> セフミノクスに感性のレンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、肺炎桿菌、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、バクテロイデス属、プレボテラ属（プレボテラ・ビビアを除く） <適応症> 敗血症、扁桃炎（扁桃周囲膿瘍を含む）、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎
用法・用量	通常、成人には１日２ｇ（力価）を２回に分割し、静脈内注射又は点滴静注する。小児には１回20mg（力価）／kgを１日３～４回静脈内注射又は点滴静注する。 なお、年齢、症状により適宜増減するが、敗血症、難治性又は重症感染症には、成人では１日６ｇ（力価）まで増量し３～４回に分割して投与する。 静脈内注射の場合は、１ｇ（力価）当り20mLの注射用水、糖液又は電解質溶液に溶解して緩徐に注射する。 また、点滴静注の場合は、１ｇ（力価）当り100～500mL の糖液又は電解質溶液に溶解して１～２時間かけて静注する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
注射用メイセリン	明治製菓㈱＝沢井製薬㈱

52. セフメタゾールナトリウム　(6132)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	大腸菌、肺炎桿菌、変形菌(インドール陽性及び陰性)、バクテロイデス、ペプトコッカス属、ペプトストレプトコッカス属及び黄色ブドウ球菌のうち本剤感性菌による下記感染症 ○敗血症 ○気管支炎、気管支拡張症の感染時、肺炎、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺化膿症(肺膿瘍)、膿胸 ○胆管炎、胆嚢炎 ○腹膜炎 ○腎盂腎炎、膀胱炎 ○バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、骨盤死腔炎、子宮旁結合織炎 ○顎骨周辺の蜂巣炎、顎炎	＜適応菌種＞ セフメタゾールに感性の黄色ブドウ球菌、大腸菌、肺炎桿菌、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属(プレボテラ・ビビアを除く) ＜適応症＞ 敗血症、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、顎骨周辺の蜂巣炎、顎炎
用法・用量	（筋肉注射用）通常成人には、１日１～２ｇ(力価）を２回に分けて、添付の日本薬局方リドカイン注射液（0.5W/V％）に溶解し、筋肉内に投与する。なお、症状に応じ適宜増減する。 溶解に際しては、通常本剤0.5g（力価）当たり、日本薬局方リドカイン注射液（0.5W/V％）２ ml に溶解する。 （静注用）通常成人には、１日１～２ｇ(力価）を２回に分けて静脈内注射または点滴静注する。 通常小児には、１日25～100mg（力価）／kg を２～４回に分けて静脈内注射または点滴静注する。 なお、難治性または重症感染症には症状に応じて、１日量を成人では４ｇ(力価)、小児では150mg（力価）／kg まで増量し、２～４回に分割投与する。 静脈内注射に際しては、本剤１ｇ（力価）当たり、日本薬局方注射用蒸留水、日本薬局方生理食塩液または日本薬局方ブドウ糖注射液10mL に溶解し、緩徐に投与する。なお、本剤は補液に加えて点滴静注することもできる。 （キット製品） 通常成人には、１日１～２ｇ（力価）を２回に分けて静脈内注射または点滴静注する。 通常小児には、１日25～100mg（力価）／kg を２～４回に分けて静脈内注射または点滴静注する。 なお、難治性または重症感染症には症状に応じて、１日量を成人では４ｇ(力価)、小児では150mg（力価）／kg まで増量し、２～４回に分割投与する。 用時添付の生理食塩液に溶解し、緩徐に投与する。なお、本剤は補液に加えて点滴静注することもできる。	［筋肉注射用］ 通常成人には、１日１～２ｇ（力価）を２回に分けて、添付の日本薬局方リドカイン注射液（0.5W/V％）に溶解し、筋肉内に投与する。なお、症状に応じ適宜増減する。 溶解に際しては、通常本剤0.5g（力価）当たり、日本薬局方リドカイン注射液（0.5W/V％）２ mL に溶解する。 ［静注用］ 通常成人には、１日１～２ｇ（力価）を２回に分けて静脈内注射または点滴静注する。 通常小児には、１日25～100mg（力価）／kg を２～４回に分けて静脈内注射または点滴静注する。 なお、難治性または重症感染症には症状に応じて、１日量を成人では４ｇ(力価)、小児では150mg（力価）／kg まで増量し、２～４回に分割投与する。 静脈内注射に際しては、本剤１ｇ（力価）当たり、日本薬局方注射用蒸留水、日本薬局方生理食塩液または日本薬局方ブドウ糖注射液10mL に溶解し、緩徐に投与する。なお、本剤は補液に加えて点滴静注することもできる。 ［キット製品］ 通常成人には、１日１～２ｇ（力価）を２回に分けて静脈内注射または点滴静注する。 通常小児には、１日25～100mg（力価）／kg を２～４回に分けて静脈内注射または点滴静注する。 なお、難治性または重症感染症には症状に応じて、１日量を成人では４ｇ(力価)、小児では150mg（力価）／kg まで増量し、２～４回に分割投与する。 用時添付の生理食塩液に溶解し、緩徐に投与する。なお、本剤は補液に加えて点滴静注することもできる。

販売名	会社名	販売名	会社名
セフメタゾン筋注用0.5g	三共㈱	セフメタゾン静注用0.25g	三共㈱
静注用セフメタゾールナトリウム「ヒシヤマ」1g 1瓶	ニプロファーマ㈱	セフメタゾン静注用0.5g	三共㈱
静注用セフメタゾールナトリウム「ヒシヤマ」2g 1瓶	ニプロファーマ㈱	セフメタゾン静注用１ｇ	三共㈱
静注用セフメタゾールナトリウム「ヒシヤマ」1g 1キット	ニプロファーマ㈱＝マルコ製薬㈱	セフメタゾン静注用２ｇ	三共㈱
静注用セフメタゾールナトリウム「ヒシヤマ」2g 1キット	ニプロファーマ㈱＝マルコ製薬㈱	注射用セフルトール	大洋薬品工業㈱
静注用セプラメタシン	シオノケミカル㈱－日本医薬品工業㈱	トキオゾール静注用	㈱イセイ
静注用リリアジン１ｇ	東和薬品㈱	ピレタゾール静注用	マルコ製薬㈱
静注用リリアジン２ｇ	東和薬品㈱	セフメタゾンキット点滴静注用１ｇ	三共㈱

54. セフロキサジン　(6132)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	ブドウ球菌属、溶血性レンサ球菌、肺炎球菌、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌のうちセフロキサジン感性菌による下記感染症 　癤、毛のう炎、蜂窠織炎、膿痂疹、気管支炎、咽喉頭炎、扁桃炎、腎盂腎炎、膀胱炎、猩紅熱、眼瞼炎、麦粒腫、結膜炎、中耳炎	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、麦粒腫、中耳炎、猩紅熱
用法・用量	通常、幼小児には体重kg当りセフロキサジンとして１日30mg（力価）を３回に分割し、用時懸濁して経口投与する。 なお、症状に応じて適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
オラスポアドライシロップ	㈱アルフレッサファーマ	セフサン DS250	沢井製薬㈱
カンザシンドライシロップ	長生堂製薬㈱	セフサンドライシロップ	メディサ新薬㈱－沢井製薬㈱

55. セフロキシムアキセチル　(6132)

(内用)

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、ペプトストレプトコッカス属、淋菌、ブランハメラ・カタラーリス、プロピオニバクテリウム・アクネス、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌のうちセフロキシム感性菌による下記感染症 ○毛嚢(包)炎(膿疱性痤瘡を含む)、癤、癤腫症、よう、伝染性膿痂疹(膿痂疹性湿疹を含む)、丹毒、蜂巣炎、リンパ管(節)炎、瘭疽、化膿性爪囲(廓)炎、皮下膿瘍、汗腺炎、集簇性痤瘡、感染性粉瘤、慢性膿皮症、肛門周囲膿瘍 ○乳腺炎 ○咽喉頭炎(咽喉膿瘍)、急性気管支炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍)、慢性気管支炎、気管支拡張症(感染時)、慢性呼吸器疾患の二次感染 ○単純性膀胱炎、前立腺炎、副睾丸炎、淋菌性尿道炎 ○胆のう炎、胆管炎 ○眼瞼炎、麦粒腫、瞼板腺炎 ○外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、化膿性唾液腺炎(耳下腺炎、顎下腺炎、舌下腺炎) ○歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎	<適応菌種> セフロキシムに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属、アクネ菌 <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、ざ瘡(化膿性炎症を伴うもの)、乳腺炎、肛門周囲膿瘍、咽頭・喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎(単純性に限る)、前立腺炎(急性症、慢性症)、精巣上体炎(副睾丸炎)、尿道炎、麦粒腫、瞼板腺炎、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、化膿性唾液腺炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎
用法・用量	通常、成人には1回250mg(力価)を1日3回食後経口投与する。重症又は効果不十分と思われる症例には1回500mg(力価)を1日3回食後経口投与する。 なお、年齢及び症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
オラセフ錠	グラクソ・スミスクライン㈱＝三共㈱

57. トシル酸スルタミシリン　(6131)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、腸球菌、肺炎球菌、大腸菌、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌のうちアンピシリン耐性で本剤感性菌による下記感染症 ・毛嚢（包）炎（膿疱性痤瘡を含む）、癤、癤腫症、よう、伝染性膿痂疹、蜂巣炎、リンパ管（節）炎、瘭疽、化膿性爪囲炎、皮下膿瘍、汗腺炎、感染性粉瘤 ・咽喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、慢性気管支炎、気管支拡張症（感染時）、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎、肺化膿症 ・腎盂腎炎、膀胱炎 ・中耳炎、副鼻腔炎	＜適応菌種＞ スルバクタム／アンピシリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、大腸菌、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、中耳炎、副鼻腔炎
用法・用量	通常小児に対しスルタミシリンとして、１日量15～30mg（力価）／kgとし、これを３回に分割して経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
ユナシン細粒小児用	ファイザー㈱

57. トシル酸スルタミシリン　(6131)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、腸球菌、肺炎球菌、淋菌、大腸菌、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌のうちアンピシリン耐性で本剤感性菌による下記感染症 ・毛嚢（包）炎（膿疱性痤瘡を含む）、癤、癤腫症、よう、蜂巣炎、リンパ管（節）炎、瘭疽、化膿性爪囲炎、皮下膿瘍、汗腺炎、感染性粉瘤 ・咽喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、慢性気管支炎、気管支拡張症（感染時）、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎、肺化膿症 ・腎盂腎炎、膀胱炎 ・淋疾 ・子宮内感染 ・涙嚢炎、角膜潰瘍 ・中耳炎、副鼻腔炎	＜適応菌種＞ スルバクタム／アンピシリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、大腸菌、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、淋菌感染症、子宮内感染、涙嚢炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む）、中耳炎、副鼻腔炎
用法・用量	スルタミシリンとして、通常成人１回375mg（力価）を１日２～３回経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
ユナシン錠	ファイザー㈱

58. ビアペネム　(6139)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承認内容	再評価結果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌(エンテロコッカス・フェシウムを除く)、モラキセラ属、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、ヘモフィルス属、緑膿菌、アシネトバクター属、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属、フソバクテリウム属のうち本剤感性菌による下記感染症 ・敗血症 ・慢性呼吸器疾患の二次感染 ・肺炎、肺化膿症 ・腎盂腎炎 ・複雑性膀胱炎 ・腹膜炎 ・子宮旁結合織炎	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属（エンテロコッカス・フェシウムを除く)、モラクセラ属、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、インフルエンザ菌、緑膿菌、アシネトバクター属、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属、フソバクテリウム属 ＜適応症＞ 敗血症、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、複雑性膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、子宮旁結合織炎
用法・用量	通常、成人にはビアペネムとして１日0.6g（力価）を２回に分割し、30～60分かけて点滴静脈内注射する。 なお、年齢、症状に応じて適宜増減する。ただし、投与量の上限は１日1.2g（力価）までとする。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
オメガシン点滴用0.3g	ワイス㈱ －明治製菓㈱	オメガシン点滴用0.3gバッグ	ワイス㈱ －明治製菓㈱

59. ピペラシリンナトリウム　(6131)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ブドウ球菌、レンサ球菌、腸球菌、肺炎球菌、大腸菌、シトロバクター、肺炎桿菌、エンテロバクター、霊菌、変形菌、緑膿菌、インフルエンザ菌、バクテロイデスのうち本剤感受性菌株による下記感染症 ・敗血症 ・気管支炎、気管支拡張症に伴う感染、肺炎、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺化膿症、膿胸 ・胆管炎、胆のう炎 ・腎盂腎炎、膀胱炎 ・化膿性髄膜炎 ・子宮付属器炎、子宮内感染、骨盤死腔炎、子宮旁結合織炎、バルトリン腺炎	<適応菌種> ピペラシリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、大腸菌、シトロバクター属、肺炎桿菌、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、緑膿菌、バクテロイデス属、プレボテラ属（プレボテラ・ビビアを除く） <適応症> 敗血症、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、胆囊炎、胆管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎
用法・用量	ピペラシリンナトリウムとして、通常成人は、１日２～４ｇ（力価）を２～４回に分けて、添付の日局リドカイン注射液（0.5W/V%）に溶解し筋肉内に投与する。溶解に際しては、通常本剤１ｇ（力価）当たり日局リドカイン注射液（0.5W/V%）３ml に溶解する。 なお、難治性または重症感染症には症状に応じ適宜増量する。	ピペラシリンナトリウムとして、通常成人は、１日２～４ｇ（力価）を２～４回に分けて、添付の日局リドカイン注射液（0.5W/V%）に溶解し筋肉内に投与する。溶解に際しては、通常本剤１ｇ（力価）当たり日局リドカイン注射液（0.5W/V%）３mL に溶解する。 なお、難治性または重症感染症には症状に応じ適宜増量する。

販売名	会社名
ペントシリン筋注用	富山化学工業㈱ －大正富山医薬品㈱

59. ピペラシリンナトリウム　(6131)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	ブドウ球菌、レンサ球菌、腸球菌、肺炎球菌、大腸菌、シトロバクター、肺炎桿菌、エンテロバクター、霊菌、変形菌、緑膿菌、インフルエンザ菌、バクテロイデスのうち本剤感受性菌株による下記感染症 ・敗血症 ・気管支炎、気管支拡張症に伴う感染、肺炎、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺化膿症、膿胸 ・胆管炎、胆のう炎 ・腎盂腎炎、膀胱炎 ・化膿性髄膜炎 ・子宮付属器炎、子宮内感染、骨盤死腔炎、子宮旁結合織炎、バルトリン腺炎	＜適応菌種＞ ピペラシリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、大腸菌、シトロバクター属、肺炎桿菌、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、緑膿菌、バクテロイデス属、プレボテラ属（プレボテラ・ビビアを除く） ＜適応症＞ 敗血症、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、胆嚢炎、胆管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎
用法・用量	［注射用］ ピペラシリンナトリウムとして、通常成人には、１日２～４ｇ（力価）を２～４回に分けて静脈内に投与するが、筋肉内に投与もできる。 通常小児には１日50～125mg（力価）／kgを２～４回に分けて静脈内に投与する。 なお、難治性又は重症感染症には症状に応じて、成人では１日８ｇ（力価）、小児では１日200mg（力価）／kgまで増量して静脈内に投与する。 静脈内投与に際しては、日局注射用水、日局生理食塩液又は日局ブドウ糖注射液に溶解し緩徐に注射する。点滴による静脈内投与に際しては、通常本剤１～２ｇ（力価）を100～500mLの補液に加え、１～２時間で注射する。 筋肉内投与に際しては、通常本剤１ｇ（力価）を日局リドカイン注射液（0.5W/V%）３mLに溶解し注射する。 また、キット品はガイドカプセルに装着した両頭針を介して添付の日局生理食塩液に溶解し、静脈内に点滴注入する。 ［静注用バッグ］ ピペラシリンナトリウムとして、通常成人には、１日２～４ｇ（力価）を２～４回に分けて静脈内に投与する。 通常小児には１日50～125mg（力価）／kgを２～４回に分けて静脈内に投与する。 なお、難治性又は重症感染症には症状に応じて、成人では１日８ｇ（力価）、小児では、１日200mg（力価）／kgまで増量して静脈内に投与する。 投与に際しては、用時、添付の日局生理食塩液に溶解し、静脈内に点滴投与する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
アルカベミン注射用	シー・エイチ・オー新薬㈱	プランジン注射用	東和薬品㈱
タイペラシリン注射用	大洋薬品工業㈱＝日本ケミファ㈱	ペントシリン静注用１ｇバッグ	富山化学工業㈱ －大正富山医薬品㈱
注射用ピペラシリン Na １ｇ「日医工」	日本医薬品工業㈱	ペントシリン静注用２ｇバッグ	富山化学工業㈱ －大正富山医薬品㈱
注射用ピペラシリン Na ２ｇ「日医工」	日本医薬品工業㈱	ペントシリン注射用１ｇ	富山化学工業㈱ －大正富山医薬品㈱
ビクフェニン注射用	マルコ製薬㈱	ペントシリン注射用２ｇ	富山化学工業㈱ －大正富山医薬品㈱
ピシリアント注射用	シオノケミカル㈱	ペンマリン注射用	沢井製薬㈱＝三菱ウェルファーマ㈱
ピペユンシン注射用	㈱ケミックス		

ビクフェニン注射用はキット品の用法・用量はない。

60. ファロペネムナトリウム　(6139)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再評価結果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌、モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシェラ属、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌、百日咳菌のうちファロペネム感性菌による下記感染症 ○毛嚢(包)炎、伝染性膿痂疹、蜂巣炎、リンパ管(節)炎、皮下膿瘍 ○咽喉頭炎、急性気管支炎、扁桃炎、肺炎 ○尿路感染症(腎盂腎炎、膀胱炎) ○猩紅熱 ○百日咳 ○中耳炎、副鼻腔炎 ○歯周組織炎	＜適応菌種＞ ファロペネムに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、モラクセラ(ブランハメラ)･カタラーリス､大腸菌､シトロバクター属、クレブシエラ属、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌、百日咳菌 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、膀胱炎、腎盂腎炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、猩紅熱、百日咳
用法・用量	通常、小児に対してファロペネムナトリウムとして１回５mg（力価）／kgを１日３回、用時溶解して経口投与する。 なお、年齢、体重及び症状に応じて適宜増減する。増量の場合は１回10mg（力価）／kgを上限とする。	承認内容に同じ

販売名	会社名
ファロムドライシロップ小児用	第一サントリーファーマ㈱ －山之内製薬㈱

60. ファロペネムナトリウム　(6139)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承認内容	再評価結果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌、モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシェラ属、エンテロバクター属、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属、プロピオニバクテリウム・アクネス、バクテロイデス属のうちファロペネム感性菌による下記感染症 ○膿疱性痤瘡、集簇性痤瘡、毛嚢(包)炎、癤、癤腫症、よう、伝染性膿痂疹、丹毒、蜂巣炎、リンパ管(節)炎、瘭疽、化膿性爪囲(廓)炎、皮下膿瘍、汗腺炎、感染性粉瘤、慢性膿皮症 ○乳腺炎、肛門周囲膿瘍、外傷・熱傷・手術創等の(表在性)二次感染 ○咽喉頭炎、急性気管支炎、扁桃炎、肺炎、肺化膿症 ○腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎、精巣上体炎 ○子宮付属器炎、子宮内感染、バルトリン腺炎 ○眼瞼炎、麦粒腫、涙嚢炎、瞼板腺炎、角膜炎、角膜潰瘍 ○外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎 ○歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎	＜適応菌種＞ ファロペネムに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属、アクネ菌 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、ざ瘡（化膿性炎症を伴うもの)、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、肛門周囲膿瘍、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症)、精巣上体炎（副睾丸炎)、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、涙嚢炎、麦粒腫、瞼板腺炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む)、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎
用法・用量	①膿疱性痤瘡、集簇性痤瘡、毛嚢（包）炎、癤、癤腫症、よう、伝染性膿痂疹、丹毒、蜂巣炎、リンパ管（節）炎、瘭疽、化膿性爪囲（廓）炎、皮下膿瘍、汗腺炎、感染性粉瘤、慢性膿皮症、乳腺炎、肛門周囲膿瘍、外傷・熱傷・手術創等の（表在性）二次感染、咽喉頭炎、急性気管支炎、扁桃炎、単純性膀胱炎、子宮付属器炎、子宮内感染、バルトリン腺炎、眼瞼炎、麦粒腫、涙嚢炎、瞼板腺炎、角膜炎、角膜潰瘍、外耳炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎の場合 通常、成人にはファロペネムナトリウムとして１回150mg～200mg（力価）を１日３回経口投与する。 ②肺炎、肺化膿症、腎盂腎炎、膀胱炎（単純性を除く)、前立腺炎、精巣上体炎、中耳炎、副鼻腔炎の場合 通常、成人にはファロペネムナトリウムとして１回200mg～300mg（力価）を１日３回経口投与する。 なお、年齢及び症状に応じて適宜増減する。	［表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、ざ瘡（化膿性炎症を伴うもの)、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、肛門周囲膿瘍、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、膀胱炎（単純性に限る)、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、涙嚢炎、麦粒腫、瞼板腺炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む)、外耳炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎の場合］ 通常、成人にはファロペネムナトリウムとして１回150mg～200mg（力価）を１日３回経口投与する。 ［肺炎、肺膿瘍、膀胱炎（単純性を除く)、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症)、精巣上体炎（副睾丸炎)、中耳炎、副鼻腔炎の場合］ 通常、成人にはファロペネムナトリウムとして１回200mg～300mg（力価）を１日３回経口投与する。 なお、年齢及び症状に応じて適宜増減する。

販売名	会社名	販売名	会社名
ファロム錠150mg	第一サントリーファーマ㈱ －山之内製薬㈱	ファロム錠200mg	第一サントリーファーマ㈱ －山之内製薬㈱

61. フロモキセフナトリウム　(6133)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属(腸球菌を除く)、肺炎球菌、ペプトストレプトコッカス属、ブランハメラ・カタラーリス、淋菌、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス属、インフルエンザ菌、バクテロイデス属のうち本剤感性菌による下記感染症。 敗血症、感染性心内膜炎 外傷・手術創などの表在性二次感染 咽喉頭炎、扁桃炎、気管支炎、気管支拡張症の感染時、慢性呼吸器疾患の二次感染 腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎、淋菌性尿道炎 胆のう炎、胆管炎 腹膜炎、骨盤腹膜炎、ダグラス窩膿瘍 子宮付属器炎、子宮内感染、骨盤死腔炎、子宮旁結合織炎、バルトリン腺炎 中耳炎、副鼻腔炎	＜適応菌種＞ フロモキセフに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、モラクセラ（ブランハメラ)・カタラーリス、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属（プレボテラ・ビビアを除く） ＜適応症＞ 敗血症、感染性心内膜炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症)、尿道炎、腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆嚢炎、胆管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、中耳炎、副鼻腔炎
用法・用量	成人には、通常１日１～２ｇ（力価）を２回に分割して静脈内注射または点滴静注する。 小児には、通常１日60～80mg（力価）／kgを３～４回に分割して静脈内注射または点滴静注する。 未熟児、新生児には、通常１回20mg（力価）／kgを生後３日までは１日２～３回、４日以降は、１日３～４回静脈内注射または点滴静注する。 なお、年齢、症状に応じて適宜増減するが、難治性または重症感染症には成人では１日４ｇ（力価）まで増量し、２～４回に分割投与する。また未熟児、新生児、小児は１日150mg(力価)／kgまで増量し、３～４回に分割投与する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
フルマリン静注用0.5g	塩野義製薬㈱	フルマリンキット静注用１ｇ	塩野義製薬㈱
フルマリン静注用１ｇ	塩野義製薬㈱		

62. ホスホマイシンカルシウム　(6135)

(内用)

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	緑膿菌、プロテウス属、セラチア属、サルモネラ属、赤痢菌、カンピロバクター属及び多剤耐性のブドウ球菌属、大腸菌のうちホスホマイシン感性菌による下記感染症 癤、癤症、腸炎、細菌性赤痢、膀胱炎、腎盂腎炎、眼瞼炎、麦粒腫、瞼板腺炎、涙嚢炎、中耳炎、副鼻腔炎	＜適応菌種＞ ホスホマイシンに感性のブドウ球菌属、大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア・レットゲリ、緑膿菌、カンピロバクター属 ＜適応症＞ 深在性皮膚感染症、膀胱炎、腎盂腎炎、感染性腸炎、涙嚢炎、麦粒腫、瞼板腺炎、中耳炎、副鼻腔炎
用法・用量	通常、小児はホスホマイシンとして１日量40～120mg（力価）／kgを３～４回に分け経口投与する。 なお、年齢、症状に応じて適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
クルロラキシンドライシロップ「400」	辰巳化学㈱	ホスホミンドライシロップ400	ダイト㈱ －昭和薬品化工㈱
ハロスミンドライシロップ400	マルコ製薬㈱	ホスマリンドライシロップ400	沢井製薬㈱
ブルーバシリンドライシロップ	日本医薬品工業㈱	ホスミシンドライシロップ200	明治製菓㈱
ホスカシリンドライシロップ	長生堂製薬㈱	ホスミシンドライシロップ400	明治製菓㈱

62. ホスホマイシンカルシウム　(6135)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再評価結果
効能・効果	緑膿菌、プロテウス属、セラチア属、サルモネラ属、赤痢菌、カンピロバクター属、及び多剤耐性のブドウ球菌属、大腸菌のうちホスホマイシン感性菌による下記感染症 癤、癤症、腸炎、細菌性赤痢、膀胱炎、腎盂腎炎、眼瞼炎、麦粒腫、瞼板腺炎、涙嚢炎、中耳炎、副鼻腔炎	<適応菌種> ホスホマイシンに感性のブドウ球菌属、大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア・レットゲリ、緑膿菌、カンピロバクター属 <適応症> 深在性皮膚感染症、膀胱炎、腎盂腎炎、感染性腸炎、涙嚢炎、麦粒腫、瞼板腺炎、中耳炎、副鼻腔炎
用法・用量	通常、成人はホスホマイシンとして１日量２～３ｇ（力価）を３～４回に分け、小児はホスホマイシンとして１日量40～120mg（力価）／kgを３～４回に分け、それぞれ経口投与する。 なお、年令、症状に応じて適宜増減する。	通常、成人はホスホマイシンとして１日量２～３ｇ（力価）を３～４回に分け、小児はホスホマイシンとして１日量40～120mg（力価）／kgを３～４回に分け、それぞれ経口投与する。 なお、年齢、症状に応じて適宜増減する。

販売名	会社名	販売名	会社名
クルロラキシンカプセル「500」	辰巳化学㈱	ホスマイカプセル500	東和薬品㈱
ハロスミンカプセル500	マルコ製薬㈱	ホスミシン錠250	明治製菓㈱
フラゼミシンカプセル	大洋薬品工業㈱	ホスミシン錠500	明治製菓㈱
ブルーバシリンカプセル	日本医薬品工業㈱		

63. メロペネム 三水和物　(6139)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、腸球菌、髄膜炎菌、ブランハメラ・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、シュードモナス属、インフルエンザ菌、バクテロイデス属のうち本剤感性菌による中等症以上の下記感染症。 ・敗血症 ・蜂巣炎、リンパ節炎 ・肛門周囲膿瘍 ・骨髄炎、関節炎、外傷創感染、熱傷創感染、手術創感染 ・扁桃周囲膿瘍 ・慢性気管支炎、気管支拡張症(感染時)、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎、肺化膿症、膿胸 ・腎盂腎炎、複雑性膀胱炎 ・胆のう炎、胆管炎、肝膿瘍 ・腹膜炎 ・子宮付属器炎、子宮内感染、骨盤死腔炎、子宮旁結合織炎 ・化膿性髄膜炎 ・全眼球炎 ・中耳炎、副鼻腔炎 ・顎炎、顎骨周辺の蜂巣炎	＜適応菌種＞ メロペネムに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、髄膜炎菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、シュードモナス属、緑膿菌、バークホルデリア・セパシア、バクテロイデス属、プレボテラ属 ＜適応症＞ 敗血症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肛門周囲膿瘍、骨髄炎、関節炎、扁桃炎（扁桃周囲膿瘍を含む）、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、複雑性膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎、眼内炎（全眼球炎を含む）、中耳炎、副鼻腔炎、顎骨周辺の蜂巣炎、顎炎
用法・用量	本剤の使用に際しては、投与開始後３日を目安としてさらに継続投与が必要か判定し、投与中止又はより適切な他剤に切り替えるべきか検討を行うこと。 さらに、本剤の投与期間は、原則として14日以内とすること。 通常成人にはメロペネムとして、１日0.5～1g（力価）を２～３回に分割し、30分以上かけて点滴静注する。なお、年齢・症状に応じて適宜増減するが、重症・難治性感染症には、１日２g（力価）まで増量することができる。 通常小児にはメロペネムとして、１日30～60mg（力価）／kgを３回に分割し、30分以上かけて点滴静注する。なお、年齢・症状に応じて適宜増減するが、重症・難治性感染症には、１日120mg（力価）／kgまで増量することができる。ただし、成人における１日最大用量２g（力価）を超えないこととする。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
メロペン点滴用0.25g	住友製薬㈱	メロペン点滴用0.5g	住友製薬㈱

64. ラタモキセフナトリウム　(6133)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能 ・ 効果	大腸菌、クレブシエラ属、シトロバクター属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、インフルエンザ菌、バクテロイデス属のうち本剤感性菌による下記感染症 　敗血症 　髄膜炎 　肺炎、気管支炎、気管支拡張症の感染時、慢性呼吸器疾患の二次感染 　肺化膿症、膿胸 　胆管炎、胆嚢炎 　肝膿瘍 　腹膜炎 　腎盂腎炎、膀胱炎 　子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、骨盤死腔炎	＜適応菌種＞ ラタモキセフに感性の大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、バクテロイデス属、プレボテラ属（プレボテラ・ビビアを除く） ＜適応症＞ 敗血症、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎
用法 ・ 用量	通常成人には１日１～２ｇ（力価）を２回に分割して、静脈内注射又は点滴静注する。 通常小児には１日40～80mg（力価）／kgを２～４回に分割して静脈内注射又は点滴静注する。 なお、年令、症状により適宜増減するが、難治性又は重症感染症には、成人では１日４ｇ（力価）、小児では１日150mg（力価）／kgまで増量し、２～４回に分割投与する。	通常成人には１日１～２ｇ（力価）を２回に分割して、静脈内注射又は点滴静注する。 通常小児には１日40～80mg（力価）／kgを２～４回に分割して静脈内注射又は点滴静注する。 なお、年齢、症状により適宜増減するが、難治性又は重症感染症には、成人では１日４ｇ（力価）、小児では１日150mg（力価）／kgまで増量し、２～４回に分割投与する。

販売名	会社名
シオマリン静注用１ｇ	塩野義製薬㈱

65. 硫酸ゲンタマイシン　(6134)

(注射)

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	本剤感性の緑膿菌、変形菌、セラチアによる下記感染症およびブドウ球菌､大腸菌､クレブシェラ、エンテロバクターのうち、カナマイシンを含む多剤耐性菌で、ゲンタマイシン感性菌による下記感染症 　敗血症、創傷・熱傷及び手術後の二次感染、肺炎、腹膜炎、腎盂腎炎、膀胱炎、中耳炎	＜適応菌種＞ ゲンタマイシンに感性のブドウ球菌属､大腸菌、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、緑膿菌 ＜適応症＞ 敗血症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肺炎、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、中耳炎
用法・用量	通常、成人では硫酸ゲンタマイシンとして１日80～120mg（力価）を２～３回に分割して筋肉内注射または点滴静注する。小児では１回0.4～0.8mg（力価）／kgを１日２～３回筋肉内注射する。 点滴静注においては30分～２時間かけて注入する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
エルタシン注	富士製薬工業㈱	ゲンタシン注60	シェリング・プラウ㈱
ゲンタシン注	シェリング・プラウ㈱	ルイネシン注	マルコ製薬㈱
ゲンタシン注10	シェリング・プラウ㈱		

65. 硫酸ゲンタマイシン　（1317）

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能 ・ 効果	ブドウ球菌、溶血性レンサ球菌、肺炎球菌、緑膿菌、ヘモフィルス属（インフルエンザ菌、コッホ・ウィークス菌）による下記感染症 眼瞼炎、涙嚢炎、麦粒腫、結膜炎、角膜炎	＜適応菌種＞ ゲンタマイシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、インフルエンザ菌、ヘモフィルス・エジプチウス（コッホ・ウィークス菌）、緑膿菌 ＜適応症＞ 眼瞼炎、涙嚢炎、麦粒腫、結膜炎、角膜炎
用法 ・ 用量	通常、１回１～２滴、１日３～４回点眼する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
ゲンタシン点眼液	シェリング・プラウ㈱	リフタマイシン点眼液	わかもと製薬㈱
ゲンタロール点眼液	㈱日本点眼薬研究所	硫酸ゲンタマイシン点眼液Ｔ	日東メディック㈱

65. 硫酸ゲンタマイシン　（2634）

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能 ・ 効果	緑膿菌、変形菌、大腸菌、クレブシエラ・エロバクター菌、ブドウ球菌、レンサ球菌による下記諸症 1.膿痂疹 2.湿疹および類症、痤瘡、皮膚潰瘍などの二次感染の治療	＜適応菌種＞ ゲンタマイシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属（肺炎球菌を除く）、大腸菌、クレブシエラ属、エンテロバクター属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、緑膿菌 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、慢性膿皮症、びらん・潰瘍の二次感染
用法 ・ 用量	１日１～数回患部に塗布するか、あるいはガーゼなどにのばしたものを患部に貼布する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
エルタシン軟膏	富士製薬工業㈱	ゲンタシンクリーム	シェリング・プラウ㈱
ゲルナート軟膏0.1％	岩城製薬㈱	ゲンタシン軟膏	シェリング・プラウ㈱

66. 硫酸シソマイシン　(6134)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	シソマイシン感性の緑膿菌、変形菌、セラチアによる下記感染症および黄色ブドウ球菌、大腸菌、クレブシェラ、エンテロバクター、シトロバクターのうち、カナマイシンを含む多剤耐性菌で、シソマイシン感性菌による下記感染症 ・敗血症 ・術後創感染、創傷感染、熱傷感染 ・肺炎、気管支拡張症の感染時 ・肺化膿症、膿胸 ・腹膜炎 ・腎盂腎炎、膀胱炎	＜適応菌種＞ シソマイシンに感性の黄色ブドウ球菌､大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、緑膿菌 ＜適応症＞ 敗血症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎
用法・用量	通常、成人では硫酸シソマイシンとして１日100mg（力価）を２回に分割し、筋肉内注射または点滴静注する。 点滴静注においては１～２時間かけて注入する。 また、症状により、１日150mg（力価）まで増量し、２～３回に分割して筋肉内注射または点滴静注することができる。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
シセプチン注射液50mg	シェリング・プラウ㈱ －山之内製薬㈱	シセプチン注射液75mg	シェリング・プラウ㈱ －山之内製薬㈱

66. 硫酸シソマイシン　(1317)

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	シソマイシン感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、ヘモフィルス属（コッホ・ウイークス菌、インフルエンザ菌）、モラクセラ属（モラー・アクセンフェルド菌）、コリネバクテリウム属、緑膿菌、シュードモナス・プチダ、アシネトバクター属による下記感染症 結膜炎、眼瞼炎、麦粒腫、瞼板腺炎、涙嚢炎、角膜炎、角膜潰瘍	＜適応菌種＞ シソマイシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ・ラクナータ（モラー・アクセンフェルト菌）、コリネバクテリウム属、インフルエンザ菌、ヘモフィルス・エジプチウス(コッホ・ウィークス菌)、シュードモナス・プチダ、緑膿菌、アシネトバクター属 ＜適応症＞ 眼瞼炎、涙嚢炎、麦粒腫、結膜炎、瞼板腺炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む）
用法・用量	通常１回１～２滴、１日３～４回点眼する。なお、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
シセプチン点眼液	シェリング・プラウ㈱

67. 硫酸ジベカシン　(6134)

（注射（用時溶解注射剤））

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承認内容	再評価結果
効能・効果	緑膿菌、変形菌による下記感染症および肺炎桿菌、大腸菌、黄色ブドウ球菌のうち、カナマイシンを含む多剤耐性菌で、ジベカシン感受性菌による下記感染症 敗血症 膿瘍、癤・癤腫症、蜂窩織炎、扁桃炎、術後感染症 肺炎、気管支炎 腹膜炎、腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎 中耳炎	＜適応菌種＞ ジベカシンに感性の黄色ブドウ球菌、大腸菌、肺炎桿菌、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア・レットゲリ、緑膿菌 ＜適応症＞ 敗血症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、中耳炎
用法・用量	1.筋注の場合 通常、成人にはジベカシンとして、１日量100mg（力価）を１～２回に分け、小児にはジベカシンとして、１日量１～２mg(力価)／kgを１～２回に分け､それぞれ筋肉内注射する。 2.点滴静注の場合 通常、成人にジベカシンとして、１日量100mg（力価）を２回に分け、100～300mlの補液中に溶解し、30分～１時間かけて点滴静注する。 なお、１、２いずれの場合も年齢、症状により適宜増減する。	［筋注の場合］ 通常、成人にはジベカシンとして、１日量100mg（力価）を１～２回に分け、小児にはジベカシンとして、１日量１～２ mg(力価)／ kgを１～２回に分け、それぞれ筋肉内注射する。 ［点滴静注の場合］ 通常、成人にジベカシンとして、１日量100mg（力価）を２回に分け､100～300mLの補液中に溶解し、30分～１時間かけて点滴静注する。 なお、いずれの場合も年齢、症状により適宜増減する。

販売名	会社名
注射用パニマイシン	明治製菓㈱

67. 硫酸ジベカシン　(6134)

（注射（注射液））

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承認内容	再評価結果
効能・効果	緑膿菌、変形菌による下記感染症および肺炎桿菌、大腸菌、黄色ブドウ球菌のうち、カナマイシンを含む多剤耐性菌で、ジベカシン感受性菌による下記感染症 敗血症 膿瘍、癤・癤腫症、蜂窩織炎、扁桃炎、術後感染症 肺炎、気管支炎 腹膜炎、腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎 中耳炎	＜適応菌種＞ ジベカシンに感性の黄色ブドウ球菌、大腸菌、肺炎桿菌、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア・レットゲリ、緑膿菌 ＜適応症＞ 敗血症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、中耳炎
用法・用量	1.筋注の場合 通常、成人にはジベカシンとして、１日量100mg（力価）を１～２回に分け、小児にはジベカシンとして、１日量１～２mg(力価)／kgを１～２回に分け、それぞれ筋肉内注射する。 2.点滴静注の場合 通常、成人にジベカシンとして、１日量100mg（力価）を２回に分け、100～300mlの補液で希釈し、30分～１時間かけて点滴静注する。 なお、１、２いずれの場合も年齢、症状により適宜増減する。	［筋注の場合］ 通常、成人にはジベカシンとして、１日量100mg（力価）を１～２回に分け、小児にはジベカシンとして、１日量１～２ mg(力価)／ kgを１～２回に分け、それぞれ筋肉内注射する。 ［点滴静注の場合］ 通常、成人にジベカシンとして、１日量100mg（力価）を２回に分け、100～300mLの補液で希釈し、30分～１時間かけて点滴静注する。 なお、いずれの場合も年齢、症状により適宜増減する。

販売名	会社名
パニマイシン注射液	明治製菓㈱

67. 硫酸ジベカシン　(1317)

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承認内容	再評価結果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、アシネトバクター属、ヘモフィルス属（コッホ・ウィークス菌）、モラクセラ属（モラー・アクセンフェルド菌）、緑膿菌のうちジベカシン感性菌による下記感染症 眼瞼炎、麦粒腫、瞼板腺炎、涙嚢炎、結膜炎、角膜炎	＜適応菌種＞ ジベカシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ・ラクナータ（モラー・アクセンフェルト菌）、ヘモフィルス・エジプチウス（コッホ・ウィークス菌）、緑膿菌、アシネトバクター属 ＜適応症＞ 眼瞼炎、涙嚢炎、麦粒腫、結膜炎、瞼板腺炎、角膜炎
用法・用量	通常、１回２滴、１日４回点眼する。なお、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
パニマイシン点眼液	明治製菓㈱

69. 硫酸セフピロム　(6132)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、エンテロコッカス・フェカーリス、ペプトストレプトコッカス属、ブランハメラ属、大腸菌、シトロバクター属、クレブシェラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ属、プロビデンシア属、シュードモナス属、インフルエンザ菌、アシネトバクター属、バクテロイデス属のうち本剤感性菌による下記感染症 ●敗血症、感染性心内膜炎 ●蜂巣炎、リンパ管(節)炎 ●肛門周囲膿瘍、外傷・手術創などの(表在性)二次感染 ●咽喉頭炎、急性気管支炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍)、慢性気管支炎、気管支拡張症(感染時)、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎、肺化膿症、膿胸 ●腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎 ●胆のう炎、胆管炎、肝膿瘍 ●腹膜炎 ●骨盤腹膜炎、ダグラス窩膿瘍 ●子宮付属器炎、子宮内感染、子宮旁結合織炎、バルトリン腺炎 ●髄膜炎	＜適応菌種＞ セフピロムに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、エンテロコッカス・フェカーリス、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、緑膿菌、バークホルデリア・セパシア、アシネトバクター属、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属 ＜適応症＞ 敗血症、感染性心内膜炎、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肛門周囲膿瘍、咽頭・喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む）、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎
用法・用量	通常、成人には硫酸セフピロムとして１日１～２ｇ（力価）を２回に分けて静脈内に注射する。なお、難治性又は重症感染症には症状に応じて１日４ｇ（力価）まで増量し、２～４回に分割投与する。 通常、小児には硫酸セフピロムとして１日60～80mg（力価）／kgを３～４回に分けて静脈内に注射するが、年齢・症状に応じ適宜増減する。なお、難治性又は重症感染症には160mg（力価）／kgまで増量し、３～４回に分割投与するが、髄膜炎には１日200mg（力価）／kgまで増量できる。 静脈内注射に際しては、日局注射用水、日局生理食塩液又は日局ブドウ糖注射液に溶解し、緩徐に投与する。また、点滴静注に際しては、日局生理食塩液、日局ブドウ糖注射液又は補液に溶解する。	通常、成人には硫酸セフピロムとして１日１～２ｇ（力価）を２回に分けて静脈内に注射する。なお、難治性又は重症感染症には症状に応じて１日４ｇ（力価）まで増量し、２～４回に分割投与する。 通常、小児には硫酸セフピロムとして１日60～80mg（力価）／kgを３～４回に分けて静脈内に注射するが、年齢、症状に応じ適宜増減する。 なお、難治性又は重症感染症には160mg（力価）／kgまで増量し、３～４回に分割投与するが、化膿性髄膜炎には１日200mg（力価）／kgまで増量できる。 静脈内注射に際しては、日局注射用水、日局生理食塩液又は日局ブドウ糖注射液に溶解し、緩徐に投与する。また、点滴静注に際しては、日局生理食塩液、日局ブドウ糖注射液又は補液に溶解する。

販売名	会社名	販売名	会社名
ケイテン静注用0.5g	静岡フジサワ㈱ －藤沢薬品工業㈱	ブロアクト静注用0.5g	アベンティス ファーマ㈱ －塩野義製薬㈱
ケイテン静注用１ｇ	静岡フジサワ㈱ －藤沢薬品工業㈱	ブロアクト静注用１ｇ	アベンティス ファーマ㈱ －塩野義製薬㈱

70. 硫酸ネチルマイシン　（6134）

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	硫酸ネチルマイシン感性のセラチア属、プロテウス属、緑膿菌による下記感染症およびブドウ球菌属、大腸菌、シトロバクター属、クレブシェラ属、エンテロバクター属のうち、カナマイシンを含む多剤耐性で、硫酸ネチルマイシン感性菌による下記感染症 敗血症 感染性褥創、肛門周囲膿瘍 外傷・熱傷・手術創の二次感染 気管支拡張症の感染時 肺炎、肺化膿症 腎盂腎炎、膀胱炎 腹膜炎	＜適応菌種＞ ネチルマイシンに感性のブドウ球菌属、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、緑膿菌 ＜適応症＞ 敗血症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん・潰瘍の二次感染、肛門周囲膿瘍、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎
用法・用量	通常、成人に硫酸ネチルマイシンとして１日150～200㎎（力価）を２回に分割し、筋肉内注射する。 なお、年令、症状により適宜増減する。	通常、成人に硫酸ネチルマイシンとして１日150～200mg（力価）を２回に分割し、筋肉内注射する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。

販売名	会社名	販売名	会社名
ネチリン注射液75mg	三共㈱	ベクタシン注射液75mg	シェリング・プラウ㈱
ネチリン注射液100mg	三共㈱	ベクタシン注射液100mg	シェリング・プラウ㈱

71. 硫酸ベカナマイシン　(6134)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ブドウ球菌、連サ球菌、肺炎球菌、大腸菌、変形菌、緑膿菌等のベカナマイシン感受性菌による下記疾患。 敗血症、扁桃炎、咽頭炎、膿皮症、膿痂疹、癤・癤腫症、膿瘍、蜂窩織炎、麦粒腫、涙嚢炎、眼瞼炎、智歯周囲炎、歯槽膿漏症、骨髄炎、骨膜炎、肺炎、気管支炎、肺化膿症、膿胸、腹膜炎、大腸炎、胆嚢炎、胆道炎、腎盂腎炎、膀胱炎、尿路感染症、中耳炎。	＜適応菌種＞ ベカナマイシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、エンテロコッカス・フェカーリス、大腸菌、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア・レットゲリ、緑膿菌 ＜適応症＞ 敗血症、表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、感染性腸炎、涙嚢炎、中耳炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎
用法・用量	通常、成人は１日量硫酸ベカナマイシンとして400～600mg（力価）を２～３回に分けて筋肉内注射する。 また、小児・乳幼児は１日量体重１kg当り硫酸ベカナマイシンとして10～20mg（力価）を２回に分けて筋肉内注射する。 なお、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
カネンドマイシン注射液	明治製菓㈱

72. 硫酸ミクロノマイシン　(6134)

(注射)

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承認内容	再評価結果
効能・効果	硫酸ミクロノマイシン感性の緑膿菌、プロテウス属、セラチア属による下記感染症および大腸菌、クレブシエラ属、エンテロバクター属、ブドウ球菌属のうち、カナマイシンを含む多剤耐性で、硫酸ミクロノマイシン感性菌による下記感染症 敗血症、気管支炎、気管支拡張症の感染時、肺炎、腹膜炎、腎盂腎炎、膀胱炎	＜適応菌種＞ ミクロノマイシンに感性のブドウ球菌属、大腸菌、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、緑膿菌 ＜適応症＞ 敗血症、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎
用法・用量	通常、成人に硫酸ミクロノマイシンとして、腎盂腎炎および膀胱炎には、１回120mg（力価）を１日２回、その他の感染症には、１回60mg（力価）を１日２～３回筋肉内注射または点滴静注する。 点滴静注においては30分～１時間かけて注入する。 なお、年令、体重、症状により適宜増減する。	通常、成人に硫酸ミクロノマイシンとして、腎盂腎炎および膀胱炎には、１回120mg（力価）を１日２回、その他の感染症には、１回60mg（力価）を１日２～３回筋肉内注射または点滴静注する。 点滴静注においては30分～１時間かけて注入する。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

販売名	会社名	販売名	会社名
サガミシン注60	協和醱酵工業㈱	サガミシン注120	協和醱酵工業㈱

72. 硫酸ミクロノマイシン　(1317)

(外用)

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承認内容	再評価結果
効能・効果	硫酸ミクロノマイシン感性のブドウ球菌、溶血レンサ球菌、肺炎球菌、アシネトバクター、コッホ・ウィークス菌、モラー・アクセンフェルド菌、緑膿菌による下記感染症 眼瞼炎、麦粒腫、涙嚢炎、結膜炎、角膜炎	＜適応菌種＞ ミクロノマイシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ・ラクナータ（モラー・アクセンフェルト菌）、ヘモフィルス・エジプチウス（コッホ・ウィークス菌）、緑膿菌、アシネトバクター属 ＜適応症＞ 眼瞼炎、涙嚢炎、麦粒腫、結膜炎、角膜炎
用法・用量	通常、１回１～２滴、１日３～４回点眼する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
サンテマイシン点眼液	参天製薬㈱

73. 硫酸リボスタマイシン　(6134)

(注射)

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ブドウ球菌、レンサ球菌、肺炎球菌、淋菌、肺炎桿菌、大腸菌、変形菌のうちリボスタマイシン感受性菌による下記感染症。 菌血症、気管支炎、肺炎、肺化膿症、膿胸、リンパ節（管）炎、リンパ腺炎、胆のう炎、腹膜炎、骨髄炎、癤・癤腫症、毛包炎、瘭疽、感染性粉瘤、膿瘍、蜂窠織炎、腎盂腎炎、膀胱炎、淋疾、麦粒腫、涙のう炎、角膜浸潤・潰瘍、中耳炎、副鼻腔炎、扁桃炎、咽頭炎、顎骨骨膜炎	＜適応菌種＞ リボスタマイシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、大腸菌、肺炎桿菌、プロテウス属 ＜適応症＞ 敗血症、表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、骨髄炎、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、淋菌感染症、腹膜炎、胆嚢炎、涙嚢炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む）、中耳炎、副鼻腔炎、顎炎
用法・用量	通常、成人はリボスタマイシンとして１日量1.0g（力価）を１～２回に分け、小児・乳幼児はリボスタマイシンとして１日量20～40mg（力価）／kgを１～２回に分け、それぞれ筋肉内に注射する。 なお、年令・症状により適宜増減する。	通常、成人はリボスタマイシンとして１日量1.0g（力価）を１～２回に分け、小児・乳幼児はリボスタマイシンとして１日量20～40mg（力価）／kgを１～２回に分け、それぞれ筋肉内に注射する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。

販売名	会社名
ビスタマイシン注射液	明治製菓㈱

74. アジスロマイシン水和物　(6149)

(内用)

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	アジスロマイシン感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、インフルエンザ菌、マイコプラズマ属、クラミジア・ニューモニエによる下記感染症 ・咽喉頭炎（咽喉膿瘍）、急性気管支炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍）、肺炎、肺化膿症 ・中耳炎（含、乳様突起炎、錐体尖端炎）	＜適応菌種＞ アジスロマイシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、インフルエンザ菌、肺炎クラミジア（クラミジア・ニューモニエ）、マイコプラズマ属 ＜適応症＞ 咽頭･喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む）、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、中耳炎
用法・用量	小児には、体重１kgあたり10mg（力価）を１日１回、３日間経口投与する。 ただし、１日量は成人の最大投与量500mg（力価）を超えないものとする。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
ジスロマックカプセル小児用100mg	ファイザー㈱	ジスロマック細粒小児用	ファイザー㈱

74. アジスロマイシン水和物　(6149)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	アジスロマイシン感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属、マイコプラズマ属、クラミジア・ニューモニエ、クラミジア・トラコマティスによる下記感染症 ・せつ、癤腫症、よう、丹毒、蜂巣炎、リンパ管（節）炎、ひょう疽、化膿性爪囲炎 ・咽喉頭炎（咽喉膿瘍）、急性気管支炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍）、慢性気管支炎、気管支拡張症（感染時）、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎、肺化膿症 ・尿道炎 ・子宮頸管炎 ・副鼻腔炎 ・歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎	＜適応菌種＞ アジスロマイシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属、クラミジア属、マイコプラズマ属 ＜適応症＞ 深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む）、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、尿道炎、子宮頸管炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎
用法・用量	成人にはアジスロマイシンとして、500mg（力価）を１日１回、３日間合計1.5g（力価）を経口投与する。 クラミジア・トラコマティスによる尿道炎、子宮頸管炎に対しては、成人にはアジスロマイシンとして、1000mg（力価）を１回経口投与する。	成人にはアジスロマイシンとして、500mg（力価）を１日１回、３日間合計1.5g（力価）を経口投与する。 尿道炎、子宮頸管炎に対しては、成人にはアジスロマイシンとして、1000mg（力価）を１回経口投与する。

販売名	会社名
ジスロマック錠250mg	ファイザー㈱

74. アジスロマイシン水和物　(6149)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再評価結果
効能・効果	進行したHIV感染者における播種性マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス（MAC）症の発症抑制及び治療	<適応菌種> マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス（MAC） <適応症> 後天性免疫不全症候群（エイズ）に伴う播種性マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス(MAC)症の発症抑制及び治療
用法・用量	発症抑制：成人にはアジスロマイシンとして、1200mg（力価）を週１回経口投与する。 治療：成人にはアジスロマイシンとして、600mg（力価）を１日１回経口投与する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
ジスロマック錠600mg	ファイザー㈱

75. アセチルスピラマイシン　(6142)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再評価結果
効能・効果	ブドウ球菌、連鎖球菌、肺炎球菌、梅毒トレポネーマのうち本剤感性菌による下記感染症 よう、癤、癤腫症、膿痂疹、瘭疽、蜂巣炎、感染性粉瘤、毛のう炎、リンパ節炎、乳腺炎、骨髄炎、創傷・熱傷及び手術後の二次感染、咽頭炎、扁桃炎、気管支炎、気管支拡張症の感染時、肺炎、肺化膿症、胆のう炎、猩紅熱、子宮付属器炎、麦粒腫、急性涙のう炎、中耳炎、梅毒	<適応菌種> スピラマイシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、梅毒トレポネーマ <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管･リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、梅毒、子宮付属器炎、涙嚢炎、麦粒腫、中耳炎、猩紅熱
用法・用量	通常、成人にはアセチルスピラマイシンとして１回200mg（力価）を１日４～６回経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
アセチルスピラマイシン錠協和	協和醗酵工業㈱

76. エチルコハク酸エリスロマイシン　(6141)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再評価結果
効能・効果	ブドウ球菌、マイコプラズマ、連鎖球菌、肺炎球菌、髄膜炎菌、淋菌、ジフテリア菌、梅毒トレポネーマのうち本剤感性菌による下記感染症 よう、癤、膿痂疹、蜂巣炎、丹毒、リンパ節炎、乳腺炎、骨髄炎、創傷・熱傷及び手術後の二次感染、咽頭炎、扁桃炎、気管支炎、肺炎、肺化膿症、膿胸、尿道炎、腎盂腎炎、淋疾、猩紅熱、百日咳、子宮内感染、トラコーマ、中耳炎、梅毒、ジフテリア	<適応菌種> エリスロマイシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、髄膜炎菌、ジフテリア菌、百日咳菌、梅毒トレポネーマ、トラコーマクラミジア（クラミジア・トラコマティス）、マイコプラズマ属 <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、腎盂腎炎、尿道炎、淋菌感染症、梅毒、子宮内感染、中耳炎、猩紅熱、ジフテリア、百日咳
用法・用量	通常、成人にはエリスロマイシンとして１日800～1200㎎（力価）を４～６回に分割経口投与する。 小児には１日体重１kgあたり25～50㎎（力価）を４～６回に分割経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。ただし、小児用量は成人量を上限とする。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
エシノールドライシロップ	富山化学工業㈱ －大正富山医薬品㈱	エリスロシンドライシロップ10%	大日本製薬㈱
エシノールドライシロップ200	富山化学工業㈱ －大正富山医薬品㈱	エリスロシンドライシロップ W20%	大日本製薬㈱
エリスロシン W 顆粒20%	大日本製薬㈱	タカスノンドライシロップ	高田製薬㈱

77. エリスロマイシン　(6141)

(内用)

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承認内容	再評価結果
効能・効果	ブドウ球菌、マイコプラズマ、連鎖球菌、肺炎球菌、髄膜炎菌、淋菌、ジフテリア菌、梅毒トレポネーマのうち本剤感性菌による下記感染症 よう、癤、膿痂疹、痤瘡感染、蜂巣炎、瘭疽、丹毒、鼠径リンパ肉芽腫、皮下膿瘍、リンパ節炎、乳腺炎、骨膜炎、骨髄炎、創傷・熱傷及び手術後の二次感染、咽頭炎、喉頭炎、扁桃炎、扁桃周囲炎、気管支炎、気管支拡張症の感染時、肺炎、原発性非定型肺炎、肺化膿症、膿胸、尿道炎、膀胱炎、腎盂腎炎、淋疾、胆のう胆管炎、細菌性赤痢、アメーバ赤痢、猩紅熱、百日咳、子宮内感染、子宮付属器炎、麦粒腫、急性涙のう炎、トラコーマ、外耳炎、中耳炎、乳様突起炎、副鼻腔炎、智歯周囲炎、梅毒、軟性下疳、ジフテリア、破傷風、ガス壊疽	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、髄膜炎菌、ジフテリア菌、赤痢菌、軟性下疳菌、百日咳菌、破傷風菌、ガス壊疽菌群、梅毒トレポネーマ、トラコーマクラミジア（クラミジア・トラコマティス)、マイコプラズマ属、赤痢アメーバ ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎を含む)、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、尿道炎、淋菌感染症、軟性下疳、梅毒、性病性（鼠径）リンパ肉芽腫、感染性腸炎、子宮内感染、子宮付属器炎、涙嚢炎、麦粒腫、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯冠周囲炎、猩紅熱、ジフテリア、百日咳、破傷風、ガス壊疽、アメーバ赤痢
用法・用量	通常、成人にはエリスロマイシンとして１日800～1200mg（力価）を４～６回に分割経口投与する。 小児には１日体重１kgあたり25～50mg（力価）を４～６回に分割経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。ただし、小児用量は成人量を上限とする。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
エリスロマイシン錠「サワイ」	沢井製薬㈱	エリスロマイシン錠トヤマ	富山化学工業㈱ －大正富山医薬品㈱

77. エリスロマイシン　(2634)

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ブドウ球菌、連鎖球菌、コリネバクテリウム属菌、ジュクレイ菌のうち本剤感性菌による下記感染症 膿痂疹、毛のう炎、よう、癤、その他の慢性膿皮症、外傷・熱傷・その他の疾患によるびらん・潰瘍及び術後の二次感染並びにこれらの感染予防、軟性下疳	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属（肺炎球菌を除く）、コリネバクテリウム属、軟性下疳菌 <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん・潰瘍の二次感染、軟性下疳
用法・用量	通常、症状により適量を１日１～数回、直接患部に塗布または無菌ガーゼにのばして貼付する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
エリスロシン軟膏１％	大日本製薬㈱

77. エリスロマイシン　(1317)

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	トラコーマ病原体、ブドウ球菌、連鎖球菌、肺炎球菌、淋菌、モラー・アクセンフェルド菌、コッホ・ウィークス菌のうち本剤感性菌による下記感染症 トラコーマ、結膜炎（流行性角結膜炎を含む。）、麦粒腫、眼瞼炎（眼瞼縁炎を含む。）、角膜潰瘍、涙のう炎	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、モラクセラ・ラクナータ（モラー・アクセンフェルト菌）、ヘモフィルス・エジプチウス（コッホ・ウィークス菌）、トラコーマクラミジア（クラミジア・トラコマティス） <適応症> 眼瞼炎、涙嚢炎、麦粒腫、結膜炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む）
用法・用量	0.5％眼軟膏として通常、適量を１日１～数回塗布する。なお、症状により適宜回数を増減する。	0.5％眼軟膏として通常、適量を１日１～数回塗布する。 なお、症状により適宜回数を増減する。

販売名	会社名
エリスリット眼軟膏	㈱日本点眼薬研究所

78. キタサマイシン　(6143)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ブドウ球菌、マイコプラズマ、連鎖球菌(腸球菌を除く)、肺炎球菌、ジフテリア菌、百日咳菌、梅毒トレポネーマのうち本剤感性菌による下記感染症 よう、癤、蜂巣炎、瘭疽、膿痂疹、膿皮症、扁桃炎、咽頭炎、気管支炎、肺炎、膿胸、百日咳、ジフテリア、猩紅熱、つつが虫病、胆のう炎、中耳炎、梅毒	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、ジフテリア菌、百日咳菌、梅毒トレポネーマ、リケッチア属(オリエンチア・ツツガムシ)、マイコプラズマ属 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、梅毒、中耳炎、猩紅熱、ジフテリア、百日咳、つつが虫病
用法・用量	通常、成人にはキタサマイシンとして１回200～400mg（力価）を１日３～４回経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
ロイコマイシン錠〈200mg〉	旭化成ファーマ㈱

79. クラリスロマイシン　(6149)

（内用（50mg 錠　ドライシロップ））

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	クラリスロマイシン感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属(腸球菌を除く)、ブランハメラ・カタラリス、インフルエンザ菌、百日咳菌、カンピロバクター属、マイコプラズマ属、クラミジア属による下記感染症 ・毛のう炎、丹毒、蜂巣炎、リンパ管(節)炎、ひょう疽、化膿性爪囲炎、皮下膿瘍、汗腺炎、集簇性ざ瘡、感染性粉瘤、慢性膿皮症、外傷・熱傷・手術創などの表在性二次感染 ・咽喉頭炎、急性気管支炎、扁桃炎、慢性気管支炎、肺炎、肺化膿症 ・カンピロバクター腸炎 ・猩紅熱 ・百日咳 ・中耳炎、副鼻腔炎 後天性免疫不全症候群(エイズ)に伴う播種性マイコバクテリア感染症	１．一般感染症 ＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、インフルエンザ菌、百日咳菌、カンピロバクター属、クラミジア属、マイコプラズマ属 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、感染性腸炎、中耳炎、副鼻腔炎、猩紅熱、百日咳 ２．後天性免疫不全症候群(エイズ)に伴う播種性マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス(MAC)症

		＜適応菌種＞ 本剤に感性のマイコバクテリウム・アビウムコンプレックス（MAC） ＜適応症＞ 後天性免疫不全症候群（エイズ）に伴う播種性マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス（MAC）症
用法・用量	通常、小児にはクラリスロマイシンとして１日体重１kgあたり10～15mg（力価）を２～３回に分けて経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。 後天性免疫不全症候群（エイズ）に伴う播種性マイコバクテリア感染症 通常、小児にはクラリスロマイシンとして１日体重１kgあたり15mg（力価）を２回に分けて経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。また、*in vitro* で *Mycobacterium avium complex* に対して抗菌力を示す他の抗菌薬を併用することが望ましい。	１．一般感染症 錠：通常、小児にはクラリスロマイシンとして１日体重１ kg あたり10～15mg（力価）を２～３回に分けて経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。 ドライシロップ：用時懸濁し、通常、小児にはクラリスロマイシンとして１日体重１ kg あたり10～15mg（力価）を２～３回に分けて経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。 ２．後天性免疫不全症候群（エイズ）に伴う播種性マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス（MAC）症 錠：通常、小児にはクラリスロマイシンとして１日体重１ kg あたり15mg（力価）を２回に分けて経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。 ドライシロップ：用時懸濁し、通常、小児にはクラリスロマイシンとして１日体重１ kg あたり15mg（力価）を２回に分けて経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。 また、いずれの場合にも、*in vitro* でマイコバクテリウム・アビウムコンプレックス（MAC）に対して抗菌力を示す他の抗菌薬を併用することが望ましい。

販売名	会社名	販売名	会社名
クラリシッド錠50mg小児用	アボット ジャパン㈱ －大日本製薬㈱	クラリス錠50小児用	大正製薬㈱ －大正富山医薬品㈱
クラリシッド・ドライシロップ小児用	アボット ジャパン㈱ －大日本製薬㈱	クラリスドライシロップ小児用	大正製薬㈱ －大正富山医薬品㈱

79. クラリスロマイシン　(6149)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	クラリスロマイシン感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属(腸球菌を除く)、ペプトストレプトコッカス属、ブランハメラ・カタラリス、インフルエンザ菌、カンピロバクター属、マイコプラズマ属、クラミジア属による下記感染症 ・毛のう炎、せつ、せつ腫症、よう、丹毒、蜂巣炎、リンパ管(節)炎、ひょう疽、化膿性爪囲炎、皮下膿瘍、汗腺炎、集簇性ざ瘡、感染性粉瘤、慢性膿皮症、肛門周囲膿瘍、外傷・熱傷・手術創などの表在性二次感染 ・咽喉頭炎、急性気管支炎、扁桃炎、慢性気管支炎、びまん性汎細気管支炎、気管支拡張症(感染時)、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎、肺化膿症 ・非淋菌性尿道炎 ・カンピロバクター腸炎 ・子宮頸管炎 ・中耳炎、副鼻腔炎 ・歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎 後天性免疫不全症候群(エイズ)に伴う播種性マイコバクテリア感染症 胃潰瘍又は十二指腸潰瘍におけるヘリコバクター・ピロリ感染	１．一般感染症 ＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ（ブランハメラ)・カタラーリス、インフルエンザ菌、カンピロバクター属、ペプトストレプトコッカス属、クラミジア属、マイコプラズマ属 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肛門周囲膿瘍、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、尿道炎、子宮頸管炎、感染性腸炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎 ２．後天性免疫不全症候群(エイズ)に伴う播種性マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス(MAC)症 ＜適応菌種＞ 本剤に感性のマイコバクテリウム・アビウムコンプレックス（MAC） ＜適応症＞ 後天性免疫不全症候群(エイズ)に伴う播種性マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス(MAC)症 ３．胃潰瘍・十二指腸潰瘍におけるヘリコバクター・ピロリ感染 ＜適応菌種＞ 本剤に感性のヘリコバクター・ピロリ ＜適応症＞ 胃潰瘍・十二指腸潰瘍におけるヘリコバクター・ピロリ感染症
	通常、成人にはクラリスロマイシンとして１日400mg（力価）を２回に分けて経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。 後天性免疫不全症候群（エイズ）に伴う播種性マイコバクテリア感染症 通常、成人にはクラリスロマイシンとして１日800mg（力価）を２回に分けて経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。また、*in vitro* で *Mycobacterium avium complex* に対して抗菌力を示す他の抗菌薬を併用することが望ましい。 胃潰瘍又は十二指腸潰瘍におけるヘリコバクター・ピロリ感染	１．一般感染症 通常、成人にはクラリスロマイシンとして１日400mg（力価）を２回に分けて経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。 ２．後天性免疫不全症候群(エイズ)に伴う播種性マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス(MAC)症 通常、成人にはクラリスロマイシンとして１日800mg（力価）を２回に分けて経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。また、*in vitro* でマイコバクテリウム・アビウムコンプレックス(MAC)に対して抗菌力を示す他の抗菌薬を併用することが望ましい。

用法・用量	（クラリスロマイシン、アモキシシリン及びランソプラゾール併用の場合） 通常、成人にはクラリスロマイシンとして１回200mg（力価）、アモキシシリンとして１回750mg（力価）及びランソプラゾールとして１回30mgの３剤を同時に１日２回、７日間経口投与する。なお、クラリスロマイシンは、必要に応じて適宜増量することができる。ただし、１回400mg（力価）１日２回を上限とする。 （クラリスロマイシン、アモキシシリン及びオメプラゾール併用の場合） 通常、成人にはクラリスロマイシンとして１回400mg（力価）、アモキシシリンとして１回750mg（力価）及びオメプラゾールとして１回20mgの３剤を同時に１日２回、７日間経口投与する。	３．胃潰瘍・十二指腸潰瘍におけるヘリコバクター・ピロリ感染症 ◯クラリスロマイシン、アモキシシリン及びランソプラゾール併用の場合 通常、成人にはクラリスロマイシンとして１回200mg（力価）、アモキシシリンとして１回750mg（力価）及びランソプラゾールとして１回30mgの３剤を同時に１日２回、７日間経口投与する。なお、クラリスロマイシンは、必要に応じて適宜増量することができる。ただし、１回400mg（力価）１日２回を上限とする。 ◯クラリスロマイシン、アモキシシリン及びオメプラゾール併用の場合 通常、成人にはクラリスロマイシンとして１回400mg（力価）、アモキシシリンとして１回750mg（力価）及びオメプラゾールとして１回20mgの３剤を同時に１日２回、７日間経口投与する。

販売名	会社名	販売名	会社名
クラリシッド錠200mg	アボット ジャパン㈱ －大日本製薬㈱	クラリス錠200	大正製薬㈱ －大正富山医薬品㈱

80. 酒石酸キタサマイシン　（6143）

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	ブドウ球菌、マイコプラズマ、連鎖球菌（腸球菌を除く）、肺炎球菌、ジフテリア菌のうち本剤感性菌による下記感染症 (1)扁桃炎、咽頭炎、肺炎、膿胸、ジフテリア、猩紅熱、胆のう炎 (2)ペニシリン系抗生剤を使用不能な場合の細菌性心内膜炎、敗血症	＜適応菌種＞ キタサマイシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、ジフテリア菌、マイコプラズマ属 ＜適応症＞ 敗血症、感染性心内膜炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、肺炎、膿胸、胆嚢炎、猩紅熱、ジフテリア
用法・用量	通常、成人には酒石酸キタサマイシンとして１回200mg（力価）を１日２回、少なくとも５分以上かけて徐々に静脈内注射する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
静注用ロイコマイシン	旭化成ファーマ㈱

81. ジョサマイシン　(6145)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ジョサマイシン感性のブドウ球菌、レンサ球菌、肺炎球菌、赤痢菌及びマイコプラズマによる下記感染症 敗血症 毛のう炎、膿皮症、痤瘡、癤、癤腫症、よう、蜂窠織炎、膿瘍、瘭疽、感染性粉瘤、咽喉頭炎、扁桃炎 涙のう炎、麦粒腫、眼瞼炎 術後感染、熱傷後感染、創傷感染 乳腺炎、リンパ管（節）炎、唾液腺炎、副睾丸炎、精のう腺炎 歯科領域における次の感染症：骨膜炎、歯根膜炎、歯槽骨炎、智歯周囲炎、上顎洞炎、関節炎、顎炎、歯槽膿瘍 急慢性気管支炎、気管支拡張症、肺炎、気管支肺炎、原発性非定型肺炎 細菌性赤痢 尿道炎、膀胱炎 猩紅熱 中耳炎、副鼻腔炎	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、赤痢菌、マイコプラズマ属 <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、精巣上体炎（副睾丸炎）、感染性腸炎、涙嚢炎、麦粒腫、中耳炎、副鼻腔炎、化膿性唾液腺炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、上顎洞炎、顎炎、猩紅熱
用法・用量	通常、成人の場合は、１日量をジョサマイシンとして800～1200mg（力価）とし、３～４回に分けて経口投与する。小児の場合は１日量を体重１kg当り30mgとし３～４回に分けて経口投与する。また、年齢、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
ジョサマイシン錠	山之内製薬㈱＝マルコ製薬㈱	ジョサレット錠	昭和薬品化工㈱

82. ステアリン酸エリスロマイシン　(6141)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ブドウ球菌、マイコプラズマ、連鎖球菌、肺炎球菌、髄膜炎菌、淋菌、ジフテリア菌、梅毒トレポネーマのうち本剤感性菌による下記感染症 よう、癤、膿痂疹、蜂巣炎、丹毒、リンパ節炎、乳腺炎、骨髄炎、扁桃炎、肺炎、肺化膿症、膿胸、尿道炎、腎盂腎炎、淋疾、猩紅熱、百日咳、子宮内感染、トラコーマ、中耳炎、智歯周囲炎、梅毒、軟性下疳、ジフテリア、破傷風	＜適応菌種＞ エリスロマイシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、髄膜炎菌、ジフテリア菌、軟性下疳菌、百日咳菌、破傷風菌、梅毒トレポネーマ、トラコーマクラミジア（クラミジア・トラコマティス）、マイコプラズマ属 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、乳腺炎、骨髄炎、扁桃炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、腎盂腎炎、尿道炎、淋菌感染症、軟性下疳、梅毒、子宮内感染、中耳炎、歯冠周囲炎、猩紅熱、ジフテリア、百日咳、破傷風
用法・用量	通常、成人にはエリスロマイシンとして１日800～1200mg（力価）を４～６回に分割経口投与する。 小児には１日体重１kgあたり25～50mg（力価）を４～６回に分割経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。ただし、小児用量は成人量を上限とする。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
エリスロシン錠100mg	大日本製薬㈱	タカスノン錠200	高田製薬㈱
エリスロシン錠200mg	大日本製薬㈱		

83. プロピオン酸ジョサマイシン　(6145)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再評価結果
効能・効果	ジョサマイシン感性のブドウ球菌、溶血レンサ球菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌及びマイコプラズマによる下記感染症 膿皮症、膿痂疹、癤、よう、膿瘍、蜂窠織炎、咽喉頭炎、扁桃炎、アンギーナ、急性上気道炎、外耳炎、歯肉炎、眼瞼炎、涙のう炎、急慢性気管支炎、肺炎、気管支肺炎、原発性非定型肺炎、猩紅熱、中耳炎、副鼻腔炎、歯科領域における次の感染症（骨膜炎、歯根膜炎、歯槽骨炎、智歯周囲炎、上顎洞炎、関節炎、顎炎、歯槽膿瘍、歯齦膿瘍）	＜適応菌種＞ ジョサマイシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、インフルエンザ菌、マイコプラズマ属 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、涙嚢炎、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、上顎洞炎、顎炎、猩紅熱
用法・用量	通常、幼小児には、１日量体重１kg当りジョサマイシンとして30mg（力価）を３～４回に分けて経口投与する。但し、症状により適宜増減する。	通常、幼小児には、１日量体重１ kg 当りジョサマイシンとして30mg（力価）を３～４回に分けて経口投与する。ただし、症状により適宜増減する。

販売名	会社名	販売名	会社名
ジョサマイシロップ	山之内製薬㈱＝マルコ製薬㈱	ジョサママレット・シロップ用	昭和薬品化工㈱
ジョサマイドライシロップ	山之内製薬㈱＝マルコ製薬㈱		

84. ミデカマイシン　(6146)

(内用)

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能 ・ 効果	ブドウ球菌、レンサ球菌、肺炎球菌、マイコプラズマのミデカマイシン感性菌による下記感染症 咽頭炎、喉頭炎、扁桃炎、気管支炎、気管支拡張症の感染時、肺炎、肺化膿症、原発性非定型肺炎 癤、よう、膿痂疹、皮下膿瘍、蜂窠織炎、瘭疽、感染性粉瘤、丹毒 乳腺炎、リンパ節炎、骨髄炎 膀胱炎、尿道炎 麦粒腫、涙のう炎 中耳炎、副鼻腔炎 歯槽骨炎、智歯周囲炎、歯槽膿瘍、歯肉膿瘍、歯根膜炎、顎骨骨膜炎、嚢胞感染症、抜歯後感染	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニエ) ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、乳腺炎、骨髄炎、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、涙嚢炎、麦粒腫、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎、抜歯創・口腔手術創の二次感染
用法 ・ 用量	通常、成人は１日量ミデカマイシンとして800～1,200mg(力価)を、３～４回に分けて経口投与する。 小児は１日量ミデカマイシンとして体重１kg当り30mg(力価)を、３～４回に分けて経口投与する。 なお、年令・症状により適宜増減する。	通常、成人は１日量ミデカマイシンとして800～1,200mg(力価)を、３～４回に分けて経口投与する。 小児は１日量ミデカマイシンとして体重１kg当り30mg(力価)を、３～４回に分けて経口投与する。 なお、年齢・症状により適宜増減する。

販売名	会社名
メデマイシンカプセル	明治製菓㈱

85. ラクトビオン酸エリスロマイシン　(6141)

(注射)

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能 ・ 効果	経口投与が困難な場合、あるいは、緊急を要する場合に本剤を使用すること。 ブドウ球菌、ジフテリア菌、連鎖球菌、肺炎球菌のうち本剤感性菌による下記感染症 手術後の二次感染、肺炎、ジフテリア	＜適応菌種＞ エリスロマイシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、ジフテリア菌 ＜適応症＞ 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肺炎、ジフテリア
用法 ・ 用量	通常、成人にはエリスロマイシンとして１日600～1500mg(力価)を２～３回に分けて１回２時間以上かけて点滴静注する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
注射用エリスロシン	大日本製薬㈱

86. ロキタマイシン　(6149)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承認内容	再評価結果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属(腸球菌を除く)、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、カンピロバクター属、マイコプラズマ属、クラミジア属のうちロキタマイシン感性菌による下記感染症 ・毛嚢（包）炎(膿疱性痤瘡を除く)、癤、癤腫症、よう、伝染性膿痂疹、丹毒、蜂巣炎、リンパ管(節)炎、化膿性爪囲(廓)炎、皮下膿瘍、汗腺炎、感染性粉瘤 ・咽喉頭炎、急性気管支炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍)、細菌性肺炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎 ・カンピロバクター腸炎 ・外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎 ・歯周組織炎、顎炎	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、カンピロバクター属、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、クラミジア属、マイコプラズマ属 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、咽頭･喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、感染性腸炎、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、顎炎
用法・用量	通常､成人は1日量ロキタマイシンとして600mg（力価）を3回に分けて経口投与する。なお、年令、症状により適宜増減する。	［錠剤］ 通常、成人は1日量ロキタマイシンとして600mg（力価）を3回に分けて経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。 ［シロップ用剤］ 用時懸濁し、通常、未熟児・新生児を含む小児に対しては体重1 kg当たり、ロキタマイシンとして1日20～30mg（力価）を3回に分けて経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。

販売名	会社名	販売名	会社名
リカマイシン錠	旭化成ファーマ㈱	リカマイシンドライシロップ200	旭化成ファーマ㈱
リカマイシンドライシロップ	旭化成ファーマ㈱		

87. 塩酸テトラサイクリン　(6152)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承認内容	再評価結果
効能・効果	＜有効菌種＞ 1.リケッチア、トラコーマクラミジア 2.他の抗生剤に耐性で本剤に感性の下記菌種 ブドウ球菌、連鎖球菌、肺炎球菌、淋菌、大腸菌、クレブシエラ、プロテウス属、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ ・癤、癰、蜂窠織炎、膿痂疹、膿皮症、毛嚢炎、丹毒 ・リンパ管炎、乳腺炎、骨髄炎、脳膿瘍 ・扁桃炎、咽頭炎、喉頭炎、気管支炎、気管支拡張症の感染時、肺炎、肺化膿症、百日咳 ・原発性非定型肺炎 ・猩紅熱 ・胆嚢胆管炎 ・膀胱炎、尿道炎、腎盂腎炎、子宮内感染、淋疾 ・鼠径リンパ肉芽腫、軟性下疳 ・中耳炎、外耳炎、副鼻腔炎、乳様突起炎 ・急性涙嚢炎 ・ガス壊疽、炭疽 ・歯槽膿瘍 ・野兎病、ブルセラ症 ・発疹チフス、発疹熱、恙虫病 ・ワイル病、回帰熱	＜適応菌種＞ テトラサイクリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、炭疽菌、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、軟性下疳菌、百日咳菌、ブルセラ属、野兎病菌、ガス壊疽菌群、回帰熱ボレリア、ワイル病レプトスピラ、リケッチア属、クラミジア属、肺炎マイコプラズマ（マイコプラズマ・ニューモニエ） ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、乳腺炎、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、尿道炎、淋菌感染症、軟性下疳、性病性（鼠径）リンパ肉芽腫、子宮内感染、脳膿瘍、涙嚢炎、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、猩紅熱、炭疽、ブルセラ症、百日咳、野兎病、ガス壊疽、回帰熱、ワイル病、発疹チフス、発疹熱、つつが虫病
用法・用量	塩酸テトラサイクリンとして通常成人1日1g（力価）を4回に分割経口投与する。小児には、1日体重1kgあたり30mg（力価）を4回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
アクロマイシンVカプセル50mg	ワイス㈱ －㈱科薬	アクロマイシンVカプセル250mg	ワイス㈱ －㈱科薬

87. 塩酸テトラサイクリン　(2634)

（内用、外用（末））

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	（経口） 有効菌種 1.リケッチア、トラコーマクラミジア 2.他の抗生剤に耐性で本剤に感性の下記菌種 ブドウ球菌、連鎖球菌、肺炎球菌、淋菌、大腸菌、クレブシエラ、プロテウス属、インフルエンザ菌 適応症 ・癤、癰、蜂窠織炎、膿痂疹、膿皮症、毛嚢炎、丹毒 ・リンパ管炎、乳腺炎、骨髄炎、脳膿瘍 ・扁桃炎、咽頭炎、喉頭炎、気管支炎、気管支拡張症の感染時、肺炎、肺化膿症、百日咳 ・原発性非定型肺炎 ・猩紅熱 ・胆嚢胆管炎 ・膀胱炎、尿道炎、腎盂腎炎、子宮内感染、淋疾 ・鼠径リンパ肉芽腫、軟性下疳 ・中耳炎、外耳炎、副鼻腔炎、乳様突起炎 ・急性涙嚢炎 ・ガス壊疽、炭疽 ・歯槽膿瘍 ・野兎病、ブルセラ症 ・発疹チフス、発疹熱、恙虫病 ・ワイル病、回帰熱 （トローチ） 有効菌種　本剤感性の下記菌種 ブドウ球菌、連鎖球菌、大腸菌、クレブシエラ、プロテウス属、インフルエンザ菌 適応症 感染性口内炎、口腔外科手術後の感染予防 （口腔） ［挿入剤］抜歯創及び口腔手術創の二次感染予防又はその治療 ［軟膏剤］テトラサイクリン感性菌による下記疾患の治療 急性歯肉炎、糜爛又は潰瘍を伴う口内炎、ドライソケット、抜歯創及び口腔手術創の二次感染予防又はその治療 （皮膚） 有効菌種　本剤に感性の下記菌種 ブドウ球菌、連鎖球菌、大腸菌、クレブシェラ、プロテウス属 適応症 膿痂疹、毛嚢炎、癤、癰、尋常性毛瘡、その他の慢性膿皮症、外傷・熱傷・その他の疾患による糜爛・潰瘍及び術後の二次感染並びにこれらの感染予防 （点眼） 有効菌種　トラコーマ病原体、ブドウ球菌、連鎖球菌、肺炎球菌、淋菌、クレブシエラ、イン	（経口） ＜適応菌種＞ テトラサイクリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、炭疽菌、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、軟性下疳菌、百日咳菌、ブルセラ属、野兎病菌、ガス壊疽菌群、回帰熱ボレリア、ワイル病レプトスピラ、リケッチア属、クラミジア属、肺炎マイコプラズマ（マイコプラズマ・ニューモニエ） ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、乳腺炎、骨髄炎、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、尿道炎、淋菌感染症、軟性下疳、性病性（鼠径）リンパ肉芽腫、子宮内感染、脳膿瘍、涙嚢炎、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、猩紅熱、炭疽、ブルセラ症、百日咳、野兎病、ガス壊疽、回帰熱、ワイル病、発疹チフス、発疹熱、つつが虫病 （トローチ） ＜適応菌種＞ テトラサイクリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ 抜歯創・口腔手術創の二次感染、感染性口内炎 （口腔） ［挿入剤］ ＜適応菌種＞テトラサイクリン感性菌 ＜適応症＞抜歯創・口腔手術創の二次感染 ［軟膏剤］ ＜適応菌種＞テトラサイクリン感性菌 ＜適応症＞歯周組織炎、抜歯創・口腔手術創の二次感染、ドライソケット、感染性口内炎 （外皮） ＜適応菌種＞ テトラサイクリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染

	フルエンザ菌、プロテウス属、大腸菌、モラー・アクセンフェルド菌、コッホ・ウィークス菌 適応症 　トラコーマ、結膜炎(流行性角結膜炎を含む)、麦粒腫、角膜潰瘍、眼瞼炎(眼瞼縁炎を含む)、角膜炎、涙嚢炎、眼外傷並びに眼手術後の感染防止	（眼科） ＜適応菌種＞ テトラサイクリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、モラクセラ・ラクナータ（モラー・アクセンフェルト菌）、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、ヘモフィルス・エジプチウス（コッホ・ウィークス菌）、トラコーマクラミジア（クラミジア・トラコマティス） ＜適応症＞ 眼瞼炎、涙嚢炎、麦粒腫、結膜炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む）、眼外傷・眼科周術期の無菌化療法
用法・用量	（経口） 　　塩酸テトラサイクリンとして、通常成人１日１ｇ（力価）を４回に分割経口投与する。小児には１日体重１kg当り30mg（力価）を４回に分割経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。 （トローチ） 　　通常、１日４～９錠（１錠中塩酸テトラサイクリンとして15mg（力価）を含有）を数回に分け口中、舌下、頬腔で溶かしながら用いる。 （口腔） 〔挿入剤〕抜歯創、口腔手術創に１～３個〔１個中塩酸テトラサイクリンとして、５mg（力価）を含有〕挿入する。なお、創面の状態により、必要に応じて追加挿入する。 〔軟膏剤〕通常、適量を１日１～数回患部に塗布する。 （皮膚） 〔軟膏剤（３％）としての使用〕通常、症状により適量を１日１～数回、直接患部に塗布又は無菌ガーゼにのばして貼付する。 （点眼） 〔末〕眼軟膏として用いる場合には、通常、無刺激性の軟膏基剤を用いて0.5～1.0%眼軟膏とし、適量を１日１～数回塗布する。なお、症状により適宜回数を増減する。 　　点眼液として用いる場合には、通常、滅菌精製水等の水性溶剤又は植物油等の非水性溶剤を用いて0.5～1.0%点眼液とし、適量を１日１～数回点眼する。なお、症状により適宜回数を増減する。 　　本剤は調製後は、冷所に保存し、１週間以内に使用すること。	承認内容に同じ

販売名	会社名
アクロマイシン末	ワイス㈱ －㈱科薬

87. 塩酸テトラサイクリン　(2399)

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	＜有効菌種＞ 本剤に感性の下記菌種 ブドウ球菌、連鎖球菌、大腸菌、クレブシエラ、プロテウス属、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ 感染性口内炎、口腔外科手術後の感染予防	＜適応菌種＞ テトラサイクリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ 抜歯創・口腔手術創の二次感染、感染性口内炎
用法・用量	通常１日４～９錠（１錠中塩酸テトラサイクリンとして15mg（力価）を含有）を数回に分けて口中、舌下、頬腔で溶かしながら用いる。	承認内容に同じ

販売名	会社名
アクロマイシントローチ	ワイス㈱ －㈱科薬

87. 塩酸テトラサイクリン　(2634)

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	＜有効菌種＞ 本剤に感性の下記菌種 ブドウ球菌、連鎖球菌、大腸菌、クレブシエラ、プロテウス属 ＜適応症＞ 膿痂疹、毛嚢炎、せつ、癰、尋常性毛瘡、その他の慢性膿皮症 外傷・熱傷・その他の疾患による糜爛・潰瘍及び術後の二次感染並びにこれらの感染予防	＜適応菌種＞ テトラサイクリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染
用法・用量	通常、症状により適量を１日１～数回、直接患部に塗布又は無菌ガーゼにのばして貼付する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
アクロマイシン軟膏	ワイス㈱ －㈱科薬

87. 塩酸テトラサイクリン　(2760)

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	テトラサイクリン感性菌による下記疾患の治療 急性歯肉炎、びらん又は潰瘍を伴う口内炎、ドライソケット 抜歯創及び口腔手術創の二次感染予防又はその治療	＜適応菌種＞ テトラサイクリン感性菌 ＜適応症＞ 歯周組織炎、抜歯創・口腔手術創の二次感染、ドライソケット、感染性口内炎
用法・用量	通常、適量を１日１～数回患部に塗布する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
立川歯科用テトラサイクリンパスタ	㈱山崎帝国堂	テトラサイクリン CMC ペイスト「昭和」	昭和薬品化工㈱

88. 塩酸デメチルクロルテトラサイクリン　(6152)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	次の菌による感染症又は下記の感染症 <有効菌種> 1.リケッチア、トラコーマクラミジア 2.他の抗生剤に耐性で本剤に感性の下記菌種 ブドウ球菌、連鎖球菌、肺炎球菌、淋菌、大腸菌、クレブシエラ、プロテウス属、インフルエンザ菌 <適応症> ・瘤、癰、蜂窠織炎、膿痂疹、膿皮症、毛嚢炎、丹毒 ・リンパ節炎、乳腺炎、骨髄炎 ・扁桃炎、咽頭炎、喉頭炎、気管支炎、気管支拡張症の感染時、肺炎、肺化膿症、百日咳 ・原発性非定型肺炎 ・猩紅熱 ・胆嚢胆管炎 ・膀胱炎、尿道炎、腎盂腎炎、子宮内感染、淋疾 ・鼠径リンパ肉芽腫、軟性下疳 ・中耳炎、外耳炎、副鼻腔炎、乳様突起炎 ・急性涙嚢炎 ・ガス壊疽、炭疽 ・ワイル病、野兎病 ・発疹チフス、発疹熱、恙虫病	<適応菌種> デメチルクロルテトラサイクリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、炭疽菌、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、軟性下疳菌、百日咳菌、野兎病菌、ガス壊疽菌群、ワイル病レプトスピラ、リケッチア属、クラミジア属、肺炎マイコプラズマ（マイコプラズマ・ニューモニエ） <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管･リンパ節炎、慢性膿皮症、乳腺炎、骨髄炎、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、尿道炎、淋菌感染症、軟性下疳、性病性（鼠径）リンパ肉芽腫、子宮内感染、涙嚢炎、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、猩紅熱、炭疽、百日咳、野兎病、ガス壊疽、ワイル病、発疹チフス、発疹熱、つつが虫病
用法・用量	塩酸デメチルクロルテトラサイクリンとして通常成人１日450～600㎎（力価）を２～４回に分割経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
レダマイシンカプセル	ワイス㈱ －㈱科薬

88. 塩酸デメチルクロルテトラサイクリン　(2634)

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再評価結果
効能・効果	有効菌種 本剤に感性の下記菌種 ブドウ球菌、連鎖球菌、大腸菌、クレブシエラ、プロテウス属 適応症 　膿痂疹、毛のう炎、せつ、よう、尋常性毛瘡、その他の慢性膿皮症、外傷・熱傷・その他の疾患によるびらん・潰瘍及び術後の二次感染並びにこれらの感染予防	＜適応菌種＞ デメチルクロルテトラサイクリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス属 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん・潰瘍の二次感染
用法・用量	通常、症状により適量を１日１～数回、直接患部に塗布または無菌ガーゼにのばして貼付する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
レダマイシン軟膏	前田薬品工業㈱

89. 塩酸ドキシサイクリン　（6152）

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	ブドウ球菌、レンサ球菌、肺炎球菌、炭疽菌、淋菌、肺炎桿菌、大腸菌、赤痢菌、コレラ菌、ペスト菌、ブルセラ属、クラミジア属、Q 熱リケッチアのうちドキシサイクリン感受性菌株による下記感染症 浅在性化膿性疾患： 扁桃炎、咽頭炎、智歯周囲炎、膿痂疹、膿瘍、フルンケル、カルブンケル、痤瘡、フレグモーネ、瘭疽、毛嚢炎、麦粒腫、眼瞼膿瘍、涙嚢炎、創傷並びに火傷感染、術後感染症 深在性化膿性疾患： 乳腺炎、リンパ節炎、骨髄炎 気管支炎、気管支肺炎、肺炎、気管支拡張症 赤痢、コレラ、ペスト 胆管炎、胆嚢炎 尿路感染症： 腎盂炎、腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎 前立腺炎 子宮付属器炎、子宮内感染 淋疾 猩紅熱 結膜炎、角膜炎、角膜潰瘍 中耳炎、副鼻腔炎、唾液腺炎 オウム病 炭疽 ブルセラ症 Q 熱	<適応菌種> ドキシサイクリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、炭疽菌、大腸菌、赤痢菌、肺炎桿菌、ペスト菌、コレラ菌、ブルセラ属、Q 熱リケッチア（コクシエラ・ブルネティ）、クラミジア属 <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、尿道炎、淋菌感染症、感染性腸炎、コレラ、子宮内感染、子宮付属器炎、眼瞼膿瘍、涙嚢炎、麦粒腫、角膜炎（角膜潰瘍を含む）、中耳炎、副鼻腔炎、歯冠周囲炎、化膿性唾液腺炎、猩紅熱、炭疽、ブルセラ症、ペスト、Q 熱、オウム病
用法・用量	通常成人は初日塩酸ドキシサイクリンとして１日量200mg（力価）を１回又は２回に分けて経口投与し、２日目より塩酸ドキシサイクリンとして１日量100mg（力価）を１回に経口投与する。なお、感染症の種類及び症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
パルドマイシン錠50	大洋薬品工業㈱	ラセナマイシン錠50mg	マルコ製薬㈱
ビブラマイシン錠	ファイザー㈱	ラセナマイシン錠100mg	マルコ製薬㈱
ピペラマイシン錠100	長生堂製薬㈱		

90. 塩酸ミノサイクリン　(6152)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	ブドウ球菌、レンサ球菌、肺炎球菌、大腸菌、シトロバクター、クレブシエラ、エンテロバクター、クラミジア属、リケッチア属、炭疽菌のうちミノサイクリン感性菌による下記感染症 ◇敗血症 ◇浅在性化膿性疾患 癤、膿痂疹、蜂窠織炎、膿瘍、扁桃炎、咽喉頭炎、上気道炎、涙嚢炎、麦粒腫、眼瞼縁炎、口内炎、歯根膜炎、歯周炎 ◇深在性化膿性疾患 リンパ管（節）炎、骨炎、骨周囲炎 ◇気管支炎、喘息様気管支炎、気管支肺炎、肺炎、異型肺炎、オウム病 ◇猩紅熱 ◇中耳炎、副鼻腔炎、耳下腺炎 ◇恙虫病 ◇炭疽	<適応菌種> ミノサイクリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、炭疽菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、リケッチア属（オリエンチア・ツツガムシ）、クラミジア属、肺炎マイコプラズマ（マイコプラズマ・ニューモニエ） <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、涙嚢炎、麦粒腫、中耳炎、副鼻腔炎、化膿性唾液腺炎、歯周組織炎、感染性口内炎、猩紅熱、炭疽、つつが虫病、オウム病
用法・用量	通常、小児には体重1kgあたり、本剤0.1～0.2g〔塩酸ミノサイクリンとして２～４mg（力価）〕を１日量として、12あるいは24時間ごとに粉末のまま経口投与する。 なお、患者の年齢、症状などに応じて適宜増減する。 本剤は、用時水を加えてシロップ状にして用いることもできる。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
クーペラシン顆粒	高田製薬㈱	ミノマイシン顆粒	ワイス㈱ －武田薬品工業㈱
ミノペン顆粒	沢井製薬㈱		

90. 塩酸ミノサイクリン　(6152)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	ブドウ球菌、レンサ球菌、肺炎球菌、淋菌、赤痢菌属、大腸菌、シトロバクター、クレブシエラ、エンテロバクター、プロテウス属、緑膿菌、梅毒トレポネーマ、クラミジア属、リケッチア属、炭疽菌のうちミノサイクリン感性菌による下記感染症 ◇敗血症、菌血症 ◇浅在性化膿性疾患 　毛嚢炎、膿皮症、癤、癤腫症、癰、蜂窠織炎、汗腺炎、痤瘡、粉瘤、乳頭状皮膚炎、瘭疽、爪郭炎、膿瘍、鶏眼二次感染、扁桃炎、扁桃周囲炎、咽喉頭炎、涙嚢炎、眼瞼縁炎、麦粒腫、歯齦炎、歯冠周囲炎、歯性上顎洞炎、感染上顎嚢胞、歯根膜炎、外耳炎、外陰炎、膣炎、創傷感染、術後感染 ◇深在性化膿性疾患 　乳腺炎、リンパ管(節)炎、顎下腺炎、骨髄炎、骨炎 ◇急慢性気管支炎、喘息様気管支炎、気管支拡張症、気管支肺炎、肺炎、細菌性肺炎、異型肺炎、オウム病、肺化膿症 ◇赤痢、腸炎、感染型食中毒、胆管炎、胆嚢炎 ◇腹膜炎 ◇腎盂腎炎、腎盂炎、腎盂膀胱炎、尿道炎、膀胱炎、前立腺炎、副睾丸炎、子宮内感染、淋疾 ◇中耳炎、副鼻腔炎、耳下腺炎 ◇梅毒 ◇恙虫病 ◇炭疽	<適応菌種> ミノサイクリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、炭疽菌、大腸菌、赤痢菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、緑膿菌、梅毒トレポネーマ、リケッチア属（オリエンチア・ツツガムシ)、クラミジア属、肺炎マイコプラズマ（マイコプラズマ・ニューモニエ） <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、咽頭･喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎を含む)、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症)、精巣上体炎（副睾丸炎)、尿道炎、淋菌感染症、梅毒、腹膜炎、感染性腸炎、外陰炎、細菌性膣炎、子宮内感染、涙嚢炎、麦粒腫、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、化膿性唾液腺炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、上顎洞炎、顎炎、炭疽、つつが虫病、オウム病
用法・用量	通常成人は初回投与量をミノサイクリンとして、100〜200mg（力価）とし、以後12時間ごとあるいは24時間ごとにミノサイクリンとして100mg（力価）を経口投与する。 　なお、患者の年齢、体重、症状などに応じて適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
塩酸ミノサイクリンカプセル100「マルコ」	マルコ製薬㈱	ミノトーワ錠50	東和薬品㈱
塩酸ミノサイクリン錠50「マルコ」	マルコ製薬㈱＝日本医薬品工業㈱	ミノトーワ錠100	東和薬品㈱
クーペラシン錠50mg	高田製薬㈱	ミノペン錠50	沢井製薬㈱
クーペラシン錠100mg	高田製薬㈱	ミノペン錠100	沢井製薬㈱
ミノスタシン錠50	京都薬品工業㈱ －協和醗酵工業㈱	ミノマイシンカプセル50mg	ワイス㈱ －武田薬品工業㈱
ミノスタシン錠100	京都薬品工業㈱ －協和醗酵工業㈱	ミノマイシンカプセル100mg	ワイス㈱ －武田薬品工業㈱

ミノマイシン錠50mg	ワイス㈱ －武田薬品工業㈱	ロバフィリンカプセル	日本医薬品工業㈱
ミノマイシン錠100mg	ワイス㈱ －武田薬品工業㈱		

90. 塩酸ミノサイクリン　(6152)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	＜有効菌種＞ 1）アシネトバクター、シュードモナス・セパシア、シュードモナス・マルトフィリア、シュードモナス・フルオレッセンス、フラボバクテリウム、クラミジア属、リケッチア属、炭疽菌 2）他の抗生剤に耐性で本剤に感性の次の菌種 黄色ブドウ球菌、溶血性レンサ球菌、肺炎球菌、大腸菌、クレブシエラ、エンテロバクター、緑膿菌、モラー・アクセンフェルド菌、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ ◇敗血症、菌血症 ◇癤、蜂窠織炎、膿瘍、扁桃炎 ◇気管支炎、気管支拡張症の感染時、肺炎、原発性非定型肺炎、オウム病 ◇腹膜炎 ◇腎盂腎炎、膀胱炎 ◇恙虫病 ◇炭疽	＜適応菌種＞ ミノサイクリンに感性の黄色ブドウ球菌、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、モラクセラ・ラクナータ（モラー・アクセンフェルト菌）、炭疽菌、大腸菌、クレブシエラ属、エンテロバクター属、インフルエンザ菌、シュードモナス・フルオレッセンス、緑膿菌、バークホルデリア・セパシア、ステノトロホモナス（ザントモナス）・マルトフィリア、アシネトバクター属、フラボバクテリウム属、レジオネラ・ニューモフィラ、リケッチア属（オリエンチア・ツツガムシ）、クラミジア属、肺炎マイコプラズマ（マイコプラズマ・ニューモニエ） ＜適応症＞ 敗血症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、炭疽、つつが虫病、オウム病
用法・用量	点滴静脈内注射は、経口投与不能の患者及び救急の場合に行い、経口投与が可能になれば経口用剤に切り替える。 通常成人には、初回塩酸ミノサイクリン100～200mg（力価）、以後12時間ないし24時間ごとに100mg（力価）を補液に溶かし、30分～2時間かけて点滴静脈内注射する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
塩酸ミノサイクリン点滴静注用「マルコ」	マルコ製薬㈱	点滴静注用ミノマイシン	ワイス㈱ －武田薬品工業㈱
クーペラシン点滴静注用	高田製薬㈱＝日本化薬㈱	パルドクリン点滴静注用	大洋薬品工業㈱
点滴静注用ナミマイシン	富士製薬工業㈱	ミノペン点滴静注用	沢井製薬㈱

90. 塩酸ミノサイクリン　（2760）

（歯科用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承認内容	再評価結果
効能・効果	塩酸ミノサイクリンに感性のポルフィロモナス・ジンジバリス、プレボテラ・インターメディア、プレボテラ・メラニノジェニカ、エイケネラ・コローデンス、フソバクテリウム・ヌクレアタム、カプノサイトファーガ属、アクチノバチラス・アクチノミセテムコミタンスによる下記疾患の諸症状の改善 歯周炎（慢性辺縁性歯周炎）	＜適応菌種＞ ミノサイクリンに感性のアクチノバチラス・アクチノミセテムコミタンス、エイケネラ・コローデンス、カプノサイトファーガ属、プレボテラ属、ポルフィロモナス・ジンジバリス、フソバクテリウム・ヌクレアタム ＜適応症＞ 歯周組織炎
用法・用量	通常１週に１回、患部歯周ポケット内に充満する量を注入する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
ペリオクリン歯科用軟膏	サンスター㈱	ペリオフィール歯科用軟膏	昭和薬品化工㈱

91. クロラムフェニコール　(2634)

（内用、外用、歯科用（末））

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	（経口） ＜有効菌種＞ (1)サルモネラ、リケッチア、トラコーマクラミジア (2)他の抗生剤に耐性で本剤に感性の下記菌種 ブドウ球菌、連鎖球菌、肺炎球菌、淋菌、インフルエンザ菌、髄膜炎菌、クレブシェラ、大腸菌、プロテウス、百日咳菌 ＜適応症＞ 鼠径リンパ肉芽腫、発疹チフス、発疹熱、つつが虫病、腸チフス、パラチフス、サルモネラ腸炎 下記の適応については、他の抗生剤が無効の場合、あるいは他の抗生剤が使用不能の場合に限り、本剤を使用すること。 よう、癤、蜂窠織炎、丹毒、膿痂疹、膿皮症、毛のう炎、扁桃炎、咽頭炎、喉頭炎、気管支炎、肺炎、肺化膿症、膿胸、気管支拡張症の感染時、創傷・熱傷及び手術後の二次感染、重症熱傷の二次感染の予防、乳腺炎、リンパ節炎、骨髄炎、髄膜炎、腹膜炎、敗血症、猩紅熱、胆のう胆管炎、中耳炎、副鼻腔炎、淋疾、腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎、子宮付属器炎、子宮内感染、軟性下疳、ガス壊疽、野兎病、結膜炎、角膜炎、急性涙のう炎、歯槽膿瘍、智歯周囲炎、百日咳 （口腔） ［5％液、8％液］ クロラムフェニコール感性菌による下記疾患の治療 急性あるいは慢性化膿性根端性歯周組織炎（急性あるいは慢性歯槽膿瘍）及び歯髄壊疽 ［軟膏］ クロラムフェニコール感性菌による下記疾患の治療 びらんまたは潰瘍を伴う口内炎 抜歯創及び口腔手術創の二次感染予防またはその治療 ［粉末］ クロラムフェニコール感性菌による下記疾患の治療 急性あるいは慢性化膿性根端性歯周組織炎（急性あるいは慢性歯槽膿瘍）及び歯髄壊疽 （皮膚） ＜有効菌種＞ 本剤に感性の下記菌種 ブドウ球菌、連鎖球菌、大腸菌、クレブシェラ、プロテウス属 ＜適応症＞ 膿痂疹、毛のう炎、癤、よう、尋常性毛瘡、その他の慢性膿皮症、外傷･熱傷･その他の疾患によるびらん･潰瘍及び術後の二次感染ならびに感染予防	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、髄膜炎菌、大腸菌、サルモネラ属、チフス菌、パラチフス菌、クレブシエラ属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、インフルエンザ菌、軟性下疳菌、百日咳菌、野兎病菌、ガス壊疽菌群、リケッチア属、トラコーマクラミジア（クラミジア・トラコマティス） ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん･潰瘍の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、尿道炎、淋菌感染症、軟性下疳、性病性（鼠径）リンパ肉芽腫、腹膜炎、感染性腸炎、腸チフス、パラチフス、細菌性腟炎、子宮内感染、子宮付属器炎、涙嚢炎、角膜炎、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、抜歯創・口腔手術創の二次感染、感染性口内炎、猩紅熱、百日咳、野兎病、ガス壊疽、発疹チフス、発疹熱、つつが虫病

	（腟） 非特異性腟炎 （点耳･点鼻） ［末］ ＜有効菌種＞ 本剤に感性の下記菌種 ブドウ球菌、連鎖球菌、肺炎球菌、大腸菌、インフルエンザ菌、髄膜炎菌 ＜適応症＞ 中耳炎、外耳炎、副鼻腔炎	
用法・用量	（経　口） クロラムフェニコールとして、通常、成人１日1.5～２ｇ（力価）を３～４回に分割経口投与する。小児には１日体重１kg当り30～50mg（力価）を３～４回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。 （口　腔） 〔５％液、８％液〕 通法に従って根管処置後滅菌綿繊維等に付着させて根管内に挿入し、仮封を施す。 〔軟　膏〕 通常、適量を１日１～数回患部に塗布する。 〔粉　末〕 本剤をプロピレングリコール１mLに50～100mg（力価）（５～10％）の濃度に溶解し適量を根管内に塗布するかまたはプロピレングリコールを吸収させた滅菌綿繊維等に本剤の適量を付着させて根管内に貼付する。 （皮　膚） 〔軟膏剤（１％、２％）としての使用〕 通常、症状により適量を１日１～数回、直接患部に塗布または無菌ガーゼにのばして貼付する。なお、癤、ように対しては他の薬剤で効果が期待できない場合に使用すること。 〔外用液剤（５％）としての使用〕 症状に応じて適量を局所に点滴、灌注あるいはガーゼ、綿球に浸して貼付、挿入する。なお、癤、ように対しては他の薬剤で効果が期待できない場合に使用すること。 （腟） 本剤（末剤）をそのまま、または適当な希釈剤を加えて局所に散布しまたは注入する。 （点耳・点鼻） 〔末〕 耳鼻科用として用いる場合は、0.5～１％の割合にプロピレングリコールで溶解し、通常、罹患部に適量を１日１～数回用いる。なお、症状により適宜増減する。	（経　口） 承認内容に同じ （口　腔） 承認内容に同じ （皮　膚） 〔軟膏剤（１％、２％）としての使用〕 通常、症状により適量を１日１～数回、直接患部に塗布または無菌ガーゼにのばして貼付する。 なお、深在性皮膚感染症に対しては他の薬剤で効果が期待できない場合に使用すること。 〔外用液剤（５％）としての使用〕 症状に応じて適量を局所に点滴、灌注あるいはガーゼ、綿球に浸して貼付、挿入する。 なお、深在性皮膚感染症に対しては他の薬剤で効果が期待できない場合に使用すること。 （膣） 承認内容に同じ （点耳・点鼻） 承認内容に同じ

販売名	会社名
クロロマイセチン末	三共エール薬品㈱ －三共㈱

91. クロラムフェニコール　(6151)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	有効菌種 ・サルモネラ、リケッチア、トラコーマクラミジア ・他の抗生剤に耐性で本剤に感性の下記菌種 ブドウ球菌、連鎖球菌、肺炎球菌、淋菌、インフルエンザ菌、髄膜炎菌、クレブシェラ、大腸菌、プロテウス、百日咳菌 適応症 ・鼠径リンパ肉芽腫、発疹チフス、発疹熱、つつが虫病、腸チフス、パラチフス、サルモネラ腸炎 ・下記の適応については他の抗生剤が無効の場合、あるいは他の抗生剤が使用不能の場合に限り、本剤を使用すること。 よう、癤、蜂窠織炎、丹毒、膿痂疹、膿皮症、毛のう炎、扁桃炎、咽頭炎、喉頭炎、気管支炎、肺炎、肺化膿症、膿胸、気管支拡張症の感染時、創傷・熱傷及び手術後の二次感染、重症熱傷の二次感染の予防、乳腺炎、リンパ節炎、骨髄炎、髄膜炎、腹膜炎、敗血症、猩紅熱、胆のう胆管炎、中耳炎、副鼻腔炎、淋疾、腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎、子宮付属器炎、子宮内感染、軟性下疳、ガス壊疽、野兎病、結膜炎、角膜炎、急性涙のう炎、歯槽膿瘍、智歯周囲炎、百日咳	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、髄膜炎菌、大腸菌、サルモネラ属、チフス菌、パラチフス菌、クレブシエラ属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、インフルエンザ菌、軟性下疳菌、百日咳菌、野兎病菌、ガス壊疽菌群、リケッチア属、トラコーマクラミジア（クラミジア・トラコマティス） <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、尿道炎、淋菌感染症、軟性下疳、性病性（鼠径）リンパ肉芽腫、腹膜炎、感染性腸炎、腸チフス、パラチフス、子宮内感染、子宮付属器炎、涙嚢炎、角膜炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、猩紅熱、百日咳、野兎病、ガス壊疽、発疹チフス、発疹熱、つつが虫病
用法・用量	クロラムフェニコールとして通常成人１日1.5～２ｇ（力価）を３～４回に分割経口投与する。 小児には１日体重１kgあたり30～50mg（力価）を３～４回に分割経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
クロロマイセチン50	三共㈱	クロロマイセチン250	三共㈱

91. クロラムフェニコール　(1317)

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承認内容	再評価結果
効能・効果	有効菌種 トラコーマ病原体、ブドウ球菌、連鎖球菌、肺炎球菌、淋菌、クレブシエラ、インフルエンザ菌、モラー・アクセンフェルド菌、コッホ・ウィークス菌、髄膜炎菌、セラチア、アルカリゲネス、大腸菌 適応症 （点眼液）トラコーマ、結膜炎（流行性角結膜炎を含む）、麦粒腫、眼瞼炎（眼瞼縁炎を含む）、角膜潰瘍、角膜炎、涙のう炎	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、髄膜炎菌、モラクセラ・ラクナータ（モラー・アクセンフェルト菌）、大腸菌、クレブシエラ属、セラチア属、インフルエンザ菌、ヘモフィルス・エジプチウス（コッホ・ウィークス菌）、アルカリゲネス属、トラコーマクラミジア（クラミジア・トラコマティス） ＜適応症＞ 眼瞼炎、涙囊炎、麦粒腫、結膜炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む）
用法・用量	0.5％点眼液として、通常、適量を１日１～数回点眼する。なお、症状により適宜回数を増減する。	通常、適量を１日１～数回点眼する。 なお、症状により適宜回数を増減する。

販売名	会社名
クロラムフェニコール点眼液Ｔ	日東メディック㈱

91. クロラムフェニコール　(1325)

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承認内容	再評価結果
効能・効果	＜有効菌種＞ 本剤に感性の下記菌種 ブドウ球菌、連鎖球菌、肺炎球菌、大腸菌、インフルエンザ菌、髄膜炎菌 ＜適応症＞ 中耳炎、外耳炎	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、髄膜炎菌、大腸菌、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ 外耳炎、中耳炎
用法・用量	0.5％液を、通常、耳の罹患部に適量を１日１～数回用いる。なお、症状により適宜回数を増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
クロロマイセチン耳科用	三共㈱

91. クロラムフェニコール　(2634)

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	＜有効菌種＞ 本剤に感性の下記菌種 ブドウ球菌、連鎖球菌、大腸菌、クレブシェラ、プロテウス属 ＜適応症＞ 膿痂疹、毛のう炎、癤、よう、尋常性毛瘡、その他の慢性膿皮症、外傷・熱傷・その他の疾患によるびらん・潰瘍及び術後の二次感染並びに感染予防	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属（肺炎球菌を除く）、腸球菌属、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん・潰瘍の二次感染
用法・用量	通常、症状により適量を１日１～数回、直接患部に塗布または無菌ガーゼにのばして貼付する。 なお、癤、ように対しては他の薬剤で効果が期待できない場合に使用すること。	通常、症状により適量を１日１～数回、直接患部に塗布または無菌ガーゼにのばして貼付する。 なお、深在性皮膚感染症に対しては他の薬剤で効果が期待できない場合に使用すること。

販売名	会社名
クロロマイセチン軟膏２%	三共㈱

91. クロラムフェニコール　(2634)

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	（皮膚） ＜有効菌種＞ 本剤に感性の下記菌種 ブドウ球菌、連鎖球菌、大腸菌、クレブシェラ、プロテウス属 ＜適応症＞ 膿痂疹、毛のう炎、癤、よう、尋常性毛瘡、その他の慢性膿皮症、外傷・熱傷・その他の疾患によるびらん・潰瘍及び術後の二次感染並びに感染予防 （点耳・点鼻） ＜有効菌種＞ 本剤に感性の下記菌種 ブドウ球菌、連鎖球菌、肺炎球菌、大腸菌、インフルエンザ菌、髄膜炎菌 ＜適応症＞ 中耳炎、外耳炎、副鼻腔炎 （外科） クロロマイセチン感受性菌による外科的感染症の治療、有茎移植皮膚弁、移植組織片の適用に際し、また外科手術時及び外科的処置の前後に局所に使用 （歯科・口腔外科） 本剤に感性の各種感染症の治療、抜歯・腫瘍摘出・のう胞摘出・外傷治療・整形等の手術時及び手術前後に局所に使用	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、髄膜炎菌、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん・潰瘍の二次感染、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、抜歯創・口腔手術創の二次感染
用法・用量	（皮膚・外科）症状に応じて適量を局所に点滴、灌注あるいはガーゼ、綿球に浸して貼付、挿入する。 なお、癤、ように対しては他の薬剤で効果が期待できない場合に使用すること。 （点耳・点鼻）通常、罹患部に適量を1日１～数回用いる。なお、症状により適宜増減する。 （歯科・口腔外科）本剤を綿線、ペーパーポイントに浸して用いたり、局所に直接注入するかあるいはドレナージガーゼに含ませて挿入する方法がとられる。	［皮膚・外科］ 症状に応じて適量を局所に点滴、灌注あるいはガーゼ、綿球に浸して貼付、挿入する。 なお、深在性皮膚感染症に対しては他の薬剤で効果が期待できない場合に使用すること。 ［点耳・点鼻］ 通常プロピレングリコールで0.5～１％の割合に溶解し、罹患部に適量を1日1～数回用いる。なお、症状により適宜増減する。 ［歯科・口腔外科］ 本剤を綿線、ペーパーポイントに浸して用いたり、局所に直接注入するかあるいはドレナージガーゼに含ませて挿入する方法がとられる。

販売名	会社名
クロロマイセチン局所用	三共㈱

91. クロラムフェニコール　(2521)

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	非特異性腟炎	＜適応菌種＞ クロラムフェニコール感性菌 ＜適応症＞ 細菌性腟炎
用法・用量	1回1錠1日1回局所に挿入する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
クロマイ腟錠	三共㈱	ハイセチン腟錠	富士製薬工業㈱

91. クロラムフェニコール　(2760)

（歯科用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	クロラムフェニコール感性菌による下記疾患の治療 急性あるいは慢性化膿性根端性歯周組織炎（急性あるいは慢性歯槽膿瘍）及び歯髄壊疽	＜適応菌種＞ クロラムフェニコール感性菌 ＜適応症＞ 歯周組織炎
用法・用量	通法に従って根管処置後滅菌綿繊維等に付着させて根管内に挿入し、仮封を施す。	承認内容に同じ

販売名	会社名
歯科用クロラムフェニコール液「昭和」	昭和薬品化工㈱

92. コハク酸クロラムフェニコールナトリウム　(6151)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	＜有効菌種＞ (1)サルモネラ、リケッチア、トラコーマクラミジア (2)他の抗生剤に耐性で本剤に感性の下記菌種 ブドウ球菌、連鎖球菌、肺炎球菌、淋菌、インフルエンザ菌、髄膜炎菌、クレブシェラ、大腸菌、プロテウス、百日咳菌 ＜適応症＞ 鼠径リンパ肉芽腫、発疹チフス、発疹熱、つつが虫病、腸チフス、パラチフス、サルモネラ腸炎、髄膜炎 下記の適応については他の抗生剤が無効の場合、あるいは他の抗生剤が使用不能の場合にかぎり、本剤を使用すること。 よう、癤、蜂窠織炎、丹毒、膿痂疹、膿皮症、毛のう炎、扁桃炎、咽頭炎、喉頭炎、気管支炎、気管支拡張症の感染時、肺炎、肺化膿症、膿胸、創傷・熱傷及び手術後の二次感染、重症熱傷の二次感染の予防、乳腺炎、リンパ節炎、骨髄炎、腹膜炎、敗血症、猩紅熱、胆のう胆管炎、中耳炎、副鼻腔炎、淋疾、腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎、子宮付属器炎、子宮内感染、軟性下疳、ガス壊疽、野兎病、結膜炎、角膜炎、急性涙のう炎、歯槽膿瘍、智歯周囲炎、百日咳	＜適応菌種＞ クロラムフェニコールに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、髄膜炎菌、大腸菌、サルモネラ属、チフス菌、パラチフス菌、クレブシエラ属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、インフルエンザ菌、軟性下疳菌、百日咳菌、野兎病菌、ガス壊疽菌群、リケッチア属、トラコーマクラミジア（クラミジア・トラコマティス） ＜適応症＞ 敗血症、表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、尿道炎、淋菌感染症、軟性下疳、性病性（鼠径）リンパ肉芽腫、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、感染性腸炎、腸チフス、パラチフス、子宮内感染、子宮付属器炎、化膿性髄膜炎、涙嚢炎、角膜炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、猩紅熱、百日咳、野兎病、ガス壊疽、発疹チフス、発疹熱、つつが虫病
用法・用量	クロラムフェニコールとして、通常成人１回0.5～１g（力価）を１日２回静脈内注射する。小児には、１回体重１kgあたり15～25mg（力価）を１日２回静脈内注射する。 　なお、年齢、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
クロロマイセチンサクシネート	三共エール薬品㈱ －三共㈱

93. パルミチン酸クロラムフェニコール　(6151)

(内用)

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	有効菌種 ・サルモネラ、リケッチア、トラコーマクラミジア ・他の抗生剤に耐性で本剤に感性の下記菌種 ブドウ球菌、連鎖球菌、肺炎球菌、淋菌、インフルエンザ菌、髄膜炎菌、クレブシェラ、大腸菌、プロテウス、百日咳菌 適応症 ・鼠径リンパ肉芽腫、発疹チフス、発疹熱、つつが虫病、腸チフス、パラチフス、サルモネラ腸炎 ・下記の適応については他の抗生剤が無効の場合、あるいは他の抗生剤が使用不能の場合に限り、本剤を使用すること。 よう、癤、蜂窠織炎、丹毒、膿痂疹、膿皮症、毛のう炎、扁桃炎、咽頭炎、喉頭炎、気管支炎、肺炎、膿胸、肺化膿症、気管支拡張症の感染時、創傷・熱傷及び手術後の二次感染、重症熱傷の二次感染の予防、乳腺炎、リンパ節炎、骨髄炎、髄膜炎、腹膜炎、敗血症、猩紅熱、胆のう胆管炎、中耳炎、副鼻腔炎、淋疾、腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎、子宮内感染、子宮付属器炎、軟性下疳、ガス壊疽、野兎病、結膜炎、角膜炎、急性涙のう炎、歯槽膿瘍、智歯周囲炎、脳膿瘍、百日咳	＜適応菌種＞ クロラムフェニコールに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、髄膜炎菌、大腸菌、サルモネラ属、チフス菌、パラチフス菌、クレブシエラ属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、インフルエンザ菌、軟性下疳菌、百日咳菌、野兎病菌、ガス壊疽菌群、リケッチア属、トラコーマクラミジア（クラミジア・トラコマティス） ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、尿道炎、淋菌感染症、軟性下疳、性病性（鼠径）リンパ肉芽腫、腹膜炎、感染性腸炎、腸チフス、パラチフス、子宮内感染、子宮付属器炎、脳膿瘍、涙嚢炎、角膜炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、猩紅熱、百日咳、野兎病、ガス壊疽、発疹チフス、発疹熱、つつが虫病、
用法・用量	クロラムフェニコールとして、通常成人１日1.5～２ｇ(力価)を３～４回に分割経口投与する。小児には１日体重１kgあたり、30～50mg(力価)を３～４回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
クロロマイセチンパルミテート液（小児用）	三共㈱

94. 硫酸ストレプトマイシン　(6161)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	肺結核及びその他の結核症、野兎病、ワイル病、ペスト、細菌性心内膜炎(ベンジルペニシリン又はアンピシリンと併用の場合に限る。)	＜適応菌種＞ ストレプトマイシンに感性の結核菌、ペスト菌、野兎病菌、ワイル病レプトスピラ ＜適応症＞ 感染性心内膜炎(ベンジルペニシリン又はアンピシリンと併用の場合に限る。)、ペスト、野兎病、肺結核及びその他の結核症、ワイル病
用法・用量	結核に対して使用する場合 　ストレプトマイシンとして、通常成人１日１g (力価) を筋肉内注射する。週２～３日、あるいははじめの１～３ヵ月は毎日、その後週２日投与する。また必要に応じて局所に投与する。 　ただし、高齢者 (60歳以上) には１回0.5～0.75g (力価) とし、小児あるいは体重の著しく少ないものにあっては適宜減量する。なお、原則として他の抗結核薬と併用する。 その他の場合 　ストレプトマイシンとして、通常成人１日１～２g (力価) を１～２回に分けて筋肉内注射する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	［肺結核及びその他の結核症に対して使用する場合］ ストレプトマイシンとして、通常成人１日１g (力価) を筋肉内注射する。週２～３日、あるいははじめの１～３ヵ月は毎日、その後週２日投与する。また必要に応じて局所に投与する。 ただし、高齢者 (60歳以上) には１回0.5～0.75g (力価) とし、小児あるいは体重の著しく少ないものにあっては適宜減量する。 なお、原則として他の抗結核薬と併用する。 ［その他の場合］ ストレプトマイシンとして、通常成人１日１～２g (力価) を１～２回に分けて筋肉内注射する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

販売名	会社名
硫酸ストレプトマイシン明治	明治製菓㈱

95. スルファジメトキシン　(6213)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	軟性下疳 本剤感性髄膜炎菌による髄膜炎 本剤感性大腸菌による腎盂腎炎・膀胱炎 本剤感性溶血連鎖球菌による扁桃炎・咽頭炎・喉頭炎	＜適応菌種＞ 本剤に感性のレンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、軟性下疳菌 ＜適応症＞ 咽頭･喉頭炎、扁桃炎、膀胱炎、腎盂腎炎、軟性下疳
用法・用量	通常成人、スルファジメトキシンとして、初日1.0～2.0g、２日目以降は0.5～1.0gを１日１回経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
アプシード	第一製薬㈱	ジメキシン錠	扶桑薬品工業㈱
アプシードシロップ	埼玉第一製薬㈱ －第一製薬㈱	スルキシン末	中外製薬㈱
ジメキシン	扶桑薬品工業㈱		

95. スルファジメトキシン　(6213)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	本剤感性髄膜炎菌による髄膜炎 本剤感性大腸菌による腎盂腎炎・膀胱炎	＜適応菌種＞ 本剤に感性の髄膜炎菌、大腸菌 ＜適応症＞ 膀胱炎、腎盂腎炎、化膿性髄膜炎
用法・用量	通常成人、スルファジメトキシンとして、初日1.0～2.0g、２日目以降は0.5～1.0gを１日１回静脈内注射する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
アプシード注	第一製薬㈱

96. エノキサシン　(6241)

(内用)

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再評価結果
効能・効果	ブドウ球菌属、化膿レンサ球菌、溶血レンサ球菌、腸球菌、淋菌、大腸菌、シトロバクター属、シゲラ属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、腸炎ビブリオ、緑膿菌、シュードモナス・マルトフィリア、シュードモナス・セパシア、インフルエンザ菌、アシネトバクター属、カンピロバクター属のうち本剤感性菌による下記感染症 毛のう(包)炎(膿疱性痤瘡を含む)、癤、癤腫症、よう、伝染性膿痂疹(膿痂疹性湿疹を含む)、丹毒、蜂巣炎、リンパ管(節)炎、瘭疽、皮下膿瘍、感染性粉瘤、外傷・熱傷・手術創などの表在性二次感染、咽喉頭炎、急性気管支炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍)、慢性気管支炎、気管支拡張症(感染時)、びまん性汎細気管支炎、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎、肺化膿症、腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎、淋菌性尿道炎、胆のう炎、胆管炎、細菌性赤痢、腸(大腸)炎、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、腸球菌属、淋菌、大腸菌、赤痢菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、腸炎ビブリオ、インフルエンザ菌、緑膿菌、バークホルデリア・セパシア、ステノトロホモナス(ザントモナス)・マルトフィリア、アシネトバクター属、カンピロバクター属 <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、咽頭・喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎(急性症、慢性症)、尿道炎、胆嚢炎、胆管炎、感染性腸炎、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎
用法・用量	無水エノキサシンとして、通常、成人に1日300～600㎎を2～3回に分割経口投与する。 なお、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
フルマーク錠100mg	大日本製薬㈱	フルマーク錠200mg	大日本製薬㈱

97. 塩酸シプロフロキサシン　(6241)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ブドウ球菌属、化膿レンサ球菌、腸球菌、肺炎球菌、ペプトストレプトコッカス属、淋菌、大腸菌、シトロバクター属、シゲラ属、クレブシェラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、緑膿菌、インフルエンザ菌、アシネトバクター属、炭疽菌のうち本剤感性菌による下記感染症 ・咽喉頭炎、急性気管支炎、扁桃炎、慢性気管支炎、気管支拡張症(感染時)、びまん性汎細気管支炎、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎 ・腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎、副睾丸炎、淋菌性尿道炎 ・胆のう炎、胆管炎 ・細菌性赤痢、腸炎 ・中耳炎、副鼻腔炎 ・毛のう炎(膿疱性痤瘡を含む)、癤、癤腫症、よう、蜂巣炎、リンパ管(節)炎、瘭疽、皮下膿瘍、感染性粉瘤 ・乳腺炎、肛門周囲膿瘍、外傷・熱傷・手術創などの表在性二次感染 ・眼瞼炎、麦粒腫、涙のう炎、瞼板腺炎 ・子宮付属器炎、子宮内感染、バルトリン腺炎 ・炭疽	＜適応菌種＞ シプロフロキサシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、炭疽菌、大腸菌、赤痢菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、緑膿菌、アシネトバクター属、ペプトストレプトコッカス属 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、肛門周囲膿瘍、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、精巣上体炎（副睾丸炎）、尿道炎、胆嚢炎、胆管炎、感染性腸炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、涙嚢炎、麦粒腫、瞼板腺炎、中耳炎、副鼻腔炎、炭疽
用法・用量	シプロフロキサシンとして、通常成人１回100～200㎎を１日２～３回経口投与する。 なお、感染症の種類及び症状に応じ適宜増減する。 炭疽に対しては、シプロフロキサシンとして、成人１回400㎎を１日２回経口投与する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
シバスタン錠200mg	鶴原製薬㈱＝マルコ製薬㈱	シプロキサン錠200mg	バイエル薬品㈱
シフロキノン錠100	日本医薬品工業㈱	ジスプロチン錠100mg	大洋薬品工業㈱
シフロキノン錠200	日本医薬品工業㈱	ジスプロチン錠200mg	大洋薬品工業㈱
シフロサシン錠200	長生堂製薬㈱	フロキシール錠200	沢井製薬㈱＝旭化成ファーマ㈱
シプキサノン錠200	東和薬品㈱	プリモール錠100mg	辰巳化学㈱
シプロキサン錠100mg	バイエル薬品㈱	プリモール錠200mg	辰巳化学㈱

98. 塩酸ロメフロキサシン　(6241)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再評価結果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、ペプトストレプトコッカス属、淋菌、ブランハメラ属、大腸菌、シトロバクター属、サルモネラ属、シゲラ属、クレブシェラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、緑膿菌、インフルエンザ菌、アシネトバクター属、カンピロバクター属のうち本剤感性菌による下記感染症 ・毛嚢（包）炎、膿疱性痤瘡、癤、癤腫症、よう、丹毒、蜂巣炎、リンパ管（節）炎、瘭疽、化膿性爪囲炎、皮下膿瘍、化膿性汗腺炎、集簇性痤瘡、感染性粉瘤、慢性膿皮症、肛門周囲膿瘍 ・乳腺炎、骨髄炎、関節炎、外傷・熱傷・手術創などの表在性二次感染 ・急性気管支炎、慢性気管支炎、気管支拡張症（感染時）、慢性呼吸器疾患の二次感染、びまん性汎細気管支炎、肺炎、肺化膿症 ・腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎、淋菌性尿道炎 ・胆のう炎、胆管炎 ・細菌性赤痢、腸（大腸）炎 ・子宮付属器炎、子宮内感染、バルトリン腺炎 ・眼瞼炎、麦粒腫、眼瞼膿瘍、涙嚢炎、瞼板腺炎、角膜潰瘍 ・中耳炎、副鼻腔炎 ・歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎	＜適応菌種＞ ロメフロキサシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、緑膿菌、アシネトバクター属、カンピロバクター属、ペプトストレプトコッカス属 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、肛門周囲膿瘍、骨髄炎、関節炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、尿道炎、感染性腸炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、眼瞼膿瘍、涙嚢炎、麦粒腫、瞼板腺炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む）、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎
用法・用量	通常、成人にはロメフロキサシンとして1回100～200mgを1日2～3回経口投与する。なお、感染症の種類及び症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
バレオンカプセル100mg	アボット ジャパン㈱	ロメバクトカプセル100mg	塩野義製薬㈱
バレオン錠200mg	アボット ジャパン㈱		

98. 塩酸ロメフロキサシン　(1319)

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ロメフロキサシン感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、腸球菌属、ミクロコッカス属、コリネバクテリウム属、ブランハメラ・カタラーリス、プロピオニバクテリウム・アクネス、バシラス属、クレブシェラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、シュードモナス属、フラボバクテリウム属、インフルエンザ菌、ヘモフィルス・エジプチウス(コッホ・ウィークス菌)、モラクセラ属、アシネトバクター属による下記感染症 眼瞼炎、麦粒腫、涙嚢炎、結膜炎、瞼板腺炎、角膜炎、角膜潰瘍、術後感染症	<適応菌種> ロメフロキサシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、ミクロコッカス属、モラクセラ属、コリネバクテリウム属、バシラス属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、ヘモフィルス・エジプチウス（コッホ・ウィークス菌)、シュードモナス属、緑膿菌、バークホルデリア・セパシア、ステノトロホモナス（ザントモナス)・マルトフィリア、アシネトバクター属、フラボバクテリウム属、アクネ菌 <適応症> 眼瞼炎、涙嚢炎、麦粒腫、結膜炎、瞼板腺炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む)、眼科周術期の無菌化療法
用法・用量	通常、1回1滴、1日3回点眼する。なお、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
ロメフロン点眼液	千寿製薬㈱ －武田薬品工業㈱

98. 塩酸ロメフロキサシン　(1319,1329)

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	眼科用 ロメフロキサシン感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、腸球菌属、ミクロコッカス属、コリネバクテリウム属、ブランハメラ・カタラーリス、プロピオニバクテリウム・アクネス、バシラス属、クレブシェラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、シュードモナス属、フラボバクテリウム属、インフルエンザ菌、ヘモフィルス・エジプチウス(コッホ・ウィークス菌)、モラクセラ属、アシネトバクター属による下記感染症 眼瞼炎、麦粒腫、涙囊炎、結膜炎、瞼板腺炎、角膜炎、角膜潰瘍、術後感染症 耳科用 ロメフロキサシン感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、クレブシェラ属、エンテロバクター属、プロテウス属、プロビデンシア属、シュードモナス属、アシネトバクター属、アルカリゲネス属による下記感染症 外耳炎、中耳炎	［眼科用］ <適応菌種> ロメフロキサシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、ミクロコッカス属、モラクセラ属、コリネバクテリウム属、バシラス属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、ヘモフィルス・エジプチウス（コッホ・ウィークス菌)、シュードモナス属、緑膿菌、バークホルデリア・セパシア、ステノトロホモナス（ザントモナス)・マルトフィリア、アシネトバクター属、フラボバクテリウム属、アクネ菌 <適応症> 眼瞼炎、涙囊炎、麦粒腫、結膜炎、瞼板腺炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む)、眼科周術期の無菌化療法 ［耳科用］ <適応菌種> ロメフロキサシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、プロテウス属、プロビデンシア属、シュードモナス属、緑膿菌、アシネトバクター属、アルカリゲネス属 <適応症> 外耳炎、中耳炎
用法・用量	眼科用 通常、１回１滴、１日３回点眼する。なお、症状により適宜増減する。 耳科用 通常、１回６～10滴点耳し、約10分間の耳浴を１日２回行う。なお、症状により適宜回数を増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
ロメフロンミニムス眼科耳科用液	千寿製薬㈱ －武田薬品工業㈱

98. 塩酸ロメフロキサシン　(1329)

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ロメフロキサシン感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、クレブシェラ属、エンテロバクター属、プロテウス属、プロビデンシア属、シュードモナス属、アシネトバクター属、アルカリゲネス属による下記感染症 外耳炎、中耳炎	＜適応菌種＞ ロメフロキサシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、プロテウス属、プロビデンシア属、シュードモナス属、緑膿菌、アシネトバクター属、アルカリゲネス属 ＜適応症＞ 外耳炎、中耳炎
用法・用量	通常、１回６～10滴点耳し、約10分間の耳浴を１日２回行う。なお、症状により適宜回数を増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
ロメフロン耳科用液	千寿製薬㈱ －グレラン製薬㈱ －武田薬品工業㈱

99. オフロキサシン　(6241)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	ブドウ球菌属、化膿レンサ球菌、溶血レンサ球菌、腸球菌、肺炎球菌、ペプトストレプトコッカス属、淋菌、大腸菌、シトロバクター属、チフス菌、パラチフス菌、シゲラ属、肺炎桿菌、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、緑膿菌、インフルエンザ菌、アシネトバクター属、カンピロバクター属、クラミジア・トラコマティス、らい菌のうち本剤感性菌による下記感染症 ・毛嚢炎、癤、癤腫症、よう、丹毒、蜂巣炎、リンパ管(節)炎、瘭疽、皮下膿瘍、汗腺炎、集簇性痤瘡、感染性粉瘤、肛門周囲膿瘍 ・乳腺炎、外傷・熱傷・手術創などの表在性二次感染 ・咽喉頭炎、急性気管支炎、扁桃炎、慢性気管支炎、気管支拡張症(感染時)、びまん性汎細気管支炎、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎 ・腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎、副睾丸炎、淋菌性尿道炎、非淋菌性尿道炎 ・胆のう炎、胆管炎 ・細菌性赤痢、感染性腸炎、腸チフス、パラチフス ・子宮付属器炎、子宮内感染、子宮頸管炎、バルトリン腺炎 ・眼瞼炎、麦粒腫、涙嚢炎、瞼板腺炎、角膜潰瘍 ・中耳炎、副鼻腔炎 ・歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎 ・ハンセン病	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、らい菌、大腸菌、赤痢菌、チフス菌、パラチフス菌、シトロバクター属、肺炎桿菌、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、緑膿菌、アシネトバクター属、カンピロバクター属、ペプトストレプトコッカス属、トラコーマクラミジア（クラミジア・トラコマティス） <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、肛門周囲膿瘍、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、精巣上体炎（副睾丸炎）、尿道炎、子宮頸管炎、胆嚢炎、胆管炎、感染性腸炎、腸チフス、パラチフス、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、涙嚢炎、麦粒腫、瞼板腺炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む）、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎、ハンセン病
用法・用量	通常、成人に対して、オフロキサシンとして1日300～600mgを２～３回に分割して経口投与する。ハンセン病については、オフロキサシンとして１日400～600mgを２～３回に分割して経口投与する。なお、感染症の種類および症状により適宜増減する。 ハンセン病については、原則として他の抗ハンセン病剤と併用する。 腸チフス、パラチフスについては、オフロキサシンとして１回200mgを１日４回、14日間経口投与する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
タリビッド錠	第一製薬㈱

99. オフロキサシン　(1319)

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	オフロキサシン感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、ミクロコッカス属、コリネバクテリウム属、ブランハメラ・カタラリス、シュードモナス属、緑膿菌、ヘモフィルス属[インフルエンザ菌、ヘモフィルス・エジプティウス(コッホ・ウィークス菌)]、モラクセラ属(モラー・アクセンフェルド菌)、セラチア属、クレブシェラ属、プロテウス属、アシネトバクター属、嫌気性菌(プロピオニバクテリウム・アクネス)による下記感染症 眼瞼炎、麦粒腫、涙嚢炎、結膜炎、瞼板腺炎、角膜炎、角膜潰瘍、術後感染症。	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、ミクロコッカス属、モラクセラ属、コリネバクテリウム属、クレブシエラ属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、ヘモフィルス・エジプチウス(コッホ・ウィークス菌)、シュードモナス属、緑膿菌、バークホルデリア・セパシア、ステノトロホモナス（ザントモナス)・マルトフィリア、アシネトバクター属、アクネ菌 <適応症> 眼瞼炎、涙嚢炎、麦粒腫、結膜炎、瞼板腺炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む)、眼科周術期の無菌化療法
用法・用量	通常、１回１滴、１日３回点眼する。 なお、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
オーハラキシン点眼液0.3%	大原薬品工業㈱＝日本アルコン㈱	タリキサシン点眼液0.3%	日新製薬㈱
オプール点眼液0.3%	メディサ新薬㈱ －沢井製薬㈱	タリザート点眼液0.3%	大正薬品工業㈱
オフテクター点眼液0.3%	㈱富士薬品 －わかもと製薬㈱	タリビッド点眼液	参天製薬㈱
オフロキサット点眼液0.3%	日本医薬品工業㈱	タリフロン点眼液0.3%	東和薬品㈱
オフロキシン点眼液0.3%	東亜薬品㈱ －日東メディック㈱	ファルキサシン点眼液0.3%	東洋ファルマー㈱＝興和㈱
オルカビット点眼液0.3%	シオノケミカル㈱	マロメール点眼液0.3%	大興製薬㈱ －㈱日本点眼薬研究所
キサトロン点眼液0.3%	昭和薬品化工㈱ －㈱ナイツ	リビゲット点眼液0.3%	長生堂製薬㈱＝メルク・ホエイ㈱

99. オフロキサシン　(1319)

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	オフロキサシン感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、ミクロコッカス属、コリネバクテリウム属、ブランハメラ・カタラリス、シュードモナス属、緑膿菌、ヘモフィルス属[インフルエンザ菌、ヘモフィルス・エジプティウス(コッホ・ウィークス菌)]、モラクセラ属(モラー・アクセンフェルド菌)、セラチア属、クレブシェラ属、プロテウス属、アシネトバクター属、嫌気性菌(プロピオニバクテリウム・アクネス)、クラミジア・トラコマティスによる下記感染症 眼瞼炎、麦粒腫、涙嚢炎、結膜炎、瞼板腺炎、角膜炎、角膜潰瘍、術後感染症、トラコーマ。	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、ミクロコッカス属、モラクセラ属、コリネバクテリウム属、クレブシエラ属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、ヘモフィルス・エジプチウス(コッホ・ウィークス菌)、シュードモナス属、緑膿菌、バークホルデリア・セパシア、ステノトロホモナス（ザントモナス)・マルトフィリア、アシネトバクター属、アクネ菌、トラコーマクラミジア（クラミジア・トラコマティス） <適応症> 眼瞼炎、涙嚢炎、麦粒腫、結膜炎、瞼板腺炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む)、眼科周術期の無菌化療法
用法・用量	通常、適量を１日３回塗布する。 なお、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
オフタイト眼軟膏0.3%	㈱日本点眼薬研究所	タリビッド眼軟膏	参天製薬㈱

99. オフロキサシン　(1329)

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、プロテウス属、緑膿菌、インフルエンザ菌のうち本剤感性菌による下記感染症 中耳炎、外耳炎	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、緑膿菌 <適応症> 外耳炎、中耳炎
用法・用量	通常、成人に対して、１回６～10滴を１日２回点耳する。点耳後は約10分間の耳浴を行う。なお、症状により適宜回数を増減する。小児に対しては、適宜滴数を減ずる。	承認内容に同じ

販売名	会社名
タリビッド耳科用液	第一製薬㈱

100. スパルフロキサシン　(6241)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ブドウ球菌属、化膿レンサ球菌、溶血レンサ球菌、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、ブランハメラ・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、サルモネラ属、シゲラ属、クレブシェラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、緑膿菌、インフルエンザ菌、アシネトバクター属、ペプトストレプトコッカス属、プロピオニバクテリウム・アクネス、バクテロイデス属、マイコプラズマ・ニューモニエ、クラミジア・トラコマティス、クラミジア・ニューモニエ、炭疽菌、ブルセラ属、コレラ菌、ペスト菌、野兎病菌、Q熱リケッチアのうち本剤感性菌による下記感染症 ・膿疱性痤瘡、集簇性痤瘡、毛嚢炎、癤、癤腫症、よう、伝染性膿痂疹、丹毒、蜂巣炎、リンパ管(節)炎、瘭疽、化膿性爪周炎、皮下膿瘍、汗腺炎、感染性粉瘤 ・乳腺炎、肛門周囲膿瘍、外傷・熱傷・手術創等の表在性二次感染 ・咽喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、慢性気管支炎、気管支拡張症(感染時)、びまん性汎細気管支炎、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎 ・腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎、淋菌性尿道炎、非淋菌性尿道炎 ・胆のう炎、胆管炎 ・細菌性赤痢、感染性腸炎、サルモネラ腸炎、腸チフス、パラチフス、コレラ ・子宮付属器炎、子宮内感染、子宮頚管炎、バルトリン腺炎 ・眼瞼炎、麦粒腫、涙嚢炎、結膜炎、瞼板腺炎 ・中耳炎、副鼻腔炎 ・歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎 ・炭疽 ・ブルセラ症 ・ペスト ・野兎病 ・Q熱	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、炭疽菌、大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、ペスト菌、コレラ菌、インフルエンザ菌、緑膿菌、アシネトバクター属、ブルセラ属、野兎病菌、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属（プレボテラ・ビビアを除く)、アクネ菌、Q熱リケッチア（コクシエラ・ブルネティ)、クラミジア属、肺炎マイコプラズマ（マイコプラズマ・ニューモニエ) <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、ざ瘡（化膿性炎症を伴うもの)、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、肛門周囲膿瘍、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症)、尿道炎、子宮頚管炎、胆嚢炎、胆管炎、感染性腸炎、腸チフス、パラチフス、コレラ、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、涙嚢炎、麦粒腫、瞼板腺炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎、炭疽、ブルセラ症、ペスト、野兎病、Q熱
用法・用量	通常、成人にスパルフロキサシンとして1日100～300mgを1～2回に分割経口投与する。なお、感染症の種類および症状により適宜増減する。 腸チフス、パラチフスについては1日200～400mgを2回に分割し、14日間投与する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
スパラ錠100mg	大日本製薬㈱

101. トシル酸トスフロキサシン　(6241)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承 認 内 容	再 評 価 結 果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、腸球菌属、肺炎球菌、ペプトストレプトコッカス属、淋菌、ブランハメラ・カタラーリス、プロピオニバクテリウム・アクネス、炭疽菌、大腸菌、シトロバクター属、サルモネラ属、シゲラ属、クレブシェラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、コレラ菌、緑膿菌、シュードモナス・セパシア、キサントモナス・マルトフィリア、インフルエンザ菌、アシネトバクター属、バクテロイデス属、クラミジア・トラコマティスのうち本剤感性菌による下記感染症 ・毛囊炎(膿疱性ざ瘡を含む)、せつ、せつ腫症、よう、丹毒、蜂巣炎、リンパ管(節)炎、ひょう疽、化膿性爪囲炎、皮下膿瘍、汗腺炎、集簇性ざ瘡、感染性粉瘤、肛門周囲膿瘍 ・乳腺炎、骨髄炎、化膿性関節炎、外傷・手術創等の表在性二次感染 ・咽喉頭炎、急性気管支炎、扁桃炎(扁桃周囲膿瘍を含む)、慢性気管支炎、気管支拡張症(感染時)、びまん性汎細気管支炎、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎 ・腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎、副睾丸炎、淋菌性尿道炎、非淋菌性尿道炎 ・胆のう炎、胆管炎 ・細菌性赤痢、感染性腸炎、コレラ、腸チフス、パラチフス ・子宮付属器炎、子宮内感染、バルトリン腺炎 ・眼瞼炎、麦粒腫、涙囊炎、瞼板腺炎 ・外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、化膿性唾液腺炎 ・歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎 ・炭疽	＜適応菌種＞ トスフロキサシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、炭疽菌、大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属、チフス菌、パラチフス菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、コレラ菌、インフルエンザ菌、緑膿菌、バークホルデリア・セパシア、ステノトロホモナス（ザントモナス）・マルトフィリア、アシネトバクター属、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属、アクネ菌、トラコーマクラミジア（クラミジア・トラコマティス） ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、ざ瘡（化膿性炎症を伴うもの)、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、肛門周囲膿瘍、骨髄炎、関節炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症)、精巣上体炎（副睾丸炎)、尿道炎、胆囊炎、胆管炎、感染性腸炎、腸チフス、パラチフス、コレラ、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、涙囊炎、麦粒腫、瞼板腺炎、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、化膿性唾液腺炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎、炭疽
用法・用量	通常、成人に対して、トシル酸トスフロキサシンとして１日300～450mg（トスフロキサシンとして204～306mg）を２～３回に分割して経口投与する。 ◯骨髄炎、化膿性関節炎の場合 通常、成人に対して、トシル酸トスフロキサシンとして１日450mg（トスフロキサシンとして306mg）を３回に分割して経口投与する。 ◯腸チフス、パラチフスの場合 通常、成人に対して、トシル酸トスフロキサシンとして１日600mg（トスフロキサシンとして408mg）を４回に分割して14日間経口投与する。なお、腸チフス、パラチフスを除く症例においては、感染症の種類及び症状により適宜増減するが、重症又は効果不十分と思われる症例にはトシル酸トスフロキサシンとして１日600mg（トスフロキサシンとして408mg）を経口投与する。	通常、成人に対して、トシル酸トスフロキサシンとして１日300～450mg（トスフロキサシンとして204～306mg）を２～３回に分割して経口投与する。 ［骨髄炎、関節炎の場合］ 通常、成人に対して、トシル酸トスフロキサシンとして１日450mg（トスフロキサシンとして306mg）を３回に分割して経口投与する。 ［腸チフス、パラチフスの場合］ 通常、成人に対して、トシル酸トスフロキサシンとして１日600mg（トスフロキサシンとして408mg)を４回に分割して14日間経口投与する。なお、腸チフス、パラチフスを除く症例においては、感染症の種類及び症状により適宜増減するが、重症又は効果不十分と思われる症例にはトシル酸トスフロキサシンとして１日600mg（トスフロキサシンとして408mg）を経口投与する。

販売名	会社名	販売名	会社名
オゼックス錠75	富山化学工業㈱ －大正富山医薬品㈱	トスキサシン錠75mg	アボット ジャパン㈱ －大日本製薬㈱
オゼックス錠150	富山化学工業㈱ －大正富山医薬品㈱	トスキサシン錠150mg	アボット ジャパン㈱ －大日本製薬㈱

102. ナリジクス酸　(6241)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能 ・ 効果	有効菌種 (1)大腸菌、赤痢菌、腸炎ビブリオ (2)本剤に感性のプロテウス属及び肺炎桿菌、他のすべての薬剤に耐性で本剤に感性のサルモネラ属(チフス菌、パラチフスＡ菌、パラチフスＢ菌を除く) 適応症 腎盂腎炎、腎盂炎、膀胱炎、尿道炎、前立腺炎、淋疾、細菌性赤痢、腸炎、胆のう胆管炎	＜適応菌種＞ 本剤に感性の淋菌、大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属（チフス菌、パラチフス菌を除く）、肺炎桿菌、プロテウス属、腸炎ビブリオ ＜適応症＞ 膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、淋菌感染症、感染性腸炎
用法 ・ 用量	ナリジクス酸として、通常成人１日１～４ｇを２～４回に分割経口投与する。 なお、年令、症状により適宜増減する。	ナリジクス酸として、通常成人１日１～４ｇを２～４回に分割経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。

販売名	会社名	販売名	会社名
ウイントマイロン錠250	第一製薬㈱	タケシマイロン錠250	竹島製薬㈱
ウイントマイロン錠500	第一製薬㈱	ナリジクス酸カプセル250mg－K	小林薬品工業㈱
ウイントマイロンシロップ	埼玉第一製薬㈱ －第一製薬㈱	ナリジクス酸カプセル500mg－K	小林薬品工業㈱
ウイントリン錠250	㈱三恵薬品	ナリジクス酸錠・250mg	明治薬品㈱
ウイントリン錠500	㈱三恵薬品	ヨウジクス錠	㈱陽進堂
ウナセルス	㈱イセイ	ヨウジクス錠500	㈱陽進堂
ウロニジクス錠	日新製薬㈱		

103. ノルフロキサシン　(6241)

(内用)

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、腸球菌、肺炎球菌、淋菌、炭疽菌、大腸菌、シトロバクター属、サルモネラ属、シゲラ属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、コレラ菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、インフルエンザ菌、野兎病菌、カンピロバクター属のうち本剤感性菌による下記感染症 ○咽喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎 ○腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎、淋菌性尿道炎 ○毛嚢(包)炎(膿疱性痤瘡を含む)、癤、よう、伝染性膿痂疹、蜂巣炎、皮下膿瘍、感染性粉瘤 ○胆のう炎、胆管炎 ○細菌性赤痢、感染性腸炎、腸チフス、パラチフス、コレラ ○中耳炎、副鼻腔炎 ○炭疽 ○野兎病	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、炭疽菌、大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属、チフス菌、パラチフス菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア・レットゲリ、コレラ菌、腸炎ビブリオ、インフルエンザ菌、緑膿菌、野兎病菌、カンピロバクター属 <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、尿道炎、胆嚢炎、胆管炎、感染性腸炎、腸チフス、パラチフス、コレラ、中耳炎、副鼻腔炎、炭疽、野兎病
用法・用量	ノルフロキサシンとして、通常成人１回100～200㎎を１日３～４回経口投与する。 なお、症状により適宜増減する。 ただし、腸チフス、パラチフスの場合は、ノルフロキサシンとして１回400㎎を１日３回、14日間経口投与する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
アスデュフェ錠100mg	㈱陽進堂	ノフキサン錠100mg	大正薬品工業㈱
アスデュフェ錠200mg	㈱陽進堂	ノフキサン錠200mg	大正薬品工業㈱
ウナセラ錠200mg	㈱イセイ	ノフロキサン錠100mg	日本医薬品工業㈱
キサフロール錠100	沢井製薬㈱	ノフロキサン錠200mg	日本医薬品工業㈱
キサフロール錠200	沢井製薬㈱	ノルコジン錠200	岩城製薬㈱
シーヌン錠100mg	辰巳化学㈱	ノルバクシン錠100mg	共和薬品工業㈱
シーヌン錠200mg	辰巳化学㈱	ノルバクシン錠200mg	共和薬品工業㈱
シンノルフ錠100mg	シオノケミカル㈱	ノルフロキサシン錠100「EMEC」	サンノーバ㈱－エルメッド エーザイ㈱
シンノルフ錠200mg	シオノケミカル㈱	ノルフロキサシン錠200「EMEC」	サンノーバ㈱－エルメッド エーザイ㈱
ストバニール錠100mg	大洋薬品工業㈱	バクシダール錠100mg	杏林製薬㈱＝日清キョーリン製薬㈱
ストバニール錠200mg	大洋薬品工業㈱	バクシダール錠200mg	杏林製薬㈱＝日清キョーリン製薬㈱
トーワキサン錠100	東和薬品㈱	バスティーン錠	全星薬品工業㈱
トーワキサン錠200	東和薬品㈱	バフロキサール錠100mg	鶴原製薬㈱
ノトラー錠100mg	日本ヘキサル㈱	バフロキサール錠200mg	鶴原製薬㈱
ノトラー錠200mg	日本ヘキサル㈱	バロクール錠100mg	ナガセ医薬品㈱－メルク・ホエイ㈱

バロクール錠200mg	ナガセ医薬品㈱ －メルク・ホエイ㈱	ミタトニン錠100	東洋ファルマー㈱
ブレマラート錠100mg	長生堂製薬㈱	ミタトニン錠200	東洋ファルマー㈱
ブレマラート錠200mg	長生堂製薬㈱		

103. ノルフロキサシン　(6241)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、腸球菌、肺炎球菌、炭疽菌、大腸菌、シトロバクター属、サルモネラ属、シゲラ属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、緑膿菌、インフルエンザ菌、野兎病菌、カンピロバクター属のうち本剤感性菌による下記感染症 ○咽喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎 ○腎盂腎炎、膀胱炎、 ○伝染性膿痂疹、皮下膿瘍 ○細菌性赤痢、感染性腸炎、腸チフス、パラチフス ○炭疽 ○野兎病	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、炭疽菌、大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属、チフス菌、パラチフス菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、インフルエンザ菌、緑膿菌、野兎病菌、カンピロバクター属 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、慢性膿皮症、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、膀胱炎、腎盂腎炎、感染性腸炎、腸チフス、パラチフス、炭疽、野兎病
用法・用量	本剤は他の抗菌剤が無効と判断される症例に対してのみ投与する。 ノルフロキサシンとして、通常１日体重１kg当たり６～12mgを３回に分けて経口投与する。 なお、症状により適宜増減する。 また、投与期間はできるだけ短期間（原則として７日以内）にとどめること。 ただし、腸チフス、パラチフスの場合は、ノルフロキサシンとして１日体重１kg当たり15～18mgを３回に分けて、14日間経口投与する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
小児用バクシダール錠50mg	杏林製薬㈱

103. ノルフロキサシン　(1319)

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ノルフロキサシン感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、コリネバクテリウム属、ミクロコッカス属、バシラス属、ブランハメラ・カタラーリス、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、シュードモナス属、緑膿菌、フラボバクテリウム属、ヘモフィルス属[インフルエンザ菌、ヘモフィルス・エジプチウス(コッホ・ウィークス菌)]、モラクセラ属、アシネトバクター属、アルカリゲネス属による下記感染症 眼瞼炎、麦粒腫、涙嚢炎、結膜炎、瞼板腺炎、角膜炎、角膜潰瘍、術後感染症	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、ミクロコッカス属、モラクセラ属、コリネバクテリウム属、バシラス属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、インフルエンザ菌、ヘモフィルス・エジプチウス(コッホ・ウィークス菌)、シュードモナス属、緑膿菌、バークホルデリア・セパシア、ステノトロホモナス（ザントモナス)･マルトフィリア､アシネトバクター属、フラボバクテリウム属、アルカリゲネス属 ＜適応症＞ 眼瞼炎、涙嚢炎、麦粒腫、結膜炎、瞼板腺炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む)、眼科周術期の無菌化療法
用法・用量	通常、１回１滴、１日３回点眼する。 なお、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
ノキサシン点眼液	わかもと製薬㈱	ビスコレット点眼液	㈱富士薬品 －日東メディック㈱
ノフロ点眼液	萬有製薬㈱	フロバール点眼液	㈱模範薬品研究所 －メルク・ホエイ㈱
ノフロキサン点眼液	日本医薬品工業㈱	マリオットン点眼液	鶴原製薬㈱
バクシダール点眼液	杏林製薬㈱ －千寿製薬㈱	ミタトニン点眼液	東洋ファルマー㈱ ＝日東メディック㈱
バクファミル点眼液	日新製薬㈱＝日本アルコン㈱		

104. ピペミド酸三水和物　(6241)

(内用)

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	<有効菌種> 大腸菌、クレブシェラ、エンテロバクター、シトロバクター、プロテウス、緑膿菌、赤痢菌、腸炎ビブリオ <適応症> 腎盂腎炎、腎盂炎、膀胱炎、尿道炎 前立腺炎 細菌性赤痢、腸炎 中耳炎、副鼻腔炎	<適応菌種> ピペミド酸に感性の大腸菌、赤痢菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、プロテウス属、腸炎ビブリオ、緑膿菌 <適応症> 膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、感染性腸炎、中耳炎、副鼻腔炎
用法・用量	腎盂腎炎、腎盂炎、膀胱炎、尿道炎、前立腺炎に対し、ピペミド酸として、通常、成人に１日500～2000㎎を３～４回に分割経口投与する。 細菌性赤痢、腸炎、中耳炎、副鼻腔炎に対し、通常、成人に１日1500～2000㎎を３～４回に分割経口投与する。 なお、症状により適宜増減する。	［膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）の場合］ ピペミド酸として、通常、成人に１日500～2000mgを３～４回に分割経口投与する。 ［感染性腸炎、中耳炎、副鼻腔炎の場合］ 通常、成人に１日1500～2000mgを３～４回に分割経口投与する。 なお、症状により適宜増減する。

販売名	会社名	販売名	会社名
カルノマチン	㈱イセイ	ピペロテート錠250	東和薬品㈱
コパスター	日本薬品工業㈱	ペピミドール錠	㈱陽進堂
ドルコール錠250mg	大日本製薬㈱		

105. ピロミド酸　(6241)

(内用)

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ブドウ球菌およびグラム陰性桿菌(腸炎ビブリオ、赤痢菌、大腸菌、クレブシェラ、プロテウス)による下記の感染症 尿路感染症(腎盂炎、腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎) 腸管感染症(赤痢、腸炎、感染型食中毒) 胆道感染症(胆管炎、胆のう炎) 膵炎	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、大腸菌、赤痢菌、クレブシエラ属、プロテウス属、腸炎ビブリオ <適応症> 膀胱炎、腎盂腎炎、胆嚢炎、胆管炎、感染性腸炎
用法・用量	通常、成人は１日量６～12錠（ピロミド酸として1500～3000㎎）を、３～４回に分けて経口投与する。 小児に対して、１日量ピロミド酸として約50㎎／㎏を、３～４回に分けて経口投与する。 なお、年令、症状に応じて適宜増減する。	通常、成人は１日量６～12錠（ピロミド酸として1500～3000mg）を、３～４回に分けて経口投与する。 小児に対して、１日量ピロミド酸として約50mg/kgを、３～４回に分けて経口投与する。 なお、年齢、症状に応じて適宜増減する。

販売名	会社名
パナシッド錠	大日本製薬㈱

106. フレロキサシン　（6241）

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ブドウ球菌属、化膿レンサ球菌、溶血レンサ球菌、腸球菌属、ブランハメラ・カタラーリス、ペプトストレプトコッカス属、淋菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、緑膿菌、キサントモナス・マルトフィリア、シュードモナス・セパシア、インフルエンザ菌、アシネトバクター属、プロピオニバクテリウム・アクネス、バクテロイデス属のうち本剤感性菌による下記感染症 ○咽喉頭炎、急性気管支炎、扁桃炎、慢性気管支炎、気管支拡張症（感染時）、肺炎、びまん性汎細気管支炎、慢性呼吸器疾患の二次感染 ○腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎、副睾丸炎、淋菌性尿道炎 ○子宮付属器炎、子宮内感染、バルトリン腺炎、子宮頸管炎 ○乳腺炎、肛門周囲膿瘍、外傷・熱傷・手術創等の表在性二次感染 ○集簇性痤瘡、毛嚢（包）炎、癤、癤腫症、よう、丹毒、蜂巣炎、リンパ管（節）炎、瘭疽、皮下膿瘍、汗腺炎、感染性粉瘤 ○中耳炎、副鼻腔炎 ○眼瞼炎、麦粒腫、涙嚢炎、瞼板腺炎 ○歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、腸球菌属、淋菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、インフルエンザ菌、緑膿菌、バークホルデリア・セパシア、ステノトロホモナス（ザントモナス）・マルトフィリア、アシネトバクター属、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、アクネ菌 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、肛門周囲膿瘍、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、精巣上体炎（副睾丸炎）、尿道炎、子宮頸管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、涙嚢炎、麦粒腫、瞼板腺炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎
用法・用量	フレロキサシンとして、通常成人1回200～300mgを1日1回経口投与する。 なお、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
タツミラン錠100mg	辰巳化学㈱	フレメガシン錠150mg	長生堂製薬㈱
バルトネール錠100mg	鶴原製薬㈱	メガキサシン錠100mg	沢井製薬㈱
バルトネール錠150mg	鶴原製薬㈱	メガロシン錠100mg	杏林製薬㈱
フルミコシン錠100	大洋薬品工業㈱	メガロシン錠150mg	杏林製薬㈱
フレメガシン錠100mg	長生堂製薬㈱		

107. レボフロキサシン　(6241)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ブドウ球菌属、肺炎球菌、化膿レンサ球菌、溶血レンサ球菌、腸球菌属、ペプトストレプトコッカス属、淋菌、ブランハメラ・カタラーリス、プロピオニバクテリウム・アクネス、炭疽菌、大腸菌、シトロバクター属、サルモネラ属、シゲラ属、クレブシェラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、ペスト菌、コレラ菌、緑膿菌、インフルエンザ菌、アシネトバクター属、ブルセラ属、野兎病菌、カンピロバクター属、Q熱リケッチア、クラミジア・トラコマティスのうち本剤感性菌による下記感染症 ・集簇性痤瘡、毛嚢炎（膿疱性痤瘡を含む）、癤、癤腫症、よう、伝染性膿痂疹、丹毒、蜂巣炎、リンパ管（節）炎、化膿性爪囲炎（瘭疽を含む）、皮下膿瘍、汗腺炎、感染性粉瘤 ・乳腺炎、肛門周囲膿瘍、外傷・熱傷・手術創などの（表在性）二次感染 ・咽喉頭炎、急性気管支炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍）、慢性気管支炎、びまん性汎細気管支炎、気管支拡張症（感染時）、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎 ・腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎、副睾丸炎、淋菌性尿道炎、非淋菌性尿道炎 ・胆のう炎、胆管炎 ・細菌性赤痢、感染性腸炎、サルモネラ腸炎、コレラ、腸チフス、パラチフス ・子宮付属器炎、子宮内感染、子宮頸管炎、バルトリン腺炎 ・眼瞼炎、麦粒腫、涙嚢炎、結膜炎、瞼板腺炎 ・外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、化膿性唾液腺炎 ・歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎 ・炭疽、ペスト、野兎病 ・ブルセラ症、Q熱	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、炭疽菌、大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属、チフス菌、パラチフス菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、ペスト菌、コレラ菌、インフルエンザ菌、緑膿菌、アシネトバクター属、ブルセラ属、野兎病菌、カンピロバクター属、ペプトストレプトコッカス属、アクネ菌、Q熱リケッチア（コクシエラ・ブルネティ）、トラコーマクラミジア（クラミジア・トラコマティス） <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、ざ瘡（化膿性炎症を伴うもの）、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、肛門周囲膿瘍、咽頭・喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む）、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、精巣上体炎（副睾丸炎）、尿道炎、子宮頸管炎、胆嚢炎、胆管炎、感染性腸炎、腸チフス、パラチフス、コレラ、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、涙嚢炎、麦粒腫、瞼板腺炎、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、化膿性唾液腺炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎、炭疽、ブルセラ症、ペスト、野兎病、Q熱
用法・用量	通常、成人に対して、レボフロキサシンとして１回100mgを１日２～３回経口投与する。なお、感染症の種類および症状により適宜増減するが、重症または効果不十分と思われる症例にはレボフロキサシンとして１回200mgを１日３回経口投与する。腸チフス、パラチフスについては、レボフロキサシンとして１回100mgを１日４回、14日間経口投与する。 炭疽、ペスト、野兎病、ブルセラ症、Q熱については、レボフロキサシンとして１回200mgを１日２～３回経口投与する。	通常、成人に対して、レボフロキサシンとして１回100mgを１日２～３回経口投与する。 なお、感染症の種類および症状により適宜増減するが、重症または効果不十分と思われる症例にはレボフロキサシンとして１回200mgを１日３回経口投与する。 腸チフス、パラチフスについては、レボフロキサシンとして１回100mgを１日４回、14日間経口投与する。 炭疽、ブルセラ症、ペスト、野兎病、Q熱については、レボフロキサシンとして１回200mgを１日２～３回経口投与する。

販売名	会社名	販売名	会社名
クラビット細粒	第一製薬㈱	クラビット錠	第一製薬㈱

107. レボフロキサシン　(1319)

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	レボフロキサシン感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、ミクロコッカス属、腸球菌属、コリネバクテリウム属、シュードモナス属、緑膿菌、ヘモフィルス属[インフルエンザ菌、ヘモフィルス・エジプチウス(コッホ・ウィークス菌)]、モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス、モラクセラ属、モラー・アクセンフェルト菌、セラチア属、クレブシエラ属、プロテウス属、アシネトバクター属、エンテロバクター属、アクネ菌による下記感染症 眼瞼炎、麦粒腫、涙嚢炎、結膜炎、瞼板腺炎、角膜炎、角膜潰瘍、術後感染症	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、ミクロコッカス属、モラクセラ属、コリネバクテリウム属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、インフルエンザ菌、ヘモフィルス・エジプチウス(コッホ・ウィークス菌)、シュードモナス属、緑膿菌、ステノトロホモナス（ザントモナス）・マルトフィリア、アシネトバクター属、アクネ菌 ＜適応症＞ 眼瞼炎、涙嚢炎、麦粒腫、結膜炎、瞼板腺炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む)、眼科周術期の無菌化療法
用法・用量	通常、１回１滴、１日３回点眼する。 なお、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
クラビット点眼液	参天製薬㈱

配１． 硫酸コリスチン・硫酸フラジオマイシン　(2639)

（外用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	適応症 コリスチン、フラジオマイシン感受性菌による皮膚の単独又は混合感染症諸症 各科領域における手術後並びに外傷後の感染予防と治療 例えば、外傷、薬傷、熱傷、感染性肉芽、膿皮症(癤、癰)、膿痂疹性湿疹、伝染性膿痂疹、尋常性毛瘡、尋常性痤瘡、毛嚢炎、化膿性皮膚炎等の表在性皮膚化膿症 各種皮膚疾患の表在性二次的感染症 開放創、一般褥瘡及び脊損患者の褥瘡、糜爛及び潰瘍、植皮術における感染予防	＜有効菌種＞ コリスチン／フラジオマイシン感性菌 ＜適応症＞ 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん・潰瘍の二次感染
用法・用量	適用に際し予め患部を清拭し、患部に噴射口を向け、上部ボタンを押し適宜噴射塗布する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
コリマイフォーム	㈱科薬

配２．アモキシシリン・クラブラン酸カリウム　(6139)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	アモキシシリン耐性のブドウ球菌属、淋菌、大腸菌、クレブシェラ属、プロテウス・ブルガリス、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌、バクテロイデス属のうち、オーグメンチン感性菌による下記感染症。 ・毛嚢炎、癤、癤腫症、よう、蜂巣炎、リンパ管炎、化膿性爪囲炎、皮下膿瘍、感染性粉瘤 ・咽喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎 ・慢性気管支炎、気管支拡張症（感染時） ・慢性呼吸器疾患の二次感染 ・腎盂腎炎 ・膀胱炎 ・淋疾 ・子宮付属器炎、子宮内感染 ・中耳炎	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、淋菌、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス属、インフルエンザ菌、バクテロイデス属、プレボテラ属（プレボテラ・ビビアを除く） ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、淋菌感染症、子宮内感染、子宮付属器炎、中耳炎
用法・用量	【オーグメンチン錠】 通常成人は、１回１錠、１日３～４回を６～８時間毎に経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。 【オーグメンチンＳ錠】 通常成人は、１回２錠、１日３～４回を６～８時間毎に経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
オーグメンチン錠	グラクソ・スミスクライン㈱	オーグメンチンＳ錠	グラクソ・スミスクライン㈱

配２．アモキシシリン・クラブラン酸カリウム　(6139)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再評価結果
効能・効果	アモキシシリン耐性のブドウ球菌属、大腸菌、クレブシェラ属、プロテウス・ブルガリス、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌、バクテロイデス属のうちオーグメンチン感性菌による下記感染症。 せつ、蜂巣炎、リンパ管炎、皮下膿瘍、伝染性膿痂疹 咽頭炎、扁桃炎、急性気管支炎 尿路感染症(腎盂腎炎、膀胱炎) 中耳炎	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス属、インフルエンザ菌、バクテロイデス属、プレボテラ属（プレボテラ・ビビアを除く） <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、膀胱炎、腎盂腎炎、中耳炎
用法・用量	通常小児は、オーグメンチンとして１日量30～60㎎（力価）／㎏を３～４回に分けて６～８時間ごとに経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
オーグメンチン小児用顆粒	グラクソ・スミスクライン㈱

配３．イミペネム・シラスタチンナトリウム　(6139)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、腸球菌、ペプトコッカス属、ペプトストレプトコッカス属、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、シュードモナス属、インフルエンザ菌、アシネトバクター属、バクテロイデス属のうち本剤感性菌による下記感染症 敗血症、感染性心内膜炎 骨髄炎、関節炎、創傷の二次感染 気管支炎、気管支拡張症(感染時)、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎、肺化膿症、膿胸 腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎 胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍 腹膜炎 子宮付属器炎、子宮内感染、骨盤死腔炎、子宮旁結合織炎、バルトリン腺炎 全眼球炎、角膜潰瘍	＜適応菌種＞ イミペネムに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、シュードモナス属、緑膿菌、バークホルデリア・セパシア、アシネトバクター属、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属 ＜適応症＞ 敗血症、感染性心内膜炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、骨髄炎、関節炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症)、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む)、眼内炎（全眼球炎を含む）
用法・用量	通常成人にはイミペネムとして、1日0.5～1.0g（力価）を2～3回に分割し、30分以上かけて点滴静脈内注射する。 小児には1日30～80mg（力価）／kgを3～4回に分割し、30分以上かけて点滴静脈内注射する。 なお、年齢・症状に応じて適宜増減するが、重症・難治性感染症には、成人で1日2g（力価）まで、小児で1日100mg（力価）／kgまで増量することができる。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
インダスト点滴用	大洋薬品工業㈱	チエナム点滴用	萬有製薬㈱
インダストキット	大洋薬品工業㈱	チエペネム点滴用	シオノケミカル㈱

配3．イミペネム・シラスタチンナトリウム　(6139)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承認内容	再評価結果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、腸球菌、ペプトコッカス属、ペプトストレプトコッカス属、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、シュードモナス属、インフルエンザ菌、アシネトバクター属、バクテロイデス属のうち本剤感受性菌による下記感染症 骨髄炎、関節炎、創傷の二次感染 気管支炎、気管支拡張症(感染時)、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎、肺化膿症、膿胸 腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎 胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍 腹膜炎 子宮付属器炎、子宮内感染、骨盤死腔炎、子宮旁結合織炎、バルトリン腺炎	＜適応菌種＞ イミペネムに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、シュードモナス属、緑膿菌、バークホルデリア・セパシア、アシネトバクター属、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属 ＜適応症＞ 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、骨髄炎、関節炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎
用法・用量	通常成人にはイミペネムとして、1日0.5～1.0g（力価）を2回に分割し、筋肉内へ注射する。なお、年齢・症状に応じて適宜増減する。 筋肉内注射に際しては、本剤0.25g（力価）／0.25g及び0.5g（力価）／0.5gに対し添付の日局リドカイン注射液（0.5w/v%）をそれぞれ1mL又は2mL用い、よく振盪して懸濁する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
チエナム筋注用	萬有製薬㈱

配４．スルバクタムナトリウム・アンピシリンナトリウム　(6139)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能 ・ 効果	ブドウ球菌属、大腸菌、プロテウス属、インフルエンザ菌のうち β-ラクタマーゼを産生し、アンピシリンに耐性の本剤感性菌による下記感染症 ・肺炎・肺化膿症 ・膀胱炎 ・腹膜炎	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、大腸菌、プロテウス属、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ 肺炎、肺膿瘍、膀胱炎、腹膜炎
用法 ・ 用量	肺炎・肺化膿症、腹膜炎：通常成人にはスルバクタムナトリウム・アンピシリンナトリウムとして、１日６ｇ（力価）を２回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。 膀胱炎：通常成人にはスルバクタムナトリウム・アンピシリンナトリウムとして、１日３ｇ（力価）を２回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。 通常小児にはスルバクタムナトリウム・アンピシリンナトリウムとして、１日60～150mg（力価）／kgを３～４回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。 静脈内注射に際しては、日局注射用水、日局生理食塩液又は日局ブドウ糖注射液に溶解し、緩徐に投与する。 なお、点滴による静脈内投与に際しては、補液に溶解して用いる。	［肺炎、肺膿瘍、腹膜炎の場合］ 通常成人にはスルバクタムナトリウム・アンピシリンナトリウムとして、１日６ｇ（力価）を２回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。 ［膀胱炎の場合］ 通常成人にはスルバクタムナトリウム・アンピシリンナトリウムとして、１日３ｇ（力価）を２回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。 通常小児にはスルバクタムナトリウム・アンピシリンナトリウムとして、１日60～150mg(力価）／kgを３～４回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。 静脈内注射に際しては、日局注射用水、日局生理食塩液又は日局ブドウ糖注射液に溶解し、緩徐に投与する。 なお、点滴による静脈内投与に際しては、補液に溶解して用いる。

販売名	会社名	販売名	会社名
ユナシン－Ｓ静注用0.75g	ファイザー㈱	ユナシン－Ｓ静注用1.5g	ファイザー㈱

配５．スルバクタムナトリウム・セフォペラゾンナトリウム　(6139)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	ブドウ球菌属、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス・ブルガリス、プロテウス・ミラビリス、プロテウス・モルガニー、プロテウス・レットゲリ、緑膿菌、インフルエンザ菌、アシネトバクター属、バクテロイデス属のうちセフォペラゾン耐性で本剤感性菌による下記感染症 敗血症、感染性心内膜炎 外傷・手術創などの表在性二次感染 咽喉頭炎、急性気管支炎、扁桃炎 慢性気管支炎、気管支拡張症（感染時） 慢性呼吸器疾患の二次感染 肺炎、肺化膿症、膿胸 腎盂腎炎 膀胱炎 胆のう炎、胆管炎 肝膿瘍 腹膜炎（含、骨盤腹膜炎、ダグラス窩膿瘍） 子宮付属器炎 子宮内感染 骨盤死腔炎 子宮旁結合織炎 バルトリン腺炎	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、プロビデンシア・レットゲリ、モルガネラ・モルガニー、インフルエンザ菌、緑膿菌、アシネトバクター属、バクテロイデス属、プレボテラ属 <適応症> 敗血症、感染性心内膜炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎
用法・用量	スルバクタムナトリウム・セフォペラゾンナトリウムとして、通常成人には１日１～２ｇ（力価）を２回に分けて静脈内注射する。小児にはスルバクタムナトリウム・セフォペラゾンナトリウムとして、１日40～80mg（力価）／kgを２～４回に分けて静脈内注射する。 難治性又は重症感染症には症状に応じて、成人では１日量４ｇ（力価）まで増量し２回に分けて投与する。小児では１日量160mg（力価）／kgまで増量し２～４回に分割投与する。 静脈内注射に際しては、日局注射用水、日局生理食塩液又は日局ブドウ糖注射液に溶解し、緩徐に投与する。 なお、点滴による静脈内投与に際しては補液に溶解して用いる。 キット品の投与に際しては、用時、添付の溶解液にて溶解し、静脈内に点滴注入する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
スペルゾン静注用	㈱ケミックス	スルペラゾン静注用0.5g	ファイザー㈱
スルタムジン静注用１ｇ	㈱科薬	スルペラゾン静注用１ｇ	ファイザー㈱
スルペゾール静注用１ｇ	東菱薬品工業㈱ －テイコクメディックス㈱	セフォセフ静注用１ｇ	沢井製薬㈱

セフォン静注用１ｇ	小林薬学工業㈱ －日本医薬品工業㈱	バクフォーゼ静注用１ｇ	東和薬品㈱
セフロニック静注用	大洋薬品工業㈱	注用ワイスタール	ニプロファーマ㈱＝マルコ製薬㈱
セフロニックキット	大洋薬品工業㈱	注用ワイスタールキット１ｇ	ニプロファーマ㈱
タイトスタン静注用	長生堂製薬㈱ －共和薬品工業㈱ ＝日本薬品工業㈱	注用ワイスタール１ｇバッグＳ	ニプロファーマ㈱＝マルコ製薬㈱
ナスパルン静注用	シオノケミカル㈱ －日本ケミファ㈱		

配6．パニペネム・ベタミプロン　(6139)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再　評　価　結　果
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、腸球菌属、ペプトストレプトコッカス属、ブランハメラ・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシェラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ属、プロビデンシア属、シュードモナス属、インフルエンザ菌、バクテロイデス属のうち本剤感性菌による下記感染症 ・敗血症、感染性心内膜炎 ・丹毒、蜂巣炎、リンパ管(節)炎 ・肛門周囲膿瘍、外傷・熱傷・手術創などの表在性二次感染、骨髄炎、関節炎 ・咽喉頭炎(咽喉頭の膿瘍)、急性気管支炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍)、慢性気管支炎、気管支拡張症(感染時)、慢性呼吸器疾患の二次感染、肺炎、肺化膿症、膿胸 ・腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎、副睾丸炎 ・胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍 ・腹膜炎、骨盤腹膜炎、ダグラス窩膿瘍 ・子宮付属器炎、子宮内感染、子宮旁結合織炎、バルトリン腺炎 ・髄膜炎 ・眼窩感染、全眼球炎(含、眼内炎) ・中耳炎、副鼻腔炎、化膿性唾液腺炎 ・顎炎、顎骨周辺の蜂巣炎	＜適応菌種＞ パニペネムに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、シュードモナス属、緑膿菌、バークホルデリア・セパシア、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属 ＜適応症＞ 敗血症、感染性心内膜炎、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肛門周囲膿瘍、骨髄炎、関節炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む）、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、精巣上体炎（副睾丸炎）、腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎、眼窩感染、眼内炎（全眼球炎を含む）、中耳炎、副鼻腔炎、化膿性唾液腺炎、顎骨周辺の蜂巣炎、顎炎
用法・用量	成人には通常、パニペネムとして１日１ｇ(力価）を２回に分割し、30分以上かけて点滴静注する。 なお、年齢・症状に応じて適宜増減するが、重症または難治性感染症には、１日２ｇ（力価）まで増量し２回に分割し投与することができる。ただし、成人に１回１ｇ（力価）投与する場合は60分以上かけて投与すること。 小児には通常、パニペネムとして１日30～60mg（力価）／kgを３回に分割し、30分以上かけて点滴静注する。 なお、年齢・症状に応じて適宜増減するが、重症または難治性感染症には、１日100mg（力価）／kgまで増量し３～４回に分割して投与できる。ただし、投与量の上限は１日２ｇ（力価）までとする。 ＜注射液の調製法＞ カルベニン点滴用0.25g及び0.5gを通常100ml以上の生理食塩液、５％ブドウ糖注射液等に溶解する。ただし、注射用蒸留水は溶液が等張とならないので使用しないこと。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
カルベニン点滴用0.25g	三共㈱	カルベニン点滴用0.5g	三共㈱

配７．アンピシリン・クロキサシリンナトリウム　(6191)

(内用)

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再評価結果
効能・効果	1.混合感染が十分に考えられ、かつ起炎菌の決定が困難な下記疾患 肺化膿症、気管支拡張症、肺結核二次感染。 2.重篤な感染症で起炎菌の決定を待つことが困難な下記疾患 敗血症、細菌性肺炎。	＜適応菌種＞ アンピシリン／クロキサシリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、大腸菌、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ 肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染
用法・用量	(カプセル剤) 通常、成人１回合剤（アンピシリン・クロキサシリンナトリウム）として250～500mg（力価）を６時間毎に経口投与する。 (錠剤) 通常、成人１回合剤（アンピシリン・クロキサシリンナトリウム）として250mg（力価）～500mg（力価）を６時間毎に経口投与する。 ただし、年令、症状により適宜増減する。	【カプセル】 承認内容に同じ 【錠】 通常、成人１回合剤（アンピシリン・クロキサシリンナトリウム）として250mg（力価）～500mg（力価）を６時間ごとに経口投与する。 ただし、年齢、症状により適宜増減する。

販売名	会社名	販売名	会社名
ビクシリンＳ錠	明治製菓㈱	ビクシリンＳカプセル	明治製菓㈱

配８．アンピシリン・ジクロキサシリンナトリウム　(6191)

（内用）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	○重篤な感染症で起炎菌の決定を待つことが困難な疾患 細菌性肺炎、気管支肺炎 ○混合感染が十分考えられ、かつ起炎菌の決定が困難な疾患 気管支拡張症・慢性気管支炎・肺気腫及び気管支喘息の感染時、肺化膿症、膿胸、肺結核二次感染 ○複雑性尿路感染症（カテーテル留置例を除く）	＜適応菌種＞ アンピシリン／ジクロキサシリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、大腸菌、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ 肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、複雑性膀胱炎、腎盂腎炎
用法・用量	通常成人には、１回２カプセルを１日４回経口投与する。 なお、年令・症状により適宜増減する。	通常成人には、１回２カプセルを１日４回経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。

販売名	会社名
コンビペニックス	旭化成ファーマ㈱

配９．アンピシリンナトリウム・クロキサシリンナトリウム　(6191)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再 評 価 結 果
効能・効果	アンピシリンナトリウム、クロキサシリンナトリウムの感受性菌による次のような新生児・未熟児・乳児感染症について 1.肺炎、気管支炎、膿瘍、膿皮症、外耳炎、咽頭炎の治療 2.羊水感染・早期破水の母親から生まれた新生児、呼吸困難のため気管内挿管・Mouth to Mouth 呼吸・その他人口呼吸を行なった新生児、分娩困難のため多量の羊水・粘液・胎便を吸入した新生児の細菌感染予防	１．新生児の細菌感染予防 ２．その他 ＜適応菌種＞ アンピシリン／クロキサシリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、大腸菌、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ 慢性膿皮症、咽頭・喉頭炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、外耳炎
用法・用量	通常、新生児・未熟児・乳児に対し合剤として１日体重１kg当り、100mg（力価）を、６～８時間毎に分けて筋肉内注射する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
注射用ビクシリンＳ	明治製菓㈱

配９．アンピシリンナトリウム・クロキサシリンナトリウム　(6191)

（注射）

再評価を終了した医薬品の効能・効果及び用法・用量等

	承　認　内　容	再評価結果
効能・効果	1.混合感染が十分に考えられ、かつ起炎菌の決定が困難な疾患。 肺化膿症、気管支拡張症、肺結核二次感染 2.重篤な感染症で起炎菌の決定を待つことが困難な疾患。 敗血症、細菌性肺炎 3.尿路感染症でグラム陽性菌とグラム陰性菌による混合感染が認められるもの。	＜適応菌種＞ アンピシリン／クロキサシリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、大腸菌、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ 敗血症、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎
用法・用量	1.筋注の場合： 通常、成人には合剤（アンピシリンナトリウム・クロキサシリンナトリウム）として、１日量1.5～3.0g（力価）を３～４回に分け筋肉内注射する。 小児には合剤（アンピシリンナトリウム・クロキサシリンナトリウム）として、１日量50～100mg（力価）／kgを３～４回に分け筋肉内注射する。 2.点滴静注の場合： 用時溶解し、通常成人には合剤（アンピシリンナトリウム·クロキサシリンナトリウム）として、１回量1.0～2.0g（力価）を250ml～500mlの輸液中に溶解して、１日２回１～２時間かけて点滴静注する。 なお、1、2、いずれの場合も年令・症状により適宜増減する。	［筋注の場合］ 通常、成人には合剤（アンピシリンナトリウム・クロキサシリンナトリウム）として、１日量1.5～3.0g（力価）を３～４回に分け筋肉内注射する。 小児には合剤（アンピシリンナトリウム・クロキサシリンナトリウム）として、１日量50～100mg（力価）／kgを３～４回に分け筋肉内注射する。 ［点滴静注の場合］ 用時溶解し、通常成人には合剤（アンピシリンナトリウム・クロキサシリンナトリウム）として、１回量1.0～2.0g（力価）を250mL～500mLの輸液中に溶解して、１日２回１～２時間かけて点滴静注する。 なお、いずれの場合も年齢、症状により適宜増減する。

販売名	会社名	販売名	会社名
注射用ビクシリンS500	明治製菓㈱	注射用ビクシリンS1000	明治製菓㈱

本文掲載以外の通知対象品目及びその販売名（会社名）

以下の品目は、本文記載の成分と同一の評価を受けました。現に販売していないものについては、本文での掲載は省略しております。もしお手持ちの在庫品がございましたら、該当成分欄の再評価結果をご覧下さい。

一　般　名	販　売　名	会　社　名
13. 硫酸イセパマイシン	イセシン注400	沢井製薬㈱
23. 塩酸セフォゾプラン	ファーストシン静注用１ｇバッグＧ ファーストシン静注用１ｇバッグＳ	㈱大塚製薬工場 〃
24. 塩酸セフォチアム	セファラクト静注用 セフォチアロンキット 注射用パンスチアム	沢井製薬㈱ シオノケミカル㈱ 東菱薬品工業㈱
31. セファゾリンナトリウム	セナジン注射用 注射用セファゾペン	沢井製薬㈱ 東菱薬品工業㈱
39. セフォペラゾンナトリウム	サフラヒット注射用	マルコ製薬㈱
44. セフチゾキシムナトリウム	チルデント坐剤125 チルデント坐剤250	(旧)京都薬品工業㈱ (新)長生堂製薬㈱ 〃
47. セフトリアキソンナトリウム	ロセフィン点滴静注用１ｇバッグ ロセメルク静注用0.5ｇ	㈱大塚製薬工場 メルク・ホエイ㈱
52. セフメタゾールナトリウム	セフメタゾンキット点滴静注用１ｇ セプラメタシンキット 筋注用セプラメタシン	㈱大塚製薬工場 シオノケミカル㈱ 〃
58. ビアペネム	オメガシン点滴用0.3ｇバッグ	ニプロファーマ㈱
59. ピペラシリンナトリウム	ピシリアントキット ペントシリン注射用４ｇ ペントシリン静注用１ｇバッグ ペントシリン静注用２ｇバッグ	シオノケミカル㈱ 富山化学工業㈱ ニプロファーマ㈱ 〃
61. フロモキセフナトリウム	フルマリンキット静注用１ｇ	ニプロファーマ㈱
63. メロペネム三水和物	メロペン点滴用0.5ｇ	㈱大塚製薬工場
85. ラクトビオン酸エリスロマイシン	注射用エリスロシン500mg	大日本製薬㈱
90. 塩酸ミノサイクリン	点滴静注用塩酸ミノサイクリン「NP」0.1ｇバッグＳ	ニプロファーマ㈱

一　般　名	販　売　名	会　社　名
99. オフロキサシン	タツミキシン錠 オフタイト点眼液0.3%	辰巳化学㈱ ㈱日本点眼薬研究所
102. ナリジクス酸	ナリジクス酸錠「オークラ」	大蔵製薬㈱
103. ノルフロキサシン	ノルジスト錠100mg ノルジスト錠200mg ノフライト点眼液	シー・エイチ・オー新薬㈱ 〃 ㈱日本点眼薬研究所
203. イミペネム・シラスタチンナトリウム	チエペネムキット	シオノケミカル㈱
205. スルバクタムナトリウム・セフォペラゾンナトリウム	ナスパルンキット スルペゾール静注用0.5g	シオノケミカル㈱ 東菱薬品工業㈱

抗菌薬の効能・効果読替えに関するご案内

◇…目　　次…◇

読替え成分

下記成分の効能・効果、用法・用量をより適切な表現に改めた。

内用薬

注射薬

外用薬

歯科用薬

1. ジアフェニルスルホン　(2699)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	・持久性隆起性紅斑、ジューリング疱疹状皮膚炎、天疱瘡、類天疱瘡、色素性痒疹 ・ハンセン病(類結核型、境界群、らい腫型)	1．持久性隆起性紅斑、ジューリング疱疹状皮膚炎、天疱瘡、類天疱瘡、色素性痒疹 2．ハンセン病 <適応菌種> 本剤に感性のらい菌 <適応症> ハンセン病
用法・用量	・持久性隆起性紅斑、ジューリング疱疹状皮膚炎、天疱瘡、類天疱瘡、色素性痒疹 ジアフェニルスルホンとして、通常、成人1日50～100mgを2～3回に分けて経口投与する。 ・ハンセン病(類結核型、境界群、らい腫型) ジアフェニルスルホンとして、通常、成人1日75～100mgを経口投与する。原則として、他剤と併用して使用すること。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	1．持久性隆起性紅斑、ジューリング疱疹状皮膚炎、天疱瘡、類天疱瘡、色素性痒疹 ジアフェニルスルホンとして、通常、成人１日50～100mgを２～３回に分けて経口投与する。 2．ハンセン病 ジアフェニルスルホンとして、通常、成人１日75～100mgを経口投与する。原則として、他剤と併用して使用すること。 なお、年齢、症状により適宜増減する。

販売名	会社名
レクチゾール錠25mg	三菱ウェルファーマ㈱

4. 塩酸バンコマイシン　(6113)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	(1)骨髄移植時の消化管内殺菌 (2)クロストリジウム・ディフィシルによる偽膜性大腸炎 (3)メチシリン・セフェム耐性の黄色ブドウ球菌による腸炎	1．感染性腸炎 <適応菌種> バンコマイシンに感性のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)、クロストリジウム・ディフィシル <適応症> 感染性腸炎（偽膜性大腸炎を含む） 2．骨髄移植時の消化管内殺菌
用法・用量	(1)骨髄移植時の消化管内殺菌 用時溶解し、通常、成人1回0.5g(力価)を非吸収性の抗菌剤及び抗真菌剤と併用して、1日4～6回経口投与する。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。 (2)クロストリジウム・ディフィシルによる偽膜性大腸炎 用時溶解し、通常、成人1回0.125～0.5g(力価)を1日4回経口投与する。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。 (3)メチシリン・セフェム耐性の黄色ブドウ球菌による腸炎 用時溶解し、通常、成人1回0.125～0.5g(力価)を1日4回経口投与する。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。	1．感染性腸炎（偽膜性大腸炎を含む） 用時溶解し、通常、成人１回0.125～0.5g(力価)を１日４回経口投与する。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。 2．骨髄移植時の消化管内殺菌 用時溶解し、通常、成人１回0.5g(力価)を非吸収性の抗菌剤及び抗真菌剤と併用して１日４～６回経口投与する。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

販売名	会社名
塩酸バンコマイシン散	日本イーライリリー㈱ －塩野義製薬㈱

9. コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム　(6125)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	大腸菌、赤痢菌のうち本剤感性菌による次の感染症 腸炎（大腸炎）、赤痢	<適応菌種> コリスチンに感性の大腸菌、赤痢菌 <適応症> 感染性腸炎
用法・用量	通常、成人にはコリスチンメタンスルホン酸ナトリウムとして１回300万～600万単位を１日３～４回経口投与する。小児には１日30万～40万単位／kgを３～４回に分割経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。 ただし、小児用量は成人量を上限とする。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
コリマイシンＳ散	㈱科薬	メタコリマイシン顆粒	㈱科薬
メタコリマイシンカプセル	㈱科薬		

10. セフチブテン　(6129)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	大腸菌、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属(プロテウス・ミラビリス、プロテウス・ブルガリス、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア・レットゲリ)、インフルエンザ菌、淋菌のうち、本剤感性菌による下記感染症。 気管支炎、気管支拡張症の感染時、慢性呼吸器疾患の二次感染、腎盂腎炎、膀胱炎、急性前立腺炎、淋菌性尿道炎	<適応菌種> 本剤に感性の淋菌、大腸菌、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア・レットゲリ、インフルエンザ菌 <適応症> 急性気管支炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性に限る）、尿道炎
用法・用量	気管支炎、気管支拡張症の感染時、慢性呼吸器疾患の二次感染、腎盂腎炎、膀胱炎、急性前立腺炎の場合 通常、成人にはセフチブテンとして1回200mg（力価）を1日2回経口投与する。 淋菌性尿道炎の場合 通常、成人にはセフチブテンとして1回100mg（力価）を1日3回経口投与する。 なお、年齢及び症状により適宜増減する。	［急性気管支炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性に限る）の場合］ 通常、成人にはセフチブテンとして１回200mg（力価）を１日２回経口投与する。 ［尿道炎の場合］ 通常、成人にはセフチブテンとして１回100mg（力価）を１日３回経口投与する。 なお、年齢及び症状により適宜増減する。

販売名	会社名	販売名	会社名
セフテムカプセル100mg	塩野義製薬㈱	セフテムカプセル200mg	塩野義製薬㈱

11. 塩酸タランピシリン　(6131)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能 ・ 効果	アンピシリン感性の黄色ブドウ球菌、表皮ブドウ球菌、化膿レンサ球菌、肺炎球菌、大腸菌、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌による下記感染症 ・咽頭炎、喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、猩紅熱 ・急性腎盂腎炎、膀胱炎、子宮内感染 ・急性中耳炎 ・顎炎、歯冠周囲炎、歯周組織炎	＜適応菌種＞ アンピシリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ 咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、膀胱炎、腎盂腎炎、子宮内感染、中耳炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎、猩紅熱
用法 ・ 用量	通常、成人の場合、１回250mg（力価）を１日３～４回経口投与する。小児の場合は、１日量を15～40mg（力価）／kgとし、これを３～４回に分割して経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
アセオシリン250カプセル	長生堂製薬㈱

12. 塩酸レナンピシリン　(6131)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能 ・ 効果	黄色ブドウ球菌、表皮ブドウ球菌、化膿レンサ球菌、腸球菌、肺炎球菌、ペプトコッカス属、淋菌、大腸菌、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌のうちアンピシリン感性菌による次の感染症 咽喉頭炎(咽喉膿瘍)、急性気管支炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍)、肺炎、肺化膿症 単純性膀胱炎、淋菌性尿道炎 子宮内感染、子宮付属器炎、バルトリン腺炎 毛嚢(包)炎(膿疱性ざ瘡)、せつ、せつ腫症、よう、丹毒、蜂巣炎、リンパ管(節)炎、ひょう疽、化膿性爪囲(郭)炎、皮下膿瘍、汗腺炎、集族性ざ瘡、感染性粉瘤、肛門周囲膿瘍 外傷・手術創等の表在性二次感染 中耳炎、副鼻腔炎 涙嚢炎、角膜潰瘍 歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎	＜適応菌種＞ アンピシリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、大腸菌、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肛門周囲膿瘍、咽頭･喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膀胱炎（単純性に限る)、尿道炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、涙嚢炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む)、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎
用法 ・ 用量	通常、成人の場合、1回250mg(力価)を1日3～4回経口投与する。なお、年齢・症状により適宜増減する。	通常、成人の場合、１回250mg(力価)を１日３～４回経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。

販売名	会社名
バラシリン錠	日本オルガノン㈱

13. セファクロル　(6132)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	ブドウ球菌属、連鎖球菌属(腸球菌を除く)、肺炎球菌、インフルエンザ菌、大腸菌、クレブシェラ属、プロテウス・ミラビリスのうちセファクロル感性菌による下記感染症 ・咽喉頭炎、扁桃炎、気管支炎、肺炎 ・膀胱炎、腎盂腎炎 ・せつ、よう、毛のう炎、蜂窩炎、感染性粉瘤、皮下膿瘍、ひょう疽、創傷感染、リンパ節炎、乳腺炎 ・麦粒腫 ・中耳炎 ・猩紅熱 ・歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、麦粒腫、中耳炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎、猩紅熱
用法・用量	［カプセル］ 通常、成人及び体重20kg 以上の小児に対しては、セファクロルとして１日750mg（力価）を３回に分割して経口投与する。 重症の場合や分離菌の感受性が比較的低い症例に対しては、１日1500mg（力価）を３回に分割して経口投与する。 なお、年齢、体重、症状等に応じ適宜増減する。 ［細粒、小児用細粒］ 通常、幼小児にはセファクロルとして体重 kg あたり１日20～40mg（力価）を３回に分割して経口投与する。 なお、年齢、体重、症状等に応じ適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
アレンフラール細粒小児用100mg	長生堂製薬㈱＝テイコクメディックス㈱	トキクロル細粒	㈱イセイ
エリカナール細粒	東和薬品㈱	ルベラール細粒小児用100mg	東菱薬品工業㈱
クリレール細粒小児用「100」	辰巳化学㈱	アレンフラールカプセル250mg	長生堂製薬㈱＝テイコクメディックス㈱
クリレール細粒小児用「200」	辰巳化学㈱	エリカナールカプセル250	東和薬品㈱
ケフポリン細粒	沢井製薬㈱	クリレールカプセル「250」	辰巳化学㈱
ケフラール細粒小児用100mg	塩野義製薬㈱	ケフポリンカプセル250	沢井製薬㈱
ザルツクラール細粒小児用100	シオノケミカル㈱	ケフラールカプセル250mg	塩野義製薬㈱
ザルツクラール細粒200	シオノケミカル㈱	ザルツクラールカプセル250	シオノケミカル㈱－昭和薬品化工㈱
セクロダン細粒	大洋薬品工業㈱＝日本ケミファ㈱＝㈱三和化学研究所	シーシーエルカプセル	日本医薬品工業㈱
セクロダン細粒200	大洋薬品工業㈱＝日本ケミファ㈱	セクロダンカプセル250	大洋薬品工業㈱
セファクロル細粒「マルコ」	マルコ製薬㈱	セファクロルカプセル250「マルコ」	マルコ製薬㈱
セファクロル細粒200「マルコ」	マルコ製薬㈱	トキクロルカプセル	㈱イセイ
セファクロル細粒小児用100mg（ツルハラ）	鶴原製薬㈱	ルベラールカプセル250mg	東菱薬品工業㈱

14. セファクロル　(6132)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	ブドウ球菌属、連鎖球菌属(腸球菌を除く)、インフルエンザ菌、大腸菌、クレブシェラ属のうちセファクロル感性菌による下記感染症。 ○咽喉頭炎、扁桃炎、気管支炎 ○蜂巣炎、感染性粉瘤、皮下膿瘍、瘭疽、リンパ節炎 ○中耳炎	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属（肺炎球菌を除く）、大腸菌、クレブシエラ属、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ 深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、慢性呼吸器病変の二次感染、中耳炎
用法・用量	通常、成人および体重20kg 以上の小児に対して、セファクロルとして１日750mg（力価）を２回に分割して、朝、夕食後に経口投与する。 重症の場合や分離菌の感受性が比較的低い症例に対しては、セファクロルとして１日1500mg（力価）を２回に分割して、朝、夕食後に経口投与する。 なお、年齢、体重、症状等に応じ適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
エリカナールＬ顆粒	東和薬品㈱	Ｌ－シーシーエルカプセル	日本医薬品工業㈱
Ｌ－ケフラール顆粒	塩野義製薬㈱		

15. セファトリジンプロピレングリコール　(6132)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	黄色ブドウ球菌、溶血連鎖球菌、肺炎球菌、大腸菌、クレブシェラ、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌のうちセファトリジン感性菌による下記感染症 咽頭炎、扁桃炎、腎盂腎炎、膀胱炎	＜適応菌種＞ セファトリジンに感性の黄色ブドウ球菌、レンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ 咽頭・喉頭炎、扁桃炎、膀胱炎、腎盂腎炎
用法・用量	【カプセル】 通常成人には、セファトリジンとして１回250mg（力価）を６時間ごとに経口投与する。 なお、年齢及び症状により適宜増減する。 【シロップ用剤】 用時溶解して、通常成人にはセファトリジンとして１回250mg（力価）を６時間ごとに経口投与する。 小児にはセファトリジンとして１日30～50mg（力価）／kgを分割して６時間ごとに経口投与する。 なお、年齢及び症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
セアプロンドライシロップ250	長生堂製薬㈱	タイセファコールカプセル	大洋薬品工業㈱
セアプロン250カプセル	長生堂製薬㈱	タイセファコールドライシロップ	大洋薬品工業㈱
セフラコールドライシロップ	沢井製薬㈱	パラントシンドライシロップ250	東和薬品㈱
セフラコールドライシロップ250	沢井製薬㈱		

19. 酢酸ミデカマイシン　（6146）

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	酢酸ミデカマイシン感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属(腸球菌を除く)、溶血レンサ球菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、マイコプラズマ・ニューモニエによる下記感染症 毛嚢炎、癤、よう、蜂巣炎、瘭疽、皮下膿瘍、感染性粉瘤、咽喉頭炎、扁桃炎、気管支炎、肺炎、中耳炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎	＜適応菌種＞ ミデカマイシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属(プレボテラ・ビビアを除く)、ポルフィロモナス・ジンジバリス、肺炎マイコプラズマ（マイコプラズマ・ニューモニエ） ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、中耳炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎
用法・用量	（錠剤） 通常、成人に酢酸ミデカマイシンとして1日量600mg(力価)を、3回に分けて経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。 （ドライシロップ） 用時溶解し、通常小児に酢酸ミデカマイシンとして１日量体重１ kg 当り20～40mg（力価）を、３～４回に分けて経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	［錠剤］ 通常、成人に酢酸ミデカマイシンとして１日量600mg(力価)を、３回に分けて経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。 ［シロップ用剤］ 用時溶解し、通常小児に酢酸ミデカマイシンとして１日量体重１ kg 当り20～40mg(力価)を、３～４回に分けて経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。

販売名	会社名	販売名	会社名
ミオカマイシン錠200	明治製菓㈱	ミオカマイシンドライシロップ200	明治製菓㈱
ミオカマイシンドライシロップ100	明治製菓㈱		

20. テリスロマイシン　(6149)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ・カタラーリス、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属、プレボテラ属、肺炎クラミジア、肺炎マイコプラズマ、レジオネラ属による下記感染症 扁桃炎、咽頭炎、咽喉頭炎、急性気管支炎、慢性呼吸器疾患の二次感染（慢性気管支炎、びまん性汎細気管支炎、気管支拡張症、肺気腫、気管支喘息等）、肺炎 副鼻腔炎 歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、インフルエンザ菌、レジオネラ属、ペプトストレプトコッカス属、プレボテラ属、肺炎クラミジア（クラミジア・ニューモニエ）、肺炎マイコプラズマ（マイコプラズマ・ニューモニエ） ＜適応症＞ 咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎
用法・用量	通常、成人にはテリスロマイシンとして600mg（力価）を１日１回、５日間経口投与する。なお、歯周組織炎、歯冠周囲炎及び顎炎には、１日１回、３日間経口投与とし、肺炎には症状により１日１回最大７日間まで投与できる。	承認内容に同じ

販売名	会社名
ケテック錠300mg	アベンティス ファーマ㈱ －三共㈱ －藤沢薬品工業㈱

21. ロキシスロマイシン　(6149)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	ロキシスロマイシン感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属(腸球菌を除く)、肺炎球菌、ブランハメラ・カタラーリス、プロピオニバクテリウム・アクネス、マイコプラズマ・ニューモニアによる下記感染症 (a)毛のう(包)炎、癤、癤腫症、癰、丹毒、蜂巣炎、リンパ管(節)炎、瘭疽、化膿性爪囲炎、皮下膿瘍、汗腺炎、痤瘡(炎症を伴うもの)、集簇性痤瘡、感染性粉瘤 (b)咽喉頭炎、急性気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、マイコプラズマ肺炎 (c)中耳炎、副鼻腔炎 (d)歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、アクネ菌、肺炎マイコプラズマ（マイコプラズマ・ニューモニエ） <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、ざ瘡(化膿性炎症を伴うもの)、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎
用法・用量	通常、成人にはロキシスロマイシンとして１日量300mg（力価）を２回に分割し、経口投与する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
ルリッド錠150	アベンティス ファーマ㈱ －エーザイ㈱

22. サイクロセリン　(6162)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	肺結核	<適応菌種> 本剤に感性の結核菌 <適応症> 肺結核及びその他の結核症
用法・用量	通常成人は、サイクロセリンとして1回250mg(力価)を１日２回経口投与する。年齢、体重により適宜減量する。 なお､原則として他の抗結核薬と併用すること。	承認内容に同じ

販売名	会社名
サイクロセリンカプセル明治	明治製菓㈱

23. リファンピシン　(6164)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	肺結核 骨・関節結核 泌尿器結核および性器結核 リンパ節結核 ハンセン病	＜適応菌種＞ 本剤に感性の結核菌、らい菌 ＜適応症＞ 肺結核及びその他の結核症、ハンセン病
用法・用量	1.肺結核、骨・関節結核、泌尿器結核および性器結核、リンパ節結核 通常成人には、リファンピシンとして1回450mg（力価）を1日1回毎日経口投与する。ただし、感性併用剤のある場合は週2日投与でもよい。 原則として朝食前空腹時投与とし、年齢、症状により適宜増減する。また、他の抗結核剤との併用が望ましい。 2.ハンセン病 通常成人には、リファンピシンとして1回600mg（力価）を1ヵ月に1～2回または1回450mg（力価）を1日1回毎日経口投与する。 原則として朝食前空腹時投与とし、年齢、症状により適宜増減する。また、他の抗ハンセン病剤と併用すること。	［肺結核及びその他の結核症］ 通常成人には、リファンピシンとして１回450mg（力価）を１日１回毎日経口投与する。ただし、感性併用剤のある場合は週２日投与でもよい。原則として朝食前空腹時投与とし、年齢、症状により適宜増減する。また、他の抗結核剤との併用が望ましい。 ［ハンセン病］ 通常成人には、リファンピシンとして１回600mg（力価）を１ヵ月に１～２回または１回450mg（力価）を１日１回毎日経口投与する。原則として朝食前空腹時投与とし、年齢、症状により適宜増減する。また、他の抗ハンセン病剤と併用すること。

販売名	会社名	販売名	会社名
アプテシンカプセル	科研製薬㈱	リファンピシンカプセル「ヘキサル」	日本ヘキサル㈱
リファジンカプセル	第一製薬㈱	リマクタンカプセル	日本チバガイギー㈱－ノバルティスファーマ㈱
リファンピシンカプセル「ヒシヤマ」	ニプロファーマ㈱		

●以下の製品については「ハンセン病」の適応なし

販売名	会社名	販売名	会社名
リファンピシンカプセル150「サワイ」	沢井製薬㈱	リモベロンカプセル	辰巳化学㈱

配３．ランソプラゾール、アモキシシリン、クラリスロマイシン　(6199)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	胃潰瘍又は十二指腸潰瘍におけるヘリコバクター・ピロリの除菌	<適応菌種> アモキシシリン、クラリスロマイシンに感性のヘリコバクター・ピロリ <適応症> 胃潰瘍･十二指腸潰瘍におけるヘリコバクター・ピロリ感染症
用法・用量	通常、成人にはランソプラゾールとして１回30mg、アモキシシリンとして１回750mg（力価）及びクラリスロマイシンとして１回200mg（力価）の３剤を同時に１日２回、７日間経口投与する。 なお、クラリスロマイシンは、必要に応じて適宜増量することができる。ただし、１回400mg（力価）１日２回を上限とする。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
ランサップ400	武田薬品工業㈱	ランサップ800	武田薬品工業㈱

25. スルファモノメトキシン　(6213)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	(1)本剤感性溶血レンサ球菌による扁桃炎・咽頭炎・喉頭炎 (2)本剤感性大腸菌による腎盂腎炎・膀胱炎	<適応菌種> 本剤に感性のレンサ球菌属（肺炎球菌を除く）、大腸菌 <適応症> 咽頭・喉頭炎、扁桃炎、膀胱炎、腎盂腎炎
用法・用量	通常成人、スルファモノメトキシンとして初日量1～2g、2日目以降1日0.5～1g を1～2回に分割経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
ダイメトンシロップ	埼玉第一製薬㈱ －第一製薬㈱

27. アルミノパラアミノサリチル酸カルシウム　(6221)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	肺結核、その他の結核症	<適応菌種> パラアミノサリチル酸に感性の結核菌 <適応症> 肺結核及びその他の結核症
用法・用量	通常成人には、アルミノパラアミノサリチル酸カルシウムとして1日量10～15g を2～3回に分けて経口投与する。 年齢、症状により適宜増減する。 なお、他の抗結核薬と併用することが望ましい。	承認内容に同じ

販売名	会社名
アルミノニッパスカルシウム顆粒	田辺製薬㈱

28. パラアミノサリチル酸カルシウム　(6221)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	肺結核、その他の結核症	<適応菌種> パラアミノサリチル酸に感性の結核菌 <適応症> 肺結核及びその他の結核症
用法・用量	通常成人は、パラアミノサリチル酸カルシウムとして１日量10～15g を２～３回に分けて経口投与する。 年齢、症状により適宜増減する。 なお、他の抗結核薬と併用することが望ましい。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
ニッパスカルシウム顆粒	田辺製薬㈱	ニッパスカルシウム錠（0.25g）	田辺製薬㈱

29. イソニアジド　(6222)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能 ・ 効果	肺結核、その他の結核症	＜適応菌種＞ 本剤に感性の結核菌 ＜適応症＞ 肺結核及びその他の結核症
用法 ・ 用量	（経口） 通常、成人は、イソニアジドとして１日量200～500mg（4～10mg／kg）を1～3回に分けて、毎日または週２日経口投与する。 必要な場合には、１日量成人は１gまで、13歳未満は20mg／kgまで増量してもよい。 年齢、症状により適宜増減する。 なお､他の抗結核薬と併用することが望ましい。 （注射） 通常、成人は、イソニアジドとして１日量200～500mg（4～10mg／kg）を筋肉内または静脈内注射する。 髄腔内、胸腔内注入または局所分注の場合には１回50～200mgを使用する。 年齢、症状により適宜増減する。 なお､他の抗結核薬と併用することが望ましい。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
イスコチン	第一製薬㈱	スミフォン	住友製薬㈱
イスコチン末100％	第一製薬㈱	ヒドラジット「オーツカ」	㈱大塚製薬工場 －大塚製薬㈱
イソニアジド「三恵」	㈱三恵薬品		

30. イソニアジド　(6222)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能 ・ 効果	肺結核、その他の結核症	＜適応菌種＞ 本剤に感性の結核菌 ＜適応症＞ 肺結核及びその他の結核症
用法 ・ 用量	通常成人は、イソニアジドとして、1日量200～500mg (4～10mg/kg) を1～3回に分けて、毎日または週2日経口投与する。 必要な場合には、1日量成人は1gまで、13歳未満は20mg/kgまで増量してもよい。 年齢、症状により適宜増減する。 なお､他の抗結核薬と併用することが望ましい。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
イスコチン錠50mg	第一製薬㈱	スミフォン錠	住友製薬㈱
イスコチン錠100mg	第一製薬㈱	ヒドラ錠「オーツカ」50mg	㈱大塚製薬工場 －大塚製薬㈱
イソニアジド錠「三恵」	㈱三恵薬品		

32. イソニアジドメタンスルホン酸ナトリウム　(6222)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	肺結核およびその他の結核症	<適応菌種> 本剤に感性の結核菌 <適応症> 肺結核及びその他の結核症
用法・用量	通常成人は、１日量0.4～１ｇ(８～20mg／kg)を１～３回に分けて毎日または週２日経口投与する。必要な場合には、１日量1.5gまで増量してもよい。 年令、症状により適宜増減する。 なお､他の抗結核薬と併用することが望ましい。	通常成人は、１日量0.4～１ｇ(８～20mg／kg)を１～３回に分けて毎日または週２日経口投与する。必要な場合には、１日量1.5gまで増量してもよい。 年齢、症状により適宜増減する。 なお､他の抗結核薬と併用することが望ましい。

販売名	会社名	販売名	会社名
ネオイスコチン	第一製薬㈱	ネオイスコチン錠	第一製薬㈱

33. ピラジナミド　(6223)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	肺結核、その他の結核症	<適応菌種> 本剤に感性の結核菌 <適応症> 肺結核及びその他の結核症
用法・用量	通常、成人は、ピラジナミドとして、1日量1.5～2.0gを1～3回に分けて経口投与する。 年齢、症状により適宜増減する。 なお、他の抗結核薬と併用すること。	承認内容に同じ

販売名	会社名
ピラマイド	三共㈱

34. エチオナミド　(6224)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	肺結核	＜適応菌種＞ 本剤に感性の結核菌 ＜適応症＞ 肺結核及びその他の結核症
用法・用量	通常成人は、エチオナミドとして最初1日0.3g、以後漸次増量して0.5～0.7gを1～3回に分けて経口投与する。 年齢、症状により適宜増減する。 なお、原則として他の抗結核薬と併用すること。	承認内容に同じ

販売名	会社名
ツベルミン錠	明治製菓㈱

35. 塩酸エタンブトール　(6225)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	1.肺結核 2.その他の結核症	＜適応菌種＞ 本剤に感性の結核菌 ＜適応症＞ 肺結核及びその他の結核症
用法・用量	通常成人は、塩酸エタンブトールとして１日量0.75～１ｇを１～２回に分けて経口投与する。 年齢、体重により適宜減量する。 なお、他の抗結核薬と併用することが望ましい。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
エサンブトール錠125mg	日本ヘキサル㈱	エブトール125mg錠	科研製薬㈱
エサンブトール錠250mg	日本ヘキサル㈱	エブトール250mg錠	科研製薬㈱

1. ジアフェニルスルホン　(6231)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	ハンセン病(類結核型、境界群、らい腫型)	<適応菌種> 本剤に感性のらい菌 <適応症> ハンセン病
用法・用量	ジアフェニルスルホンとして、通常、成人1日75～100mgを経口投与する。原則として、他剤と併用して使用すること。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
25mgプロトゲン錠	三菱ウェルファーマ㈱

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

36. クロファジミン　(6239)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	ハンセン病(多菌型、らい性結節性紅斑)	<適応菌種> 本剤に感性のらい菌 <適応症> ハンセン病
用法・用量	○ハンセン病（多菌型）: 通常成人には、クロファジミンとして50mgを１日１回または200mg～300mgを週２～３回に分割して、食直後に経口投与する。年齢・症状により適宜増減する。 投与期間は最低２年間とし、可能であれば皮膚塗抹陰性になるまで投与すること。 原則として、他剤と併用して使用すること。 ○ハンセン病（らい性結節性紅斑）: 通常成人には、クロファジミンとして100mgを１日１回、食直後に経口投与する。らい反応が安定した場合には100mgを週３回に減量する。 投与期間は３ヵ月以内とする。	承認内容に同じ

販売名	会社名
ランプレンカプセル50mg	日本チバガイギー㈱ －ノバルティスファーマ㈱

37. ガチフロキサシン水和物　(6241)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属、腸球菌、肺炎球菌、淋菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、緑膿菌、インフルエンザ菌、バークホルデリア・セパシア、ステノトロホモナス（キサントモナス）・マルトフィリア、アシネトバクター属、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、アクネ菌、クラミジア・トラコマティス、クラミジア・ニューモニエ、肺炎マイコプラズマのうち本剤感性菌による下記感染症 ○表在性皮膚感染症（急性表在性毛包炎）、深在性皮膚感染症（蜂巣炎、丹毒、リンパ管（節）炎、せつ、せつ腫症、よう、化膿性爪囲炎、ひょう疽）、慢性膿皮症（感染性粉瘤、化膿性汗腺炎、皮下膿瘍） ○乳腺炎、肛門周囲膿瘍、外傷・手術創等の表在性二次感染 ○急性上気道感染症群（扁桃炎、咽喉頭炎、急性気管支炎等）、慢性呼吸器疾患の二次感染（慢性気管支炎、びまん性汎細気管支炎、気管支拡張症、肺気腫、肺線維症、気管支喘息等）、肺炎 ○腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎、淋菌性尿道炎、非淋菌性尿道炎 ○バルトリン腺炎、子宮頸管炎、子宮内感染、子宮付属器炎 ○涙嚢炎、麦粒腫、瞼板腺炎 ○外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎 ○歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎	＜適応菌種＞ ガチフロキサシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、緑膿菌、バークホルデリア・セパシア、ステノトロホモナス（ザントモナス）・マルトフィリア、アシネトバクター属、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、アクネ菌、クラミジア属、肺炎マイコプラズマ（マイコプラズマ・ニューモニエ） ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、肛門周囲膿瘍、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、尿道炎、子宮頸管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、涙嚢炎、麦粒腫、瞼板腺炎、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎
用法・用量	通常、成人にはガチフロキサシンとして、１回200mg を１日２回経口投与する。なお、疾患・症状により適宜減量する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
ガチフロ錠100mg	杏林製薬㈱ ＝大日本製薬㈱

39. シノキサシン　(6241)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	大腸菌、シトロバクター属、クレブシェラ属、エンテロバクター属、プロテウス・ミラビリスのうち本剤感性菌による下記感染症 ・膀胱炎、腎盂腎炎	＜適応菌種＞ 本剤に感性の大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、プロテウス・ミラビリス ＜適応症＞ 膀胱炎、腎盂腎炎
用法・用量	通常、成人にはシノキサシンとして1日400～800mgを2回に分割経口投与する。 なお、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
アルキバクトカプセル200mg	長生堂製薬㈱	タツレキシンカプセル200mg	辰巳化学㈱
シオザクトカプセル200mg	シオノケミカル㈱		

41. プルリフロキサシン　（6241）

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	プルリフロキサシンの活性本体に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、大腸菌、シゲラ属、サルモネラ属（チフス菌、パラチフス菌を除く）、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、コレラ菌、インフルエンザ菌、緑膿菌、ペプトストレプトコッカス属による下記感染症 ・表在性皮膚感染症（急性表在性毛包炎、伝染性膿痂疹）、深在性皮膚感染症（蜂巣炎・丹毒、せつ、せつ腫症、よう、化膿性爪囲炎・ひょう疽）、慢性膿皮症（感染性粉瘤、化膿性汗腺炎、皮下膿瘍） ・肛門周囲膿瘍、外傷・熱傷・手術創等の表在性二次感染 ・急性上気道感染症群（扁桃炎、咽喉頭炎、急性気管支炎等）、慢性呼吸器疾患の二次感染（慢性気管支炎、びまん性汎細気管支炎、気管支拡張症、肺気腫、肺線維症、気管支喘息等）、肺炎 ・腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎 ・胆嚢炎、胆管炎 ・感染性腸炎、細菌性赤痢、サルモネラ症、コレラ ・内性器感染症（子宮内感染、子宮付属器炎） ・眼瞼炎、麦粒腫 ・中耳炎、副鼻腔炎	＜適応菌種＞ 本剤の活性本体（ulifloxacin）感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス、大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属（チフス菌、パラチフス菌を除く）、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、コレラ菌、インフルエンザ菌、緑膿菌、ペプトストレプトコッカス属 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肛門周囲膿瘍、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、胆嚢炎、胆管炎、感染性腸炎、コレラ、子宮内感染、子宮付属器炎、麦粒腫、中耳炎、副鼻腔炎
用法・用量	通常、成人に対して、プルリフロキサシンとして１回264.2mg（活性本体として200mg）を１日２回経口投与する。なお、症状により適宜増減するが、１回用量は396.3mg（活性本体として300mg）を上限とする。 肺炎、慢性呼吸器疾患の二次感染には、プルリフロキサシンとして１回396.3mg（活性本体として300mg）を１日２回経口投与する。	通常、成人に対して、プルリフロキサシンとして１回264.2mg（活性本体として200mg）を１日２回経口投与する。なお、症状により適宜増減するが、１回用量は396.3mg（活性本体として300mg）を上限とする。 肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染には、プルリフロキサシンとして１回396.3mg（活性本体として300mg）を１日２回経口投与する。

販売名	会社名
スオード錠100	明治製菓㈱

43. チアンフェニコール　(6249)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	チアンフェニコール感性の大腸菌、ブドウ球菌による下記感染症 ◎尿路感染症 （腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎） ◎呼吸器感染症 （肺炎、気管支炎及び気管支拡張症）	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、大腸菌 ＜適応症＞ 急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎
用法・用量	通常成人1日量チアンフェニコールとして、0.5g〜1.0gを3〜4回に分けて経口投与する。 年令・症状により適宜増減する。	通常成人1日量チアンフェニコールとして、0.5g〜1.0gを3〜4回に分けて経口投与する。 年齢・症状により適宜増減する。

販売名	会社名
アーマイカプセル250	小林化工㈱

44. リネゾリド　(6249)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	バンコマイシン耐性 Enterococcus faecium のうち本剤感受性菌による感染症（菌血症の併発を含む）	＜適応菌種＞ 本剤に感性のバンコマイシン耐性エンテロコッカス・フェシウム ＜適応症＞ 各種感染症
用法・用量	通常、成人にはリネゾリドとして１日1200mgを２回に分け、１回600mgを12時間ごとに経口投与する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
ザイボックス錠600mg	ファイザー㈱

配４．スルファメトキサゾール・トリメトプリム　(6290)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	有効菌種 他の薬剤に耐性で本剤に感性の下記菌種 大腸菌、シトロバクター、クレブシェラ、エンテロバクター、プロテウス(プロテウス・ミラビリス、プロテウス・ブルガリス、プロテウス・レットゲリ、プロテウス・モルガニー)、腸球菌、インフルエンザ菌、赤痢菌、チフス菌、パラチフス菌 適応症 他の薬剤が無効の場合、あるいは他の薬剤が使用不能の場合の下記適応症 慢性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器疾患(たとえば気管支拡張症、肺結核症)の感染時 慢性膀胱炎、慢性腎盂腎炎 細菌性赤痢、腸チフス、パラチフス	＜適応菌種＞ スルファメトキサゾール／トリメトプリムに感性の腸球菌属、大腸菌、赤痢菌、チフス菌、パラチフス菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア・レットゲリ、インフルエンザ菌 ＜適応症＞ 肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、 複雑性膀胱炎、腎盂腎炎、 感染性腸炎、腸チフス、パラチフス
用法・用量	錠剤 通常、成人には1日量4 錠を2回に分割し、経口投与する。 ただし、年令、症状に応じて適宜増減する。 顆粒 通常、成人には１日量４ｇを２回に分割し、経口投与する。 ただし、年齢、症状に応じて適宜増減する。	［錠剤］ 通常、成人には１日量４錠を２回に分割し、経口投与する。 ただし、年齢、症状に応じて適宜増減する。 ［顆粒］ 通常、成人には１日量４ｇを２回に分割し、経口投与する。 ただし、年齢、症状に応じて適宜増減する。

販売名	会社名	販売名	会社名
ダイフェン	鶴原製薬㈱	バクタ錠	塩野義製薬㈱
ダイフェン顆粒	鶴原製薬㈱	バクトラミン	中外製薬㈱
バクタ顆粒	塩野義製薬㈱	バクトラミン顆粒	中外製薬㈱

注　射　薬

2. リン酸クリンダマイシン　(6112)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属(腸球菌を除く)、肺炎球菌、ペプトコッカス属、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、マイコプラズマ属のうちクリンダマイシン感性菌による下記感染症 敗血症、肺炎、気管支炎、咽喉頭炎、扁桃炎、中耳炎、副鼻腔炎	＜適応菌種＞ クリンダマイシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属、マイコプラズマ属 ＜適応症＞ 敗血症、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、中耳炎、副鼻腔炎
用法・用量	点滴静脈内注射：通常成人には、クリンダマイシンとして１日600～1,200mg（力価）を２～４回に分けて点滴静注する。 通常小児には、クリンダマイシンとして１日15～25mg（力価）/kgを３～４回に分けて点滴静注する。 なお､難治性又は重症感染症には症状に応じて、成人では１日2,400mg（力価）まで増量し、２～４回に分けて投与する。 また、小児では１日40mg（力価）/kgまで増量し、３～４回に分けて投与する。 点滴静注に際しては、本剤300～600mg（力価）あたり100～250mLの日局５％ブドウ糖注射液、日局生理食塩液又はアミノ酸製剤等の補液に溶解し、30分～１時間かけて投与する。 筋肉内注射：通常成人には、クリンダマイシンとして１日600～1,200mg（力価）を２～４回に分けて筋肉内注射する。 なお、症状により適宜増減する。	［点滴静脈内注射］ 通常成人には、クリンダマイシンとして１日600～1,200mg（力価）を２～４回に分けて点滴静注する。 通常小児には、クリンダマイシンとして１日15～25mg（力価）／kgを３～４回に分けて点滴静注する。 なお､難治性又は重症感染症には症状に応じて、成人では１日2,400mg（力価）まで増量し、２～４回に分けて投与する。 また、小児では１日40mg（力価）／kgまで増量し、３～４回に分けて投与する。 点滴静注に際しては、本剤300～600mg（力価）あたり100～250mLの日局５％ブドウ糖注射液、日局生理食塩液又はアミノ酸製剤等の補液に溶解し、30分～１時間かけて投与する。 ［筋肉内注射］ 通常成人には、クリンダマイシンとして１日600～1,200mg（力価）を２～４回に分けて筋肉内注射する。 なお、症状により適宜増減する。

販売名	会社名	販売名	会社名
クリダマシン注	ニプロファーマ㈱＝マルコ製薬㈱	パナンコシンＳ注射液	大洋薬品工業㈱
ダラシンＳ注射液	ファイザー㈱	ミドシン注射液	沢井製薬㈱
ハンダラミン注	東和薬品㈱	リンタシンＳ注射液	富士製薬工業㈱

5. 塩酸バンコマイシン　(6113)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	メチシリン・セフェム耐性の黄色ブドウ球菌のうち本剤感性菌による下記感染症 敗血症、感染性心内膜炎、骨髄炎、関節炎、熱傷・手術創などの表在性二次感染、肺炎、肺化膿症、膿胸、腹膜炎、髄膜炎	＜適応菌種＞ バンコマイシンに感性のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA） ＜適応症＞ 敗血症、感染性心内膜炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、骨髄炎、関節炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、腹膜炎、化膿性髄膜炎
用法・用量	通常、成人には塩酸バンコマイシンとして1日2g（力価）を1回0.5g（力価）6時間ごと又は1回1g（力価）12時間ごとに分割して、それぞれ60分以上かけて点滴静注する。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。 高齢者には、1回0.5g（力価）12時間ごと又は1回1g（力価）24時間ごとに、それぞれ60分以上かけて点滴静注する。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。 小児、乳児には、1日40mg（力価）/kgを2〜4回に分割して、それぞれ60分以上かけて点滴静注する。 新生児には、1回投与量を10〜15mg（力価）/kgとし、生後1週までの新生児に対しては12時間ごと、生後1ヵ月までの新生児に対しては8時間ごとに、それぞれ60分以上かけて点滴静注する。	通常、成人には塩酸バンコマイシンとして１日２g（力価）を１回0.5g（力価）６時間ごと又は１回１g（力価）12時間ごとに分割して、それぞれ60分以上かけて点滴静注する。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。 高齢者には、１回0.5g（力価）12時間ごと又は１回１g（力価）24時間ごとに、それぞれ60分以上かけて点滴静注する。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。 小児、乳児には、１日40mg（力価）／kgを２〜４回に分割して、それぞれ60分以上かけて点滴静注する。 新生児には、１回投与量を10〜15mg（力価）／kgとし、生後1週までの新生児に対しては12時間ごと、生後１ヵ月までの新生児に対しては８時間ごとに、それぞれ60分以上かけて点滴静注する。

販売名	会社名	販売名	会社名
塩酸バンコマイシン点滴静注用0.5g	日本イーライリリー㈱－塩野義製薬㈱	点滴静注用ソルレイン0.5g	東和薬品㈱
塩酸バンコマイシン点滴静注用0.5gキット	日本イーライリリー㈱－塩野義製薬㈱	点滴静注用バンコマイシン0.5「MEEK」	小林化工㈱＝明治製菓㈱
塩酸バンコマイシン点滴静注用0.5g「メルク」	メルク・ホエイ㈱	バンマイシン点滴静注用0.5g	日本医薬品工業㈱
ストラシン点滴静注用0.5g	メルシャン㈱		

配１．キヌプリスチン・ダルホプリスチン　(6119)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	バンコマイシン耐性 Enterococcus faecium のうち本剤感受性菌による感染症（菌血症の併発を含む）	＜適応菌種＞ キヌプリスチン／ダルホプリスチンに感性のバンコマイシン耐性エンテロコッカス・フェシウム ＜適応症＞ 各種感染症
用法・用量	通常、成人にはキヌプリスチン／ダルホプリスチンとして、１回7.5mg/kg、１日３回、60分かけて点滴静注する。 本剤の溶解には５％ブドウ糖液又は注射用水を用い、希釈には５％ブドウ糖液を用いること。糖尿病患者に対しては10％マルトース液を用いてもよい。 なお、生理食塩液やヘパリン含有液は用いないこと。	承認内容に同じ

販売名	会社名
注射用シナシッド	アベンティス ファーマ㈱ －藤沢薬品工業㈱

7. 硫酸アルベカシン　(6119)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	メチシリン・セフェム耐性の黄色ブドウ球菌のうち本剤感性菌による下記感染症 敗血症、肺炎	＜適応菌種＞ アルベカシンに感性のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA） ＜適応症＞ 敗血症、肺炎
用法・用量	通常、成人には硫酸アルベカシンとして、１日150～200mg（力価）を２回に分け、筋肉内注射又は点滴静注する。点滴静注においては30分～２時間かけて注入する。 小児には、硫酸アルベカシンとして１日４～６mg（力価）/kg を２回に分け、30分かけて点滴静注する。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
デコンタシン注射液	大洋薬品工業㈱	ブルバトシン注射液	シオノケミカル㈱ －日本ケミファ㈱
ハベカシン注射液	明治製菓㈱		

8. 塩酸スペクチノマイシン　(6124)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	ベンジルペニシリンが無効又は使用不能の場合で、本剤感性の淋菌による淋疾	<適応菌種> スペクチノマイシンに感性の淋菌 <適応症> 淋菌感染症
用法・用量	(筋注) スペクチノマイシンとして、通常成人は２g(力価）を１回臀部筋肉内に注射する。また、２g（力価）１回投与にて効果の不十分なときは、４g（力価）を１回追加投与する。４g（力価）投与は左右の臀筋の２箇所に分けてもよい。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	[筋注] スペクチノマイシンとして、通常成人は２g(力価）を１回臀部筋肉内に注射する。また、２g（力価）１回投与にて効果の不十分なときは、４g（力価）を１回追加投与する。４g（力価）投与は左右の臀筋の２箇所に分けてもよい。 なお、年齢、症状により適宜増減する。

販売名	会社名
トロビシン注	住友製薬㈱ －ファイザー㈱

16. 硫酸アストロマイシン　(6134)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	アストロマイシン感性のセラチア属、プロテウス属(プロテウス・ブルガリス、プロテウス・ミラビリス、プロテウス・モルガニー、プロテウス・インコンスタンス)、シトロバクター属、エンテロバクター属、クレブシエラ属、大腸菌、黄色ブドウ球菌による次の感染症 敗血症 慢性気管支炎、気管支拡張症(感染時) 肺炎、肺化膿症 腎盂腎炎、膀胱炎 腹膜炎	<適応菌種> アストロマイシンに感性の黄色ブドウ球菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア・インコンスタンス <適応症> 敗血症、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎
用法・用量	通常、成人では硫酸アストロマイシンとして1日400mg（力価）を2回に分割し、筋肉内投与または点滴静注する。 点滴静注においては30分～1時間かけて注入する。 なお、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
注射用フォーチミシン	協和醱酵工業㈱

17. ホスホマイシンナトリウム　(6135)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	緑膿菌、変形菌、セラチア及び多剤耐性のブドウ球菌、大腸菌のうちホスホマイシン感性菌による下記感染症 敗血症、気管支炎、細気管支炎、気管支拡張症の感染時、肺炎、肺化膿症、膿胸、腹膜炎、腎盂腎炎、膀胱炎、子宮付属器炎、子宮内感染、骨盤死腔炎、子宮旁結合織炎、バルトリン腺炎	<適応菌種> ホスホマイシンに感性のブドウ球菌属、大腸菌、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア・レットゲリ、緑膿菌 <適応症> 敗血症、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎
用法・用量	【用時溶解注射液】 点滴静脈内注射 　通常、成人にはホスホマイシンとして１日２～４ｇ(力価)、また小児には１日100～200mg(力価)／kgを２回に分け､補液100～500mlに溶解して、１～２時間かけて静脈内に点滴注射する。 静脈内注射 　通常、成人にはホスホマイシンとして１日２～４ｇ（力価）、また小児には１日100～200mg（力価）／kgを２～４回に分け、５分以上かけてゆっくり静脈内に注射する。溶解には日局注射用水又は日局ブドウ糖注射液を用い、本剤１～２ｇ（力価）を20mlに溶解する。 なお、年令、症状により適宜増減する。 【用時溶解注射液（キット)】 用時連通針を介し、薬剤を溶解液に溶解する。 通常、成人にはホスホマイシンとして１日２～４ｇ(力価)、また小児には１日100～200mg(力価）／kgを２回に分け、１～２時間かけて静脈内に点滴注射する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。 【用時溶解注射液（バッグ)】 用時、薬剤を溶解液に溶解する。 通常、成人にはホスホマイシンとして１日２～４ｇ(力価)、また小児には１日100～200mg(力価）／kgを２回に分け、１～２時間かけて静脈内に点滴注射する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	［点滴静脈内注射］ 通常、成人にはホスホマイシンとして１日２～４ｇ(力価)、また小児には１日100～200mg(力価)／kgを２回に分け、補液100～500mLに溶解して、１～２時間かけて静脈内に点滴注射する。 ［静脈内注射］ 通常、成人にはホスホマイシンとして１日２～４ｇ(力価)、また小児には１日100～200mg(力価)／kgを２～４回に分け、５分以上かけてゆっくり静脈内に注射する。溶解には日局注射用水又は日局ブドウ糖注射液を用い、本剤１～２ｇ（力価）を20mLに溶解する。 なお、いずれの場合も年齢、症状により適宜増減する。 ［点滴静脈内注射キット］ 用時連通針を介し、薬剤を溶解液に溶解する。 通常、成人にはホスホマイシンとして１日２～４ｇ(力価)、また小児には１日100～200mg(力価）／kgを２回に分け、１～２時間かけて静脈内に点滴注射する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。 〈点滴静脈内注射バッグ〉 用時、薬剤を溶解液に溶解する。通常、成人にはホスホマイシンとして１日２～４ｇ（力価)、また小児には１日100～200mg（力価）／kgを２回に分け、１～２時間かけて静脈内に点滴注射する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。

販売名	会社名	販売名	会社名
静注用イソラマイシン	日本医薬品工業㈱	静注用ホスミシンＳ	明治製菓㈱
ハロスミンＳ静注用	マルコ製薬㈱	ホスミシンＳキット２ｇ	明治製菓㈱
ハロスミンＳキット２ｇ	マルコ製薬㈱	ホスミシンＳバッグ１ｇ点滴静注用	明治製菓㈱
静注用フラゼミシンＳ	大洋薬品工業㈱	ホスミシンＳバッグ２ｇ点滴静注用	明治製菓㈱
静注用ホスカリーゼＳ	シオノケミカル㈱	ホロサイルＳ静注用	高田製薬㈱－塩野義製薬㈱
注用ホスホマイシンナトリウム「ヒシヤマ」	ニプロファーマ㈱		

配２．タゾバクタムナトリウム・ピペラシリンナトリウム　(6139)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能 ・ 効果	ブドウ球菌属、大腸菌、シトロバクター属、クレブシェラ属、エンテロバクター属、プロビデンシア属、緑膿菌のうち、β-ラクタマーゼを産生しピペラシリン耐性で本剤感性菌の下記感染症 敗血症、腎盂腎炎、複雑性膀胱炎	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、プロビデンシア属、緑膿菌 ＜適応症＞ 敗血症、複雑性膀胱炎、腎盂腎炎
用法 ・ 用量	通常、成人にはタゾバクタムナトリウム・ピペラシリンナトリウムとして、１日2.5～５ｇ(力価）を２回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。 通常、小児には１日60～150mg（力価）／kg を３～４回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。なお、１日投与量の上限は成人における１日５ｇ（力価）を超えないものとする。 静脈内注射に際しては注射用水、生理食塩液又はブドウ糖注射液に溶解し、緩徐に注射する。また、点滴静注に際しては補液に溶解して注射する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
タゾシン静注用1.25g	大鵬薬品工業㈱ －大正富山医薬品㈱	タゾシン静注用2.5g	大鵬薬品工業㈱ －大正富山医薬品㈱

24. 硫酸エンビオマイシン　(6165)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能 ・ 効果	肺結核。	＜適応菌種＞ エンビオマイシンに感性の結核菌 ＜適応症＞ 肺結核及びその他の結核症
用法 ・ 用量	通常成人には、硫酸エンビオマイシンとして1日1回1g（力価）を注射用蒸留水に溶解〔1g（力価）当り2～4ml〕し、筋肉内に注射する。 初めの90日間は毎日、その後は1週間に2日投与する。 なお、年令・症状に応じて適宜増減する。 また､他の抗結核剤と併用することが望ましい。	通常成人には、硫酸エンビオマイシンとして１日１回１ｇ（力価）を注射用蒸留水に溶解〔１ｇ（力価）当り２～４ mL〕し、筋肉内に注射する。 初めの90日間は毎日、その後は１週間に２日投与する。 なお、年齢、症状に応じて適宜増減する。 また､他の抗結核剤と併用することが望ましい。

販売名	会社名
ツベラクチン	旭化成ファーマ㈱

26. スルファモノメトキシン　(6213)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	本剤感性大腸菌による腎盂腎炎・膀胱炎	＜適応菌種＞ 本剤に感性の大腸菌 ＜適応症＞ 膀胱炎、腎盂腎炎
用法・用量	通常成人、スルファモノメトキシンとして、初日量１～２ｇを１～２回に、２日目以降１日0.5～１ｇを１～２回に分けて静脈内注射する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
ダイメトン注	第一製薬㈱

31. イソニアジド　(6222)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	肺結核、その他の結核症	＜適応菌種＞ 本剤に感性の結核菌 ＜適応症＞ 肺結核及びその他の結核症
用法・用量	通常成人は、イソニアジドとして1日量200～500mg（4～10mg/kg）を筋肉内または静脈内注射する。 髄腔内、胸腔内注入または局所分注の場合には１回50～200mgを使用する。 年齢、症状により適宜増減する。 なお、他の抗結核薬と併用することが望ましい。	承認内容に同じ

販売名	会社名
イスコチン注	第一製薬㈱

40. シプロフロキサシン　（6241）

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	ブドウ球菌属、腸球菌、大腸菌、クレブシェラ属、エンテロバクター属、緑膿菌、炭疽菌のうち本剤感性菌による下記感染症 敗血症 外傷・熱傷・手術創等の表在性二次感染 肺炎 胆のう炎、胆管炎 腹膜炎 炭疽	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、腸球菌属、炭疽菌、大腸菌、クレブシエラ属、エンテロバクター属、緑膿菌 <適応症> 敗血症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肺炎、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、炭疽
用法・用量	シプロフロキサシンとして、通常、成人には１回300mg を１日２回点滴静注する。 点滴静注に際しては、生理食塩液、ブドウ糖注射液又は補液で希釈して、１時間かけて投与する（30分以内の点滴静注は避ける）。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
シプロキサン注200mg	バイエル薬品㈱＝明治製菓㈱	シプロキサン注300mg	バイエル薬品㈱＝明治製菓㈱

42. メシル酸パズフロキサシン　(6241)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	ブドウ球菌属、レンサ球菌属(肺炎球菌を除く)、腸球菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ属、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、緑膿菌、アシネトバクター属、バクテロイデス属、プレボテラ属のうち本剤感受性菌による下記感染症。 ・熱傷創感染、手術創感染 ・慢性呼吸器疾患の二次感染（慢性気管支炎、びまん性汎細気管支炎、気管支拡張症、肺気腫、肺線維症、気管支喘息、陳旧性肺結核など）、肺炎、肺化膿症 ・腎盂腎炎、複雑性膀胱炎、前立腺炎 ・胆囊炎、胆管炎、肝膿瘍 ・腹腔内膿瘍、腹膜炎 ・内性器感染症（子宮付属器炎、子宮旁結合織炎）、骨盤腹膜炎	<適応菌種> パズフロキサシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属（肺炎球菌を除く)、腸球菌属、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、緑膿菌、アシネトバクター属、バクテロイデス属、プレボテラ属 <適応症> 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、複雑性膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症)、腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆囊炎、胆管炎、肝膿瘍、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎
用法・用量	通常、成人にはパズフロキサシンとして１日1000mg を２回に分けて点滴静注する。なお、年齢、症状に応じ、１日600mg を２回に分けて点滴静注するなど、減量すること。 点滴静注に際しては、30分～１時間かけて投与すること。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
パシル点滴静注液300mg	富山化学工業㈱ －大正富山医薬品㈱	パズクロス注300	三菱ウェルファーマ㈱
パシル点滴静注液500mg	富山化学工業㈱ －大正富山医薬品㈱	パズクロス注500	三菱ウェルファーマ㈱

45. リネゾリド　(6249)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	バンコマイシン耐性 Enterococcus faecium のうち本剤感受性菌による感染症(菌血症の併発を含む)	<適応菌種> 本剤に感性のバンコマイシン耐性エンテロコッカス・フェシウム <適応症> 各種感染症
用法・用量	通常、成人にはリネゾリドとして１日1200mg を２回に分け、１回600mg を12時間ごとに、それぞれ30分～２時間かけて点滴静注する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
ザイボックス注射液600mg	ファイザー㈱

46. イセチオン酸ペンタミジン　(6419)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	ニューモシスチス・カリニ肺炎	＜適応菌種＞ ニューモシスチス・カリニ ＜適応症＞ カリニ肺炎
用法・用量	1．静脈内・筋肉内投与 通常、イセチオン酸ペンタミジンとして4mg／kgを1日1回投与する。 (1)静脈内点滴投与 日局注射用水3～5 mLに溶解した後、日局ブドウ糖注射液又は日局生理食塩液50～250mLに希釈し、1～2時間かけて点滴静注する。 (2)筋肉内投与 日局注射用水3 mLに溶解した後、2箇所以上の部位に分けて筋注する。 2．吸入投与 通常、イセチオン酸ペンタミジンとして300～600mgを日局注射用水（1バイアルにつき3～5 mL）に溶解し、吸入装置を用いて1日1回30分かけて投与する。吸入装置は5μm以下のエアロゾル粒子を生成する能力を有する超音波ネブライザー又はコンプレッサー式ネブライザー等を使用すること。なお、吸入装置により霧化能力、薬液槽容量が異なるので、使用する機種に応じて薬液を日局注射用水で適切な量に希釈して用いること。	［静脈内・筋肉内投与］ 通常、イセチオン酸ペンタミジンとして4mg／kgを1日1回投与する。 （1）静脈内点滴投与 日局注射用水3～5 mLに溶解した後、日局ブドウ糖注射液又は日局生理食塩液50～250mLに希釈し、1～2時間かけて点滴静注する。 （2）筋肉内投与 日局注射用水3 mLに溶解した後、2箇所以上の部位に分けて筋注する。 ［吸入投与］ 通常、イセチオン酸ペンタミジンとして300～600mgを日局注射用水（1バイアルにつき3～5 mL）に溶解し、吸入装置を用いて1日1回30分かけて投与する。吸入装置は5μm以下のエアロゾル粒子を生成する能力を有する超音波ネブライザー又はコンプレッサー式ネブライザー等を使用すること。 なお、吸入装置により霧化能力、薬液槽容量が異なるので、使用する機種に応じて薬液を日局注射用水で適切な量に希釈して用いること。

販売名	会社名
ベナンバックス300	アベンティス ファーマ㈱ －中外製薬㈱

配5．スルファメトキサゾール・トリメトプリム　(6419)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	ニューモシスチス・カリニ肺炎	＜適応菌種＞ ニューモシスチス・カリニ ＜適応症＞ カリニ肺炎
用法・用量	通常、トリメトプリムとして1日量15～20mg／kgを3回に分け、1～2時間かけて点滴静注する。 なお、年齢、症状に応じて適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
バクトラミン注	中外製薬㈱

配11．塩酸オキシテトラサイクリン・酢酸ヒドロコルチゾン　（1319、1329）

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	○オキシテトラサイクリン感性菌による外眼部、前眼部の細菌感染症で炎症反応の著しい場合。 ○本来ステロイド剤の適応となる外眼部、前眼部の疾患でオキシテトラサイクリン感性菌の感染防止を必要とする場合。 ○オキシテトラサイクリン感性菌による細菌感染を伴う外耳・中耳(耳管を含む)の炎症性・アレルギー性疾患(外耳炎、中耳炎など) ○耳鼻咽喉科領域における術後処置	＜適応菌種＞ オキシテトラサイクリン感性菌 ＜適応症＞ ［眼科］ 外眼部・前眼部の細菌感染を伴う炎症性疾患 ［耳鼻科］ 外耳炎、中耳炎、耳鼻咽喉科領域における術後処置
用法・用量	（眼科用） 通常、1回1～2滴を1日1～数回点眼する。 なお、症状により適宜増減する。 （耳鼻科用） 通常、適量を1日1～数回点耳、耳浴、ネブライザー又はタンポンにて使用するか、又は患部に注入する。 なお、症状により適宜増減する。	［眼科］ 通常、１回１～２滴を１日１～数回点眼する。 なお、症状により適宜増減する。 ［耳鼻科］ 通常、適量を１日１～数回点耳、耳浴、ネブライザー又はタンポンにて使用するか、又は患部に注入する。 なお、症状により適宜増減する。

販売名	会社名
テトラゾール油性点眼・点耳液	㈱日本点眼薬研究所

配９．塩酸オキシテトラサイクリン・硫酸ポリミキシンＢ　（1319）

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	オキシテトラサイクリン、ポリミキシンＢ感性菌による外眼部・前眼部感染症。とくに緑膿菌感染症がうたがわれるとき。 眼外傷及び手術後の感染防止	＜適応菌種＞ オキシテトラサイクリン／ポリミキシンＢ感性菌 ＜適応症＞ 眼外傷・眼科周術期の無菌化療法、外眼部・前眼部の細菌感染症
用法・用量	通常、適量を1日3～6回点眼する。 なお、症状により適宜回数を増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
テラマイシン眼軟膏（ポリミキシンＢ含有）	日東メディック㈱ －ファイザー㈱

38. ガチフロキサシン水和物　（1319）

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、コリネバクテリウム属、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、シトロバクター属、クレブシエラ属、セラチア属、モルガネラ・モルガニー、インフルエンザ菌、シュードモナス属、緑膿菌、スフィンゴモナス・パウチモビリス、ステノトロホモナス（キサントモナス）・マルトフィリア、アシネトバクター属、アクネ菌 ＜適応症＞ 眼瞼炎、麦粒腫、涙嚢炎、結膜炎、瞼板腺炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む）、眼科周術期の無菌化療法	＜適応菌種＞ ガチフロキサシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、コリネバクテリウム属、シトロバクター属、クレブシエラ属、セラチア属、モルガネラ・モルガニー、インフルエンザ菌、シュードモナス属、緑膿菌、スフィンゴモナス・パウチモビリス、ステノトロホモナス（ザントモナス）・マルトフィリア、アシネトバクター属、アクネ菌 ＜適応症＞ 眼瞼炎、涙嚢炎、麦粒腫、結膜炎、瞼板腺炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む）、眼科周術期の無菌化療法
用法・用量	眼瞼炎、麦粒腫、涙嚢炎、結膜炎、瞼板腺炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む）： 通常１回１滴、１日３回点眼する。なお、症状により適宜増減する。 眼科周術期の無菌化療法： 通常、手術前は１回１滴、１日５回、手術後は１回１滴、１日３回点眼する。	［眼瞼炎、涙嚢炎、麦粒腫、結膜炎、瞼板腺炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む）］ 通常1回1滴、１日３回点眼する。 なお、症状により適宜増減する。 ［眼科周術期の無菌化療法］ 通常、手術前は1回1滴、１日５回、手術後は１回１滴、１日３回点眼する。

販売名	会社名
ガチフロ0.3％点眼液	千寿製薬㈱—武田薬品工業㈱

配８．クロラムフェニコール・コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム　(1319)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	緑膿菌を主とするグラム陰性桿菌による混合感染又はその可能性のある下記の外眼感染症 　角膜潰瘍、外傷性角膜炎、角膜浸潤、術後感染症並びにその予防、眼瞼炎、流行性角結膜炎、急性慢性カタル性結膜炎、濾胞性結膜炎	＜適応菌種＞ クロラムフェニコール／コリスチンに感性の緑膿菌を主とするグラム陰性桿菌 ＜適応症＞ 眼瞼炎、結膜炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む）、眼科周術期の無菌化療法
用法・用量	１日４～５回、１回２～３滴点眼する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
オフサロン点眼液	わかもと製薬㈱	コリマイＣ点眼液	科研製薬㈱
コリナコール点眼液	㈱日本点眼薬研究所		

配６．コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム・塩酸テトラサイクリン　(1319)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	コリスチン、テトラサイクリン感性菌による外眼部・前眼部感染症。とくに緑膿菌感染が疑われるとき。 眼外傷及び手術後の感染防止	＜適応菌種＞ コリスチン／テトラサイクリン感性菌 ＜適応症＞ 眼外傷・眼科周術期の無菌化療法、外眼部・前眼部の細菌感染症
用法・用量	通常、適量を1日1～4回点眼する。なお、症状により適宜回数を増減する。	通常、適量を１日１～４回点眼する。 なお、症状により適宜回数を増減する。

販売名	会社名
コリマイシンＴ眼軟膏	㈱日本点眼薬研究所

47. スルフイソキサゾール　(1319)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	＜有効菌種＞ トラコーマ病原体、ブドウ球菌、連鎖球菌、モラー・アクセンフェルド菌、コッホ・ウィークス菌 ＜適応症＞ トラコーマ、結膜炎(流行性角結膜炎を含む)、眼瞼炎(眼瞼縁炎を含む)、角膜潰瘍、角膜炎、涙のう炎	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属（肺炎球菌を除く)、モラクセラ・ラクナータ（モラー・アクセンフェルト菌)、ヘモフィルス・エジプチウス（コッホ・ウィークス菌)、トラコーマクラミジア（クラミジア・トラコマティス） ＜適応症＞ 眼瞼炎、涙嚢炎、結膜炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む）
用法・用量	通常、1回2～3滴を1日3～4回点眼する。 なお、症状により適宜回数を増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
サイアジン点眼液	山之内製薬㈱

配7. ラクトビオン酸エリスロマイシン・コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム (1319)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	コリスチン及びエリスロマイシン感受性菌による感染症 （角膜潰瘍、急・慢性結膜炎、麦粒腫、涙嚢炎、眼瞼炎)	＜適応菌種＞ エリスロマイシン／コリスチン感性菌 ＜適応症＞ 眼瞼炎、涙嚢炎、麦粒腫、結膜炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む)
用法・用量	（眼軟膏） １日数回点眼する。 （点眼液） 粉末を添付溶解液に用時溶解し、２～３時間毎に２～３滴ずつ点眼する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
エコリシン眼軟膏	参天製薬㈱	点眼用エリコリＴ	日東メディック㈱
エコリシン点眼液	参天製薬㈱	ニッテン・コリスロール点眼液	㈱日本点眼薬研究所
エリコリ眼軟膏Ｔ	日東メディック㈱		

配12.　硫酸フラジオマイシン・メチルプレドニゾロン　(1319)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	◯フラジオマイシン感性菌による外眼部、前眼部の細菌感染症で炎症反応の著しい場合 ◯本来ステロイド剤の適応となる外眼部、前眼部の疾患でフラジオマイシン感性菌の感染防止を必要とする場合 ◯フラジオマイシン感性菌による細菌感染を伴う外耳の湿疹・皮膚炎 ◯耳鼻咽喉科領域における術後処置	＜適応菌種＞ フラジオマイシン感性菌 ＜適応症＞ 外眼部・前眼部の細菌感染を伴う炎症性疾患、外耳の湿疹・皮膚炎、耳鼻咽喉科領域における術後処置
用法・用量	(眼科用) 通常、適量を１日１～数回患部に点眼・塗布する。 なお、症状により適宜増減する。 (耳鼻科用) 通常、適量を１日１～数回患部に塗布する。 なお、症状により適宜増減する。	［眼科用］ 通常、適量を１日１～数回患部に点眼・塗布する。 なお、症状により適宜増減する。 ［耳鼻科用］ 通常、適量を１日１～数回患部に塗布する。 なお、症状により適宜増減する。

販売名	会社名
ネオメドロールEE軟膏	住友製薬㈱ －ファイザー㈱

配13.　硫酸フラジオマイシン・リン酸ベタメタゾンナトリウム　(1319、1329)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	眼科 フラジオマイシン感性菌による外眼部・前眼部の細菌感染症で炎症反応の著しい場合 本来ステロイド剤の適応となる外眼部・前眼部の疾患でフラジオマイシン感性菌の感染防止を必要とする場合 耳鼻科 フラジオマイシン感性菌による細菌感染を伴う外耳の湿疹・皮膚炎、進行性壊疽性鼻炎 耳鼻咽喉科領域における術後処置	＜適応菌種＞ フラジオマイシン感性菌 ＜適応症＞ ［眼科］ 外眼部・前眼部の細菌感染を伴う炎症性疾患 ［耳鼻科］ 外耳の湿疹・皮膚炎、進行性壊疽性鼻炎、耳鼻咽喉科領域における術後処置
用法・用量	眼科用 通常、適量を１日１～数回患部に点眼・塗布する。なお、症状により適宜増減する。 耳鼻科用 通常、適量を1日1～数回患部に塗布する。なお、症状により適宜増減する。	［眼科用］ 通常、適量を１日１～数回患部に点眼・塗布する。 なお、症状により適宜増減する。 ［耳鼻科用］ 通常、適量を1日1～数回患部に塗布する。 なお、症状により適宜増減する。

販売名	会社名
眼・耳科用リンデロンA軟膏	塩野義製薬㈱

配14. 硫酸フラジオマイシン・リン酸ベタメタゾンナトリウム　（1319、1329）

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	眼科 フラジオマイシン感性菌による外眼部・前眼部の細菌感染症で炎症反応の著しい場合 本来ステロイド剤の適応となる外眼部・前眼部の疾患でフラジオマイシン感性菌の感染防止を必要とする場合 耳鼻科 フラジオマイシン感性菌による細菌感染を伴う外耳又は上気道の炎症性･アレルギー性疾患（外耳炎、アレルギー性鼻炎、進行性壊疽性鼻炎など） 耳鼻咽喉科領域における術後処置	＜適応菌種＞ フラジオマイシン感性菌 ＜適応症＞ ［眼科］ 外眼部・前眼部の細菌感染を伴う炎症性疾患 ［耳鼻科］ 外耳炎、アレルギー性鼻炎、進行性壊疽性鼻炎、耳鼻咽喉科領域における術後処置
用法・用量	眼科用 通常、１回１～２滴を１日１～数回点眼する。なお、症状により適宜増減する。 耳鼻科用 通常、適量を１日１～数回点耳、点鼻、耳浴、ネブライザー又はタンポンにて使用するか、又は患部に注入する。なお、症状により適宜増減する。	［眼科用］ 通常、１回１～２滴を１日１～数回点眼する。なお、症状により適宜増減する。 ［耳鼻科用］ 通常、適量を１日１～数回点耳、点鼻、耳浴、ネブライザー又はタンポンにて使用するか、又は患部に注入する。 なお、症状により適宜増減する。

販売名	会社名	販売名	会社名
ベルベゾロンＦ液	㈱日本点眼薬研究所	眼・耳科用リンデロンＡ液	塩野義製薬㈱

18. ホスホマイシンナトリウム　（1325）

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	ブドウ球菌属、緑膿菌、プロテウス属のうち本剤感性菌による下記感染症 中耳炎、外耳炎	＜適応菌種＞ ホスホマイシンに感性のブドウ球菌属、プロテウス属、緑膿菌 ＜適応症＞ 外耳炎、中耳炎
用法・用量	添付の溶解液で溶解し、1ml当りホスホマイシンナトリウムとして30mg（力価）の溶液とし、通常、10滴（約0.5ml）を1日2回点耳する。なお、症状により適宜回数を増減するが、難治性あるいは遷延性の重症例では、1日4回まで点耳回数を増加する。	添付の溶解液で溶解し、１mL当りホスホマイシンナトリウムとして30mg（力価）の溶液とし、通常、10滴（約0.5mL）を１日２回点耳する。なお、症状により適宜回数を増減するが、難治性あるいは遷延性の重症例では、１日４回まで点耳回数を増加する。

販売名	会社名
耳科用ホスミシンＳ	明治製菓㈱

配15. 硫酸フラジオマイシン・酢酸プレドニゾロン　(1329)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	フラジオマイシン感性菌による細菌感染を伴う外耳の炎症性・アレルギー性疾患(外耳炎等) 耳鼻咽喉科領域における術後処置	＜適応菌種＞ フラジオマイシン感性菌 ＜適応症＞ 外耳炎、耳鼻咽喉科領域における術後処置
用法・用量	通常、適量を1日1～数回点耳、耳浴、ネブライザー又はタンポンにて使用するか、又は患部に注入する。 なお、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
耳科用プレデックス液	千寿製薬㈱ －武田薬品工業㈱

48. アセチルキタサマイシン　(2399)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	ブドウ球菌、連鎖球菌(腸球菌を除く)のうち本剤感性菌による下記感染症 感染性口内炎	＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属（肺炎球菌を除く） ＜適応症＞ 感染性口内炎
用法・用量	通常、成人には2～6錠（1錠中アセチルキタサマイシンとして4.0mg（力価）を含有）を数回に分け、口中、舌下、頬腔で溶かしながら用いる。 （但し、通常1日アセチルキタサマイシンとして6～24mg（力価）を服用する。）	通常、成人には２～６錠（１錠中アセチルキタサマイシンとして4.0mg（力価）を含有）を数回に分け、口中、舌下、頬腔で溶かしながら用いる。 （ただし、通常１日アセチルキタサマイシンとして６～24mg（力価）を服用する。）

販売名	会社名
ネオ・ロイコマイシントローチＨ	旭化成ファーマ㈱

49. バシトラシン　（2399）

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	バシトラシン感性の溶血連鎖球菌及びブドウ球菌による 感染性口内炎、口腔外科手術後の感染予防	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属 <適応症> 抜歯創・口腔手術創の二次感染、感染性口内炎
用法・用量	通常、小児は1回1錠、成人は1回1～2錠を2～8時間毎に、口舌、舌下、又は頬腔にふくみ、ゆっくりと溶かす。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
バシトラシン・トローチ	㈱科薬

50. スルファジアジン　（2633）

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	本剤に感性の下記菌種 ブドウ球菌、大腸菌 膿痂疹、せつ、毛のう炎、外傷・熱傷・その他の疾患によるびらん・潰瘍及び術後の二次感染並びにこれらの感染予防	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、大腸菌 <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん・潰瘍の二次感染
用法・用量	通常、症状により適量を1日1～数回直接患部に塗布または無菌ガーゼにのばして貼付する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
スルファジアジンパスタ「三恵」	㈱三恵薬品	テラジアパスタ	埼玉第一製薬㈱ －第一製薬㈱

51. スルファジアジン銀　(2633)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	中等度・重症熱傷、各種皮膚潰瘍（褥瘡、下腿潰瘍、放射線潰瘍、糖尿病性壊疽、外傷性皮膚欠損など）の際の下記原因菌による創面感染 緑のう菌、エンテロバクター属、クレブシェラ属、ブドウ球菌属、溶血連鎖球菌、カンジダ属	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、緑膿菌、カンジダ属 <適応症> 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん・潰瘍の二次感染
用法・用量	１日１回、滅菌手袋などを用いて、創面を覆うに必要かつ十分な厚さ（約２～３ mm）に直接塗布する. 又は、ガーゼ等に同様の厚さにのばし、貼付し、包帯を行う．なお、第２日目以後の塗布に際しては、前日に塗布した本剤を清拭又は温水浴等で洗い落としたのち、新たに本剤を塗布すること.	１日１回、滅菌手袋などを用いて、創面を覆うに必要かつ十分な厚さ（約２～３ mm）に直接塗布する。 又は、ガーゼ等に同様の厚さにのばし、貼付し、包帯を行う。なお、第２日目以後の塗布に際しては、前日に塗布した本剤を清拭又は温水浴等で洗い落としたのち、新たに本剤を塗布すること。

販売名	会社名
ゲーベンクリーム	三菱ウェルファーマ㈱

52. フシジン酸ナトリウム　(2634)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	フシジン酸ナトリウムに感受性のブドウ球菌に起因する次の皮膚疾患 ［軟膏］膿皮症（膿痂疹、感染症湿疹様皮膚炎、尋常性ざ瘡、せつ及びせつ腫症、毛のう炎、ひょう疽、化膿性汗腺炎、膿痂疹性湿疹）、熱傷・外傷・縫合創、植皮創における二次感染 ［貼付剤］膿皮症(膿痂疹、癤、毛嚢炎) 熱傷・外傷・縫合創・植皮創・皮膚はく削創における二次感染	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属 <適応症> ［軟膏］ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染 ［貼付剤］ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染
用法・用量	［軟膏］患部を清潔にした後１日数回適量を直接患部に塗布するか、または無菌ガーゼに延ばして貼付する。 ［貼付剤］患部を清潔にした後、1日1枚を直接患部に貼付し、その上から適当にガーゼあるいは包帯で固定する。 なお、症状に応じて2枚を重ねて貼付する。	［軟膏］ 患部を清潔にした後１日数回適量を直接患部に塗布するかまたは無菌ガーゼに延ばして貼付する。 ［貼付剤］ 患部を清潔にした後、１日１枚を直接患部に貼付し、その上から適当にガーゼあるいは包帯で固定する。 なお、症状に応じて2枚を重ねて貼付する。

販売名	会社名	販売名	会社名
フシジンレオインターチュール	三共㈱	フシジンレオ軟膏	三共㈱

3. リン酸クリンダマイシン　(2634)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	＜有効菌種＞ プロピオニバクテリウム属及びブドウ球菌属 ＜適応症＞ 尋常性ざ瘡（多発性炎症性皮疹を有するもの）	＜適応菌種＞ クリンダマイシンに感性のブドウ球菌属、アクネ菌 ＜適応症＞ ざ瘡（化膿性炎症を伴うもの）
用法・用量	本品の適量を１日２回、洗顔後、患部に塗布する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
ダラシンＴゲル１％	ファイザー㈱ －佐藤製薬㈱

配10. 塩酸オキシテトラサイクリン・硫酸ポリミキシンＢ　(2639)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	オキシテトラサイクリン、ポリミキシンＢ感性菌による膿痂疹、毛のう炎、尋常性毛瘡、癤、よう、その他の膿皮症 外傷・熱傷・その他の疾患によるびらん・潰瘍及び術後の二次感染並びにこれらの感染予防	＜適応菌種＞ オキシテトラサイクリン／ポリミキシンＢ感性菌 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん・潰瘍の二次感染
用法・用量	通常、1日1～数回直接患部に塗布又は塗擦するか､あるいは無菌ガーゼ等にのばして貼付する。なお、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
テラマイシン軟膏（ポリミキシンＢ含有）	テイカ製薬㈱ －ファイザー㈱

配16. クロラムフェニコール・硫酸フラジオマイシン・プレドニゾロン　（2639）

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	湿潤、びらん、結痂を伴うか、又は二次感染を併発している下記疾患 湿疹・皮膚炎群（進行性指掌角皮症、ビダール苔癬、放射線皮膚炎、日光皮膚炎を含む）、熱傷 湿疹様変化を伴う膿皮症（感染性湿疹様皮膚炎、尋常性毛瘡、その他の膿皮症）	＜適応菌種＞ クロラムフェニコール／フラジオマイシン感性菌 ＜適応症＞ ・深在性皮膚感染症、慢性膿皮症 ・湿潤、びらん、結痂を伴うか、又は二次感染を併発している次の疾患： 湿疹・皮膚炎群（進行性指掌角皮症、ビダール苔癬、放射線皮膚炎、日光皮膚炎を含む）、 ・外傷・熱傷及び手術創等の二次感染
用法・用量	通常、１日１～数回直接患部に塗布又は塗擦するか、あるいは無菌ガーゼ等にのばして貼付する。 なお、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
クロマイ－Ｐ軟膏	三共㈱	ハイセチンＰ軟膏	富士製薬工業㈱

53. ナジフロキサシン　（2639）

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	＜有効菌種＞ プロピオニバクテリウム属及びブドウ球菌属 ＜適応症＞ 軟膏 毛包炎、尋常性毛瘡 クリーム 尋常性ざ瘡（多発性炎症性皮疹を有するもの）、毛包炎、尋常性毛瘡 ローション 尋常性ざ瘡（多発性炎症性皮疹を有するもの）	【軟膏】 ＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、アクネ菌 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症 【クリーム】 ＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、アクネ菌 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、ざ瘡（化膿性炎症を伴うもの） 【ローション】 ＜適応菌種＞ 本剤に感性のブドウ球菌属、アクネ菌 ＜適応症＞ ざ瘡（化膿性炎症を伴うもの）
用法・用量	【軟膏】 本品の適量を１日２回、患部に塗布する。 【クリーム】 本品の適量を１日２回、患部に塗布する。なお、尋常性ざ瘡に対しては洗顔後、患部に塗布する。 【ローション】 本品の適量を１日２回、洗顔後、患部に塗布する。	【軟膏】 承認内容に同じ 【クリーム】 本品の適量を１日２回、患部に塗布する。なお、ざ瘡に対しては洗顔後、患部に塗布する。 【ローション】 承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
アクアチムクリーム	大塚製薬㈱	アクアチムローション	大塚製薬㈱
アクアチム軟膏１％	大塚製薬㈱		

配17.　バシトラシン・硫酸フラジオマイシン　（2639）

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	バシトラシン、フラジオマイシン感性菌による膿痂疹、毛のう炎、尋常性毛瘡、癤、よう、その他の膿皮症 外傷・熱傷・その他の疾患によるびらん・潰瘍及び術後の二次感染並びにこれらの感染予防 腋臭症	＜適応菌種＞ バシトラシン／フラジオマイシン感性菌 ＜適応症＞ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん・潰瘍の二次感染、腋臭症
用法・用量	通常、１日１～数回直接患部に塗布又は塗擦するか、あるいは無菌ガーゼ等にのばして貼付する。なお、症状により適宜増減する。	通常、１日１～数回直接患部に塗布又は塗擦するか、あるいは無菌ガーゼ等にのばして貼付する。 なお、症状により適宜増減する。

販売名	会社名
バラマイシン軟膏	東洋製薬化成㈱ －小野薬品工業㈱

配18.　硫酸フラジオマイシン・結晶トリプシン　（2639）

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	外傷・熱傷及びその他の疾患によるびらん・潰瘍、子宮腟部びらん	＜適応菌種＞ フラジオマイシン感性菌 ＜適応症＞ びらん・潰瘍の二次感染、子宮腟部びらん
用法・用量	本剤の適量を患部に散布する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
フランセチン・Ｔ・パウダー	持田製薬㈱

配19. 塩酸テトラサイクリン・酢酸ヒドロコルチゾン　(2643)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	湿潤、びらん、結痂を伴うか、又は二次感染を併発している下記疾患 湿疹・皮膚炎群（進行性指掌角皮症、ビダール苔癬、放射線皮膚炎、日光皮膚炎を含む）、熱傷湿疹様変化を伴う膿皮症（感染性湿疹様皮膚炎、尋常性毛瘡、その他の膿皮症） 急性歯肉炎、慢性剥離性歯肉炎、辺縁性歯周炎、びらん又は潰瘍を伴う難治性口内炎及び舌炎	＜適応菌種＞ テトラサイクリン感性菌 ＜適応症＞ ・深在性皮膚感染症、慢性膿皮症 ・湿潤、びらん、結痂を伴うか、又は二次感染を併発している次の疾患： 湿疹・皮膚炎群（進行性指掌角皮症、ビダール苔癬、放射線皮膚炎、日光皮膚炎を含む）、 ・外傷・熱傷及び手術創等の二次感染 ・歯周組織炎、感染性口内炎、舌炎
用法・用量	通常、1日1～数回直接患部に塗布又は塗擦するか、あるいは　無菌ガーゼ等にのばして貼付する。 口腔内疾患には毎日または隔日に少量宛患部に注入又は塗擦する。 なお、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
テトラ・コーチゾン軟膏	㈱山崎帝国堂

配20. 塩酸オキシテトラサイクリン・ヒドロコルチゾン　(2647)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	湿潤、びらん、結痂を伴うか、又は二次感染を併発している下記疾患 湿疹・皮膚炎群（進行性指掌角皮症、ビダール苔癬、放射線皮膚炎、日光皮膚炎を含む）、熱傷湿疹様変化を伴う膿皮症（感染性湿疹様皮膚炎、尋常性毛瘡、その他の膿皮症） 急性歯肉炎、慢性剥離性歯肉炎、辺縁性歯周炎、びらん又は潰瘍を伴う難治性口内炎及び舌炎	＜適応菌種＞ オキシテトラサイクリン感性菌 ＜適応症＞ ・深在性皮膚感染症、慢性膿皮症 ・湿潤、びらん、結痂を伴うか、又は二次感染を併発している次の疾患： 湿疹・皮膚炎群（進行性指掌角皮症、ビダール苔癬、放射線皮膚炎、日光皮膚炎を含む）、 ・外傷・熱傷及び手術創等の二次感染 ・歯周組織炎、感染性口内炎、舌炎
用法・用量	通常、1日1～数回直接患部に塗布又は塗擦するか、あるいは無菌ガーゼ等にのばして貼付する。 口腔内疾患には毎日又は隔日に少量宛患部に注入又は塗擦する。 なお、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
テラ・コートリル軟膏	テイカ製薬㈱ －ファイザー㈱

配21. 塩酸オキシテトラサイクリン・ヒドロコルチゾン　(2647)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	湿潤、びらん、結痂を伴うか、又は二次感染を併発している下記疾患 湿疹・皮膚炎群(進行性指掌角皮症、ビダール苔癬、放射線皮膚炎、日光皮膚炎を含む) 湿疹様変化を伴う膿皮症(感染性湿疹様皮膚炎、尋常性毛瘡、その他の膿皮症)	＜適応菌種＞ オキシテトラサイクリン感性菌 ＜適応症＞ ・深在性皮膚感染症、慢性膿皮症 ・湿潤、びらん、結痂を伴うか、又は二次感染を併発している次の疾患： 湿疹・皮膚炎群（進行性指掌角皮症、ビダール苔癬、放射線皮膚炎、日光皮膚炎を含む）
用法・用量	使用前に振とうし、患部から約10～15cm離して1回1～2秒間、症状の程度により1日1～数回患部に噴霧する。 また、容器は立てて使用すること。	承認内容に同じ

販売名	会社名
テラコー・スプレー	ファイザー㈱

配22. 硫酸ゲンタマイシン・吉草酸ベタメタゾン　(2647)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	湿潤、びらん、結痂を伴うか、又は二次感染を併発している下記疾患 湿疹・皮膚炎群（進行性指掌角皮症、脂漏性皮膚炎を含む)、乾癬、掌蹠膿疱症、熱傷	＜適応菌種＞ ゲンタマイシン感性菌 ＜適応症＞ ・湿潤、びらん、結痂を伴うか、又は二次感染を併発している次の疾患： 湿疹・皮膚炎群（進行性指掌角皮症、脂漏性皮膚炎を含む)、乾癬、掌蹠膿疱症 ・外傷・熱傷及び手術創等の二次感染
用法・用量	通常１日１～数回適量を塗布する。 なお、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
デキサンＧ軟膏	富士製薬工業㈱＝テイコクメディックス㈱	ベトノバールＧ軟膏	佐藤製薬㈱
デビオン－VG軟膏	長生堂製薬㈱	リンデロン－VGクリーム0.12%	塩野義製薬㈱
デルモゾールＧクリーム	岩城製薬㈱	リンデロン－VG軟膏0.12%	塩野義製薬㈱
デルモゾールＧ軟膏	岩城製薬㈱	ルリクールVG軟膏0.12%	東和薬品㈱
ベトノバールＧクリーム	佐藤製薬㈱		

配23. 硫酸ゲンタマイシン・吉草酸ベタメタゾン　(2647)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	湿潤、びらん、結痂を伴うか、又は二次感染を併発している下記疾患 湿疹・皮膚炎群（進行性指掌角皮症、脂漏性皮膚炎を含む）、乾癬、掌蹠膿疱症	＜適応菌種＞ ゲンタマイシン感性菌 ＜適応症＞ 湿潤、びらん、結痂を伴うか、又は二次感染を併発している次の疾患： 湿疹・皮膚炎群（進行性指掌角皮症、脂漏性皮膚炎を含む）、乾癬、掌蹠膿疱症
用法・用量	通常１日１～数回適量を塗布する。 なお、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
デキサン－VG ローション	富士製薬工業㈱	リンデロン－VG ローション	塩野義製薬㈱
デルモゾール G ローション	岩城製薬㈱		

配27. 硫酸フラジオマイシン・吉草酸ベタメタゾン　(2647)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	湿潤、びらん、結痂を伴うか、又は二次感染を併発している下記疾患 湿疹・皮膚炎群（進行性指掌角皮症、ビダール苔癬、放射線皮膚炎、日光皮膚炎を含む）、乾癬、虫さされ、痒疹群（固定蕁麻疹を含む）、熱傷 湿疹様変化を伴う膿皮症（感染性湿疹様皮膚炎、尋常性毛瘡、その他の膿皮症） 耳鼻咽喉科領域における術後処置	＜適応菌種＞ フラジオマイシン感性菌 ＜適応症＞ ・深在性皮膚感染症、慢性膿皮症 ・湿潤、びらん、結痂を伴うか、又は二次感染を併発している次の疾患： 湿疹・皮膚炎群（進行性指掌角皮症、ビダール苔癬、放射線皮膚炎、日光皮膚炎を含む）、乾癬、虫さされ、痒疹群（固定蕁麻疹を含む） ・外傷・熱傷及び手術創等の二次感染 ・耳鼻咽喉科領域における術後処置
用法・用量	通常、1日1～数回直接患部に塗布又は塗擦するか、あるいは無菌ガーゼ等にのばして貼付する。 なお、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
ベストフランクリーム	沢井製薬㈱	ベトネベート N クリーム	グラクソ・スミスクライン㈱－第一製薬㈱
ベストフラン軟膏	沢井製薬㈱	ベトネベート N 軟膏	グラクソ・スミスクライン㈱－第一製薬㈱

配24. 硫酸フラジオマイシン・トリアムシノロンアセトニド・グラミシジン　(2647)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	湿潤、びらん、結痂を伴うか、又は二次感染を併発している下記疾患 湿疹・皮膚炎群（進行性指掌角皮症、脂漏性皮膚炎を含む）、乾癬、掌蹠膿疱症、熱傷	＜適応菌種＞ フラジオマイシン感性菌 ＜適応症＞ ・湿潤、びらん、結痂を伴うか、又は二次感染を併発している次の疾患： 湿疹・皮膚炎群（進行性指掌角皮症、脂漏性皮膚炎を含む）、乾癬、掌蹠膿疱症 ・外傷・熱傷及び手術創等の二次感染
用法・用量	通常1日1～数回適量を塗布する。 なお、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
ケナコルトーAGクリーム	三共㈱	ケナコルトーAG軟膏	三共㈱

配25. 硫酸フラジオマイシン・フルオシノロンアセトニド　(2647)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	湿潤、びらん、結痂を伴うか、又は二次感染を併発している下記疾患 湿疹・皮膚炎群(進行性指掌角皮症、ビダール苔癬、放射線皮膚炎、日光皮膚炎を含む)、乾癬、皮膚瘙痒症(陰部・肛門部)、掌蹠膿疱症、熱傷 湿疹様変化を伴う膿皮症(感染性湿疹様皮膚炎、尋常性毛瘡、その他の膿皮症)	＜適応菌種＞ フラジオマイシン感性菌 ＜適応症＞ ・深在性皮膚感染症、慢性膿皮症 ・湿潤、びらん、結痂を伴うか、又は二次感染を併発している次の疾患： 湿疹・皮膚炎群（進行性指掌角皮症、ビダール苔癬、放射線皮膚炎、日光皮膚炎を含む）、乾癬、皮膚そう痒症(陰部・肛門部)、掌蹠膿疱症 ・外傷・熱傷及び手術創等の二次感染
用法・用量	通常、1日1～数回直接患部に塗布又は塗擦するか､あるいは無菌ガーゼ等にのばして貼付する。 なお、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名	販売名	会社名
デルモランＦ軟膏	佐藤製薬㈱	フルコートＦ	田辺製薬㈱

配26. 硫酸フラジオマイシン・プレドニゾロン　(2647)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	湿潤、びらん、結痂を伴うか、又は二次感染を併発している下記疾患 　湿疹・皮膚炎群（進行性指掌角皮症、ビダール苔癬、　放射線皮膚炎、日光皮膚炎を含む） 　皮膚瘙痒症（陰部・肛門部） 　薬疹、中毒疹 　薬疹・中毒疹 　虫さされ 　紅斑症（滲出性紅斑） 湿疹様変化を伴う膿皮症(感染性湿疹様皮膚炎、尋常性毛瘡、その他の膿皮症)	＜適応菌種＞ フラジオマイシン感性菌 ＜適応症＞ ・深在性皮膚感染症、慢性膿皮症 ・湿潤、びらん、結痂を伴うか、又は二次感染を併発している次の疾患： 　湿疹・皮膚炎群（進行性指掌角皮症、ビダール苔癬、放射線皮膚炎、日光皮膚炎を含む）、皮膚そう痒症（陰部・肛門部）、薬疹・中毒疹、虫さされ、紅斑症（滲出性紅斑）
用法・用量	使用前に振とうし、患部から約10～15cm 離して１回１～２秒間、症状の程度により１日１～数回患部に噴霧する。 また、容器は立てて使用すること。	承認内容に同じ

販売名	会社名
エアゾリン D1	武田薬品工業㈱

配28. 硫酸フラジオマイシン・酢酸ヒドロコルチゾン・塩酸ジフェンヒドラミン　(2649)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	湿潤、びらん、結痂を伴うか、又は二次感染を併発している下記疾患 　湿疹・皮膚炎群（進行性指掌角皮症、ビダール苔癬、放射線皮膚炎、日光皮膚炎を含む)、皮膚瘙痒症、　痒疹群(ストロフルスを含む)、掌蹠膿疱症 湿疹様変化を伴う膿皮症(感染性湿疹様皮膚炎、尋常性毛瘡、その他の膿皮症)	＜適応菌種＞ フラジオマイシン感性菌 ＜適応症＞ ・深在性皮膚感染症、慢性膿皮症 ・湿潤、びらん、結痂を伴うか、又は二次感染を併発している次の疾患： 　湿疹・皮膚炎群（進行性指掌角皮症、ビダール苔癬、放射線皮膚炎、日光皮膚炎を含む)、皮膚そう痒症､痒疹群(ストロフルスを含む)、掌蹠膿疱症
用法・用量	通常、1日1～数回直接患部に塗布又は塗擦するか､あるいは無菌ガーゼ等にのばして貼付する。なお、症状により適宜増減する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
強力レスタミンコーチゾンコーワ軟膏	興和㈱

6. ムピロシンカルシウム水和物　(6119)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	次の患者及び個人の保菌する鼻腔内のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)の除菌 ① MRSA 感染症発症の危険性の高い免疫機能の低下状態にある患者(易感染患者) ②易感染患者から隔離することが困難な入院患者 ③易感染患者に接する医療従事者	＜適応菌種＞ ムピロシンに感性のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA） ＜適応症＞ 次の患者及び個人の保菌する鼻腔内のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）の除菌 (1) MRSA 感染症発症の危険性の高い免疫機能の低下状態にある患者（易感染患者） (2) 易感染患者から隔離することが困難な入院患者 (3) 易感染患者に接する医療従事者
用法・用量	通常、適量を1日3回鼻腔内に塗布する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
バクトロバン鼻腔用軟膏	グラクソ・スミスクライン㈱

歯科用薬

56. 塩酸オキシテトラサイクリン　(2760)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	オキシテトラサイクリン感受性菌による抜歯窩の感染治療及び抜歯窩の感染予防	<適応菌種> オキシテトラサイクリン感性菌 <適応症> 抜歯創・口腔手術創の二次感染
用法・用量	抜歯窩に１～数個を挿入する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
オキシテトラコーン「昭和」	昭和薬品化工㈱

配29. 塩酸テトラサイクリン・エピジヒドロコレステリン　(2760)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	急性歯肉炎、辺縁性歯周炎、びらん又は潰瘍を伴う口内炎、抜歯創の感染予防	<適応菌種> テトラサイクリン感性菌 <適応症> 歯周組織炎、抜歯創・口腔手術創の二次感染、感染性口内炎
用法・用量	１日数回、患部に適量を塗布又は塗擦する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
テトラサイクリン・プレステロン歯科用軟膏	日本歯科薬品㈱

配30. 硫酸フラジオマイシン・酢酸ヒドロコルチゾン　(2760)

	承　認　内　容	読　替　え　後
効能・効果	抜歯創を含む口腔創傷の感染予防又はその治療、硫酸フラジオマイシン感受性菌による感染性口内炎	<適応菌種> フラジオマイシン感性菌 <適応症> 抜歯創・口腔手術創の二次感染、感染性口内炎
用法・用量	口腔内患部に薄片を貼付する。	承認内容に同じ

販売名	会社名
歯科用フラジオマイシンセルデント	昭和薬品化工㈱

一 般 名 索 引

【ミ】

【ム】

【メ】

【ラ】

【リ】

【レ】

【ロ】

販売名索引

内用薬

【ア】

【イ】

【ウ】

【エ】

【オ】

【カ】

【キ】

【ク】

【ケ】

【コ】

【サ】

【シ】

【ス】

【セ】

【ソ】

【タ】

【ツ】

【ト】

【ナ】

【ニ】

【ネ】

【ノ】

注　射　薬

外　用　薬

【ト】

【ニ】

【ネ】

【ノ】

【ハ】

【ヒ】

【フ】

【ヘ】

【ホ】

【マ】

【ミ】

【メ】

【リ】

【ル】

【レ】

【ロ】

歯科用薬

【オ】

【シ】

【タ】

【テ】

【ヘ】

会社別販売名索引

問合せ先会社一覧

会　社　名	問　合　せ　窓　口	電　話	FAX
旭化成ファーマ㈱	くすり相談窓口	(03)3259-5807	(03)3259-5818
アベンティスファーマ㈱	カスタマーサービス部　お客様相談室	(0120)109-905	(03)6301-3010
アボットジャパン㈱	くすり相談室	(06)6942-2065	(06)6942-8729
㈱イセイ	調査管理課	(023)622-7755	(023)624-4717
アルフレッサファーマ㈱	医薬推進部	(06)6941-0306	(06)6943-8212
岩城製薬㈱	学術部	(03)3241-3210	(03)3241-0270
エーザイ㈱	お客様ホットライン室	(0120)419-497	(03)3811-4946
エスエス製薬㈱	医薬学術部	(03)3865-6850	(03)3865-9186
エルメッドエーザイ㈱	商品情報センター	(0120)223-698	(03)3980-6634
太田製薬㈱	安全管理部	(048)650-1689	(048)648-8833
大塚製薬㈱	くすり相談室	(03)3292-0021 (代表)	(03)3257-6566
㈱大塚製薬工場	医薬情報部　安全性情報課	(088)684-2389	(088)685-1173
大原薬品工業㈱	安全性調査部	(03)5614-6577	(03)5614-6588
小野薬品工業㈱	医薬情報部	(06)6263-2960	(06)6263-2969
科研製薬㈱	医薬品情報サービス室	(03)5977-5198	(03)5977-5139
㈱科薬	医薬情報室	(03)3558-2725	(03)3558-2739
京都薬品工業㈱	協和醗酵工業株式会社 医薬品情報センター	(0120)850-150 (03)3282-0069	(03)3282-0102
杏林製薬㈱	学術部	(03)3293-3412	(03)3293-3475
協和醗酵工業㈱	医薬品情報センター	(0120)850-150 (03)3282-0069	(03)3282-0102
共和薬品工業㈱	薬事・PMS 室	(06)6308-3388	(06)6308-0334
グラクソ・スミスクライン㈱	カスタマー・ケア・センター	(0120)561-007	(0120)561-047
グレラン製薬㈱	学術研修室	(03)5651-8063	(03)5651-8074
㈱ケミックス	薬事部	(045)290-0256	(045)290-0256
興和㈱	くすり相談室	(03)3279-7587	(03)3279-7566
小林化工㈱	安全管理室	(0776)73-0911	(0776)73-0821
小林薬学工業㈱	薬事・開発部	(0763)22-7227	(0763)22-7228
小林薬品工業㈱	開発センター	(058)272-0251	(058)276-4824
埼玉第一製薬㈱	第一製薬㈱　製品情報センター	(0120)189-861	(03)5640-1741

会社名	問合せ窓口	電話	FAX
佐藤製薬㈱	医薬情報部 PMS 管理課	(03)5412-7379	(03)5412-7332
沢井製薬㈱	医薬情報部　市販後調査グループ	(06)6921-4067	(06)6921-6662
三共㈱	製品情報サービス部	(NTT 専用) (0570)081-390 (03)5255-7177	(03)5255-7092
三共エール薬品㈱	開発部	(03)5821-6434	(03)5821-6438
㈱三恵薬品	情報室	(0532)45-6136	(0532)48-0468
サンスター㈱	医薬品インフォメーションセンター	(072)682-4815	(072)684-5669
参天製薬㈱	医薬事業部　医薬情報室	(06)6321-7056	(06)6321-1688
サンノーバ㈱	生産技術研究所　技術推進室	(0276)52-6145	(0276)52-6143
㈱三和化学研究所	安全情報管理部	(052)951-8130	(052)950-2829
シー・エイチ・オー新薬㈱	学術情報部	(088)642-1748	(088)642-9025
シェリング・プラウ㈱	医薬情報室	(06)6201-8696	(06)6201-2099
塩野義製薬㈱	学術情報部	(06)6202-2161	(06)6202-1541
シオノケミカル㈱	PMS 部	(03)5202-0213	(03)5202-0230
静岡フジサワ㈱	藤沢薬品工業㈱ 営業本部 DI センター	(0120)243-800	(06)6206-8911
昭和薬品化工㈱	商品情報部	(03)3567-9585	(03)3567-9580
住友製薬㈱	くすり情報センター	(0120)03-4389	(06)6233-2287
千寿製薬㈱	安全品質管理本部 ファーマコヴィジランス部	(06)6201-9621	(06)6229-3293
全星薬品工業㈱	学術調査部	(072)250-6219	(072)250-1677
第一サントリーファーマ㈱	医薬情報部	(03)5210-5029	(03)5210-5069
第一製薬㈱	製品情報センター	(0120)189-861	(03)5640-1741
大興製薬㈱	学術部	(049)266-6061	(049)266-6078
大正製薬㈱	大正富山医薬品㈱ 医薬情報部　お客様相談室	(03)3985-5599	(03)3980-3468
大正富山医薬品㈱	医薬情報部　お客様相談室	(03)3985-5599	(03)3980-3468
大正薬品工業㈱	薬事部	(0748)88-3367	(0748)88-6336
ダイト㈱	医薬情報室	(03)5294-7150	(03)5294-7148
大日本製薬㈱	医薬製品情報部（東京） 〈抗菌薬再評価関係の問合せ窓口〉	(03)3270-2015	(03)3279-0315
大鵬薬品工業㈱	臨床研究部　調査管理課	(03)3293-2346	(03)3556-7688
大洋薬品工業㈱	安全性調査室	(052)205-5006	(052)205-5012
高田製薬㈱	医薬情報部	(03)3851-1370	(03)3864-4685

会社名	問合せ窓口	電話	FAX
竹島製薬㈱	学術情報室	(048)754-7801	(048)754-7687
武田薬品工業㈱	医薬営業本部 医薬学術部　くすり相談室	(03)3278-2490	(03)3278-2469
辰巳化学㈱	薬事学術部	(076)247-2132	(076)247-5740
田辺製薬㈱	医薬情報センター 市販後業務推進グループ	(06)6205-5407	(06)6205-5580
中外製薬㈱	医薬情報センター	(0120)189-706	(0120)189-705
長生堂製薬㈱	企画開発本部　医薬情報部	(088)642-7280	(088)642-5726
鶴原製薬㈱	医薬情報部	(072)761-1456	(072)760-5252
テイカ製薬㈱	学術部	(076)431-8881	(076)431-8883
テイコクメディックス㈱	医薬情報部　情報管理室	(03)3663-3883	(03)3663-3887
東亜薬品㈱	薬事部	(076)478-5101	(076)478-5161
東菱薬品工業㈱	学術情報室	(03)3213-3923	(03)3214-4070
東洋製薬化成㈱	医薬情報部	(06)6911-3471	(06)6912-3654
東洋ファルマー㈱	安全管理部	(0763)82-3151	(0763)82-3710
東和薬品㈱	安全管理部	(06)6900-9116	(06)6908-2164
富山化学工業㈱	大正富山医薬品㈱ 医薬情報部　お客様相談室	(03)3985-5599	(03)3980-3468
富山フジサワ㈱	藤沢薬品工業㈱ 営業本部 DI センター	(0120)243-800	(06)6206-8911
㈱ナイツ	営業企画管理部	(052)589-3343	(052)589-3537
ナガセ医薬品㈱	品質保証部	(072)781-5097	(072)781-5852
日清キョーリン製薬㈱	学術部	(03)5259-1473	(03)5259-1464
日新製薬㈱	医薬情報室	(023)655-2131	(023)655-3419
日東メディック㈱	医薬情報室	(03)3272-1517	(03)3272-1521
㈱ニデック	医薬部新薬企画研究課	(0533)67-9058	(0533)67-5628
ニプロファーマ㈱	安全管理部	(06)6231-9866	(06)6231-9849
日本アルコン㈱	学術情報室	(03)3812-6596	(03)3812-0188
日本イーライリリー㈱	塩野義製薬㈱ 製品情報部　バンコマイシン係	(06)6202-2161	(06)6202-1541
日本医薬品工業㈱	くすりの相談室	(0120)517-215	(076)442-8948
日本オルガノン㈱	メディカルインフォセンター	(06)6347-9783	(06)6347-9757
日本化薬㈱	営業本部　学術部	(0120)505-282	(03)3237-5082
日本ケミファ㈱	安全管理部	(03)3863-1225	(03)3861-9567
日本歯科薬品㈱	お客様窓口	(0120)8020-96	(0832)22-2220

会社名	問合せ窓口	電話	FAX
日本チバガイギー㈱	ノバルティスファーマ㈱　学術情報部	(0120)003-293	(03)3797-3458
㈱日本点眼薬研究所	研究本部　市販後調査室	(052)822-5771	(052)825-0340
日本ヘキサル㈱	薬事グループ	(023)673-5225	(023)672-8166
日本薬品工業㈱	学術部	(03)5833-5011	(03)5833-5100
ノバルティスファーマ㈱	学術情報部	(0120)003-293	(03)3797-3458
バイエル薬品㈱	安全性情報市販後調査	(06)6398-1080	(06)6398-1079
原沢製薬工業㈱	開発本部	(03)3441-5191	(03)5475-5485
萬有製薬㈱	市販後調査管理部	(03)5641-6102	(03)5641-6652
ファイザー㈱	お客様相談室	(0120)664-467	(03)3379-3053
藤沢薬品工業㈱	営業本部 DI センター	(0120)243-800	(06)6206-8911
富士製薬工業㈱	マーケティング部　学術情報課	(076)478-0032	(076)478-0336
㈱富士薬品	医薬品研究開発本部 開発部　医薬情報室	(048)851-7200	(048)851-7201
扶桑薬品工業㈱	研究開発センター医薬情報部門	(06)6969-3131	(06)6964-2706
ブリストル・マイヤーズ㈱	市販後調査部	(03)5323-8385	(03)5323-8389
ブリストル製薬㈲	ブリストル・マイヤーズ㈱ 市販後調査部	(03)5323-8385	(03)5323-8389
前田薬品工業㈱	研究開発部	(076)451-3731	(076)451-4077
マルコ製薬㈱	安全管理部	(052)524-2371	(052)524-2402
三菱ウェルファーマ㈱	営業本部　製品情報部	(0120)189-707	(06)6233-2777
明治製菓㈱	くすり相談室	(03)3273-3539	(03)3272-2438
明治薬品㈱	薬事部	(03)3253-3451	(03)3253-3456
メディサ新薬㈱	情報室	(06)6921-3511	(06)6921-3512
メルク・ホエイ㈱	製品開発室	(06)6252-6856	(06)6252-6740
メルシャン㈱	医薬情報センター	(03)3231-8952	(03)3276-0151
持田製薬㈱	くすり相談窓口	(03)5229-3906	(03)5229-3955
㈱模範薬品研究所	生産部　医薬情報室	(03)5394-5273	(03)5394-6500
㈱山崎帝国堂	㈱山崎帝国堂　福山工場	(084)943-8171	(084)946-6077
山之内製薬㈱	製品情報センター	(03)5916-5614	(03)5916-5195
㈱陽進堂	学術情報部	(076)465-7737	(076)465-7780
ワイス㈱	メディカルコミュニケーショングループ	(03)3561-8720	(03)3561-0031
わかもと製薬㈱	信頼性保証部　安全管理室	(03)3279-0967	(03)3279-6450

抗菌薬検索システム
取扱説明書

目次

◆1　動作環境

- Microsoft Windows 98SE/ME/2000/XP
- 上記OSが動作するDOS/Vパソコン
- CPU PentiumIII 500MHz以上（1GHz以上のCPUを推奨）
- メモリ 128MB以上（256MB以上のメモリを推奨）
- 1024×768ピクセル、256色以上が表示可能なグラフィックカード及びモニタ
- 空き容量200MB以上
- インターネットに接続できる環境（ダイヤルアップ環境以上を推奨）
- AdobeReader
- Internet Explorer5.0以上が必要です。

◆2　インストール

図1：インストール画面

ＣＤ－ＲＯＭをパソコンに挿入すると、自動的にインストール画面が表示されます。

※インストール画面が表示されない場合は、「マイコンピュータ」を開き、ＣＤ－ＲＯＭを起動させて、「Install.exe」をクリックして下さい。

【Windows2000・XP をご利用の方へ】
インストール時のユーザーはAdministrator 権限を持つユーザーをご使用下さい。

図2：インストールウィザード

［抗菌薬検索システムをインストール］をクリックすると、図2のような画面が表示されますので、［次へ］を2回クリックし、インストールを進めます。

インストールが完了するまでには、数分間かかります。

図3：インストール完了画面

正常にインストールが完了すると、図3のような画面が表示されますので、［完了］をクリックしてインストールを完了して下さい。

インストールが完了したら、図1のインストール画面は閉じて下さい。

◆3　アンインストール

図4　「アプリケーションの追加と削除」

本ソフトをアンインストールする場合は、「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」から、「アプリケーションの追加と削除」（98SE/Me）または「プログラムの追加と削除」（2000/XP）を選択して下さい。

「インストールと削除」から「抗菌薬検索システム」を選択し、「追加と削除」 ボタンを押して下さい。削除プログラムが起動しますので、指示にそって削除を行って下さい。

◆4　プログラムの起動

デスクトップ上にある右図のアイコンをクリックするとプログラムが起動します。また、「スタート」→「プログラム」→「抗菌薬検索システム」をクリックしてもプログラムを起動することができます。プログラムを起動すると、メインメニューが表示されます。

図5　メインメニュー

□表検索　・・・・・・
お探しの抗菌薬を、表を利用して検索できます。

□キーワード検索・・・・・・
お探しの抗菌薬を、キーワードを入力して検索できます。

□トピックス・・・・・・
トピックスを表示します。

□パスワード申請　・・・・・薬価、レセコードを閲覧するためのパスワード申請が可能です。
□パスワード入力　・・・・・取得したパスワードを入力すると、薬価、レセコードが表示されるようになります。
□データ更新　・・・・・・・データの更新やソフトウェアのバージョンアップに使用します。

※「パスワード申請」及び「データ更新」に関しては、インターネットに接続している必要があります。

◆5　表検索

図6：表検索メインメニュー

メインメニューの「表検索」クリックすると、図6の画面が表示されます。STEP1からSTEP3まで、該当する項目を選択して、「検索」ボタンをクリックして下さい。

図7：表検索結果表示

図7のように検索結果が表示されます。

英語を選択し検索をクリックすると、表示が英語表記に切り替わります。

上部のCSVをクリックすると、検索結果がCSV形式（カンマ区切り）の形式でダウンロードされます。成分名、適応症、適応菌種が出力されます。

図8：表検索結果表示

「詳細」及び「PDF」をクリックすると、詳細頁、PDFファイルが表示されます。

続けて検索する場合は、詳細頁上部の検索をご利用下さい。その際も必ずSTEP1～STEP3の順に項目を選択し、「検索」をクリックして下さい。

◆6　キーワード検索

図9：表検索結果表示

メインメニューの「キーワード」クリックすると、図９の画面が表示されます。STEP1 と STEP2 まで該当する項目を選択して、「検索」ボタンをクリックして下さい。

図１０：キーワード検索結果

図１０のように検索結果が表示されます。

図１１：キーワード検索結果表示

「詳細」及び「PDF」をクリックすると、詳細頁、PDF ファイルが表示されます。

続けて検索する場合は、詳細頁上部の検索をご利用下さい。その際も必ず STEP1〜STEP2 の順に項目を選択し、「検索」をクリックして下さい。

◆7　パスワード申請

メインメニューの「パスワード申請」をクリックすると、パスワード申請用の入力画面が表示されますので、表示された項目に従って情報を入力して下さい。

【注意】
※パスワード申請にはインターネット環境が必要です。
※パスワードは電子メールで送信いたしますので、取得可能な電子メールアドレスをご用意下さい。

◆8　パスワード入力

メインメニューより、「パスワード入力」をクリックすると画面が表示されますので、電子メールで送られてきた「パスワード」をコピーし、入力欄に貼り付けて下さい。
パスワード入力後は、「薬価」の表示が可能となります。

◆9　データ更新

本ソフトウェアは、不定期でデータの更新及びソフトウェアのバージョンアップを行います。
ご利用の都度、「データ更新」をクリックして、最新バージョンのデータがないかどうかご確認下さい。

◆１０　備考

パソコンを入れ替える場合は、お手元のCD-ROMをお使いになり、改めてインストールして下さい。
その際、パスワード申請をされた方は、再度パスワードを入力して下さい。

◆１１　お問合せ先

ソフトウェアに関するお問合せは下記宛にお願い致します。

中和印刷株式会社
【電話番号】　03-3552-0426
【FAX番号】　03-3551-4604
【電子メール】　webmaster@chuwa-p.co.jp

※　本CD-ROMに収録されているプログラムの使用に伴う間接的・直接的傷害・損傷等に対して日本製薬団体連合会及び中和印刷株式会社は一切の責任を負いかねます。

抗菌薬の再評価結果及び
効能・効果読替えに関するご案内

平成16年10月　発　行

編　集　日 本 製 薬 団 体 連 合 会
再　評　価　委　員　会

発　行　日 本 製 薬 団 体 連 合 会
〒103-0023
東京都中央区日本橋本町2-1-5
電 話 (03) 3 2 7 0 － 0 5 8 1

印刷・データベース作成　中 和 印 刷 株 式 会 社